別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	初年次教育科目	基礎ゼミⅠ	大学におけるさまざまなタイプの授業に対応するための基礎的な学習方法を学ぶ。受け身の態度で講義に臨むのではなく、自ら問題意識を持って講義に参加し、さまざまな課題に対して主体的に取り組む姿勢を養う。少人数クラスでの対話を通じて、大学でなにを学ぶか、どのような大学生活を過ごすかを考え、学生ひとりひとりが自分の目的を発見する手助けをする。また、本の読み方、講義の聞き方、講義録のとり方、意見発表の仕方等を考えさせる。	
		基礎ゼミⅡ	基礎ゼミⅠに引き続き、大学生活と大学での学びを充実させるための技術と姿勢を養う。自分で調べ、それらを整理し、他者に的確に伝えるための技術の習熟を目指し、さらに、自己について理解と認識を深めることも目標とする。ゼミは、基本的に、参加学生の主体的な参加と、相互の積極的な意見交換によって進められる。個々のテーマをめぐって発表したり議論したりすることを通して、大学で学ぶことの意義について理解を深める。	
	建学の精神を学ぶ科目	仏教学Ⅰ	本講義は、建学の精神を学ぶための基礎として仏教の開祖、ゴータマ・ブッダの生涯とその教えを知り、仏教学および宗教学に関する基本的な知識をひろく修得することを目的とする。具体的にはインドをはじめとするアジアの歴史的・文化的背景をふまえながら、歴史上の人物としてのゴータマ・ブッダの生涯と思想について解説する。またこれらに基づいて現代に継承された仏教行事や、仏教に由来する年中行事の文化的事象についても学習する。なお照心館の坐禅堂にて2回程度の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	
		仏教学Ⅱ	本講義は、建学の精神を学ぶための基礎として曹洞宗の開祖、道元禅師の生涯とその教えを知り、仏教学および宗教学に関する基本的な知識をひろく修得することを目的とする。具体的には仏教学Ⅰにおける学びに基づき、鎌倉時代を中心として日本の歴史的・文化的背景をふまえながら、歴史上の人物としての道元禅師の生涯と思想について解説する。また現代に継承された仏教行事や禅宗の文化的事象、さらには禅の哲学や思想についても学習する。なお照心館の坐禅堂にて2回程度の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	
		仏教学Ⅲ	本講義は、建学の精神を学ぶための発展的学修として日本仏教の歴史とその教えを知り、仏教学および宗教学に関する教養や知識をひろく修得することを目的とする。具体的には仏教学Ⅰ・Ⅱにおける学びに基づき、鎌倉時代を中心として日本の歴史的・文化的背景をふまえながら、日本仏教史における各宗派について概説する。また現代に継承された仏教行事や禅宗の文化的事象、さらには禅の哲学や思想についても学習する。なお照心館の坐禅堂にて2回程度の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	
		仏教学Ⅳ	本講義は、建学の精神を学ぶための発展的学修として禅の歴史とその教えを知り、仏教学および宗教学に関する教養や知識をひろく修得することを目的とする。具体的には仏教学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおける学びに基づき、日本の禅宗文化に関する歴史的・文化的背景をふまえながら、禅宗史や曹洞宗の歴史上の人物について概説する。また現代に継承された仏教行事や禅宗の文化的事象、さらには禅の哲学や思想についても学習する。なお照心館の坐禅堂にて2回程度の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	建学の精神を学ぶ科目	駒沢女子大学入門	（概要）本講義は、駒沢女子大学の学園創立以来の歩み、本学の教育の特色などを学ぶことによって、駒沢女子大学の学生としてのアイデンティティーを確立させることを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （1　光田督良／1回） 建学の精神をふまえた駒沢女子大学の教育理念と教育の特色と題して、テーラーメイド教育、ミッション、教育力、学位授与の方針などについての講義を行う。 （7　佐々木俊道／2回） 駒沢女子大学の1年と題して、学燈会、花まつり、追善記念日、成道会と摂心会、誕生記念日、涅槃会と針供養などについての講義を行う。 （12　千葉公慈／2回） 駒沢女子大学の歩みと校歌・校章と題して、校歌の成立過程、歌詞の内容、解釈などについての講義を行う。校歌をCDで聴かせ周知を図る。 （31　安藤嘉則／2回） 創立者、山上曹源先生の生涯と教育理念と題し、学園の歴史に即しながら山上先生の教えについて講義を行う。合わせて明治初頭の日本の様子も紹介する。 （17　皆川義孝／4回） 前半は稲城の自然と歴史、稲城の文化財について紹介したうえで、近隣の高勝寺、三沢川などを散策することで理解を深める。後半は駒沢学園の歩みを草創期から戦前、戦後から現在に分けて講義を行う。学園内の施設や裏山を歩くことで本学に対する愛着を高める。 （7　佐々木俊道・12　千葉公慈・31　安藤嘉則・17　皆川義孝・23　石川創／4回）（共同） 駒沢女子大学の学生としてのアイデンティティを確立させるため、これまでの学修の振り返りをグループに分かれて行い、また学修結果の確認作業として「駒女検定」を実施する。	オムニバス方式 共同（一部）
	入門科目	日本文化入門Ⅰ	本講義では、言語・文学・思想・風習など多岐にわたる日本文化について、広く基礎知識を習得し、日本文化の専門的学習に必要不可欠な教養を学習する。具体的には、日本文化を生み出す土壌となった、日常生活やその周辺における身近な文化事象である衣・食・住について解説し、さらにこれらを育んできた日本人の精神についても学習する。この学びを通じて、日本文化にこめられた意味と、現代的意義、そして未来への継承を考えるための基礎力を身につける。	共同
		日本文化入門Ⅱ	本講義では、言語・文学・思想・風習など多岐にわたる日本文化について、広く基礎知識を習得し、日本文化の専門的学習に必要不可欠な教養を学習する。具体的には、自然の中に神を見出し、祭祀・儀礼・芸能などの文化を生み出す土壌となった、日本の多彩な風土について解説し、そこに根ざした特色ある生活文化の歴史について学習する。この学びを通じて、日本文化にこめられた意味と、現代的意義、そして未来への継承を考えるための基礎力を身につける。	共同

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	入門科目	人間関係入門Ⅰ	（概要）人間存在の本質や、人びとが営む文化活動、人びとどうしのコミュニケーションに対して、人文科学・社会科学の諸学問（心理学、社会学、身体文化論、メディア研究、国際社会論など）は、再帰的・反省的・複眼的な視座を提供する。これらの諸学問に関心を寄せる学生を対象に、それぞれの学的アプローチのエッセンスを紹介する。各分野・手法の特徴と魅力について概括的な理解をつかむことを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （25 倉住友恵／5回） 心理学の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。 （21 大貫恵佳／5回） 社会学の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。 （11 田澤秀司／5回） 企画・表現研究の視座と研究対象について具体例を交えながら解説する。	オムニバス方式
		人間関係入門Ⅱ	（概要）人間関係入門Ⅰに引き続いて、人間関係に関連する諸学問（心理学、社会学、身体文化論、メディア研究、国際社会論など）に関心を寄せる学生を対象に、それぞれの学的アプローチのエッセンスを紹介する。各分野・手法の特徴と魅力について概括的な理解をつかむことを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （13 石田かおり／5回） 身体文化論の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。 （ 5 臼井実稲子／5回） 国際関係論の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。 （16 榎本環／5回） 社会学の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。	オムニバス方式
		英語コミュニケーション入門Ⅰ	会話、語彙力テスト、多読、英語日記等の活動を通し、基礎的な英語運用能力を養うとともに、振り返りを行い、自律的学習態度を育成する。1人の英語ネイティヴ教員が少人数グループカンバセーション、マンツーマンカンバセーションを担当し、キーワードやキーセンテンスの確認、定着を図る。録音した会話内容を再聴し、発音や表現のミスに気付かせる。2人の日本人教員が個別指導時間を設定し、個々の学習効果を高めるための指導を行う。学生は授業外で個別指導に沿った学習法を実践し、翌週の授業で実践内容を確認する。	共同
		英語コミュニケーション入門Ⅱ	英語コミュニケーション入門Ⅰに引き続き、同様の活動を行い、基礎的な英語運用能力を養う。振り返りを通し、自律的学習態度を育成する。1人の英語ネイティヴ教員が少人数グループカンバセーション、マンツーマンカンバセーションを担当し、キーワードやキーセンテンスの確認、定着を図る。録音した会話内容を再聴し、発音や表現のミスに気付かせる。2人の日本人教員が個別指導時間を設定し、個々の学習効果を高めるための指導を行う。学生は授業外で個別指導に沿った学習法を実践し、翌週の授業で実践内容を確認する。	共同
		観光文化入門Ⅰ	観光は人々の余暇活動の中心的位置を占めており、今後高齢化社会が進展し、生活の豊かさが求められる中で、観光の果たす役割はますます大きくなっていくと思われる。また、「観光立国」が推進されている現在、観光が国の経済や文化・国民の生活にもたらす効果も高まってきている。この授業では、観光の意義を考え、わが国の重要産業の一つとして成長した観光に関わる基本的な事項を広く学び、現在観光ビジネス分野で起きている問題や将来の課題を正しく理解する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	入門科目		観光文化入門Ⅱ	観光事業とは、経済面のみならず、文化面・社会面など公共性の高い多様な側面で行われる活動を含む、観光に関わる事業を言い、「観光の意義・効果を高め、観光という社会的な現象を盛んにしようとする様々な活動」という概念を持っている。このような前提に立って、観光事業の意義を理解し、観光を構成する観光者・観光対象・観光媒体・観光行政という４つの要素から観光事業について具体的に考察する。また、観光産業を支える旅行・交通運輸・宿泊の３事業を中心に、観光産業の現状を理解し、今後の課題についても考察する。	
			心理学入門Ⅰ	心理学は、観察・実験・調査等の方法によって一般法則の探求を推し進める基礎心理学と、基礎心理学の知見を活かして現実生活上の問題の解決や改善に寄与することを目指す応用心理学に大別されるが、本授業では前者を柱とした授業を行う。心理学の成立過程という歴史的視点と、こころを理解するための感覚・知覚、学習、記憶、認知、情動といった基礎的な知識を教授する。それらを通じて、心理学を学ぶ意義を理解させる。	
			心理学入門Ⅱ	心理学の基礎Ⅰで学んだ基礎的知識を踏まえた上で、心理学が社会生活の中でどのように生かされているのか、教育・医療・福祉・司法・産業などの領域に焦点を当てる。出来る限り具体例を交えながら解説するとともに適宜レポートを課していく。また、心理学の研究領域は学際的であり、隣接する他の学問との相互連携が不可欠であるため、必要な知識や心構えなどについても言及する。	
			住空間デザイン入門Ⅰ	住まいやくらしの環境について理解するための基本的な知識を養い、建築・インテリアからものづくり（家具、陶器、織物）までをトータルにデザインする「リビングデザイン」について学ぶ。また、見学会や共同作業などの実践の場を通してデザインの基礎を学び、自分の考えを表現する力や人に伝達する力、批判する力を身につけることを目的とする。	共同
			住空間デザイン入門Ⅱ	住まいやくらしの環境を総合的に捉え、建築・インテリアからものづくり（家具、陶器、織物）までをトータルにデザインする「リビングデザイン」について幅広く客観的な視点から学ぶ。また、見学会や共同作業などの実践の場を通してデザインの基礎を学び、自分の考えを表現する力や人に伝達する力、批判する力を身につけることを目的とする。	共同
	教養知科目	人間を学ぶ科目	人間と思想Ⅰ	人間とはどのような存在なのか、人間の本質はどのようなものなのかを考察することが本授業の目的である。ギリシア、ヘレニズム、原始キリスト教から中世ルネサンスまでの哲学的知識を紹介し、学んだ学説や概念を使って、現代的な問題についての考察、演習問題を行う。考える材料として西洋哲学を歴史的に学び、かつ現代社会の情報を踏まえつつ、学生が自分で考察ができるようになることを達成目標とする。	
			人間と思想Ⅱ	近代以降の西洋哲学についての知識を深めつつ、人間はどのような存在として考えられてきたかということを考察する。倫理や道徳に関する現代的なテーマについてもとりあげて、知識を増やし、哲学的知識を実践で役立てる方法を講義する。哲学史を覚えるだけでなく、その知識を活用して、現代社会における様々な事象や社会問題との関連の中で人間について考察を深めていくことができるようになることを目指す。	
			人間と文化Ⅰ	本講義は、幕末以降の近代日本における日本文化や日本人について考察を深める。日本は古来より諸外国からの文化を受容し、独自の文化を発展させてきた。外国から移入された文化の変容のパターンはおどろくほど共通した特徴がみられる。このような観点から、言語、思想、教育、メディア、交通などを取り上げ、近代日本における日本人の精神性や日本の文化の歴史的変遷をみていく。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	教養知科目	人間を学ぶ科目	人間と文化Ⅱ	本講義は、人間と文化Ⅰの学びに基づき、第2次世界大戦以降の日本人や日本文化の特徴について考察を深める。1945年以降の日本文化は、1953年に放送がはじまったテレビを中心としたアメリカ文化の移入との関わりなしには語ることができない。このような観点から、現在に至るまでの日本人や日本文化について、戦後の日本や日本人に関する論考を紹介しながら概説していく。	
			生命の科学	生命の源は細胞であり、細胞は複製され増殖し進化する。これを生物という。生命の連続は細胞を進化させ、単純な形態からより複雑で高度な機能を進化させた。本講義は生命科学の最新の話題とそれらを理解する上で必要となる基礎的な知識を学習し、加速度的に進歩する生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。最低限の到達目標として、 一般常識の範囲で生命科学の時事内容が理解できる基礎知識の習得を目指したい。	
			倫理学	本講義では、倫理学の概要と現代における倫理的テーマを考察する。具体的には、倫理学の歴史、自由の価値、功利主義、倫理学の現代的展開、科学と倫理、科学の中立性、科学技術と倫理、医療と倫理、終末期医療、人間の尊厳などの諸問題について、事例をあげながら紹介する。これらの学修を通じて、平等や正義に関する哲学的知識を身につけ、倫理的に生きるとはどのようなことなのかを学生自身が考え、議論できるようになることを目指したい。	
			人権の基礎	本講義では、「人間はただ人間であるだけで価値がある」とする『人間の尊厳』という観念、これを具体化するための方法としての「人権」、これらがどのようにして形成され、どのような内容を持ち、どのような問題性を孕んでいるかを、さまざまな観点から検討し、人権の意義と内容を再確認する。①人権とは何か、なぜその保障が必要かについて理解すること、②人権獲得の歴史と各種人権宣言等の概略を理解すること、③これらを基に人権保障の実現について自分の見解を持てるようになること、以上の3点を到達目標とする。	
			女性の人権	人権思想の具体化を「女性の人権」を例にとりながら検討し、いかにすれば女性の人権が実現されるかを、女性の人権がないがしろにされてきた原因の把握とその排除という視点から解説する。その際、平等だけでなく、権利論の視点をも取り入れていく。人権保障の議論の中で、なぜ女性の人権が別枠で取り上げられなければならないか、その原因を理解し、また女性の人権が充分に保障されるためには何が必要かについて、自分の意見を述べられるようにすることを学習目標としたい。	
			心理学Ⅰ	心理学はさまざまな科学的方法を駆使して、こころについての研究を行う学問である。この授業では、これまで積み重ねられてきた様々な研究を紹介し、心理学の基礎的な知識と考え方を身に付けることを大きな目標とする。心理学Ⅰでは、主に人間の発達について説明し、非常に無力な状態で誕生した赤ちゃんがどのような経験をして心身ともに発達し大人になっていくのかを理解し、自分のことばで説明できるようになることを目標とする。	
			心理学Ⅱ	心理学はさまざまな科学的方法を駆使して、こころについての研究を行う学問である。この授業では、これまで積み重ねられてきた様々な研究を紹介し、心理学の基礎的な知識と考え方を身に付けることを大きな目標とする。心理学Ⅱでは、知覚や記憶、学習といった基本的な心のメカニズムについて説明する。また、他者および集団とのかかわりによってどのようなことが生じてくるのか、日常生活で誰もが体験することが心理学でどのように研究されているのか、例を挙げて紹介し自分自身の行動について考える。	
			生涯学習論Ⅰ	生涯学習に興味・関心がある学生を対象に、生涯学習の意義や目的、歴史や基礎理論、生涯学習の内容や方法を概説する。生涯学習には、「学びたい」ことだけではなく、「学ばなければいけないこと」も含まれている。本授業における到達目標として、①生涯学習の意義や目的を理解し、生涯学習を支える者の役割を充分に自覚する、②生涯学習の歴史（誕生と展開）を理解・説明することができる、③生涯学習を支える基礎理論を理解・説明することができる、④生涯学習の内容や方法を理解・説明することができる、以上の4点をあげる。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	教養知科目	人間を学ぶ科目	生涯学習論Ⅱ	生涯学習に興味・関心がある学生を対象に、生涯学習に関する制度や施設・職員の役割について概説し、生涯学習支援の担い手として必要な基礎技能を修得することを目指す。本授業における到達目標として、①生涯学習の意義や目的を理解し生涯学習支援の担い手としての基礎技能を修得する、②生涯学習を支える制度（法律や行政の取り組み）を理解・説明することができる、③女性の社会進出に伴う生涯学習の変化を理解・説明することができる、④生涯学習プログラムを開発・宣伝することができる、以上の4点をあげる。	
			社会福祉概論Ⅰ	社会福祉概論Ⅰでは社会福祉論という領域の基本を学習する。授業では、まず社会福祉論の基本的視点を紹介し、次に社会福祉の歴史としてイギリスやアメリカを中心に学び、日本については、古代から現在に至るまでの流れを押さえる。そして、女性福祉、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉といった個別の福祉分野について、制度的な歴史や現代的問題について取り上げる。社会福祉論の基本的理解を学習課題とし、社会福祉の諸現象に対して、その社会的要因や背景を探り、その改善や解決につながる働きかけを考察できることを目標とする。	
			社会福祉概論Ⅱ	社会福祉概論Ⅱでは社会福祉の理念や倫理を学び、ソーシャルワークの実際として、社会福祉の実施体制や社会福祉援助技術について理解する。授業後半では、各自がソーシャルワーカーの立場に立って、個別援助技術（ケースワーク）および集団援助技術（グループワーク）の具体的な事例に取り組み、発表と討議を行う。社会福祉援助技術に関する知識や技術を習得し、社会福祉援助活動に活用できる能力と態度を育てることを目標とする。	
		文化と歴史を学ぶ科目	日本の歴史	本講義は、日本の古代から近代に至る各時代の、国家の形成と展開、社会や文化の特色、国際関係に関する基礎的知識を修得することを目的とする。具体的には、各時代の政治、経済、社会、文化、国際環境などの特色について、歴史資料や先行研究に基づいて解説し、日本の文化的特徴について学習する。この学びを通じて、時代の変遷を総合的に把握し、考察する歴史的思考力を修得し、現代社会を生きるために必要な基礎力を学習する。	
			世界の歴史	本講義の目的は、私たちが普段当たり前のものと考えている様々な「権利」と、それらを獲得するために行われた様々な「排除」を結びつけながら学習することで、受講生の思考能力を高めていくことにある。対立する階級、民族、そして国家の中で、人々がどのように権利を獲得したのか。この疑問を考えることにより、受講生自身が持つ「権利」を改めて考える機会を提供していきたい。なお、本講義は主にヨーロッパを中心に世界の歴史を概観していく。	
			戦争と平和の歴史Ⅰ	戦争はなぜ繰り返されるのか？人類にとって戦争は避けられないものなのか？この問いに対する答えを求めて、19世紀末から第二次世界大戦までの国際関係を分析する。欧米の国際関係が中心となるが、19世紀後半に国際社会で頭角を現すようになった日本についても言及する。国際関係史の基礎的知識の習得、さらに社会科学的思考方法を身につけることが目的である。映像資料を多用し、世界史を学ぶ機会が少なかった学生にも理解しやすいよう工夫をしていきたい。	
			戦争と平和の歴史Ⅱ	戦争はなぜ繰り返されるのか？人類にとって戦争は避けられないものなのか？この問いに対する答えを求めて、第二次世界大戦後から冷戦の終結までの国際関係を分析する。アメリカ、ソ連（ロシア）、ヨーロッパはもとより、アジア、オセアニア、南北アメリカ、中東、アフリカと世界を俯瞰し、現在進行形の国際問題に言及しつつ、現代史の基礎的知識の習得、さらに社会科学的思考方法を身につけることが目的である。映像資料を多用し、世界史を学ぶ機会が少なかった学生にも理解しやすいよう工夫をしていきたい。	
			西洋文化史	ヨーロッパ文化の特質とその流れを、ビデオやスライドを多用して概観し、一つの文化の成長から衰退までの経緯を研究する。さらに、日記、手紙、装飾品や日常の必需品などの多岐にわたるモノを通して、ヨーロッパ各地の人々の生活と考え方を知る。本講義では、古代世界（古代ギリシア文化）からヨーロッパ文化の基層を形成した中世、その結実としてのルネサンスまでを扱う。西洋文化の歴史的な展開についての基本的な知識を把握することを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	教養知科目	文化と歴史を学ぶ科目	日本美術史	本講義は、日本の原始から現代に至る日本美術の展開について、各時代別にテーマを設定し、日本美術史上の名品を軸に、日本美術の基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、絵画・彫刻・工芸の美術品を軸に日本美術の歴史について解説する。この学びを通じて、信仰・各種儀式から生み出された美、建築や工芸にみる多様なデザインなど、日本美術の特徴、さらに日本の美意識に大きな影響を与えた海外文化など、広くその特質を考察する。	
			比較文化	この授業では、日本人が、西洋文化・キリスト教文化に初めて接したときの「衝撃と憧憬と葛藤」について、第一次資料を読みながら、考察する。世界の中の日本を、歴史的にも、空間的にも、正確に把握することを目的とする。16世紀後半から17世紀初頭の安土桃山時代におけるポルトガルとスペインの南蛮文化との衝撃的な出会いに始まり、江戸時代のオランダの実用学への憧れと探求、明治期におけるアメリカやヨーロッパの列強との積極的かつ批判的な交流を、具体例をあげて探求する。	
			日本の文化	本講義では、日本文化に多大な影響を与えた仏教文化を中心にみていく。日本で生まれ育った者は誰でも挨拶と言う言葉を知っており、日常生活で実践し無意識に文化として身に付けている。しかし、これが、仏教・禅から派生した言葉であることは、ほとんどの人が知らない。挨拶のような無意識に身に付いている日本人の日常の型やそこに込められた心を理解し、さらに、無意識に行っている行為を意識下に置く事により、自分自身の文化的背景を見直す事が出来るようになることを目標とする。	
			観光地理（日本）	観光地理という観点から日本各地の観光資源や地域の文化・風物、特産物などについて幅広く学ぶことにより、「旅行」に対して専門的に対応できるよう知識を高める。地図と現地の映像などを利用して、バーチャルな旅行を意識しながら観光資源の特徴、位置関係などを学んでいく。「旅行業務取扱管理者」の資格を得る国家試験にも備える。また、講義で取り上げた観光資源の所在都道府県を説明でき、想定される国家試験内容の60%が答えられる知識を得る。	
			観光地理（世界）	グローバル化する社会において、世界各地域の様々な観光資源や歴史・文化・習慣などを学び、国際人としてのしっかりとした幅広い知識を身に付ける。「旅行業務取扱管理者」の資格を得るための国家試験に向けての基礎知識を学ぶ。また、世界遺産検定や地理検定を受検することも可能となるので、講義の対象となった各国の位置と地形、その国の成り立ち等を理解し、特筆すべき観光資産を合わせて説明できるようにする。	
			日本の文学	芥川龍之介の短編小説「鼻」「芋粥」と、太宰治の短編小説「魚服記」「道化の華」を読み、それぞれの作家についての基礎的な知識と、小説の読み方、作品へのアプローチの仕方について講義する。芥川と太宰の小説テクストの分析を通して、単なる感想に留まらない、文学研究の基礎を身につけることを目的とする。本講義を受講することで、小説の構成や語りについて独自の論点を見つけ出し、また小説の読解を通して、自分の考えを論理的に説明できるようになることを目標とする。	
			ヨーロッパの文学	ヨーロッパ文学における個々の作品を取り上げながら、中世から現代に至る外国文学のテーマとその問題性を歴史的に概観する。授業では、中世の文学である『アーサー王の死』『トリスタンとイゾルデ』『カンタベリー物語』、ダンテの『神曲』、シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』、ゲーテの『若きヴェルテルの悩み』『ファウスト』、グリム童話、カフカ『変身』などをとりあげる。ヨーロッパの個々の文学作品を通史的に考察することで、中世から近世、現代に至る西欧の精神・思想の流れを把握していきたい。	
		社会と自然を学ぶ科目	日本の政治	日本の政治を、戦後から今日まで、国会、政党、議員、官僚、政権交代にスポットライトを当てながら探ることが、本講義の目標である。私達の日常生活は、様々な局面で政治と密接に結びついている。政治に対する無関心は、政治家任せの生活を送ることにつながる。未来に希望の持てる日本にする為に、今何をすべきかを受講生と一緒に考えると同時に、学生として知っておくべき時事問題力を養うことも念頭に置いて講義をしたい。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	教養知科目	社会と自然を学ぶ科目	世界の政治	国際社会における諸問題や世界における日本国家のポジションを探るのがこの講義の目標である。国際社会で日本は異質な国家とみなされる場合が多々ある。なぜ日本は世界から「異質」と思われるのか。日本が「異質な国家」と思われる構造を、国際政治における日本政治の特徴や日本国憲法の規定から検証する。また、日本を取り巻く国際社会の今日的な問題も取り上げ、教養を深めていく。	
			政治と市民参加	現代社会における市民は、日本国憲法で保障される参政権（選挙権、被選挙権、レファレンダム）を通じて様々な政治参加が可能となっている。この講義は、選挙権や被選挙権の歴史的変遷、国会や地方議会の仕組み、そしてレファレンダム（国民投票と住民投票）の仕組みを通じて、一般市民による政治参加の可能性と限界について考察することを目的とする。また18歳選挙権の意義と影響についても、諸外国の実情と比較しながら一緒に考えてみたい。	
			日本の経済	この授業は、経済学の基礎知識と日本の経済情勢全般について教授する。それにより、新聞や雑誌の経済記事を読む素養、また経済ニュースが理解できるようになることを最低限の目標とする。授業では、実際の新聞記事や雑誌記事、ニュースを題材に、インフレ、デフレ、GDP、失業率等の基本的経済用語や現在の日本経済、日々の経済の動きを学び、経済全般についての知識を修得する。卒業後、社会人となったときに役に立つ経済学の基礎を身につけさせる。	
			世界の経済	現在の経済活動は、グローバル化の波のなかで、海外との関係を無視して語ることはできない状況になっている。政治も含めた社会のさまざまな問題は、世界経済と連動した動きを見せている。本講義は、経済の基礎理論や基礎知識を身に付けたうえで、世界経済の根源的な仕組みを理解することを目的とする。さらに、現在世界で起きている経済的諸問題の原因を探り、それを解決に導くための考え方を習得していきたい。	
			新聞と報道	新聞を題材に、報道の読み方と意義を理解することが本授業の目的である。具体的には、記事の内容を、政治報道、経済報道、国際報道、社会問題報道、事件･事故報道、生活報道、スポーツ報道、文化報道に分類し、それぞれの文脈の理解の仕方を学ぶことで新聞のリテラシー能力を養う。そこに書いていることをただ受動的に受け取るのではなく、能動的に理解し、批判精神を持って解釈する能力を身につけていきたい。	
			グローバル共生論	経済、社会、文化などのグローバル化にともない、国境を越えた人的交流は近年活発になっている。海外で仕事や生活をする日本人は、過去最高を記録し、今後も増加することが見込まれる。本授業では、私たちの周りの「多文化」化に目を向けながら、異なる文化、言語、宗教などを有する人々とのコミュニケーションの現状と課題を考察し、グローバルな時代の生き方や多文化との共生のあり方をケーススタディやディスカッションを中心に学ぶ。	
			法学	私たちの生活は法によって規律されている。法は社会をよりよく営んでいくための手段であるが、時に私たちの生活を厳しく制限する。この授業では、近代以降の市民社会のあゆみを踏まえ「法とは何か」ということをていねいに伝えていく。身近な裁判例も紹介する。新聞やテレビの社会問題などについて、結論を急がずに考えるためのきっかけを作り、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標としたい。	
			法と社会	この授業は、社会制度の分野を中心に法的素養を修得することで、各種資格取得や卒業後に向けた社会人力の育成を目指す。国民主権と権力分立という基本的な考えを確認した後、立法と行政については各資料を参考に現在の政治を立憲民主主義に照らして分析する。司法については裁判員制度の実践に触れ、市民理性を裁判に反映させることの意義と課題を考察する。日本国の基本法である日本国憲法の役割を理解したうえで、社会問題を考える指標を提供したい。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	教養知科目	社会と自然を学ぶ科目	日本国憲法Ⅰ	日本国憲法とは、日本国のあり方を定めた基本法を意味する。本授業では、第二次世界大戦後に定められた憲法の基本的な仕組みを歴史的に検証する。その上で、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」という3つの柱について、急がずに具体例を踏まえつつ理解を深めていく。日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標としたい。	
			日本国憲法Ⅱ	現在の日本国憲法は、戦前に対する深い反省の下で制定された。一人ひとりの国民を人格の担い手として尊重するために、憲法は国家の政治のあり方を定めている。この授業では、国家統治の仕組みを中心に学び、現在憲法をめぐって議論されている問題点についても触れていく。日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標とする。	
			社会学Ⅰ	社会学の基本的な考え方を理解するために、社会とは何か、相互行為と自己、社会秩序と権力、組織とネットワーク、文化と再生産、といったテーマを取り上げる。理論についての講義が中心となるが、身近な話題と結びつけながら講義を進めていく。到達目標は、社会学の基本的な考え方を理解すると同時に、社会学的な概念、理論の理解を通じて、社会学的な「ものの考え方」を習得すること、そして自分の日常生活の「当たり前なこと」に対して、一歩引いて批判的な視点をもった柔軟な思考ができるようになることとする。	
			社会学Ⅱ	社会学Ⅱでは、社会学の基本的な理論や概念をもとに、より具体的な社会現象の理解ができるよう、家族、教育、労働といった身近なテーマを取り上げ、それらの歴史や現代の問題を学ぶ。授業後半では、小グループに分かれて、発表と討議を行う。到達目標は、社会学の理論や概念の習得を土台として、より具体的な社会現象の理解ができるようになること、家族、教育、労働の領域における歴史や現代の問題についての理解を深め、身のまわりの「社会」に対して、主体的、批判的にとらえる能力を養うこと、以上の2点とする。	
			数学の世界	数学というと敬遠しがちな科目の代表格であるが、実は、数学は哲学とも結び付く、人間の本質と深い関わりをもった学問である。本講義は、まず数学の楽しさ、奥深さについて講義する。その後、社会に出てからも役立つような数学の基礎を講じる。具体的には、式と計算、平方と平方根、一元一次方程式、連立方程式、グラフと関数、図形の面積･体積、合同と相似等について学ぶ。	
			物理の世界	物理の考え方は生活に溶けこみ、日頃意識されることはほとんどない。しかし、物理学は、物質を極限まで突き詰めていくと宇宙創成の問題にまで展開するようなダイナミズムを秘めた学問である。この講義では、目には直接見えない「力」の物理現象について議論を深めたい。加速度、遠心力などの物理学的な理解からはじまり、構造、剛性、耐震についての考え方と、その大きさを計算する手法を平易に講義する。	
			生物と生命	生物及び生命について、古生物学、遺伝学、ＤＮＡ遺伝子学等から得られた知見を基に講義する。地球という惑星に生命はどのようにして誕生したのか、生物は進化しどのようにしてホモ･サピエンスにまでたどり着いたのか、生命の大切さを意識しながら生物進化の過程を跡づけることが本講義の目的である。そして個々の生物の生き残りをかけた戦略と生物の多様性について議論し、人間が生きてゆくことの意義を考えたい。	
			地球と宇宙	古代より太陽・月・星は、人びとを魅了してきた。人類は、夜空に巨大な絵を描いたり、運命を託したり、また宇宙にまつわる物語を創世している。本講義は、さまざまな民族が描いてきた宇宙観を概観することから始まる。そして、宇宙創成であるとされるビックバン以後の宇宙の成り立ちを、星の誕生や終焉を学ぶことで理解する。宇宙を見つめることで、かけがえのない惑星である地球の特質に関して学識を深めていきたい。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	教養知科目	社会と自然を学ぶ科目	物質と化学	高度な科学技術の発展により、現代人は豊かな生活を享受している。中でも「化学」は、最も身近な姿・形で私たちの日常生活に密接に関わっている。たとえば、医薬品や化粧品、香料、食品、携帯電話、パソコンなどは、すべて化学に基づく「物質」で構成されている。本講義では、実生活に役に立つ「化学」の知識を教授することで、より身近な「物質」について学ぶ。	
			情報と科学	本授業は、言語をはじめ、視覚、聴覚など五感から得られた情報を再編しあらたな表現として発信するために必要な、ＩＴ端末やネットワークの仕組み、および、その安全対策について理解することを目的とする。特に、過去から現在に至る情報の歴史、世界史の新たな段階である情報社会という視点を重視したい。このような理解を通して最後は、フェイスブックに代表されるＳＮＳの可能性と限界について情報科学の立場から議論する。	
			色彩と科学	視覚コミュニケーションの基本的要素である色彩の本質を理解し、色彩が心理的、社会的、文化的に果すさまざまな役割について科学的理解を深める。色彩をコミュニケーションツールとして扱う上での基本的理論の習得に加え、視覚的な課題により豊かな色彩表現のための感性を養う。文部科学省後援の色彩士検定を視野に入れて主要項目の解説を行い資格取得を支援していきたい。色を扱う基礎知識として、色の表示、伝達の方法を理解するとともに、課題作成を通して基本的色彩技法を習得することを目指す。	
	実践知科目	実習科目	ボランティア実習Ⅰ	自分にもできることを通じて、様々な人々をサポートし、社会に貢献することにより、新しい自分を発見することを目的とする。ボランティア活動の実施場所は、大学の地元の稲城市および近隣地域の施設などを想定している。①担当教員による個別ガイダンス、②担当教員との事前面談、③危機管理ガイダンスへの参加、④ボランティア活動届の事前提出（学生支援課）、⑤ボランティア活動記録の提出、等が義務づけられる。	共同
			ボランティア実習Ⅱ	自分にもできることを通じて、様々な人々をサポートし、社会に貢献することにより、新しい自分を発見することを目的とする。実施場所は海外を想定している。海外ボランティアでは、海外における活動を通して、履修者が多種多様な文化、習慣の違いを受け入れ、将来、国際社会の中で生き抜く術を学ぶ。夏季休暇中に、学外の団体が行う海外ボランティアに2週間以上参加することが要件である。危機管理ガイダンスや活動記録の提出も義務づけられる。	
			海外英語研修Ⅰ	この授業は研修を通して海外での生活や異文化に触れ、言語ばかりでなく総合的なコミュニケーションスキルの習得を目標にする。通常2週間ホームステイをしながら、大学指定の語学学校に通学し、英語の語学研修を受講する。英語のみで行われる授業を受講することで、日本の授業との違いを実地で学ぶことができる。またホームステイをすることで全く違う習慣や文化をもつ人々の中で必要とするコミュニケーション能力を改めて考えることができる。体験を通して英語学習に対する動機を学生が問い直し、語学習得に引き続き臨めるようにする。英語専任教員が共同して、エージェントとの打ち合わせ、事前説明会、科目申請を行う。	共同
			海外英語研修Ⅱ	この授業は「海外英語研修Ⅰ」を取得済みの学生を対象とする。学生は既に研修等で必要な最低限の総合的なコミュニケーションスキルを習得しているので、それらの力を発展的に向上させることを目的とする。通常2週間ホームステイをしながら、大学指定の語学学校に通学し、英語の語学研修を受講する。「海外英語研修Ⅰ」では、行うことのできなかったアクティビティにも挑戦し、自らの語学力等が「海外英語研修Ⅰ」の履修後に行った学習で向上しているのか、また引き続き不足している能力があるか、再確認を行うことができる。英語専任教員が共同して、エージェントとの打ち合わせ、事前説明会、科目申請を行う。	共同

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	実践知科目	実習科目	国際協力実習	国際協力の関係者は、援助を受ける側の人々、政府関係者、国際協力機構（ＪＩＣＡ）などの援助実施機関職員や専門家など多種多様にわたる。開発の現場は途上国が中心であるため、国際協力実習では、実際に現地を訪ねて、国際協力の本質を効果的に学び、開発の現場の視察と様々な関係者との交流を通じて、国際協力の難しさや意義などを体感することを目的とする。実習参加前には、訪問国について、歴史や社会・経済情勢、日本との関係など基本的知識を習得し、十分な事前準備に基づいて、訪問国の人々と積極的に交流を行う。	
			国際協力実習フォローアップ	国際協力実習フォローアップは、国際協力実習の参加者を対象とし、国際協力の現場視察や援助関係者などとの交流を振り返りながら、気づきの点を参加学生同士でプレゼンテーションし、それをもとに報告の準備を行う。実習の成果として、日本（政府、企業、地域社会、大学あるいは学生個人）が国際開発・国際協力にどのように関与すべきか、自分の意見をまとめた実習報告書を作成するとともに、実習成果の発表内容や発表方法について、学生主体で企画・準備し、報告会を開催する。	
		就業力育成科目	進路設計	経済のグローバル化にともない、これまで日本の経済を支えてきた産業構造や人口構成は、大きく変化し、就業形態や人生観も多様化している。本講義では、女性の「生き方」について「就業観」「生きがい」「子育て」などを通して議論を進める。この作業を通して、卒業後の就業に際して「企業が求める人物像」と「個人の抱く社会人観」「家族観」をつなぐ価値観を再編し、具体的に語ることのできる素養を身につけることをめざす。	
			社会と教養演習A	大学を卒業し、社会人として胸を張って生活するには、大学の専門的な教育以外に「社会人基礎力」と呼ばれるような、生きていくうえで習得すべき知識・知見が求められる。本講義では、自分自身のイメージを描くことから始め、そのうえで、社会人として必要とされる最低限のコミュニケーション能力を身に付ける。そしてそれを実践可能とするための自己啓発、及びコミュニケーションスキルの訓練を行ってみたい。	
			社会と教養演習B	社会にはその集団が守るべき価値と規範があり、社会人あるいは企業人として個人が守るべきルールーやマナーがある。しかしそこでは個々人の個性を生かした対応も求めらる。本講義では身体技法を含めた基本的ビジネスマナーの習得と個性の発見を目指したい。具体的には、個性を重視しながらも、駒沢女子大学生としてふさわしい、建学の精神を踏まえた行動規範を学ぶことになる。	
			社会と教養演習C	本授業は、「社会と教養演習A」を踏まえ、社会に出るために必要とされる「社会人基礎力」をさらに養っていくことを目的とする。社会人として自立するためには、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」が必要といわれる。毎回の授業では、これらの力を磨いていくための、実践的訓練を行う。特に、チームワーク作業における、想像力、発信力、傾聴力、柔軟性、規律性を涵養することに力を注いでいきたい。	
			社会と教養演習D	本授業は、「社会と教養演習B」を踏まえ、社会人としての規範、とりわけ、道元禅師の禅を建学の精神とする本学ならではの身体技法とは何かを深く学んでいきたい。具体的には、社会での様々な現場でそれがどのように活かされるのかを教授したあと、想定シミュレーションや、学生の自主性を尊重したグループ学習、体験学習を行う。それにより、社会に出てはずかしくないだけの素養を身に付けてもらうことにする。	
			キャリアリテラシー	就職活動生を取り巻く環境が変化する中、本授業では、就職活動への不安を緩和し、前向きな気持ちで行動していくことを目指し、就職活動での自分の「軸」を見出すプロセスを学ぶ。具体的には「自己分析」と「業界・仕事研究」の“すり合わせ”に取り組む。そのために個人やチームで調べ、考え、話し合うなど、集団討論形式で授業を進め、同時に、社会に出てから役立つ意識やスキルも習得していく。自分自身の可能性を広げ、納得のできる就職活動にチャレンジしていくことを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	実践知科目	就業力育成科目	就業への知識と技能A	はじめに業種分類の基本を学ぶ。その上で、金融・リース・航空・ホテル・モバイル等の業界について、その成り立ちや特色を考える。様々な業種について実業界で豊富な経験を積んだ教員が様々なエピソードを交えながら、業種や会社を研究するための基礎知識を教授する。業界・業種の社会的な使命とその実態を知ることにより、社会の動向に関心を深めながら自分に適した業種を客観的に考えられるようにする。	
			就業への知識と技能B	様々な業種における業務の基本を学ぶ。その上で、損害保険・出版・不動産などの業界や、公務員・教育職における様々な業務内容や相互関係を考える。様々な業種について実業界で豊富な経験を積んだ教員が様々なエピソードを交えながら、業務を選択するための基礎知識を提供する。組織における様々な業務の役割とその実態を知ることにより、社会の動向に関心を深めながら自分に適した業務を客観的に考えられるようにする。	
		健康体育科目	女性と健康Ⅰ	人間は成長と共に体型や生理機能に様々な変化が起こるが、各年代によって発症し易い病の種類も異なる。本講義は、女性の体の基本的な生理機能とその健康管理を取り上げる。特に、二十歳になるまでに知っておいて欲しい女性の健康と病気について、具体例を交えながら話題を提供し、少女から大人の女性に成長する過程の健康問題について論じていく。本講義を通して人間の本質を理解し、正しい医学知識を身に着け、健康管理に関して自分で考える能力を養いたい。	
			女性と健康Ⅱ	人間は成長と共に体型や生理機能に様々な変化が起こるが、各年代によって発症し易い病の種類も異なる。本講義は、二十歳以降の女性の健康と病気について、結婚、妊娠、出産、育児に関係することなどを含めて論じていく。本講義を通して人間の本質を理解し、正しい医学知識を身に着け、健康管理に関して自分で考える能力を養いたい。日常生活の中で、自分のみならず家族や友人などの周りの人達の健康管理にも気を配り、病気の早期発見や正しい予防法に役立てることのできる内容とする。	
			スポーツⅠ	健康・体力づくりは、国民全体の大きな課題となっている。この科目は、継続できる身体運動（テニスとリラックスヨガ）を選択しながら、健康志向への動機付けを図り、実践に関する知識や技術を得ると共に、その方法を自分自身に当てはめ、応用展開する能力を体験することを目標とする。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。	
			スポーツⅡ	健康・体力づくりは、国民全体の大きな課題となっている。この科目は、継続できる身体運動（バドミントンとゆがみ修正体操）を選択しながら、健康志向への動機付けを図り、実践に関する知識や技術を得ると共に、その方法を自分自身に当てはめ、応用展開する能力を体験することを目標とする。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。	
	技法知科目	日本語育成科目	言語表現演習Ⅰ	大学生として、また社会人として必要な日本語の運用能力を養うことを目的とする。具体的には、日本の社会におけるコミュニケーションに大きな影響を与える「敬語」の体系、および、会話における誤用を防ぐために欠かせない日本語文法についての基礎知識を学ぶ。また、様々な文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、大学生にふさわしい文章を書ける力を養うことを目標とする。	
			言語表現演習Ⅱ	言語表現演習Ⅰを受け、日本語の正しい語法に習熟し、日本語の運用能力を高めることを目的とする。具体的には、自らの言語生活を振り返りつつ多くの語彙に触れて、さまざまな表現を生み出す力を身につけ、正確な表記で各種の文章を作成できる能力を身につける。また、文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、社会人にふさわしいコミュニケーション力を身につけることを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	英語AⅠ	高校までの英語学習を基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。日常生活において、数字や品物の値段の確認、日付、曜日等の、必要であると同時に重要な情報を正確に聞き取ったり、伝えたりできるようにする。簡単な単語やフレーズを使って、自分の気持ちや意見を相手に伝えられるかを意識させながら、会話や英作文での表現の幅を広げる。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
			英語AⅡ	英語AⅠを基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。自分の身の回りのトピックについて、場所や時間といった具体的な情報を聞き取ったり、自分の趣味や興味のあることなどを伝えたりできるようにする。簡単な単語やフレーズを使って、自分の気持ちや意見を相手に伝えることを意識させ、会話や英作文での表現の幅を広げていく。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
			英語AⅢ	英語AⅠ・Ⅱを基に、発展的な英語力の向上を目標とする。自分自身や自分の家族・学校・地域など、身の回りの事柄に関連した表現を理解し、伝えることができるようにする。基本的な単語やフレーズを用い、買い物や外食など、日常生活の場面での指示や説明ができるようにする。英語で表現することを意識させ、よく使われる構文を用い、自分の伝えたいことを書く練習をさせ、表現の幅を広げられるようにする。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
			英語AⅣ	英語AⅢを基に、発展的な英語力の向上を目標とする。公共の場で発信される短い簡潔なアナウンスを理解し、自分でその内容を言えるようにする。個人的予定や大学生活などの明確で具体的な事実について、要点を理解し、英語で表現できるようにする。スポーツ・料理など連続した動作の一連の手順を英語で表現できるようにする。英語で表現することを意識させ、よく使われる構文を用い、自分の伝えたいことを書く練習をさせ、表現の幅を広げられるようにする。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
			英語BⅠ	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「語彙・語法」について学ぶ。	
			英語BⅡ	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「文法」について学ぶ。	
			英語BⅢ	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「聴解力」の向上を図る。	
			英語BⅣ	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「読解力」の向上を図る。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	英会話Ⅰ	（英文）This course will focus primarily on improving students' speaking and listening skills, with some reading and writing, as well. Natural and current forms of conversation will be covered with an emphasis on improving students' pronunciation, intonation and fluency. Real world topics will be provided and students will be given language structures that will help them in a variety of real life situations. Through a combination of pair and group work, students will be given multiple activities to help them become confident in using the target conversational structures. （和訳）主にスピーキング力とリスニング力の向上を目指す授業である。 本講義では発音・抑揚の改善と流暢さに重点を置いて指導を行う。実際にメディアで取り上げられた英文を材料として使用することで、より現実に近い場面での学習ができるように工夫する。できるだけペアワークやグループワークを取り入れ、学生たちが積極的に学習できるような機会を提供する。	
			英会話Ⅱ	（英文）This course will continue where English Conversation Ⅰ left off and continue to strengthen students' communication skills in English. Students will learn confirmation and clarification conversation strategies. Specific attention will be given to developing active knowledge of colloquial English and the ability to interact on a variety of popular and current conversational topics. Real world media will be used as a springboard for meaningful exchange. Interactive structures relative to communicating in modern English will be provided and students will be given opportunities to practice their learning with each other through a variety of communicative tasks. （和訳）「英会話Ⅰ」の学習を踏まえ、英語によるコミュニケーションスキルを強化することを目指す。学生は「確認」や「明確化」という会話の仕方を学ぶ。本講義では口語表現の学習と様々なトピックについて前向きに考えることに重点を置いて指導を行う。実際にメディアで取り上げられた英文を材料として使用することで、より現実に近い場面での学習ができるように工夫する。学生たちが相互に関わり合いながら積極的に学習できるような機会を提供する。	
			英会話Ⅲ	（英文）This course will build on the content of English Conversation Ⅰ and Ⅱ, providing students with training in a deeper level of natural English communication. There will be particular emphasis on sustaining conversations over longer periods of time. To help with this goal, students will be exposed to various methods of turn taking and conversation strategies that pertain to forming follow up questions and how pause in mid conversation. Students will work on attaining natural English rhythm in their speaking, with the goal of improving their overall fluency. Additionally specific pronunciation practices that relate to the various methods and strategies will be provided on a regular basis. （和訳）「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」の学習を踏まえ、主に英語による自然なコミュニケーションができるようになることを目指す。そのため、補足質問を作ることや「会話の調整」（会話を途切らすという会話の技法）を学生に紹介する。本講義では会話を長く続けることに重点を置き、会話の進め方や会話技法を指導する。英語の発音や自然なリズム、流暢さについても適宜指導する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	英会話Ⅳ	（英文）This final course in English conversation will synthesize the practices thus far learned with the goal of making students confident and natural in their English communication styles. Students will work on sustaining fluent, extended conversations about pertinent current events and issues. The differences in casual and more formal types of conversation will be studied. Pragmatics relative to American and British culture will also be examined, with particular emphasis placed on hedging and expressing disagreements. Students will become sensitive to cultural differences amongst native English speakers and how interact appropriately in different international situations. （和訳）「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」「英会話Ⅲ」の学習を踏まえ、自信を持って自然な英語を使えるようになることを目指す。本講義では時事問題を話題にして、より長く英語で話せるようになることに主眼を置く。また、「カジュアル」な会話と「フォーマル」な会話の相違について学習する。英米の文化について考え、自身の考えを主張できるような力をつけさせる。	
			Receptive English Ⅰ	（英文）This is a specialist English course designed to support students in improving their ability to understand English through listening and reading. Key methods used include paraphrasing and summarizing of key content, story-retelling and listening/reading without translation using accessible materials such as graded readers. Students will learn to use existing knowledge to predict the meaning of unknown vocabulary, while developing topic based English ability. By the end of the course, students will have an enhanced ability to understand basic spoken English without listening repeatedly and to read and understand basic written English. （和訳）主に基本的な英語運用能力を習得させることを目的とし、特に「聞く・読む」という英語を理解する能力の育成を目指す。指導方法としては、重要な文の言い換えや要約、内容を理解して第三者に伝えること、または難易度別英語読本等の学習者用英文資料を訳さずに読む・聞くことを含む。トピックに関する英語知識を増やしながら、学生が未知の語の意味を推測する際、既存知識を活用することを学ぶ。本講義終了時には、基本的な英文であれば一度で聞き取り、一回読んだだけで理解できるだけの力が身に付くようになることを目指す。	
			Receptive English Ⅱ	（英文）This is a specialist English course which builds on skills developed in Receptive English Ⅰ designed to support students in improving their ability to understand English through listening and reading. Key additional methods in this course include listening and reading at a near-native speed, listening/reading note-taking skills, using confirmation checks and clarification requests as a means to increase understanding and identifying elements of spoken and written style as a means to understand the intentions of a speaker or writer. By the end of the course, students will have an enhanced ability to understand more complex spoken English without listening repeatedly and to read and understand more complex written English. （和訳）「Receptive English 1」の学習を踏まえ、主に基本的な英語運用能力を向上させることを目的とし、特に「聞く・読む」という英語を理解する能力の育成を目指す。授業の方法としては、メモを取りながら自然な速度のものを聞く・読む、「確認」や「明確化」を活用し理解度を高める、（脱落、連結、同化など音変化などの）口述・記述のスタイル要素を認識し書き手・話し手の意図を理解することを含む。内容のある英文を一度で聞き取り、一回読んだだけで理解できるだけの力が身に付くようになることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	Productive English Ⅰ	（英文）This is a specialist English course designed to support students in acquiring a functional command of English. Improving students' ability to produce English output through speaking and writing is a particular aim of this class. Key methods introduced in this course include speed training for writing and speaking, conversational topic shift and turn-taking strategies in both spoken and written communication and strategies such as confirmation and clarification for continuing conversations when language difficulties are encountered. In addition to creative writing corrected in detail by the instructor, students will learn about typical English sentence formations and learn to use various different sentence styles. By the end of the course, students will have an enhanced ability to use basic spoken English without extended guidance and be confident in writing basic English sentences. （和訳）主に基本的な英語運用能力を習得させることを目的とし、特に「書く・話す」という英語を発信する能力の育成を目指す。本コースで採用される方法は話す・書くの速度練習、「話題転換」「確認」や「明確化」などの困った時も話を続ける会話技法を紹介する。教員によって精密に添削される自由英作文とともに、典型的英語文の組立てを学び、様々な文章が書けるようになる。	
			Productive English Ⅱ	（英文）This is a specialist English course building on skills developed in Productive English Ⅰ, designed to support students in acquiring a functional command of spoken and written English. Students will gain experience in various types of spoken English (such as speech making, presentation, conversation, interview, debate) and written English (such as letter, diary, report, paragraph writing, process writing journalism and online writing). Choosing their subject matter, students will work on descriptive and explanatory phrasing for effective communication in producing a range of spoken and written output while focusing on fluency and accuracy. By the end of the course, students will have an enhanced ability to use more complex spoken English without extended guidance and be confident in producing more complex English compositions. （和訳）「Productive English Ⅰ」の学習を踏まえ、基本的な英語運用能力を向上させることを目的とし、特に「書く・話す」という英語を発信する能力の育成を目指す。学生は演説、発表、会話、インタービュー、議論等の口頭英語と手紙や日記を書くこと、パラグラフライティングやプロセスライティング等の英作文の経験を積む。主題を決め、説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように、様々な発信的アウトプットを作る際に流暢さと正確さを意識して話したり書いたりすることを学ぶ。本講義終了時には、独力で内容のある英文を書き、あまり時間をかけずに内容のある英語で話すことができるだけの力が身に付くようになることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	English Summer Seminar	（英文）The English Summer Seminar is an intensive three-day course and will provide students many opportunities to become users of English outside of the classroom. The course is student-centered, interactive, and reflective and will have an English-only policy. Students will take an active part in communicative activities, discussions, games, and students will also teach something practical in English to a small group of peers. Everyone will leave feeling more confident in her ability to communicate in English in addition, make new friendships with all participants. （和訳）英語夏期セミナーは、3日間の集中コースで、学生に教室外で英語を使う多くの機会を提供する。このコースは学習者中心で、相互学習型、思考型であり、英語しか使わないことが原則である。学生は、会話活動、ディスカッション、ゲームに積極的に参加し、小グループやペアになって互いに教え合う機会を持つ。参加者は、英語でのコミュニケーションに自信を持つとともに、参加者同志で新しい友人関係を築いて本プログラムを終了することを目指す。学生は英語母語者間の文化的相違に敏感になり、様々な国際的場面で適切に交流できるようになる。 2名の英語教員が協働でグループをマネージメントをし、タスクやアクティビティを与え、休暇中に学生とグループで会話をする。	共同
			フランス語Ⅰ	フランス語の読み・書き・会話の基礎力を育成することがテーマである。まず表記と発音の関係を理解し、特徴的な音が発音できるように練習を重ねる。文法では、名詞の性と数、不定冠詞・定冠詞・部分冠詞の使い分けを理解し、形容詞の性数一致ができるようにする。動詞ではavoirとêtre、および第一群規則動詞の活用と用法を学ぶ。授業ではコミュニケーションを目的として意識し、CDによる練習やロールプレイを取り入れながら、簡単な挨拶や自己紹介ができるまでになる。	
			フランス語Ⅱ	第二群規則動詞finir、日常生活で頻繁に使われる不規則動詞aller、venir、partir、voirなどの活用に見られる共通のパターンを理解して、テンポよく活用ができるようにする。さらに、疑問代名詞・疑問副詞のある疑問文を学ぶことで、対話者どうしのさまざまな状況について情報交換ができるように、CDやロールプレイによる練習を継続する。また、比較級・最上級の表現をマスターし、総合的な言語運用能力の向上を目指す。フランス語検定5級の受験を奨励する。	
			フランス語Ⅲ	フランス語を1年間学習してきた学生を対象とする。まず、非人称構文や強調構文など、一定のパターンによる表現を身につける。直接目的語・間接目的語の仕組みを理解し、代名詞に置き換えられるようにする。さらに、直説法複合過去の仕組みと意味を理解し、英語の現在完了形と比較しながら、フランス語の時間に関する感覚を身につける。4つの基本的な関係代名詞の用法を学習し、複文を使うことにより、より複雑な説明ができるようにする。	
			フランス語Ⅳ	単純未来形の活用と用法を学ぶことで、表現の幅をさらに拡大する。また、フランス語独特のしくみである代名動詞の用法を学び、フランス語らしい表現に磨きをかける。さらに複合過去と対比しながら半過去の活用と用法を学び、会話で用いられる一般的な過去の表現ができるようにする。フランス語検定4級の受験を奨励する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	ドイツ語Ⅰ	Ⅰ～Ⅳの学習で初級文法を基礎としたドイツ語の基本的語学力（聴く・話す・読む・書く）の習得を目指す。このドイツ語Ⅰでは、アルファベットの読み方から始め、ドイツ語の単語の発音（つづり・アクセント・母音の長短）に親しみ、動詞の現在人称変化、名詞と冠詞の格変化、基本的文型を学ぶ。簡単な日常会話を材料にしながら聴き取り・書き取り、また話す練習を行う。随時実施される小テストによって各人が習得の確認を行う。（ドイツ語検定試験5級に対応）	
			ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅰを習得した者を対象とする。初級文法を基礎としたドイツ語の基本的語学力（聴く・話す・読む・書く）の習得を目指す。このドイツ語Ⅱでは、名詞の複数形、冠詞類、前置詞、人称代名詞と再帰代名詞、話法の助動詞と未来形、分離動詞などの新たな文法事項を追加しながら、平易な会話文の学習を進める。聴き取り・書き取り、また話す練習を行う。随時実施される小テストによって各人が習得の確認を行う。（ドイツ語検定試験4級に対応）	
			ドイツ語Ⅲ	ドイツ語Ⅱを習得した者を対象とする。初級文法を基礎としたドイツ語の基本的語学力（聴く・話す・読む・書く）の習得を目指す。このドイツ語Ⅲでは、動詞の三基本形、過去形、現在完了形、接続詞と副文、形容詞の格変化、比較（形容詞と副詞）について学習する。動詞の時制と文の構造について特に多くの例文に触れ、ドイツ語固有の文構造に習熟することを目指す。聴き取り・書き取り、また話す練習を行う。随時実施される小テストによって各人が習得の確認を行う。（ドイツ語検定試験3級に対応）	
			ドイツ語Ⅳ	ドイツ語Ⅲを習得した者を対象とする。初級文法を基礎としたドイツ語の基本的語学力（聴く・話す・読む・書く）の習得を目指す。このドイツ語Ⅳでは、zu不定詞句、受動態、関係代名詞、接続法を学習する。聴き取り・書き取り、話す練習と並んで平易な日常的ドイツ文を読解する力を養う。随時実施される小テストによって各人が習得の確認を行う。（ドイツ語検定試験3級に対応）	
			スペイン語Ⅰ	スペイン語の読み・書き・会話の基本的な力をバランス良くつけることをテーマとする。今期はまずスペイン語の音、リズム、イントネーションを耳で聴き、声に出して発音することに慣れてゆく。次に男性名詞・女性名詞、冠詞、形容詞、動詞serとestar、3種類の規則動詞の基本的な用法などを理解し、身につける。場面に応じた会話をペアで練習し、関連語句を覚えて応用力を養う。教科書を録音したCDを用いて、聴き取り練習をする。各課が終わるごとに小テストを行うことで学んだことを定着させてゆく。	
			スペイン語Ⅱ	スペイン語Ⅰを修得済みの学生を対象とし、読み・書き・会話の基本的な力をさらにつけることをテーマとする。今期は不規則動詞の直説法現在を中心に、目的語の代名詞、比較級・最上級などを理解し、身につける。不規則動詞は種類別に学習する。スペイン語Ⅰ同様、場面に応じた会話をペアで練習し、関連語句を覚えて応用力を養う。CDを用いた聴き取り練習、小テストも継続して行う。スペイン語検定6級の受験を奨励する。	
			スペイン語Ⅲ	スペイン語Ⅱを修得済みの学生を対象とし、読み・書き・会話の基本的な力をさらにつけることをテーマとする。動詞は再帰動詞、2人称の肯定命令、点過去の規則動詞・不規則動詞を中心に学習する。点過去の活用形は現在形の規則性があてはまらない部分があり、さらに不規則動詞も多いので時間をかけて学習する。スペイン語Ⅱ同様、テーマに応じた会話をペアで練習し、関連語句を覚えて応用力を養う。CDを用いた聴き取り練習、小テストも継続して行う。	
			スペイン語Ⅳ	スペイン語Ⅲを修得済みの学生を対象とし、読み・書き・会話の基本的な力をさらにつけることをテーマとする。今期は動詞の線過去、現在完了、接続法現在とそれを用いる命令を中心に学習する。また接続詞・関係代名詞を使った複文の作り方などを理解し、練習を繰り返す。スペイン語Ⅲ同様、テーマに応じた会話をペアで練習し、関連語句を覚えて応用力を養う。簡単な昔話を読み、メールを書く練習もする。CDを用いた聴き取り練習、小テストも継続して行う。スペイン語検定5級の受験を奨励する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	中国語Ⅰ	中国語の「読む・書く・聞く・話す」の基本的な力を身に着けることを目指す。まず、中国語のピンイン表記法を学び、中国語の声調、母音、子音を正しく聞き取り、かつ正しく発音できるようにし、続いて挨拶表現の練習を通じて中国語の発音に慣れていく。その後、日付、曜日、時間、年の表現や数量表現を学び、動詞述語文、形容詞述語文、名詞述語文、諾否疑問文などの文法事項を学習し、中国語で簡単な意思疎通ができるようにする。	
			中国語Ⅱ	中国語Ⅰで身につけた「読む・書く・聞く・話す」の基本的な力を高めていくことを目指す。中国語における完了・経験・未来および変化を表す用法を助詞と共に学び、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文を学習し、会話練習を通じて定着させていく。また少しまとまった文章を読み、動詞や形容詞、名詞の語彙を増やし、会話の内容を深めバリエーションを広げていく。同時に身に着けた単文の基本文型を組み合わせることで、ややまとまった文章を綴ることができるようにする。	
			中国語Ⅲ	中国語Ⅰ・Ⅱで習得した中国語の基礎の上に、実践的な「読む・書く・聞く・話す」の力をつけ、コミュニケーションの手段として使える中国語へのレベルアップを目標に、様々な場面に合わせた表現を学ぶ。願望や依頼、感謝や謝罪などの表現や関連語句を覚え、実際の会話練習を通じて定着させていく。豊かな言語表現のために呼応文型やさまざまな補語の用法も学び、やや難易度の高い文章を正確に読み取り、聞き取る練習も並行して行う。	
			中国語Ⅳ	中国語検定受験を視野に入れ、より実践的な中国語力を養うことを目指す。日中を取り巻く社会への関心と理解を深めるために、教科書や音声教材のほかに教材として新聞やインターネット上の記事、映像資料なども使用する。また情報を収集するためネット上で使用される中国語、電子メールでのやりとりで使用される中国語表現なども学び、授業を離れても、身近な事柄について口頭および書面で表現することができる力をバランスよく身につけていく。	
		情報力育成科目	コンピュータ演習Ⅰ	本授業は、高度情報社会における情報収集やその処理の基礎を学ぶことを目的とする。具体的には、諸々の検定を指標としたレベル設定（ビジネスの現場において基礎的な文書処理ができる程度）を行い、情報通信技術（ICT）を使いこなすための知識と実技演習を中心に授業を進めていく。本授業では、文書作成、レイアウト作成、作表、作図、表計算などの技能を必要とする基本的なビジネス文書作成を繰返して実践的な演習を行う。	
			コンピュータ演習Ⅱ	本授業の目標は、「コンピュータ演習Ⅰ」で身に付けたスキル（ビジネスの現場において基礎的な文書処理が行える程度）を確認しつつ、さらに発展させることにある。具体的には、「Microsoft Office Specialist」に沿ってビジネスの現場で応用できる基本的な情報処理能力を身につけることを目標に、さらに実践的な演習を行う。併せて、プレゼンテーション技術として情報発信能力を高める表現力を身につける。	
			コンピュータ演習Ⅲ	スマートフォンに代表される情報端末の進化はすさまじく、それに伴い私たちの扱う情報も飛躍的に広がってきた。とりわけ、情報を発信・共有する機会が多くなり、情報を処理することから、情報を選り分け、メディアを選択し、魅力的に表現することまで求められるようになってきた。本授業では、インターネットを中心とした多彩なメディアを活用したウェブ表現を中心に、情報を利活用するための表現力を身につける。	
			コンピュータ演習Ⅳ	本授業の目標は、「コンピュータ演習Ⅲ」で身につけたウェブ表現を確認しつつ、さらに発展させることにある。具体的には、ウェブ表現で必須となっている写真表現や映像表現、アニメーション等高度な表現力を身につけることを目標に、デジタル１眼レフカメラ等の機材を使い、より実践的な実習を行う。併せて、MOSエキスパートやVBAなどシステムエンジニアの基本レベルの習得も視野に入れる。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	特設科目（留学生）	日本語AⅠ	本授業は、大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を修得することを目的とする。特に講義を聞くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。具体的には、助詞や副詞、接続詞や敬語等について学び、聞きやすくわかりやすい発音で話せるようになること、人前で話すことに慣れること、そして論理的な表現ができるようにする。	留学生対象
		日本語BⅠ	本授業は、「書く」ための日本語能力を修得することを目的とする。具体的には、身近な題材について文章を書くことによって、文を書くことに慣れるとともに、文法的に正しい文を書けるようにする。授業は、助詞や語句の使い方などの練習、文章作成を基本として進める。提出した課題について指摘された問題点を把握するとともに、文法的課題を含んだ練習を通して、日本語の基本的な格助詞を間違いなく使える能力を身につけるとともに、文章を書く課題を通して、間違いの少ない日本語文を書く能力を身につける。	留学生対象
		日本語AⅡ	本授業は、大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を修得することを目的とする。特に講義を聞くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。具体的には、様々な文型を使ったり、慣用表現を使ったりしながら、文を作る練習をする。聞きやすくわかりやすい発音で話せるようになること、人前で話すことに慣れること、そして論理的な表現ができるようにする。	留学生対象
		日本語BⅡ	本授業は、「書く」ための日本語能力を修得することを目的とする。具体的には、新聞記事を読み、社会的な題材について文章を書くことによって日本語能力を深めていく。授業は、文法の練習、文章の要約やレポートの書き方などの文章作成を基本として進める。提出した課題について指摘された問題点を自ら学習するとともに、童話のあらすじをまとめたり、小論文を作成したりする課題を通して、長い文章を正しい表現で書く能力を身につける。	留学生対象
		日本語AⅢ	本授業は、大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を修得することを目的とする。特に日本人学生の中でも臆せず自己表現できるよう、聴解力と口頭表現能力を伸ばすことに重点を置く。具体的には、日本の観光地や日本人の生活習慣などについて調査し、発表することを通して、語彙を増やし、話の内容に即した表現ができるようにするとともに、時事ニュースに親しみ、視野を広げ、様々な問題について日本語で討論できるようにする。	留学生対象
		日本語BⅢ	本授業は、「書く」ための日本語能力を修得することを目的とする。具体的には、格助詞の使い方や語句の使い方を修得するために、テキスト読解および確認テストに取り組んだり、与えられたテーマについて、要約や感想、レポートを書いたりする。テキストおよび関連課題をこなすことによって、文法や語彙に関して、高度な日本語能力を身につける。特に、受け身や使役といった態の変化による格助詞の使い方や、組み合わせて用いる慣用表現などに慣れるようにする。	留学生対象
		日本語AⅣ	本授業は、大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を修得することを目的とする。パネルディスカッション、グラフを使った意思表明のスピーチ、ディベート等を通して日本語能力をさらに伸ばす。日本の少子化問題や、高齢化社会など時事問題について資料を読み、原稿を作成してスピーチし、レポートにまとめることによって、語彙を増やし、話の内容に即した表現ができるようにするとともに、時事ニュースに親しみ、視野を広げ、様々な問題について日本語で討論できるようにする。	留学生対象
		日本語BⅣ	本授業は、「書く」ための日本語能力を修得することを目的とする。具体的には、新聞記事を読み、語句を調べることで、語彙量を増やすとともに、さまざまな文法の問題に取り組む。また、引用の仕方や段落について学んだうえで、論文を作成する。自らテーマを決めて調査し、報告する、あるいは自らの論を展開するという論文作成を通じて、さらに日本語能力を高めることを目指す。小論文を書くために必要な文章記述能力を高め、長い文章を書く能力を身につける。	留学生対象

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	特設科目（留学生）	日本事情Ⅰ	本授業は、日本での一般的な生活の実態について学ぶことで、日本に関する基礎的な知識を修得することを目的とする。具体的には、「どこかに行くこと」「食べる」ことなどを出発点として、日本の地理、交通、施設、食事情など、日本で生活するために必要な情報について概説する。パソコン上のウェブ情報などを活用し、実際に都内の公園や美術館や飲食店を紹介させることで、日本に関する情報を習得していく。	留学生対象
		日本事情Ⅱ	本授業は、日本の文化的な側面を学ぶことで、日本に関する基礎的な知識を修得することを目的とする。具体的には、年中行事、芸能、伝統工芸をはじめとする日本の文化的な側面や観光名所等、日本の文化の伝統的な側面について概説する。パソコン上のウェブ情報などを活用し、実際に日本の年中行事や祭りや歌舞伎、能、落語といった伝統芸能や観光名所などについて調べ、紹介させることで、日本に関する情報を習得し、理解を深める。	留学生対象
		日本事情Ⅲ	本授業は、日本や世界の時事問題について学び、幅広い話題に対応できる日本語力を修得することを目的とする。具体的には、グラフや統計資料をもとに、日本の国土、気候、政治、経済、社会等について学んだうえで、関連するニュースやテレビ番組の映像なども視聴する。また、日本のゴミ問題やリサイクル、交通インフラ、物価、エネルギー問題等、身近な問題について理解したうえで、具体的な意見を述べる力を身につける。	留学生対象
		日本事情Ⅳ	本授業は、日本や世界の時事問題について学び、幅広い話題に対応できる日本語力を修得することを目的とする。具体的には、グラフや統計資料をもとに、日本の農林水産業、工業、商業、貿易や国際協力などについて学び、関連するニュースやテレビ番組の映像なども視聴する。また、ゴミ問題やリサイクル、交通インフラ、物価、エネルギー問題等、身近な問題について、自国と比較することにより理解をふかめ、具体的な意見を述べる力を身につける。	留学生対象
人間総合学群 人間文化学類 日本文化専攻 専門教育科目	基本科目	日本語表現Ⅰ	本講義は、これまで培った日本語の能力を伸ばし、状況に応じて適切に使いこなす能力を修得することを目的とする。具体的には、文や文章の組み立て、語句の意味、用法や表記などについての知識を再確認したうえで、語彙量を増やすとともに、随筆、小説、論説文等、様々なジャンルの文章を通して言語感覚を磨いていく。社会人として必要な言葉のマナーや「伝わる日本語」を身につけ、言語生活を豊かなものにするための表現力を修得する。	
		日本語表現Ⅱ	本講義は、これまで培った日本語の能力を伸ばし、状況に応じて適切に使いこなす能力を修得することを目的とする。具体的には、言葉の成り立ちや敬語などについての知識を再確認したうえで、様々なスタイルの文章を通して表現の特色や言語の役割について理解を深め、言語感覚を磨いていく。社会人として必要な言葉のマナーや「伝わる日本語」を身につけ、文章表現を楽しみ、各自の言語生活を豊かなものにするための表現力を修得する。	
		日本語表現の実践Ⅰ	本講義は、これまで培った日本語の能力をさらに伸ばし、適切かつ効果的に表現する能力を修得することを目的とする。具体的には、スピーチやプレゼンテーション、ディスカッション等を通して、目的や場面による表現方法の違いなどについて理解を深めたうえで、工夫して効果的に表現する姿勢を身につけるとともに、言語感覚を磨いていく。価値観が多様化し、言語環境が急激に変化している現代社会において必要となる多様な表現技法を修得する。	
		日本語表現の実践Ⅱ	本講義は、これまで培った日本語の能力をさらに伸ばし、適切かつ効果的に表現する能力を修得することを目的とする。具体的には、情報伝達の文章や論理展開の文章、随筆、広告などさまざまな文章のスタイルを考察することで、表現方法の違いについて理解を深めるとともに、各種の文章を工夫して効果的に作成する能力を身につけていく。価値観が多様化し言語環境が急激に変化している現代社会において必要となる多様な表現方法を修得する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 人間文化学類 日本文化専攻 専門教育科目	基本科目		日本の文化と歴史Ⅰ	本講義は、現代の日本において継承され、変容しているさまざまな文化事象を学び、世界における日本文化の立脚点について俯瞰することを目的とする。具体的には、海外から招来した異文化の受容と変容、あるいは長い歴史の中で育まれてきた日本特有の精神文化の特色などを観察し、有形・無形の文化遺産をテキストにして日本の文化の総括的な検証を行う。さらに変容する現代の日本文化について理解を深め、世界の中の日本文化という観点から考察する。	共同
			日本の文化と歴史Ⅱ	本講義は、現代の日本において継承され、展開しているさまざまな文化事象を学び、世界における日本文化の立脚点について俯瞰することを目的とする。具体的には、「日本の文化と歴史Ⅰ」における学びに基づき、「外国人の見た日本」という観点から日本の文化を捉えなおし、相対化することによって、学生の視点による新しい日本論の構築を模索する。この学びを通じて、現代の日本文化について広く知識を持つとともに、変容する現代日本の文化について理解を深め、現代日本の特性について探っていく。	共同
			日本の文化と歴史Ⅲ	本講義は、国際社会における日本文化の意義と諸事例を学び、国際感覚に富んだ視点から概観した場合の日本文化とはどのような様相か、その客観的な観察力の修得を目的とする。具体的には、富士山、寺社建築、浮世絵、日本庭園、伝統芸能などの有形・無形の文化財を扱い、海外からの視点によって再評価されたさまざまな文化遺産について学習する。なお、必要に応じて現地を見学する学外学習を実施し、実践的な日本の文化と歴史を修得する。	共同
			日本の文化と歴史Ⅳ	本講義は、国際社会における日本文化の意義と諸事例を学び、国際感覚に富んだ視点から概観した場合の日本文化とはどのような特質があるのか、その客観的な観察力の修得を目的とする。具体的には、「日本の歴史と文化Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」における学びに基づき、国際社会へ向けて日本から発信されているアニメをはじめとする現代日本の諸文化について学習する。この学びを通じて、日本の文化的な特質について探求していく。なお必要に応じて現地を見学する学外学習を実施し、実践的な日本の文化と歴史を修得する。	共同
	主幹科目	言語の分野	古典文学概論	本講義は、主要な古典文学作品を読み味わいながら、古典を読むときに必要な基礎的知識を再確認し、古典文学研究の基礎作りを行うことを目的とする。具体的には、『竹取物語』や『伊勢物語』をはじめ主要な日本の古典文学作品を取り上げ、作品の概要や基礎的な事項を解説する。様々なジャンルの古典文学を学ぶことで、歴史的背景を踏まえ、文学に表れたものの見方や考え方などについて、自分なりの言葉で表現することができるようにする。	
			近代文学概論	本講義は、日本近代文学に関する基礎的な知識を学び、文学を研究するための基礎的な概念を理解することを目的とする。近代の文学史について概説したうえで、具体的には『羅生門』『走れメロス』『山月記』など、中学校や高等学校の国語教材としてよく知られている作品を取り上げ、典拠との比較や語りの分析など、文学研究としてのアプローチの方法を説明する。先行研究における問題点等を理解することにより、中学・高校の授業とは違う観点から近代の小説をとらえる力を修得する。	
			日本語学概論Ⅰ	本講義は、世界の中の一つの言語として日本語をとらえ、その特徴について理解することが目的である。具体的には、さまざまな言語と日本語を比較したうえで、日本語の特徴について、発音、語彙、表記法、文法等から概説する。また、日本語の表現方法についても考察していく。普段何気なく使っている日本語に関心を持ち、興味を深めるとともに、客観的にその特徴を理解し、説明できるようにするとともに、問題意識を持って日本語を考察する力を修得する。	
			日本語学概論Ⅱ	本講義は、日本語の特質を理解し、日本語学を研究するための実践的な知識を修得することを目的とする。具体的には日本語学の音声学、音韻論、文体論、文法論、語彙論など、各分野の研究について紹介しながら、日本語の特質について概説していく。日本語の特質を理解し、説明できるようにするとともに、さまざまな角度から日本語を考察することで、自分なりの問題意識をもって日本語と向かいあい、研究する姿勢を身につけるように導く。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 人間文化学類 日本文化専攻 専門教育科目	主幹科目	言語の分野	古典文学Ⅰ（上代・中古）	本講義は、上代の文学に関する基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、日本文学の源泉である『万葉集』および『古事記』を取り上げて概説する。一語一語大切に読み解きながら、古典文学の世界に親しみ、現代までつづく「日本文学」の基礎的な問題点について考察を深める。自分なりの興味・関心をもって古典文学作品と向かい合う姿勢を身につけ、上代・中古の文学作品について自分なりの言葉で、その概略を説明することができる力を身につける。	
			古典文学Ⅱ（中世・近世）	本講義は、中世の軍記物語や随筆、説話等ならびに江戸時代を代表する浮世草子や読本等の作品を通して古典文学の特質を探ることを目的とする。具体的には、『平家物語』や『徒然草』、井原西鶴の『好色一代男』や滝沢馬琴の『南総里見八犬伝』等の作品について時代的背景とともにその概要を説明し、そこに表れた人々の生活や風俗、思想について理解を深める。古典文学の世界に親しみ、興味・関心をもって作品と向かい合う姿勢を身につけ、当時の文学に表れたものの見方や考え方などについて、自分なりの言葉で表現する力を身につける。	
			近現代文学Ⅰ（近代）	本講義は、明治期から昭和初期にかけて活躍した作家の小説を通して、近代の文学の特質を探ることを目的とする。具体的には夏目漱石や芥川龍之介、横光利一、太宰治等の作品を取り上げ、作中人物が西洋の思想文化の流入する時代とどのように向かい合い生きていったのかなどという問題を考察する。小説を通して、日本の近代化の様相について理解するとともに、自分なりの文学研究へのアプローチの方法を身につける。	
			近現代文学Ⅱ（現代）	本講義は、第2次世界大戦後から現在までの小説について、世界の文学の中での日本の文学という観点から学ぶことを目的とする。具体的には、川端康成や、大江健三郎というノーベル賞作家の作品や村上春樹の作品の概要を理解したうえで、外国人が日本の小説をどのようにとらえているか考察していく。世界中で読まれている日本の現代の小説とはどのようなものなのか、自分なりの興味・関心をもって読んでいく姿勢を身につける。	
			日本語学Ⅰ	本講義は、上代から江戸時代までの日本語の変遷に関する知識を修得するとともに、日本語史の主な資料を通覧し、日本語学研究の方法を学ぶことを目的とする。具体的には、奈良時代から江戸時代にかけて、各時代の日本語を知るためにどのような資料を調べればよいのか理解するとともに、各時代の文法的な変遷を説明できるようにする。また、仮名で書かれた資料のほかに訓点資料・キリシタン資料などが存在することを知り、それらの特徴について説明できるようにする。	
			日本語学Ⅱ	本講義は、日本語の語彙に関する知識を修得することを目的とする。具体的には、日本語の語彙全体が意味的にみてどのような体系を作っているのか概説したうえで、語彙の量的構造、語彙の変遷、意味の変遷等についても概説する。また、日本語の辞書についても考察する。日本語の語彙の特徴について理解し、説明できるようにするとともに、日本語で書かれたさまざまな文章を通して、語彙についての理解を深めることができる力を身につける。	
			日本文学史Ⅰ	本講義は上代から中古までの日本の文学作品を通時的に学び、基礎的な知識を修得し、文学の史的展開について理解することを目的とする。具体的には『古今和歌集』などの和歌文学や『竹取物語』『源氏物語』などの物語文学など、各時代を代表するジャンルの作品を取り上げ、作品・作者について概説しながら、基礎的な知識を身につけるとともに、時代と作品との関連性や、文学形態の発展過程等、文学の史的展開について考察していく。	
			日本文学史Ⅱ	本講義は中世から近代までの日本の文学作品を通時的に学び、基礎的な知識を修得し、文学の史的展開について理解することを目的とする。具体的には『平家物語』などの軍記物や『方丈記』、『徒然草』などの随筆、江戸時代の戯作文学、近代の小説に至るまで、様々なジャンルの作品を取り上げ、作品について概説しながら、基礎的な知識を身につけるとともに、時代と作品との関連性や、文学形態の発展過程等、文学の史的展開について考察していく。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 人間文化学類 日本文化専攻 専門教育科目	主幹科目	言語の分野	中国文学Ⅰ（漢文学）	本講義は、中国文学の変遷ならびに様々な文体について理解することを目的とする。具体的には、漢文訓読の基礎について学んだうえで、中国文学の歴史や各時代を代表する作品等について概説する。文献の読解を通じて、文意を捉えるとともに、つねに日本に大きな影響を与えてきた中国の文学について、日本人がどのように消化吸収し、自国の文化を生み出していったのかを考えるとともに、中国古典を学ぶことの意味を考える。	
			中国文学Ⅱ（漢文学）	本講義は、中国の思想や『史記』などを通して、中国の歴史や文化への理解を深め、中国文化が日本に与えた影響の大きさを考えることを目的とする。具体的には、中国思想史の流れや代表的な思想家について説明するとともに、諸子百家の思想や、『史記』を読み、それらの書物が各時代にどのように享受されたかを、時代状況と関係づけながら解説する。中国文化が日本に与えた影響について、自分なりの言葉で説明する力を身につける。	
		歴史の分野	日本史Ⅰ（古代）	本講義は、日本の古代史を概説し、その歴史的な特質に関する基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、六国史、古文書、日記、物語、木簡、出土遺物等の日本古代史に関する基本資料を通じて、奈良時代から平安時代までの政治、社会、信仰、生活、文化の実像について、東アジア世界との関係も視野に入れながら解説し、日本古代の歴史的な特質について理解する。あわせて、史料の読解力や多角的に歴史を考えるための力を身につける。	
			日本史Ⅱ（中世）	本講義は、日本の中世史を概説し、その歴史的な特質に関する基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、古文書、古記録、編纂物、絵画、考古資料等の歴史資料を通して、武家政権の成立過程、貨幣経済の発達や庶民の台頭を中心に、鎌倉時代から戦国時代までの歴史的動向について学習する。この学びを通じて、中世社会が列島各地で多様な展開を遂げ、そこから近世社会の枠組みがどのように出現していくのか理解する。あわせて、史料の読解力や多角的に歴史を考えるための力を身につける。	
			日本史Ⅲ（近世）	本講義は、日本の近世史を概説し、その歴史的な特質に関する基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、古文書、古記録、編纂物、絵図、考古資料等の歴史資料を通じて、ヨーロッパ等の諸外国との交流をも視野に入れつつ近世社会の形成について考察し、江戸時代を通しての政治、産業・経済、文化や学問・思想等の展開の諸相を学習する。この学びを通じて、近世の日本に関する基礎知識を修得し、あわせて史料の読解力や多角的に歴史を考えるための力を身につける。	
			日本史Ⅳ（近現代）	本講義は、日本の近代史を概説し、その歴史的な特質に関する基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、古文書、古記録、編纂物等の歴史資料を通じて、日本の近代が芽生えた幕末の社会、その後の明治維新と明治国家の成立、帝国日本の誕生から戦時体制等、明治から第2次世界大戦までの日本の歴史的展開について学習する。この学びを通じて、近代日本に関する基礎知識を修得し、あわせて史料の読解力や多角的に歴史を考えるための力を身につける。	
			日本文化史Ⅰ	本講義は、日本の文化に関する歴史を総合的に学び、日本人の文化に対する価値観や個々の文化事象について基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、古代から近現代に至る文化史を学びつつ、それぞれの時代における文化的特徴について考察する。また風土論についても側面的に学習する。なお、海外から評価されるさまざまな日本の文化や世界遺産などについても学び、社会人として理解しておくべき実践的な日本文化学を修得する。	
			日本文化史Ⅱ	本講義は、日本の芸能の歴史に関する基礎知識を学びながら、日本文化における芸術と技芸の全体像を把握すること目的とする。具体的には、神楽、能、文楽、歌舞伎などの日本を代表する演劇をはじめ、映画・歌謡・舞踊・落語などのさまざまな芸能文化について解説する。また必要に応じて映像や音楽の鑑賞を行い、伝統的な古典芸能とともに、現代の新しい芸能文化についても幅広く学ぶ。なお、大学の地元である稲城市の里神楽について知り、身近な日本の伝統芸能についても親しむ。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 人間文化学類 日本文化専攻 専門教育科目	主幹科目	歴史の分野	地域文化概論	本講義は、地域社会に残された文化財から地域社会で営まれてきた人々の暮らしに関する知識を修得することを目的とする。具体的には、石造物、祭礼、年中行事など、地域に残された人々の暮らしの痕跡から見えてくる地域文化について解説する。この学びを通じて、教科書や年表には登場しない普通の人々の暮らしが基となって私たちの生活文化が形成されていることを学習する。さらに人々の暮らしにおいて大きな影響力を持っていた寺社を通して見えてくる地域社会の新たな側面など、地域文化の面白さについても学習する。	
			歴史資料論	本講義は、日本文化を学ぶ上で基本となる歴史資料について概説し、その読解、調査、整理を行うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、古代から近代までの代表的な古文書、古記録等の文献資料、絵図、考古資料等の概要を学び、近世以降の古文書等の原本史料の読解方法、調査・整理方法について学習する。なお必要に応じて、学外の博物館・資料館に行き、原本史料を閲覧・調査し、歴史資料を扱うための実践的な学習を行う。	
			民俗資料論	本講義は、日本文化を学ぶ上で基本となる有形・無形の民俗資料について概説し、その読解、調査、整理を行うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、地域文化を理解するために有益な風習・伝説・信仰・芸能・民具等の民俗資料について解説し、学内外での実習を通して、稲城市およびその周辺地域に伝承されてきた民俗資料を事例として取り扱いながら、これらの収集・調査・分類・整理・保存のための方法を実践的に学習する。	
			歴史考古学	本講義は、中世から近代までの歴史について考古学の視点から概説し、考古学を通史的に見据える視点を養うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、城郭、宗教、交通、生活、戦争等に関する中世から近代までの考古学の成果について解説し、中世から近代までの歴史研究における考古学の可能性について学習する。さらに、歴史研究だけでなく、民俗学をはじめとする諸分野との関わりについても理解を深め、多角的に考えるための力を養う。	
			歴史地理学	本講義は、産業と人びとのくらしについて、歴史的特徴だけでなく、地域的特徴も視野に入れ見据える視点を養うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、衣食住の世界だけでなく、地域の産業とくらしについて、それを支える人々を含めて、通史的、立体的な歴史像、地域像について学習し、新たな歴史観、地域観の可能性について学習する。この学びを通じて、地域から文化や歴史を多角的に調査、研究するための基礎知識を修得する。	
	応用科目		仏教文学	本講義は、仏教に関する説話や民話、あるいは随筆などをひろく講読し、文学に描かれた仏教について考察することを目的とする。具体的には、『今昔物語集』『日本霊異記』『沙石集』などといった説話集をはじめ、宮沢賢治などの近現代の文学作品、あるいは有名な民話など、日本を代表する仏教文学の作品を取り上げ、その重要と思われる箇所を講読する。また履修者にゆかりのある地元の昔話についても調べさせ、地域文化への関心を高めることも視野に入れて学習する。	
			児童文学	本講義は、明治以降子どもを意識して書かれるようになった児童文学の特質を探ることを目的とする。具体的には、日本の近代児童文学・児童音楽の創世期に最も重要な影響を与えた『赤い鳥』をはじめとする児童雑誌を取り上げ、芥川龍之介や有島武郎の作品や、小川未明や北原白秋の童謡や童話を通して、大正から昭和初期にかけての児童文学の諸相について考察していく。自分なりの興味、関心を持って児童文学に向かい合う姿勢を身につけるようにする。	
			日本の詩歌	本講義は、日本の詩歌の特質について学ぶことを目的とする。具体的には、中古の和歌を中心とし、上代の和歌、中世の連歌、近世の俳諧なども取り扱う。また、近代以降の詩歌については正岡子規の改革運動を中心として概説する。日本文学における詩歌の意義について理解し、作品に表れたものの見方や考え方、現代における詩歌の意義などについて、各受講者なりの考えを持つことができるようにする。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 人間文化学類 日本文化専攻 専門教育科目	応用科目	国語教育概論Ⅰ	本講義は国語教育の歴史や概要を学ぶことを通して、国語科教育についての基礎的な知識を修得することを目的とする。具体的には、明治以降今日に至るまでの国語教育の歴史や国語教科書の歴史および学習指導要領の変遷等について概説するとともに、国語科の教科構造や教科内容、単元構成、系統性、他教科との関連等について概説する。さらに「国語を学ぶ」とはどういうことなのか、その本質や意味についても考察していく。	
		国語教育概論Ⅱ	本講義は現在の国語教育の内容や諸問題を学ぶことを通して、国語科教育の意義を理解し、国語科の教員として必要な知識を身につけることを目的とする。具体的には現行の学習指導要領の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域の内容を概説したうえで、国語教育の方法や学習指導法、教材について、さらには国語教育の様々な問題について概説する。国語科とは何を教え、どういう力を育てるべき教科なのか、考える力を修得する。	
		書道実習Ⅰ	本実習は、書道の様々な活動を通して、書写能力の向上を図るとともに、表現と鑑賞の力を伸ばし、書の伝統と文化について理解することを目的とする。具体的には、漢字については楷書及び行書、仮名については、平仮名、片仮名及び変体仮名を扱い、基本的な点画や線質の表し方を理解し、その用筆・運筆の技法を修得させる。また、書の美しさと表現効果を味わい、感じ取ることができるようになるとともに、漢字の書体の変遷や仮名の成立等についても理解を深める。	
		書道実習Ⅱ	本実習は、書道の様々な活動を通して、書写能力の向上を図るとともに、表現と鑑賞の力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深めることを目的とする。具体的には、漢字については、草書、隷書及び篆書、仮名については、平仮名、片仮名及び変体仮名を扱い、書体や書風に即した用筆・運筆等について理解し、表現形式に応じた構成を工夫できるように導く。また、書の美と時代や風土、筆者等とのかかわりや表現方法や形式等について理解を深める。	
		日本の文化財Ⅰ	本講義は、日本における文化財保護の状況と代表的な文化財について概説し、日本の文化財に関する基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、近代以降の欧米社会との関わりを視野に入れながら、日本の近代化と文化財保護の歩みについて学習し、博物館の果たしてきた役割や、日本の代表的な文化財の特質を考察し、文化財の鑑賞・調査方法についての基礎を学習する。	
		日本の文化財Ⅱ	本講義は、日本の文化財Ⅰでの学びを基に、日本の文化財に関する知識を深めることを目的とする。具体的には、文化財保護法によって指定された文化財の概要と、日本を代表する有形文化財（建造物・美術工芸品）・無形文化財・民俗文化財・記念物・文化的景観・伝統的建造物群保存地区・選定保存技術・埋蔵文化財等の基礎知識を学び、近年注目されている世界遺産、世界無形文化遺産の概要と課題点など、現代社会と文化財の関わりについて学習する。	
		文化交流史Ⅰ	本講義は、日本と海外の交流の歴史について、その歴史的特質を考察することを目的とする。具体的には、縄文時代から平安時代までの日本と諸外国との交流の事例を取り上げ、海外文化を取捨選択しながら主体的に受容した社会的背景や意義についての歴史的変遷とその特徴について学習する。この学びを通じて、国際交流の中で形作られてきた日本文化の意義や、日本文化が海外からどのように理解されてきたのかなどについて考察する。	
		文化交流史Ⅱ	本講義は、日本と海外の交流の歴史について、その歴史的特質を考察することを目的とする。具体的には、平安・鎌倉時代から幕末までの日本と諸外国との交流の歴史を振り返り、海外文化を取捨選択しながら主体的に受容した社会的背景や意義についての歴史的変遷とその特徴について学習する。この学びを通じて、国際交流の中で形作られてきた日本文化の意義、日本文化が海外からどのように理解されてきたのかについて考察する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 人間文化学類 日本文化専攻 専門教育科目	専門ゼミ科目	日本文化ゼミⅠ	本授業は、日本の文化に関して演習形式で調査・研究・報告を実施し、日本文化学の基礎知識・専門知識を修得することを目的とする。具体的には、日本の歴史・文化・文学・言語等を扱った諸文献を熟読し、履修者の希望する各分野について研究指導を行う。また関連する現代日本の文化事象についても、必要に応じて鑑賞や体験学習などを実施する。なお、学外学習を行う場合もある。	
		日本文化ゼミⅡ	本授業は、日本の文化に関して演習形式で調査・研究・報告を実施し、日本文化学の基礎知識・専門知識を修得することを目的とする。具体的には、日本の歴史・文化・文学・言語を扱った諸文献を熟読し、履修者の希望する各分野について研究指導を行う。また日本文化ゼミⅠで修得した知識に基づいて、関連する現代日本の文化事象についても、必要に応じて鑑賞や体験学習などを実施する。なお、学外学習を行う場合もある。さらに考察を文章として定着させるための文章指導も行う。	
		日本文化ゼミⅢ	本授業は、日本の文化に関して演習形式で調査・研究・報告を実施し、日本文化学の専門知識を修得することを目的とする。具体的には、日本の歴史・文化・文学・言語を扱った諸文献を熟読し、履修者の希望する各分野について研究指導を行う。また日本文化ゼミⅠ・Ⅱで修得した知識に基づいて、関連する現代日本の文化事象についても、必要に応じて鑑賞や体験学習などを実施する。なお、学外学習を行う場合もある。さらには実践的な論文指導も行う。	
		日本文化ゼミⅣ	本授業は、日本の文化に関して演習形式で調査・研究・報告を実施し、日本文化学の専門知識を修得することを目的とする。具体的には、日本の歴史・文化・文学・言語を扱った諸文献を熟読し、履修者の希望する日本文化の各分野における研究指導を行う。また日本文化ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲで修得した知識に基づいて、関連する現代日本の文化事象についても、必要に応じて鑑賞や体験学習などを実施する。なお、学外学習を行う場合もある。さらにはこれまでの学習成果をまとめるための論文指導も行う。	
		卒業論文	大学での学修を通じて特に自分が興味をいだいた事象を研究対象として選び、これまで修得してきた専門的知識をふまえて、独自の分析の視点と自分なりの問題意識を明確にしつつ、適切な方法を用いて深く考察する方法を身につける。学習の成果を、体系的、論理的に文章化して卒業論文としてまとめる。	
人間文化学類 人間関係専攻 専門教育科目	基本科目	人間関係の基礎	人間関係専攻の専門的な学びに必要な能力と、生産的なコミュニケーション能力を、実践を通じて深める。特に、文章を読み取り、理解する能力の陶冶に指導の重点をおく。集団レベルと個人レベルの双方で、問題関心を「問い」のかたちに立ち上げ、必要な情報を検索、収集、整理し、これに基づいて創造的な課題解決と的確な提案を行えるよう、情報処理能力の向上を期す。さらには、経験値の異なる仲間への有効な情報提供とリーダーシップの実践を行う。	
		化粧の文化史	化粧は生存に不必要な虚飾であると言われ、化粧は文化とはみなされない傾向が社会に存在するが、学問的に化粧を文化と位置づけて研究することができる。その上で、人はなぜ化粧をするのか、人間にとって化粧はどのような意味を持つのかを、化粧の歴史を通じて時代の美意識をたどりながら考察を進める。とくに日本の化粧史に的を絞り、必用な場合には異文化と比較しながら授業を進める。単に化粧の歴史を知るにとどまらず、受講者が自分の化粧や美に対する心構えや価値基準を反省することを目的とする。	
		コミュニケーションの心理学	コミュニケーションの仕組みやあり方をめぐる心理学的理解について解説する。本講義では、服装や立ち居振る舞いなどの非言語的なコミュニケーションへの理解を深めるとともに、行動心理学や学習心理学、比較心理学などの知見を踏まえ、言語的なコミュニケーション能力の発育形成についても考察する。①コミュニケーションの多様性を理解する、②自己の無意識領域に迫り「自己洞察」する方法を学ぶ、③「アサーション」「傾聴」などの技法について理解を深める、の3点を学修目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 人間文化学類 人間関係専攻 専門教育科目	基本科目		コミュニケーションの社会学	私たちは、たえず誰かと繋がり、一日中、コミュニケーションをやめることはない。そして社会のいたるところで「コミュニケーション能力」の必要性が唱えられている。ではそもそも「コミュニケーション」とは何か。この社会はいかにして「コミュニケーション」を重視することになったのか。本講義ではこれらの問いを社会学的に考察する。コミュニケーションを捉えるための相対的な視座を獲得し、必要な社会学の基礎理論を理解することを到達目標とする。	
			現代社会の論点	若者世代をとりまく社会環境について近年の論評やメディア情報をいくつか取り上げ、論点や問題提起を整理しながら解説するとともに、受講者間で議論・検討を行う。学生自身が日常生活のなかで身近に接している経験や社会的現象を手がかりに、そこから、「社会について考察する」という学的思考へと展開する方法を実践的に習得してもらうことを目指す。読むこと（精確な理解）、考えること（理論的思考）、話すこと（対話的コミュニケーション）の3つのスキルを高めることが具体的な学習目標である。	
			国際社会への誘い	冷戦後の世界情勢を概観し、21世紀の国際安全保障を担う国際機構と国家について分析する。とくに、国際連合（UN）、北大西洋条約機構（NATO）、欧州連合（EU）が担う国際安全保障に焦点を当て、国際安全保障における日本の責任について考察する。①冷戦後の世界の主な動き、②国際安全保障を担う国際機関、③「伝統的安全保障」「人間の安全保障」などの安全保障の概念などについて理解を深めることを目標とする。	
			企画と表現	社会に出ると、自分なりの解き方で答えを導き、それを誰にでも理解できる言葉で理論的に説明することが求められる。授業ではイベント、新商品、作品展などのプロジェクト企画と発表を行い、社会で求められる能力を身につける。	
			哲学と思想	生命倫理の問題、環境問題、人種とテロリズム、社会的格差の問題などに象徴されるように、現代は、人間存在をめぐる哲学的・思想的な省察が求められている時代である。哲学史のなかで繰り広げられてきた主要な命題と論点を概説する。それによって、現代社会のさまざまな倫理的課題を各自で考察できるようになることが本講義の目的である。現在起こっている社会的な問題について本質的に議論し、自分の見解を明確に表現できるようになることを到達目標としたい。	
	主幹科目	文化の分野	身体文化論Ⅰ	身体文化の諸領域のうち、本講義では「語りの身体文化」を取り上げる。「声は人なり、語りは人生なり」という言葉は今の時代にも当てはまる。言葉を大事にすることは大切である。それはどの時代においてもいえることである。本講義は、上手な話し方を身につけること、また社会で起きている様々な事象を的確にとらえ、それぞれを自分の言葉で理解し解釈し分析する力を養うことを目標とする。	
			身体文化論Ⅱ	「声は人なり、語りは人生なり」という考えに沿いながら、語りの実践力を身につけさせる。言葉を机上で理解するばかりでなく、その使い方を実際に学ぶ。学生同士でのインタビューやグループディスカッションなどの手法もとりいれながら授業を進める。言葉を学び会得した上での自己表現、ニュースの客観的分析などを通して、本学の建学の精神のである「行学一如」に通じる言動を取れる人間になれることを目標とする。	
			化粧文化論	社会人基礎力とコミュニケーション力の育成を目的に、ノンバーバルコミュニケーションのひとつに位置づけられる化粧という身体表現を取り上げる。前提としての正しい知識とそれ基づく方法の習得に始まり、化粧によるメッセージの発信と受信にも重点を置き、理論と実践の双方から考察と経験を積む。本講義は、株式会社資生堂の寄附講座のため、資生堂化粧品を使った社員による指導もある。社会人女性に社会が求める基本的な化粧についての知識と技術の習得を目指す。	講義　12時間 実習　3時間

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 人間文化学類 人間関係専攻 専門教育科目	主幹科目	文化の分野	服装の美意識Ⅰ	本講義は、視覚資料を用いながら、現代社会と服装との関わりを学習するとともに、昨今のファッション業界のしくみを多様な角度から分析することで、私たちの生活に潤いを与えてくれるファッションの存在意義について考察する。①多様化する現代ファッションの流れについて時系列的に説明することができ、②ファッションをめぐる新しい動きを自分がどのように受け入れるべきか判断する能力を身につけること、以上の2点を到達目標とする。	
			服装の美意識Ⅱ	本講義は、図像資料を用いて服装の変遷について学習すると同時に、当時の服装を再現した映像資料を鑑賞し、文化と服装との関わりについて考察する。具体的には、古代ギリシア・ローマの服装、ゲルマン民族・ビザンツ帝国の服装、中世の服装、16～18世紀の服装、フランス革命期から1830年代までの服装、近現代の服装を、順を追ってとりあげる。古代から19世紀までの西洋の服装の歴史を学びながら、人が衣服を着ることの意味について考える。	
			和装の文化Ⅰ	「きれいを学問する」という大テーマの下、出席者が自分自身の「きれい」を考え創造する際の視点獲得をめざして、教養と身体技法を身に付けるための授業を実践的に進める。日本人の伝統的な衣服である和服を取り上げ、現在の日常的な衣服としての洋服と比較しながら服装と文化の関わりを考える。具体的には、和服の基礎知識と日本人の伝統的な美的感覚について学修する。「きもの文化検定」5級合格をめざした内容である。	
			和装の文化Ⅱ	「きれいを学問する」という大テーマの下、出席者が自分自身の「きれい」を考え創造する際の視点獲得をめざして、教養と身体技法を身に付けるための授業を実践的に進める。「和装の文化Ⅰ」の授業内容を踏まえた上で、和服着用時の美しい身体技法と洋服着用時の美しい身体技法の異同を体験する動作実習形式の授業を展開する。日常の動作のほかに美を強く意識しなければならない日本舞踊を体験することで、美しい身体技法を頭と体を使って考える。	講義　11時間 実習　4時間
			流行論	流行は、たんに服飾品・グッズなどのモノや、ブーム、トレンドのみにとどまらず、人びとの行動様式や考え方、趣味・嗜好などをも含む幅広い社会現象である。流行はまた、私たちのライフスタイルやアイデンティティ、コミュニケーション行動とも密接なつながりをもっている。流行現象は、社会学的にどのように解読できるのか。本講義では、人びとの日常生活のなかにあふれる流行現象を、社会学的観点から考察するとともに、流行をトピックとして社会のなりたちを理論的に捉え返す思考力を習得することを目標とする。	
			ビューティービジネス	現在、ヘアー・メイクアップ・エステティック・アロマ・ネイル・まつ毛エクステンション・ＳＰＡ・美容医療・化粧品類等、多種多様の美容技術や新ブランドが巷に溢れている。10年前や20年前に比べ、美容や化粧の使用者年齢が、高校生から10代前半へと低下している。一方、60代以上の高齢者において、「健康で長生き」から「健康で美しく」といった美意識上の変化がみられる。本授業は、このような状況を紹介しながら、美容業界リテラシーの向上を図りたい。	
		コミュニケーションの分野	恋愛の心理学	恋愛についての心理学的な理解を深め、その可能性について考察する。恋愛には「人間関係」のエッセンスがつまっており、恋愛の形成、発展、危機、崩壊、といった過程を研究することは、そのまま人間関係の諸過程を理解することにつながる。一方で、「恋愛」の諸現象には、さまざまな危険が潜むのも事実であるが、他方、その精神的果実はきわめて大きい。恋愛が人格的成長におよぼすポジティブな影響について考察することにより、人間関係の可能性を広げたい。	
			家族関係の心理学	親子関係や夫婦関係、パートナーシップなどの問題を、心理学的にどのように理解することが可能だろうか。「友だち親子」、非婚化、夫婦別姓、「育メン」などの社会現象や、離婚の増加、家庭内暴力、児童虐待などの諸問題を取り上げて、現代の家族の形態・機能・役割について心理学的理解を深める。こうした理解を踏まえて、親子間・夫婦間の人間関係や社会とのかかわり、および、家庭構成員として生きることの発達課題について考察する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 人間文化学類 人間関係専攻 専門教育科目	主幹科目	コミュニケーションの分野	自己分析の心理学	自己とはいったい何であろうか。青年期という発達段階においては「アイデンティティの確立」という課題がある。しかし我々は自己について、どれだけ考え、そして自己を確認してきただろうか。この講義では、自己についてのさまざまな概念を学び、心理テストやワークショップを通して、さまざまな側面から自己を検討し、自己について探究していくことを目的とする。自己についてのさまざまな概念について理解し、説明ができるようになることを学習目標とする。	
			ビジネスと心理学	この講義では、企業において日常的に起こる様々な出来事について、社会心理学、産業組織心理学、臨床心理学の視座から考察し、組織や集団－個人の関係性の特徴やコミュニケーション、メンタルヘルスについて理解を深めていく。企業での集団や個人の行動や考え方、感情状態など、心理学の研究によって検討され、明らかにされてきたことがらについて理解し、専門用語を説明できるようにすることを学習目標とする。	
			セルフプロデュース	現在、メイクアップやファッションにおいて、自己表現を自由に楽しむ現象がうかがえる。特に、昨今では「カワイイ」文化が巷で定着すると共に、海外でも「カワイイ」がカルチャー現象を巻き起こしている。本授業では、自己演出や身体装飾の観点から、身体装飾・対人印象・印象形成・印象分析・自己認知・パーソナリティ・ビジュアルコミュニケーション・ビジュアルプレゼンテーションなど、「個」としての様々な自己演出や印象形成方法を学ぶ。	
			自己表現法Ⅰ	自己を表現するとはどういうことか。どういう方法があるのか。また、どういう表現をすると相手にどう理解されるのか。本講義では芸術・芸能関係等、表現の現場における実例や、コミュニケーション技法を中心に、より良い人間関係を築くための方法について研究する。また、演劇や音楽などの感情表現をもとに自己表現について考察する。授業をとおして、より良い人間関係というものを理解し、自分の感情や表現をコントロールし、コミュニケーションに活かせるような知識を身につけさせる。	
			自己表現法Ⅱ	社会に出てからの人間関係や、様々なシチュエーションにおいて、自己を表現することの必要性について理解を深め、よりイメージできるようにすることを目的とする。自分の思考を、または自分自身をより明確に相手に伝えるためのプレゼンテーションについて考えるとともに、面接試験等においての自己アピールの方法について探って行く。社会生活をおくる上で自己を表現することの必要性を理解し、他の人と上手くコミュニケーションを取ることを常に考える習慣を身につけさせる。	
			コミュニケーション実習Ⅰ	社会生活を営む上で人と人がコミュニケーションを取るということは必要不可欠である。より良いコミュニケーションを取るために、会話中の頭の回転を速くし、相手にどのように伝わっているか常に考えるトレーニングを行う。基礎的な演技レッスンを行うことによって、コミュニケーションを体感し、実生活に応用できる技術を習得する。コミュニケーションの重要性を理解し、適切な発声、正しい発音ができるようになり、人前で発言することに慣れることを目標とする。	
			コミュニケーション実習Ⅱ	より良い人間関係を築くために必要な、自分も相手も大切にした自己表現法の習得を目的とする。即興劇やエチュード等による基礎的な演技レッスンをさらに発展させ、模擬的な番組制作や会議を行うことにより、効果的なコミュニケーションに対する理解を深め、スキルを向上させる。オフィシャルな場での会話がスムーズにできるようになり、相手に合わせるコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。	
			報道とメディア	新聞・テレビ・ラジオ・雑誌・インターネットのマスを中心としたメディアについて、各メディアの歴史や、それを提供するメディア企業の成り立ちを学ぶ。メディア成立の背景を学ぶことで、メディアが発するメッセージの裏側を読み取り、メディアが発信する情報に対する理解をこれまで以上に深めることを目的とする。5マスメディアの違いについて、成り立ち、物理的性質、企業経営など複数の地点からその特性を述べられる知識を身につけるとともに、それぞれのメディアが我々の暮らしに及ぼしている影響について考察する能力を身につけさせる。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 人間文化学類 人間関係専攻 専門教育科目	主幹科目	コミュニケーションの分野	情報技術と人間関係	SNS、携帯端末、IoT、人工知能などに象徴されるような、情報技術の進化と新しいメディアの普及は、人間関係にどのような変化をもたらしているだろうか。本講義では、情報テクノロジーの進化と、それによってもたらされた人間関係および人びとの日常生活の変容について、具体的事例を紹介しながら立体的かつ多面的な理解を導く。情報後術の進化が切り拓く新しいビジネスの動向と可能性についても論じる。	
			映像広告の研究	映像媒体による広告表現の研究を通して、コマーシャルの社会的影響と今日的意義を学ぶ。映像表現による広告の媒体として最も歴史があり訴求力を持つのが、映画とテレビである。本講義では、映画とテレビに媒体を絞って、広告（コマーシャル）の歴史からそれが持つ影響力まで、社会学的視点から分析と説明を行う。テレビを中心とする映像広告について、テレビCMを見るだけでなく、その背景となる文化、ビジネス、マーケティング、製作プロセスなどを意識して、多面的な視点で物を見ることが出来る力をつけることを目指す。	
			表現活動とビジネス	ウェブを使えば誰もが情報を発信できる現代では、雑誌や書籍などの紙メディアが長い歴史のなかで養ってきた編集の概念が変化しつつある。イベントやプロジェクトを編集したり、自分の日常を編集したりすることを通して、広範囲に展開するようになった編集の未来を考えていく、これが本授業のテーマである。	
		社会の分野	文化人類学	本講義は、文字だけでは理解することが難しい人間の行動や、人びと自身が違和感を感じる社会や文化の事象を、さまざまな角度から検証し、理解を深めていくことを目的とする。「文化」を、その文化の枠組みで考えること、文化の諸要素の相互関係を重視し全体的にとらえる態度を養うこと、文化の違いをとおして自らの立ち位置を検証できることを、すなわち、①エミックな思考能力、②全体論的な思考能力、③文化の相対的な思考能力、以上の3点を身につけることを到達目標とする。	
			文化社会学Ⅰ	日本の戦後史を文化社会学的視点で捉え直し、そこから、現代の私たちの社会を問い直す。「歴史」の授業では触れられることの少ない、人びとの「文化」に着目することで、日本社会の足跡をたどる。現代社会については、「消費」「格差」「グローバリゼーション」というテーマを通して、その問題を考える。到達目標は、第一に、戦後日本の社会史を理解すること、第二に、そこから得た知見を用いて、現代社会の抱える問題について自ら思考する力を獲得することである。	
			文化社会学Ⅱ	さまざまなポピュラー文化（文芸・映画・テレビドラマ等）を通して、私たちの社会を捉える講義である。とくに、1990年代から現代の作品に焦点をあて、作品を紹介・概説しながら、それらを社会とのかかわりから読み解いていく。受講者には社会的な諸問題およびポピュラー文化に対する強い関心が求められる。到達目標は、映画やテレビドラマ等の文化に触れ、それらを批評的に読み解く視座を獲得すること、そして、自分たちの社会に対して批判的に思考すること、その上で、社会のさらなる可能性への想像力を養うことである。	
			家族と現代社会	家族は社会の基本的最小単位集団として、人間生活の基盤を担っている。本講義では、家族について、人文科学・社会科学の視点から家族の本質への理解を深め、今日的課題を探究していく。具体的には、家族の概念と定義、家族の進化、家族の多様性と普遍性、現代の家族、家族と経済、消費者問題、家族の健康、子どもと家族、高齢者と家族、家族と仕事の調和、家族法、これからの家族、などについて論じる。	
			環境問題と市民	「環境問題」が身近な言葉になるほど、私たちの身の回りには環境問題があふれている。こうした問題は解決することが望ましい存在であると、誰しも納得する。ところが同時に、環境問題は容易に解決できない存在でもあることも私たちは知っている。では、環境問題を解決するために、どのような視点が必要になるのか。この講義では、地域社会の生活の現場で行なわれてきた環境利用のあり方を参照することで解決策のヒントを考える。すなわち、文化論的なアプローチをとり、環境問題に取り組むことになる。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 人間文化学類 人間関係専攻 専門教育科目	主幹科目	社会の分野	現代国際社会	国際社会と日本との関係について関心と理解を深めることを目指し、本講義ではヨーロッパをフィールドに取り上げて、欧州統合の動向について考察する。EUの歴史や通貨ユーロをはじめ、EUについての一般的知識を習得し、さらにヨーロッパ統合の思想について理解を深め、統合の未来を探る。①第二次大戦後の欧州統合の動きを理解する、②欧州連合についての基本的知識を身につける、③現代ヨーロッパが抱えている問題を理解する、の3点を学修目標とする。	
			社会学特論	この授業では、都市、メディア、組織、ジェンダー、エスニシティ、社会階層、社会運動など、現代社会のさまざまな領域における事象を社会学的に考察する視座について紹介する。日常の身近な出来事を手がかりに、現代の日本社会はいかなる構造をもっているのか、また、人びとはその社会のなかでどのように生活を送っているのかを学んでいく。日本社会の歴史的・世界的布置を理解し、現代社会で起きているさまざまな新しい事象を社会学的な視点から説明できるようになることを目標とする。	
			職業の世界	「企業組織における労働を、人びとの日常生活との関わりのなかで捉えることによって、わたしたちにとって身近で切実な問題として社会学的に掘り下げて考察してみよう」というのが本講義のねらいである。日本のホワイトカラーの職場をおもな考察対象に取り上げ、その「現場」について具体的に紹介しつつ、職場世界における諸現象、および、オフィス・ワーカーたちの働き方、女性労働をめぐる諸課題、人びとの社会生活と企業との関わりを現代社会論的視点から考察する。	
			チームビルディング	近年、若者世代の人間関係をめぐって、きわめて狭い範囲での関係の固定化が進んでいると指摘される。この授業では、「他者」との出会いにこころを開き、集団的・組織的活動に参加し、社会的関係を構築するための実践的な知識・スキルを育成する。チームの一員としての、個人行動との違いを理解するとともに、①他者を受け入れるオープンマインド、②基礎的なコミュニケーション・スキル、③グループに積極的に参加するリーダーシップ、④チーム運営の基本的スキル、以上の4点を身に付けることを目標とする。	
			組織マネジメント	組織は人間の社会活動の基本であるが、それを活用していくための知識・スキルは後天的な経験によって初めて身に付けられる。この授業では、大学および社会における組織活動の事例を豊富に使いながら、社会で通用する組織マネジメントの育成を行う。①組織を動かすためのコミュニケーション力（カウンセリングスキル、コーチングスキル、コンサルティングスキル、プレゼンテーションスキル）、②組織を活性化するスキル（ロジカルシンキング、モチベーションマネジメント、リーダーシップスキル）を身につけることを目標とする。	
			経済とビジネスⅠ	人びとの意識や行動は経済学的にはどのように説明されるだろうか。われわれの日常生活は社会の経済活動や企業活動からどのような影響を受けているのだろうか。こういった根源的な関心に立ち、各自の日常世界を経済学的に理解するために必要な、ミクロ・マクロ経済学のエッセンスを解説する。基礎的な経済学的視座を修得することを目標とする。	
			経済とビジネスⅡ	「経済とビジネスⅠ」で解説した基礎知識をふまえ、時事的な経済問題の事例をいくつか取り上げながら、経済学的理解を発展させる。新聞・雑誌・Webページの経済記事を概括的にも理解できるようになることを到達目標とする。個人のライフデザイン（生活設計）とマネー・プランニングとの関連性についても紹介する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 人間文化学類 人間関係専攻 専門教育科目	総合実践科目	アンケート調査法	一般に「アンケート調査」と呼ばれている量的な社会調査について、基本的な考え方から実施の方法に関する基礎的な事項を学ぶ。アンケート調査を実施するうえでのさまざまなポイントについて解説したうえで、仮説を立てて調査票を作り、データを得るまでの一連の技法を扱う。統計的な社会調査に関する実施の技法や調査結果の統計的なまとめ方（統計量およびグラフによる表現など）の基礎を修得する。各自が自力で調査を実施し調査結果を分析できるスキル、および、既存の調査結果について評価できる総合的な「調査リテラシー」を身につけることを目標とする。	講義　11時間 実習　4時間
		フィールドワークの技法	本講義では社会調査における質的研究手法に焦点を当て、インタビュー調査や観察調査の実施方法と分析方法について解説する。インタビュー調査、観察調査、フィールドワークなど、質的研究による社会調査の各手法について理解し、それらを実際に各自で構想・企画し、実査を行い、データを分析し、調査レポートをまとめるために必要な実践的スキルを習得することを目標とする。	講義　13時間 実習　2時間
		人間関係学実習Ⅰ	社会に出て多くの人とよりよい関係を築いていくための具体的な身体技能、ビジネスの多くの場面で信頼を得るためのマナーについて広く学んでいくことを目的とする。本授業では、歩き方や敬語はもちろん、接遇や受付などの場面で「美しくしなやかな女性」としてふるまう実技練習を行う。秘書検定やサービス接遇検定の「実技」に相当する内容を含んでいるため、検定の受検を奨励する。	
		人間関係学実習Ⅱ	本来、言葉を用いて人間関係を構築していく上で、「書いて伝える」ことは重要な手段である。しかし、SNSの発達とともに、短い言葉やイラスト、スタンプだけでやりとりをすることが増え、手紙を書く習慣が減っている。この実習では、「書く」ことに焦点を当て、書くことで自分の思いを豊かに伝える方法を学ぶ。旧暦の季節を大切にした豊かな表現、相手の心に届く手紙、挨拶状や手紙文の基本ルール、ちょっとした表現の工夫、ビジネス場面で必要な文章を用いた交渉術などを教授する。	
		現代社会総合講座Ⅰ	（概要）古典的名作や、近年、話題作となった映画を取り上げ、作品中に描かれている現代社会の諸相やさまざまな問題について考察する。各教員の講義（必要に応じてゲストスピーカーを含む）をキーノートに、学生が主体となるパネルディスカッションをとおして議論を掘り下げる。知的な課題に対して俯瞰的に理解し考えることができる能力を磨くことを到達目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （13 石田かおり／1回） 身体文化論の視点から作品内容について論じる。 （25 倉住友恵／1回） 心理学の視点から作品内容について論じる。 （ 5 臼井実稲子／1回） 国際関係論の視点から作品内容について論じる。 （16 榎本環／1回） 産業社会学の視点から作品内容について論じる。 （21 大貫恵佳／1回） 文化社会学の視点から作品内容について論じる。 （ 3 小林憲夫／1回） メディア研究の視点から作品内容について論じる。 （11 田澤秀司／1回） 企画・表現研究の視点から作品内容について論じる。 （13 石田かおり・25 倉住友恵・5 臼井実稲子・16 榎本環・21 大貫恵佳・3 小林憲夫・11 田澤秀司／8回）（共同） 作品から読み取れる諸問題について指摘・解説し、学生参加型のパネルディスカッションを行うとともに、学生間の議論をファシリテートする。	オムニバス方式 共同(一部)

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 人間文化学類 人間関係専攻 専門教育科目	総合実践科目	現代社会総合講座Ⅱ	（概要）古典的名作や、近年、話題作となった映画（「現代社会総合講座Ⅰ」とは別作品）を取り上げ、作品中に描かれている現代社会の諸相やさまざまな問題について考察する。各教員の講義（必要に応じてゲストスピーカーを含む）をキーノートに、学生が主体となるパネルディスカッションをとおして議論を掘り下げる。 （オムニバス方式／全15回） （13 石田かおり／1回） 身体文化論の視点から作品内容について論じる。 （25 倉住友恵／1回） 心理学の視点から作品内容について論じる。 （ 5 臼井実稲子／1回） 国際関係論の視点から作品内容について論じる。 （16 榎本環／1回） 産業社会学の視点から作品内容について論じる。 （21 大貫恵佳／1回） 文化社会学の視点から作品内容について論じる。 （ 3 小林憲夫／1回） メディア研究の視点から作品内容について論じる。 （11 田澤秀司／1回） 企画・表現研究の視点から作品内容について論じる。 （13 石田かおり・25 倉住友恵・5 臼井実稲子・16 榎本環・21 大貫恵佳・3 小林憲夫・11 田澤秀司／8回）（共同） 作品から読み取れる諸問題について指摘・解説し、学生参加型のパネルディスカッションを行うとともに、学生間の議論をファシリテートする。	オムニバス方式 共同(一部)
	専門ゼミ科目	人間関係ゼミⅠ	人間関係・文化・身体をめぐる諸相を、本専攻の各学問領域を通じてどのように捉えることができるのか、どのような理解と発想が可能なのか、その問題関心に即して、各自が学術的な視座を身に付け、主体的に考察する思考力を習得することを目標とする。受講者による報告とそれにもとづくディスカッションを基本形式にして進める。次の3点を具体的目標とする。①ゼミ活動に必要なICTツールの基本的な操作・作法に慣れる、②学術的水準でプレゼンがこなせる、③文献の読み方をマスターする。	
		人間関係ゼミⅡ	本専攻の各学問領域における学術的な発想と視座について理解を深め、それらを実践的に駆使して、問題を主体的かつ多角的に考察するトレーニング活動を展開する。各自の研究活動に必要な基礎的スキルを着実に修得することを目標とする。次の3点を具体的目標とする。①文献の読解力を深める、②ディスカッションのスキルを高める、③「問い」を立てるスキルを身につける。	
		人間関係ゼミⅢ	本格的な学術研究を目指して、自らの問題関心を掘り下げること、「問い」を立てること、情報を集めその「問い」にじっくりと考察をめぐらすこと、などの知的営みに取り組む。また、自分の着想を相手に明確に伝え、相手の主張を精確に理解し、それに的確にコメントするためのコミュニケーション・スキルを磨くことも学修課題とする。次の3点を具体的目標とする。①「問い」を立てるスキルを高める、②文献情報を収集するスキルを高める、③文献の読解力を深化させる。	
		人間関係ゼミⅣ	各自の研究知見と論点をめぐって集中的に議論し合う作業に取り組み、それらの研究成果を論文としてまとめるトレーニング活動を展開する。互いのコメントから学び合い、また、自分の論考を客観的に読み返し、粘り強く精錬を積み重ねる体験と向き合うことを指導する。学術的論文に必要な形式要件を理解し、論述・文章表現のスキルを高めることを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間関係専攻	専門ゼミ科目	卒業論文	論文執筆に必要な問題発想と構想力、情報収集スキル、論理的分析力、文章表現スキルを指導する。大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、専門的な知識の修得をふまえたうえで、自らの分析の視点と問題意識を明確にしつつ、適切な方法を用いて深く追究していく。その結果を、体系的、論理的に文章化して卒業論文としてまとめる作業を支援する。	
人間総合学群 人間文化学類 英語コミュニケーション専攻 専門教育科目	基本科目	English Workshop Ⅰ	（英文）The English Workshop is a unique class especially designed to help students learn how to learn a language. Students will be given strategies to enable them to develop the four main skills with an emphasis on speaking. For example, students will participate in small group conversations while learning communicative strategies; write in a learning diary; engage in extensive reading; and also have regular one-to-one tutorials with a Japanese teacher. Students will be encouraged to learn at their own pace and will be graded on individual effort and personal development. （和訳）English Workshop Ⅰは学生が英語学習の進め方を習得するために設定された本学独自の科目である。「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能の力を発展させるため、学生が自分にとってより良い学習効果を上げる方法を身につけるためのものである。特に「話す」ことに重点が置かれ、学生は英語ネイティヴ教員（モリス、プラザ）による小グループの会話を通し、コミュニケーション技法の使用を学ぶ。同時に英語日記、多読を通し、語彙力、文法力を育成する。日本人教員（井戸・橘田・松山・千葉）が個別指導を行い、個々の学生とのフィードバックを通し、それぞれの学生に合ったより良い学習法を探求する。	共同
		English Workshop Ⅱ	（英文）In class a range of strategies will be used which will further develop use of the four main skills with an emphasis on speaking. Students will be expected to continuously learn outside class through writing a daily learning-diary and also reading extensively. A native speaker will be responsible for: developing interactive conversation skills in small groups, vocabulary recycling using the Edmodo social-network system, and carry out assessment through one-to-one videoed interviews. Two Japanese teachers will give instruction and feedback on teacher-made textbook entries, and provide regular one-to-one tutorials to offer advice on learning. （和訳）「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能の力を発展させるため、English Workshop Ⅰで習得した学習技法の使用をより体系化し、学生にとってより良い学習効果を上げることを目的とする。学生は英語日記や多読を授業外でも継続する。特に「話す」ことに重点が置かれ、英語ネイティヴ教員（モリス、プラザ）による小グループの会話を通し、相互交流し意味を確認する能力をつける。同時に授業内SNS（Edmodo）への宿題提出で語彙力定着を図り、個別インタビューの振り返りを行う日本人教員（井戸・橘田・松山・千葉）が個別指導を行い、個々の学生へのフィードバックを通し、それぞれの学生に合ったより良い学習法を探求する。	共同

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　人間文化学類　英語コミュニケーション専攻　専門教育科目	基本科目	English Workshop Ⅲ	（英文）The English Workshop aims to foster autonomous learning and develop each student’s proficiency on an individual basis. Students will be given strategies to enable them to further develop the skills in listening, writing, reading, and particularly focus on speaking. A native speaker will be responsible for teaching debate and short presentation skills. In addition, assessment will take place through videoed interviews and feedback given on vocabulary learning through use of an online SNS. Two Japanese teachers will give instruction and feedback on teacher-made textbook entries, and provide regular one-to-one tutorials to offer advice on learning. （和訳）English workshop Ⅲは自律学習を促進し、学生個人のレベルにあわせた言語力育成を目的とする。特にスピーキングに重点を置きながら「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能の力を発展させるため、学生は個々の学習状況に応じた学習技法の使用を促される。English workshop 1・2で行われてきた個別インタビューやEdmodoの他に、英語ネイティヴ教員（モリス、プラザ）による英語ディベートやプレゼンテーションの指導が加えられる。日本人教員（井戸・橘田・松山・千葉）は個別指導を行い、個々の学生とのフィードバックを通し、それぞれの学生に合ったより良い学習法を探求する。	共同
		English Workshop Ⅳ	（英文）This class aims to further develop knowledge and skills acquired in previous English Workshops. Students will be expected to take an active role in collaborative group work, engage in topical discussions and debate, and give spontaneous speeches about various topics. Students will also write a learning diary, engage in extensive reading and have regular one-to-one tutorials with a Japanese teacher. A native teacher will be responsible for: developing social and academic communication skills in small groups, and assessment through one-to-one interviews. Two Japanese teachers will give instruction and feedback on teacher-made textbook entries, and provide regular one-to-one tutorials to offer advice on learning. （和訳）English workshop Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで培った知識や技能をより発展させることを目的とする。英語ネイティヴ教員（モリス、プラザ）の指導のもと、学生は積極的なグループインタビューや発表、時事問題に関する討論やディベートへの参加や自発的な発表を行う。多読ではジャンルにとらわれない本を読み、和訳することなく英語表現や行末を読む訓練をする。英語日記にはプレゼンテーションに役立つ本や記事の感想や準備状況を記載する。日本人教員（井戸・橘田・松山・千葉）は個別指導を行い、個々の学生とのフィードバックを通し、それぞれの学生に合ったより良い学習法を探求する。	共同
		Academic Reading Ⅰ	（英文）This course will teach reading strategies, increase levels comprehension, and build vocabulary. The strategies taught will enable students to: read more fluently; increase vocabulary size: use a wide range of reading strategies (e.g. scanning, skimming etc.), understand various texts, reflect on learning through evaluating a personalized progress chart. Students will read intensively to learn new vocabulary through the textbook, and also read extensively using graded readers. Students will also exchange book reports with each other to foster peer learning. （和訳）この授業は、読解の方法を指導し、読解力を伸ばし、語彙力を増強することを目的とする。この学習を通して、学生たちは流暢に読めるようになり、語彙量を増やし、スキャニングやスキミングなどの読解の方法を学び、様々な文章が読めるようになる。自身の学習の進捗状況をプログレスチャートに書くことで振り返りを行う。新語獲得のために精読をし、graded readersなどを使った多読も行う。相互学習ができるようになるために、読書レポートを交換して読み合う。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　人間文化学類　英語コミュニケーション専攻　専門教育科目	基本科目	Academic Reading Ⅱ	（英文）This course will further develop basic reading skills widening the range of texts to read from. Using various reading strategies students will be able to read a range of different texts; improve fluency and increase vocabulary size. Students will write reports which will be peer reviewed. The teacher and students and can assess progression through evaluation of a personalized progress chart to monitor speed, comprehension, vocabulary knowledge and range. （和訳）この授業は、広範囲にわたる題材を読むことで、さらに読解スキルを向上させることを目的とする。様々な読解ストラテジーを使いながら、学生たちは流暢に読めるようになったり、語彙量を増やしたりできる。学生たちはレポートを書き、相互評価を行う。教員と学生は、プログレスチャートを使い、読解速度、読解力、語彙知識などを振り返る。	
		Academic Reading Ⅲ	（英文）The main focus of this course will be teach to effective reading techniques using texts that are academic in nature. The course will expose students to a range of strategies that will develop reading skills (skimming, scanning etc.), comprehension skills, and vocabulary size. Students will work individually, in pairs, and in groups on reading extracts from various academic sources, e.g., magazines, newspapers, research papers. Students will learn to comprehend, analyze, summarize and paraphrase various texts. （和訳）この授業は、読み物を使って、効果的に読み取るテクニックを学ぶことを目的とする。この学習を通して、学生たちはスキャニングやスキミングなどの読書方法や読解方法を学び、さらには語彙量を増やすことができる。雑誌や新聞、研究論文などの読み物を題材に、個人で読んだり、ペアで読んだり、グループで読んだりする機会を持つ。学生たちは、多様な文献を通して、理解の方法、分析の方法、要約の方法、言い換えの方法などを学ぶ。	
		Academic Reading Ⅳ	（英文）This class is for students who are generally good readers, but who wish to improve their reading speed and comprehension of a range of academic texts. Various speed reading techniques are covered, as well as vocabulary building. Comprehension skills are reviewed as are the use of analogies and critical reading methods. Written book reviews and summaries are assigned and assessed in each class. （和訳）この授業は、テキストをより速く読み、より正確に読解できる力を向上させることを目的とする。語彙力の増強を図り、さまざまな速読方法を学ぶ。おしなべて良好な英文読解力を有している学生が様々な学術的文献を読解する力と速度を向上させる。類推したり批判的に読むことで、読解スキルの伸長を目指す。書評や内容要約課題を提出することが求められ、それらは評価の対象となる。	
		Academic Speaking Ⅰ	（英文）This academic speaking course will teach academic skills including elements of discussion and critical thinking. The aim of the course is for students to develop proficiency in four main areas: fluency and cohesion, lexical resource (vocabulary use), grammar range and accuracy, pronunciation. Students will be encouraged to make reflective presentations about a number of interesting themes and will also be expected to add their opinion and personal viewpoint, answering questions at the end. （和訳）この授業では、ディスカッションやクリティカルシンキングなどの要素を取り入れ、話す力を身につけさせる。流暢さと結束性、語彙使用、文法と正確さ、そして発音という４領域の力をつけさせることを目的とする。様々なテーマに基づいたプレゼンテーションを行い、自分の意見や考えを加えたり、質問に答えたりできるようになる。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　人間文化学類　英語コミュニケーション専攻　専門教育科目	基本科目	Academic Speaking Ⅱ	（英文）This course will further develop basic skills to enable students to articulate their views and opinions about various themes for academic purposes. Students will be encouraged to make reflective and interactive presentations about a number of interesting themes in which they will add their opinion and personal viewpoint, answering questions at the end. Personal, peer and teacher assessment will be in in four main areas: fluency and cohesion, lexical resource, grammar range and accuracy, pronunciation. （和訳）この授業は、用意されたさまざまなテーマについて、自分の見方や意見をはっきりと述べることができるようになるための基本的なスキルを身につけさせることを目的とする。学生たちは多数の興味深いテーマについてプレゼンテーションを行い、自分の意見や考えを加えたり、質問に答えたりできるようになる。流暢さと結束性、語彙使用、文法と正確さ、そして発音という４領域において自己評価、学生同士の相互評価と教員の評価が行われる。	
		Academic Speaking Ⅲ	（英文）This course will teach academic speaking skills that can enable students to: give academic presentations, participate in seminars and also engage in discussions. The course will also include elements of critical thinking. Students will develop proficiency in four main areas: fluency and cohesion; lexical resource (vocabulary use), grammar range and accuracy, and pronunciation. Students will be provided with topical news items and given the tools to develop their communicative ability. They will present interactive PowerPoint presentations with attention given to answering follow-up questions. （和訳）この授業は、基本的なスピーキング能力を持った学生が、さらにプレゼンテーションをしたり、セミナーに参加したり、ディスカッションに参加することができるようになることを目的とする。また、クリティカルシンキングの要素も取り入れる。流暢さと結束性、語彙使用、文法と正確さ、そして発音という４領域の力をつけさせることを目的とする。時事ニュースを取り上げ、パワーポイントを使ったプレゼンテーションを行う。	
		Academic Speaking Ⅳ	（英文）This course is for students who have developed a good range of basic academic speaking skills and would like to develop these skills further. In class there will be ample opportunities for students to engage in topical debates and have discussions about current affairs. Students will engage in collaborative presentation projects and will also be expected to present individually. Assessment will focus on fluency and cohesion; lexical resource, grammar range, accuracy, and pronunciation. A number of online tools will be provided for students to develop speaking and pronunciation skills outside class time. （和訳）この授業では、プレゼンテーションをしたり、セミナーに参加したり、ディスカッションに参加したりして、アカデミックスキルを身につけさせることを目的とする。また、クリティカルシンキングの要素も取り入れる。流暢さと結束性、語彙使用、文法と正確さ、そして発音という４領域の力をつけさせることを目的とする。時事ニュースを取り上げ、パワーポイントを使ったプレゼンテーションを行う。	
		ライティング・使える英作文Ⅰ	基本的な単語や文法構造を理解した上で、日本語を直訳するのではなく、英語らしい英文に直すことができるようになることを目指す。日本文を１文ずつ英訳するところから始め、徐々に分量を増やしていき、最終的には文のつながりや展開にも気を付けながら、まとまった日本文を英文にすることができるように指導する。日本語で書かれた駒沢女子大学の大学案内や地域紹介などを、外国の方々が読んでも理解してもらえるような英作文力を身につける。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　人間文化学類　英語コミュニケーション専攻　専門教育科目	基本科目	ライティング・使える英作文Ⅱ	「ライティング・使える英作文Ⅰ」の学習を踏まえ、英語らしい英文を作ることができるようになることを目指す。書きたいことを日本語でまとめたうえで、その日本語を英文に直していき、最終的には文のつながりや展開にも気を付けながら、まとまった英文にすることができるようになる。メールやブログなどで使われる形式や定型表現を学んだうえで、駒沢女子大学での大学生活や地域行事などについてメールやブログで発信し外国の方々が読んでも理解してもらえるような英作文力を身につける。	
		ライティング・使える英作文Ⅲ	「ライティング・使える英作文Ⅰ」「同Ⅱ」の学習を踏まえ、英語らしい英文を作ることができるようになることを目指す。簡単に書いた日本語のメモやアウトラインをもとに、英文を組み立て、最終的には文のつながりや展開にも気を付けながら、まとまった英文にすることができるように指導する。エッセイライティングの基本構造や定型表現を学んだうえで、駒沢女子大学での大学生活や地域行事について、自分の感想や考えをまとまった英文にし、外国の方々が読んでも理解してもらえるような英文にできるだけの英作文力を身につける。	
		グラマー・使える英文法Ⅰ	この授業では重要な文法事項や構文について学習する。時制、人称、助動詞、不定詞、分詞、動名詞の各項目につき、身近なトピックを用いた英語のスキットを聞き、英語で答える練習をする。文法に注目しながら、英語でコミュニケーションが取れるようにする。文法知識の習得にとどまらず、学習した文法項目を実際のコミュニケーションの中で使用できるよう、言語活動を通して口頭練習を行い、知識の定着と英語使用を図る。	
		グラマー・使える英文法Ⅱ	「グラマー・使える英文法Ⅰ」に引き続き、重要な文法事項や構文について学習する。名詞、代名詞、関係詞、仮定法、無生物主語の各項目につき、身近なトピックを用いた英語のスキットを聞き、英語で答える練習をする。文法に注目しながら、英語でコミュニケーションが取れるようにする。文法知識の習得にとどまらず、学習した文法項目を実際のコミュニケーションの中で使用できるよう、言語活動を通して口頭練習を行い、知識の定着と英語使用を図る。	
		グラマー・使える英文法Ⅲ	「グラマー・使える英文法Ⅰ」「同Ⅱ」を基に、重要な文法事項や構文について、e-learning 用教材を用い、個々の学生の理解度を確認しながら、文法項目の定着を図る。身近なトピックを用いた英語のスキットを聞き、英語で答える練習をする。文法に注目しながら、英語でコミュニケーションが取れるようにする。文法知識の習得にとどまらず、学習した文法項目を実際のコミュニケーションの中で使用できるよう、言語活動を通して口頭練習を行い、知識の定着と英語使用を図る。	
	主幹科目	Core Studies (Basic) Ⅰ	（英文）This English medium course will introduce basic research techniques in general studies. Specific topics that will be covered are research methodologies, forming research questions and how to write and administer questionnaires. The course will feature English lectures designed to fully expand upon these subjects. Lectures will be given on identifying a subject of research, designing a research approach and giving and critiquing oral presentations and mini papers. （和訳）この授業は、基本的な調べ学習の入門編である。文献の探し方、読み方、まとめ方、発表の方法等の基本を解説する。研究調査したことについて発表するための、プレゼンテーションの方法やミニレポートの作成について講義を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　人間文化学類　英語コミュニケーション専攻　専門教育科目	主幹科目	Core Studies (Basic) Ⅱ	（英文）This English medium class will expand upon the foundational topics in Core Studies (Basic) I. Specific topics that will be covered are preparing a research proposal, conducting interviews, and data analysis. The course will feature English lectures structured to fully expand upon the subjects of the lectures. Lectures will be given on designing a research proposal, collecting and analyzing data and presenting findings. Further lectures will cover preparing written research reports complete with literature reviews and reference citations. （和訳）Core Studies (Basic) Iの学習を踏まえ、さらに学習を深める。文献の探し方、読み方、まとめ方、発表の方法に論文作成等の基本を学び、これらの事柄を理解させるために、解説やアクティビティを行う。文献調査、情報収集と発表、先行研究のまとめや文献引用の方法について講義を行う。	
		Core Studies Ⅰ	（英文）This English medium class will introduce students to practical and theoretical aspects of language teaching. In this first class, students will focus on teaching listening and speaking. The concept of pushed output will be explored as well as foundational concepts in learning science. Students will receive lectures about designing communicative activities to encourage student interaction. Students will also be exposed to current methods of teaching pronunciation and designing effective listening practices for students. Using the knowledge gained in this class, students will learn, with the guidance and support of the teacher, to design a lesson covering a relevant aspect of listening and speaking. （和訳）本授業では、言語教育の実践面と理論面の学習を行う。Core Studies Ⅰでは「聞く・話す」指導に焦点を当てて学習する。学習者が相互活動に積極的に取り組めるようなコミュニケーション重視の活動方法について解説する。発音指導や効果的なリスニング指導法についても学習する。この学習を通して、学生たちが「聞く・話す」活動を実際の授業の場面でどのように行うか考える機会を提供する。	
		Core Studies Ⅱ	（英文）This English medium class will continue where I left off, deepening students' practical and theoretical knowledge of language teaching. This class will examine topics in SLA (Second Language Acquisition) pertinent to practical language teaching through the instruction by the teacher. In particular, students will be exposed to current thought on sociocultural theory, as well as models of scaffolding and student centered interaction. Current research in motivation studies will also be covered. From the practical side, students will receive instruction in current techniques relative to teaching reading and writing. Students will also learn how to choose effective reading material as well as design meaningful tasks. （和訳）Core Studies Ⅰでの学習を踏まえ、言語教育の実践面と理論面の学習を深める。Core StudiesⅡでは「第二言語習得」に焦点を当てる。社会文化的理論や、足場作り、学習者中心の授業、動機づけ等について学習する。また、実践面から「読むこと」「書くこと」に関して最近の指導法について指導を受ける。「読むこと」については教材選びからタスク選定までを学ぶ機会とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 人間文化学類 英語コミュニケーション専攻 専門教育科目	主幹科目	Core Studies Ⅲ	（英文）This class will continue to build upon the foundation established in the previous two classes, further expanding students' knowledge of both practical and theoretical components of language teaching. In this class, students will be exposed to various important thinkers in the field of TESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages) and encouraged to form their own teaching philosophy and mission. For practical training, students will be presented with different styles of assessment as well as classroom and time management techniques. Students will be taught how to design a lesson incorporating the four skills as well as design an effective way of assessing student comprehension of their lesson. （和訳）Core StudiesⅠ、Core StudiesⅡでの学習を踏まえ、言語教育の実践面と理論面の学習をさらに進める。Core StudiesⅢではTESOLにおける様々な分野の考え方を学び、学生が自らの教育理念を確立できるよう援助する。多様な形態のクラスマネジメントや時間配分、さらには評価方法を学ぶとともに実践演習も指導する。講義を通して4技能を伸ばす授業や評価の方法を考える機会とする。	
		Core Studies Ⅳ	（英文）In this final class, students will learn how to synthesize the knowledge gained in the previous three classes. In this class, current and widely used teaching approaches will be taught, such as task-based learning, cooperative learning, and communicative lesson design. Methods of professional development will be instructed, with particular emphasis placed on teaching students how to do action research. As a final project, students will be given work to design and teach a lesson as well as perform action research on their lesson and present ways in which the lesson could be improved. （和訳）これまでの授業で学んできた理論と実践を融合する機会とする。本授業では、現在広く用いられている、タスク中心の教授法、協同学習、コミュニカティブな指導法等について学ぶ。またアクションリサーチについても学習する。最終的には教員の指導の下、自らのテーマに沿ってアクションリサーチができるように指導する。	
		イギリス文学Ⅰ	この授業は、7世紀から18世紀までのイギリス文学の概要を理解することを目的とする。具体的には、主要な作家や作品について、作品の背景にある歴史的・文化的経緯について解説し、作品が当時の人間やその後の作家に与えた影響について理解する。また、映像資料などを閲覧し、作品が生み出された時代背景についても紹介する。	
		イギリス文学Ⅱ	この授業は、19世紀から現代までのイギリス文学の概要を理解することを目的とする。具体的には、主要な作家や作品について、作品の背景にある歴史的・文化的経緯について解説し、作品が現代の人間やその後の作家に与えた影響について理解する。また映像資料などを閲覧し、作品が生み出された時代背景についても紹介する。	
		アメリカ文学Ⅰ	この授業は、植民地時代から南北戦争までのアメリカ文学の概要を理解することを目的とする。具体的には、この間の主要な作家や作品について、作品の背景にある歴史的・文化的経緯について解説し、アメリカ建国の特徴やそれを支えるアメリカ人の精神性について理解する。また文学作品の読解を通じて、アメリカ文学への理解を深める。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　人間文化学類　英語コミュニケーション専攻　専門教育科目	主幹科目	アメリカ文学Ⅱ	この授業は、19世紀後半から現代までのアメリカ文学の概要を理解することを目的とする。具体的には、この間の主要な作家や作品について、作品の背景にある歴史的・文化的経緯について解説し、文学からみたアメリカの社会や精神性を理解する。また文学作品の読解を通じて、アメリカ文学への理解を深める。	
		英語学概論Ⅰ	この授業は、英語の特質を理解し、英語学を研究するための基本的な知識を修得することを目的とする。具体的には、英語学における発音、語彙、文法、意味、歴史の各分野の研究について紹介し、英語の特質について概説していく。英語の特質を理解し、説明できるようにするとともに、さまざまな角度から英語を考察する方法論を身につける。	
		英語学概論Ⅱ	この授業は、英語学概説Ⅰの学びを基に、英語学を研究するための実践的な知識を修得することを目的とする。具体的には、英語と社会、文化との関わり、英語の語用と解釈などの分野の研究について紹介し、英語の特質について概説していく。英語の特質を深く理解し、さまざまな角度から英語を考察することで、自分なりの問題意識をもって英語と向きあい、研究する姿勢を身につける。	
		英語教育学概論Ⅰ	この授業は、ディスカッションを通して英語教育・英語学習の基本的な事項を学ぶことを目的とする。言語習得の基礎的な理論を理解し、説明できるようにさせる。英語学習者として英語の授業を受けた経験、英語学習をしてきた経験を踏まえ、「どのように英語を教えることが大切なのか」「英語の学びはどのように起こるか」などの問いに対しての回答を考えさせる。自分の行ってきた英語学習を授業で学んだ理論を用いて分析できるようにさせる。同時に日本の小中高の英語教育の現状および課題を知る。	
		英語教育学概論Ⅱ	この授業は、ディスカッションを通して英語教育・英語学習の基本的な事項を学ぶことを目的とする。言語習得の理論および英語の授業の実践方法の原則を理解し、説明できるようにさせる。英語学習者として英語の授業を受けた経験、英語学習をしてきた経験を踏まえ、「どのように英語を教えることが大切なのか」「英語の学びはどのように起こるか」などの問いに対しての回答を考えさせる。授業で学習した理論や原則を用いて、日本の小中高の英語教育の課題を解決できる方法を提案できるようにさせる。	
		アメリカの文化と歴史Ⅰ	アメリカ合衆国の歴史と文化に関して、英領植民地時代から南北戦争時代までを概説する。アメリカ合衆国は、好むと好まざるとにかかわらず、日本との関係は密である。また、アメリカに関する知識や情報は「洪水」のように溢れているが、それらのなかには事実と異なるものや誤解に基づくものも少なくない。本授業では、アメリカの歴史を跡付けながら、歴史を学ぶ意義と楽しさを感じてもらえるよう心がけるとともに、日本と関係が深いアメリカという他国の歴史についての学びを通じて、改めて自国を考える機会とする。	
		アメリカの文化と歴史Ⅱ	アメリカ合衆国の歴史と文化に関して、南北戦争時代から現代までを概説する。アメリカ合衆国は、好むと好まざるとにかかわらず、日本との関係は密である。また、アメリカに関する知識や情報は「洪水」のように溢れているが、それらのなかには事実と異なるものや誤解に基づくものも少なくない。本授業では、アメリカの歴史を跡付けながら、歴史を学ぶ意義と楽しさを感じてもらえるよう心がけるとともに、日本と関係が深いアメリカという他国の歴史についての学びを通じて、改めて自国を考える機会とする。	
		異文化理解Ⅰ	この授業は、日本人と異文化の交流について西洋文化を中心に概説し、異文化理解の基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、文化の意味やその伝播、さらに中世末から近世初頭の南蛮文化やオランダ文化の日本への移入について取り上げ、日本への西洋文化の移入から見える異文化交流の意義について考える。	

授　業　科　目　の　概　要 （人間総合学群 人間文化学類）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 人間文化学類 英語コミュニケーション専攻 専門教育科目	主幹科目	異文化理解Ⅱ	この授業は、日本人と西洋文化の交流について、互いの理解のための方策を解説しながら、異文化理解の意義について理解することを目的とする。具体的には、幕末の開国以来、アメリカ、ロシア、イギリスなどの諸外国に対して、日本人がどのように対応していたのか、事例を取り上げ考察する。さらに、明治期における欧米列強と日本人の交流も踏まえ、異文化理解の意義について理解を深める。	
		時事英語Ⅰ	本講義は、政治的・経済的・社会的・文化的出来事が表現されている英文記事を、聴解、読解することに慣れることを目的とする。その学びを通じて、発信型の基本的な英語表現を身につける。具体的には、たとえばNHKの『ニュースで英会話』（テレビ）等を題材とする。また、英語で用いられている表現と関連したTOEICテスト等の資格試験の問題演習を行う。	
		時事英語Ⅱ	本講義は、政治的・経済的・社会的・文化的出来事が表現されている英文記事を、よりスムーズに聴解、読解できるようになることを目的とする。その学びを通じて、発信型の発展的な英語表現を身につける。具体的には、たとえばNHKの『ニュースで英会話』（テレビ）等を題材とする。実践力を養うことを目指す。また、英語で用いられている表現と関連したTOEICテスト等の資格試験の問題演習を行う。	
		英語音声学Ⅰ	本講義は、英語で使用される音について、発音方法などについて学習しながら、個々の音に対する理解を深めていく。その上で、単語や文章を用いて、実際に個々の音が正しく発音できるように練習を行う。英語の個々の子音や母音について、発音の方法や強勢の位置などを習得し、単語や文を正しい発音で読むことができるようになることを目指す。	
		英語音声学Ⅱ	本講義では、前期の学習内容を踏まえ、英語で使用される音について、発音方法などについて学習しながら、個々の音に対する理解を深めていく。その上で、単語や文章を用いて、聞き取りの練習や発音練習を行う。英語の個々の子音や母音について、発音の方法や強勢の位置などを習得し、実際に単語や文を正しい発音で読むことができるようになることを目指す。また、個々の音を聞き分けることができるようになることも目指す。	
		映画の英語Ⅰ	この授業は、教科書の英語と実生活で使われている英語の違いを、映画を通して学んでいくことを目的としている。登場人物が話す内容を自分の実生活と照らし合わせて、できるだけ普段使う言葉に翻訳をしていくことで、自分の生活を英語でとらえていくことができる。内容理解の確認は映画の日本語字幕作成を通して行う。字幕作成は、単純な英文和訳ではなく、限られた字数の中で効果的に内容を伝えることを考えていき、実際に英語を使用するのと同じ学びを得ることが可能である。	
		映画の英語Ⅱ	この授業では、「映画の英語Ⅰ」で学んだ内容をより発展させていく。字幕作成をしていく際に、会話をしている登場人物の話し方を学ぶことは、ＴＰＯに対して適切な英語の使い分けを学ぶことになる。会社を舞台にした映画を使用し、社会に出た際に必要な英語の知識と適切な英語での会話術を学ぶ。これにより、自らの社会生活を英語でとらえることができる。内容理解の確認は男女の使い分けや、年齢による使い分けができているかを通して行う。実生活で英語を使う際のシュミレーションを行うことができるようになる。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　人間文化学類　英語コミュニケーション専攻　専門教育科目	実用科目	キャリア・イングリッシュⅠ	実用英語技能検定（英検）やTOEICなど、英語に関する資格試験取得を目指した授業である。各種資格試験合格に必要な語彙力や文法力を身につけると同時に、過去問演習などを通して問題形式に慣れ、目標とする資格試験に合格できるだけの力をつける。現在広く行われている４技能型の試験に対応するため、「聞く」「話す」「読む」「書く」すべてを統合した授業となる。この講座ではCEFR A1レベルを目指す。（参考：A1レベル　英検3級、TOEIC L&R 120～, TOEIC S&W 80～程度）	
		キャリア・イングリッシュⅡ	実用英語技能検定（英検）やTOEICなど、英語に関する資格試験取得を目指した授業である。各種資格試験合格に必要な語彙力や文法力を身につけると同時に、過去問演習などを通して問題形式に慣れ、目標とする資格試験に合格できるだけの力をつける。現在広く行われている４技能型の試験に対応するため、「聞く」「話す」「読む」「書く」すべてを統合した授業となる。この講座ではCEFR A2レベルを目指す。（参考：A2レベル　英検準2級、TOEIC L&R 225～, TOEIC S&W 160～程度）	
		キャリア・イングリッシュⅢ	実用英語技能検定（英検）やTOEICなど、英語に関する資格試験取得を目指した授業である。各種資格試験合格に必要な語彙力や文法力を身につけると同時に、過去問演習などを通して問題形式に慣れ、目標とする資格試験に合格できるだけの力をつける。現在広く行われている４技能型の試験に対応するため、「聞く」「話す」「読む」「書く」すべてを統合した授業となる。この講座ではCEFR B1レベルを目指す。（参考：B1レベル　英検2級、TOEIC L&R550～, TOEIC S&W 240～程度）	
		キャリア・イングリッシュⅣ	実用英語技能検定（英検）やTOEICなど、英語に関する資格試験取得を目指した授業である。各種資格試験合格に必要な語彙力や文法力を身につけると同時に、過去問演習などを通して問題形式に慣れ、目標とする資格試験に合格できるだけの力をつける。現在広く行われている４技能型の試験に対応するため、「聞く」「話す」「読む」「書く」すべてを統合した授業となる。この講座ではCEFR B2レベルを目指す。（参考：B2レベル　英検準１級、TOEIC L&R 785～, TOEIC S&W 310～程度）	
		通訳・ガイドⅠ	本講義は、ガイド、通訳、旅行関連の仕事を目指す学生、またはこの分野に興味を持つ学生を対象とし、「日本文化を解説できる英語能力」の習得を目的とする。日本人が自国の文化を外国からの訪問者に対して解説する必要性は年々増している。その一方で、日本文化を英語で解説することは、日本人にとっても新たな視点から自国の文化を眺める格好の機会となる。当然とみなしている日本文化にはどのような背景があるのか、それを英語で表現する鍛錬を通じ、自身による言語・文化観の陶冶につながることを目指す。	
		通訳・ガイドⅡ	本講義は、「通訳・ガイドⅠ」をより発展させた内容となる。引き続きガイド、通訳、旅行関連の仕事を目指す学生、またはこの分野に興味を持つ学生を対象とし、「日本文化を解説できる英語能力」の発展を目的とする。日本人が自国の文化を外国からの訪問者に対して英語で解説する際の基本的な技術をより発展させる。そのため日本文化の背景と歴史を学び、世界史と比較しながら説明をしていく。英語で内容を表現する鍛錬を通じ、自身による言語・文化観の陶冶につながることを目指す。	
		通訳・ガイドⅢ	本講義は、「通訳・ガイドⅡ」を発展させた内容となる。引き続きガイド、通訳、旅行関連の仕事を目指す学生、またはこの分野に興味を持つ学生を対象とし、「日本文化を解説できる英語能力」の育成を目的とする。日本の文化を外国からの訪問者に対して英語で解説する際の基本的な技術を発展させ、日本文化を的確に説明できるように指導する。また日本文化の背景と歴史を学び、既存の内容を平易に、明確に、世界史と比較しながら説明をしていく。英語で文化を説明し、表現する鍛錬を通じ、自身による言語・文化観の陶冶につながることを目指す。	
		通訳・ガイドⅣ	本講義は、「通訳・ガイドⅢ」を発展させた内容となる。引き続きガイド、通訳、旅行関連の仕事を目指す学生、またはこの分野に興味を持つ学生を対象とする。将来的には資格取得の受験を目指すまで英語による日本の文化歴史の説明ができることを目的とする。そのため日本の文化を外国からの訪問者に対して英語で解説する際の応用的な技術を習得し、歴史文化的事象を的確に説明できるように指導する。また日本文化の背景と歴史を学び、既存の内容を平易に、明確に、常に注意をひきつけられる説明ができるように訓練を重ねていく。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　人間文化学類　英語コミュニケーション専攻　専門教育科目	実用科目	日本紹介の英語	（英文）This course is designed to enhance the communicative skills necessary to introduce Japan to a foreign visitor. A range of regionally specific and diverse source materials introducing Japan and its culture via English will be presented to students. Students will develop the ability to introduce the places and culture representative of various regions of Japan, and learn to explain things Japanese which may be commonplace to them but unfamiliar to someone visiting Japan for the first time. In addition to activities designed to develop core language ability, students will engage in a wide variety of student centered skills based communicative tasks. （和訳）この授業は、海外からの旅行者に日本について紹介するために必要なコミュニケーションスキルを学ぶことを目的とする。英語を通じて日本を紹介している様々なマテリアルを使って学習する。日本を代表する場所や文化について紹介できる力をつけるとともに、日本人にとってはあたりまえなことだが、初めて日本を訪問した人々にはなじみのない日本的なことがらについて説明する方法を学ぶ。言語の基本的な力を伸ばすための活動の他、学習者が中心となるコミュニケーション重視のタスクに基づいた多様な活動が行われる。	
		ボランティア英語	（英文）This course develops practical English skills for participation in volunteer activities. Students will develop an understanding of a wide variety of volunteer activities, and establish the communicative skills necessary to explain these to other people in English. In addition to general practical English skills, students will work on context specific vocabulary and problem solving communication strategies. A key aspect of assessed output in this course involves students' contributions to an ongoing project which aims to develop a Japanese/English phrasebook for volunteer activities that could in future be made available online for actual use in volunteer work. （和訳）この授業は、ボランティア活動に関わる実践的英語のスキルを学ぶことを目的とする。様々なボランティア活動について学ぶとともに、他の人々に英語でボランティアについて説明するコミュニケーションスキルを学習する。また、語彙を学んだり、問題解決学習を行ったりする。この授業を履修学生は、最終的にはボランティア活動で実際に活用できる、オンラインの日英対訳付のボランティア会話集を作成する。	
		Japan Studies Ⅰ	（英文）This English medium course provides an introduction to Anglophone Japan Studies. Basic knowledge of modern and contemporary Japanese Cultural History will be developed through a variety of topic based lectures. A foundational knowledge of Japanese Cultural History will be developed by lectures and set readings on the diversity of society on the Japanese islands, food culture, consumer culture, sleep, family and Buddhism in postwar Japan. （和訳）この授業は、英語による日本研究の入門となる。基礎的な現代日本についての知識を、様々な講義内容を通して学んでいく。そして、戦後日本における「多様な日本社会」を、食文化、消費文化、日常生活、家族と宗教に主眼を置きながら、国際的研究に適応した日本文化史への基礎知識を、英語を通じて育成する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 人間文化学類 英語コミュニケーション専攻 専門教育科目	実用科目	Japan Studies Ⅱ	（英文）This English medium course builds on the introduction to modern and contemporary Japanese Cultural History provided in Japan Studies I. Basic Japan Studies knowledge will be developed and new concepts introduced. Ongoing lectures will continue to develop the knowledge of Japanese Cultural History necessary for critical thinking related to the topics introduced by the instructor, particularly technology and architecture, 3.11, politics, security and defense, education and the arts in postwar Japan. （和訳）この授業は、Japan Studies Iの基礎的な近代・現代の日本研究の知識を基に、より発展的な学修を行う。基礎的な日本文化史の知識はJapan Studies Iの内容をもとに、より発展的なレベルの到達を目指した課題を通して育成される。そして、戦後日本における技術と建築、東日本大震災、治安と防衛論、教育と文芸・芸術などに主眼を置きながら、引き続き英語圏における日本研究に基づいた批判的思考を育成する講義を行う。	
		海外留学準備	本講義は本学の留学プログラム「6か月留学」に選抜された学生を対象に行う留学準備授業である。留学対象国での習慣や、生活態度、多文化社会の中で適切に生活をする際の知識の習得する。留学に出発するまでの間に、現在持っている英語の知識の向上と、これまでは触れる機会のなかった事務手続きや病院での会話などに必要な関連領域の知識を英語で習得する。この授業を受講することで、トラブル等に巻き込まれるのを事前に防ぎ、学生が現地での有意義な滞在をすることができる。	
		６か月留学	本講義では、6か月間の留学生活を通じて、語学力の向上のみならず、グローバルな視野の獲得を目指す。慣れ親しんだ環境から離れることによって、日本を客観的に見ることが可能になる。自国を客観視することで、それまで当たり前と思っていたことに対する疑問を持ち、文化や歴史というものの重要性を再認識することができる。また、様々な文化や歴史背景を持つ留学生と、講義を受け、生活をすることによって、グローバル社会の中でどのように行動をしていくことが、自身の能力の向上につながっていくのかを学んでいくことができる。	
	専門ゼミ科目	英語コミュニケーションゼミⅠ	ビジネス英語とグローバル企業の研究、英語教育法、第二言語取得理論などの各テーマもとに、本格的な研究活動に着手するための基本的スキルを修得することをねらいとする。英語コミュニケーションゼミⅠでは、基本文献の購読をベースに、専門的な学術情報の収集方法、報告発表のスキル、討議の方法、論理的な思考などの指導に重点をおく。	
		英語コミュニケーションゼミⅡ	ビジネス英語とグローバル企業の研究、英語教育法、第二言語取得理論などの各研究分野において、各自の研究活動を発展・展開させるためのヒントやアイデアについて相互に学び会う。先行研究のフォローをもとに、具体的な論点を提示・共有し、意見交換を行う。問いの立て方と展開の仕方、複眼的な思考、ロジカル・シンキングなどについて基本スキルを確実に身につける。4年次を見据えて、研究計画の立て方、リサーチやフィールドワークの具体的方法などについてもふれる。	
		英語コミュニケーションゼミⅢ	クラス内での共通テーマに関する討議・研究活動を展開しつつ、英語コミュニケーションゼミⅠ・Ⅱで学んだことを基に、各自の研究テーマを設定し、研究計画を立てる作業に取り組む。必要に応じてフィールドワークや共同リサーチ活動を実施し、問題解明に必要な情報や資料・データの収集に注力する。定期的に進捗状況を発表報告し合い、参加者のコメントを、自分の知見の拡充に役立てる。	
		英語コミュニケーションゼミⅣ	英語コミュニケーションゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲで取り組んだテーマについて、研究成果をレポートや論文・報告書にまとめる活動に取り組む。論文・報告書やプレゼンテーションの構成要件について理解を深める。論述あるいは口頭発表での、適切かつ効果的な表現方法についても考察する。さらに、他の研究発表に対する客観的評価の方法について、実践的にトレーニングを重ねる。	

授　業　科　目　の　概　要 （人間総合学群 人間文化学類）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
英語コミュニケーション専攻 専門ゼミ科目	卒業論文	卒業論文は入学以来培った基礎学力を基に、第二言語習得、英語教育学、グローバルビジネスの各分野に特化した応用力を涵養、研究発表または論文にまとめるための授業である。第二言語習得分野では実験計画構築、質問紙作成、実験実施、実験データ解析を行い、口頭発表または論文執筆を行う。英語教育学分野では実際の教育現場で活用可能な教授法の応用にとどまらず、教師教育の必要性を調査し、日本の英語教育に必要な英語教育の実践法を探る。グローバルビジネス分野では実社会で必要とされる英語力を発展させ、さまざまな商取引や交渉の場面に応じたコミュニケーション能力を育成すると同時にグローバル化社会の中における企業の在り方を分析する。	
人間文化学類共通科目	日本文化実習	本実習は、茶道・華道等の日本を代表する伝統文化についての理解を深め、その意義を深く考察しつつ、作法や所作を実践的に身につけることを目的とする。具体的には、茶道や華道の歴史に関して講義を行うとともに、実際に茶道や華道の基本的な作法を実践する機会を設けて、日本の伝統文化や日本人の美意識や自然観の特質を体系的に理解できるように導く。	
	仏教文化実習	本実習は、日本文化の中に息づく写経や写仏などの仏教由来の文化を中心に日本文化と仏教の関連性についての理解を深め、それぞれを実践し、包括的に学習することを目的とする。具体的には、写経や写仏の歴史などを講義し、学習者もそれぞれについて実践を体験し、その経験を通じて日本の仏教や仏教文化を体系的に理解できるように導く。	
	日本文化研修	本講義は、学内外での研修を通じて日本文化や日本史を調査・研究する上での実践的な知識や技能を修得することを目的とする。具体的には、学外の博物館・資料館に赴き、古文書、古記録、民俗資料、考古資料等の原本史料の取り扱いや調査の方法、寺院・神社・史跡など現地調査の方法等を学習する。この学びを通じて、史料を取り扱うための方法論を身に付け、日本文化や日本史を深く学ぶためのアプローチの仕方を修得できるように導く。	
	身体文化実習Ⅰ	しなやかな身体で美しく舞うバレエ、その基本的な練習を通して、美しい姿勢、身のこなしを学ぶ。実際にバレエを体験することで、バレエの特性、身体の使い方を理解し、普通の生活のなかで実践可能な美しい要素を体得し日々に活かす。教養としてバレエの歴史や作品に対する理解を深め、鑑賞する際にも役立つ知識を得る。実技中心の授業であり、課題曲（海賊ヴァリエーション予定）を練習しながら最後に発表する。	
	身体文化実習Ⅱ	この授業は、①着物の文化の美しさと生活の中での機能性の追求、②日本舞踊の演習を通しての品格ある立ち居振る舞い、③日本舞踊の表現を通して日本文化の探究と日本女性としてのコミュニケーション力の向上、以上の3点を目指す。自分自身で着物のきつけができるようになり、着物のたたみ方を習得したうえで、日本舞踊の基礎を習得し、各自2曲を発表する。着物を美しくまとい、日本舞踊を通しての美しい立ち居振る舞いを身につけさせる。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間文化学類共通科目			プレゼンテーション実習Ⅰ	研究発表のプレゼンテーションを念頭に置き、基本的な発表の技法を指導する。非言語的コミュニケーションの重要性、基本的な「語り」「話し方」のスキル、リサーチ情報の整理と提示の工夫、聴衆と状況に応じたプレゼンのスタイル、プレゼンテーション・ソフトの効果的な使い方、などを取り上げる。“人前で話すこと”への抵抗感を払拭し、自信をもって研究発表に臨めるようなマインドを修得させる。	
			プレゼンテーション実習Ⅱ	プレゼンテーションが「発表（紹介）プレゼンテーション」と「提案プレゼンテーション」の２種類あることを学び、それぞれに適したプレゼンテーション技術を体得する。同時に学生それぞれが、プレゼンテーションにおける自分の強みと弱みを理解し、自身の特性を生かした独自のプレゼンテーション技術を修得することを支援する。理論的で実践的な「納得の得られるプレゼンテーション」スキルを身につけさせる。	
			チャレンジTOEIC	自身のスキルアップのためにTOEICに挑戦しようと考えている学生を対象とした授業である。リーディングやリスニングに必要な語彙学習や文法学習を体系的に行うと共に、リーディング・リスニング活動を十分に行うことにより両技能の向上を図る。リーディングおよびリスニング問題の出題傾向から正答を導き出すためのストラテジーを学び、問題演習を通して実践力を養う。各自目標を設定し、それに向けて学習し、目標達成を目指す。	
			ビジネスインターンシップ	本講義は、企業や官公庁での就業体験を通して、自己に適した卒業後の進路や今後の大学生活で学習すべき課題を自覚するとともに、社会生活への適応能力や、社会人として相応しい人間関係を構築する能力を身に付けることを目的とする。具体的には、学内での事前学習により、職場で必要なビジネスマナーや社会常識を学んだ上で、学外での就業体験実習により、組織における行動力・思考力・コミュニケーション能力や現場感覚を実践的に学習する。	共同
教育職員養成課程科目　教科に関する科目	日本文化専攻　中一種・高一種免（国語）	国語学	日本語学概論Ⅰ	本講義は、世界の中の一つの言語として日本語をとらえ、その特徴について理解することが目的である。具体的には、さまざまな言語と日本語を比較したうえで、日本語の特徴について、発音、語彙、表記法、文法等から概説する。また、日本語の表現方法についても考察していく。普段何気なく使っている日本語に関心を持ち、興味を深めるとともに、客観的にその特徴を理解し、説明できるようにするとともに、問題意識を持って日本語を考察する力を修得する。	
			日本語学概論Ⅱ	本講義は、日本語の特質を理解し、日本語学を研究するための基礎的な知識を修得することを目的とする。具体的には日本語学の音声学、音韻論、文体論、文法論、語彙論など、各分野の研究について紹介しながら、日本語の特質について概説していく。日本語の特質を理解し、説明できるようにするとともに、さまざまな角度から日本語を考察することで、自分なりの問題意識をもって日本語と向かいあい、研究する姿勢を身につけるように導く。	
			日本語学Ⅰ	本講義は、上代から江戸時代までの日本語の変遷に関する知識を修得するとともに、日本語史の主な資料を通覧し、日本語学研究の方法を学ぶことを目的とする。具体的には、奈良時代から江戸時代にかけて、各時代の日本語を知るためにどのような資料を調べればよいのか理解するとともに、各時代の文法的な変遷を説明できるようにする。また、仮名で書かれた資料のほかに訓点資料・キリシタン資料などが存在することを知り、それらの特徴について説明できるようにする。	
			日本語学Ⅱ	本講義は、日本語の語彙に関する知識を修得することを目的とする。具体的には、日本語の語彙全体が意味的にみてどのような体系を作っているのか概説したうえで、語彙の量的構造、語彙の変遷、意味の変遷等についても概説する。また、日本語の辞書についても考察する。日本語の語彙の特徴について理解し、説明できるようにするとともに、日本語で書かれたさまざまな文章を通して、語彙についての理解を深めることができる力を身につける。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教育職員養成課程科目 教科に関する科目	日本文化専攻 中一種・高一種免（国語）	国文学	古典文学概論	本講義は、主要な古典文学作品を読み味わいながら、古典を読むときに必要な基礎的知識を再確認し、古典文学研究の基礎作りを行うことを目的とする。具体的には、『竹取物語』や『伊勢物語』をはじめ主要な日本の古典文学作品を取り上げ、作品の概要や基礎的な事項を解説する。様々なジャンルの古典文学を学ぶことで、歴史的背景を踏まえ、文学に表れたものの見方や考え方などについて、自分なりの言葉で表現することができるようにする。	
			近代文学概論	本講義は、日本近代文学に関する基礎的な知識を学び、文学を研究するための基礎的な概念を理解することを目的とする。近代の文学史について概説したうえで、具体的には『羅生門』『走れメロス』『山月記』など、中学校や高等学校の国語教材としてよく知られている作品を取り上げ、典拠との比較や語りの分析など、文学研究としてのアプローチの方法を説明する。先行研究における問題点等を理解することにより、中学・高校の授業とは違う観点から近代の小説をとらえる力を修得する。	
			古典文学Ⅰ（上代・中古）	本講義は、上代の文学に関する基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、日本文学の源泉である『万葉集』および『古事記』を取り上げて概説する。一語一語大切に読み解きながら、古典文学の世界に親しみ、現代までつづく「日本文学」の基礎的な問題点について考察を深める。自分なりの興味・関心をもって古典文学作品と向かい合う姿勢を身につけ、上代・中古の文学作品について自分なりの言葉で、その概略を説明することができる力を身につける。	
			古典文学Ⅱ（中世・近世）	本講義は、中世の軍記物語や随筆、説話等ならびに江戸時代を代表する浮世草子や読本等の作品を通して古典文学の特質を探ることを目的とする。具体的には、『平家物語』や『徒然草』、井原西鶴の『好色一代男』や滝沢馬琴の『南総里見八犬伝』等の作品について時代的背景とともにその概要を説明し、そこに表れた人々の生活や風俗、思想について理解を深める。古典文学の世界に親しみ、興味・関心をもって作品と向かい合う姿勢を身につけ、当時の文学に表れたものの見方や考え方などについて、自分なりの言葉で表現する力を身につける。	
			日本文学史Ⅰ	本講義は上代から中古までの日本の文学作品を通時的に学び、基礎的な知識を修得し、文学の史的展開について理解することを目的とする。具体的には『古今和歌集』などの和歌文学や『竹取物語』『源氏物語』などの物語文学など、各時代を代表するジャンルの作品を取り上げ、作品・作者について概説しながら、基礎的な知識を身につけるとともに、時代と作品との関連性や、文学形態の発展過程等、文学の史的展開について考察していく。	
			日本文学史Ⅱ	本講義は中世から近代までの日本の文学作品を通時的に学び、基礎的な知識を修得し、文学の史的展開について理解することを目的とする。具体的には『平家物語』などの軍記物や『方丈記』、『徒然草』などの随筆、江戸時代の戯作文学、近代の小説に至るまで、様々なジャンルの作品を取り上げ、作品について概説しながら、基礎的な知識を身につけるとともに、時代と作品との関連性や、文学形態の発展過程等、文学の史的展開について考察していく。	
			近現代文学Ⅰ（近代）	本講義は、明治期から昭和初期にかけて活躍した作家の小説を通して、近代の文学の特質を探ることを目的とする。具体的には夏目漱石や芥川龍之介、横光利一、太宰治等の作品を取り上げ、作中人物が西洋の思想文化の流入する時代とどのように向かい合い生きていったのかなどという問題を考察する。小説を通して、日本の近代化の様相について理解するとともに、自分なりの文学研究へのアプローチの方法を身につける。	
			近現代文学Ⅱ（現代）	本講義は、第2次世界大戦後から現在までの小説について、世界の文学の中での日本の文学という観点から学ぶことを目的とする。具体的には、川端康成や、大江健三郎というノーベル賞作家の作品や村上春樹の作品の概要を理解したうえで、外国人が日本の小説をどのようにとらえているか考察していく。世界中で読まれている日本の現代の小説とはどのようなものなのか、自分なりの興味・関心をもって読んでいく姿勢を身につける。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教育職員養成課程科目 教科に関する科目	日本文化専攻 中一種・高一種免（国語）	漢文学	中国文学Ⅰ（漢文学）	本講義は、中国文学の変遷ならびに様々な文体について理解することを目的とする。具体的には、漢文訓読の基礎について学んだうえで、中国文学の歴史や各時代を代表する作品等について概説する。文献の読解を通じて、文意を捉えるとともに、つねに日本に大きな影響を与えてきた中国の文学について、日本人がどのように消化吸収し、自国の文化を生み出していったのかを考えるとともに、中国古典を学ぶことの意味を考える。	
			中国文学Ⅱ（漢文学）	本講義は、中国の思想や『史記』などを通して、中国の歴史や文化への理解を深め、中国文化が日本に与えた影響の大きさを考えることを目的とする。具体的には、中国思想史の流れや代表的な思想家について説明するとともに、諸子百家の思想や、『史記』を読み、それらの書物が各時代にどのように享受されたかを、時代状況と関係づけながら解説する。中国文化が日本に与えた影響について、自分なりの言葉で説明する力を身につける。	
		書道	書道実習Ⅰ	本実習は、書道の様々な活動を通して、書写能力の向上を図るとともに、表現と鑑賞の力を伸ばし、書の伝統と文化について理解することを目的とする。具体的には、漢字については楷書及び行書、仮名については、平仮名、片仮名及び変体仮名を扱い、基本的な点画や線質の表し方を理解し、その用筆・運筆の技法を修得させる。また、書の美しさと表現効果を味わい、感じ取ることができるようになるとともに、漢字の書体の変遷や仮名の成立等についても理解を深める。	
			書道実習Ⅱ	本実習は、書道の様々な活動を通して、書写能力の向上を図るとともに、表現と鑑賞の力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深めることを目的とする。具体的には、漢字については、草書、隷書及び篆書、仮名については、平仮名、片仮名及び変体仮名を扱い、書体や書風に即した用筆・運筆等について理解し、表現形式に応じた構成を工夫できるように導く。また、書の美と時代や風土、筆者等とのかかわりや表現方法や形式等について理解を深める。	
	英語コミュニケーション専攻 中一種・高一種免（英語）	英語学	英語学概論Ⅰ	この授業は、英語の特質を理解し、英語学を研究するための基本的な知識を修得することを目的とする。具体的には、英語学における発音、語彙、文法、意味、歴史の各分野の研究について紹介し、英語の特質について概説していく。英語の特質を理解し、説明できるようにするとともに、さまざまな角度から英語を考察する方法論を身につける。	
			英語学概論Ⅱ	この授業は、英語学概説Ⅰの学びを基に、英語学を研究するための実践的な知識を修得することを目的とする。具体的には、英語と社会、文化との関わり、英語の語用と解釈などの分野の研究について紹介し、英語の特質について概説していく。英語の特質を深く理解し、さまざまな角度から英語を考察することで、自分なりの問題意識をもって英語と向きあい、研究する姿勢を身につける。	
			英語音声学Ⅰ	本講義は、英語で使用される音について、発音方法などについて学習しながら、個々の音に対する理解を深めていく。その上で、単語や文章を用いて、実際に個々の音が正しく発音できるように練習を行う。英語の個々の子音や母音について、発音の方法や強勢の位置などを習得し、単語や文を正しい発音で読むことができるようになることを目指す。	
			英語音声学Ⅱ	本講義では、前期の学習内容を踏まえ、英語で使用される音について、発音方法などについて学習しながら、個々の音に対する理解を深めていく。その上で、単語や文章を用いて、聞き取りの練習や発音練習を行う。英語の個々の子音や母音について、発音の方法や強勢の位置などを習得し、実際に単語や文を正しい発音で読むことができるようになることを目指す。また、個々の音を聞き分けることができるようになることも目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教育職員養成課程科目　教科に関する科目	英語コミュニケーション専攻　中一種・高一種免（英語）	英米文学	アメリカ文学Ⅰ	この授業は、植民地時代から南北戦争までのアメリカ文学の概要を理解することを目的とする。具体的には、この間の主要な作家や作品について、作品の背景にある歴史的・文化的経緯について解説し、アメリカ建国の特徴やそれを支えるアメリカ人の精神性について理解する。また文学作品の読解を通じて、アメリカ文学への理解を深める。	
			アメリカ文学Ⅱ	この授業は、19世紀後半から現代までのアメリカ文学の概要を理解することを目的とする。具体的には、この間の主要な作家や作品について、作品の背景にある歴史的・文化的経緯について解説し、文学からみたアメリカの社会や精神性を理解する。また文学作品の読解を通じて、アメリカ文学への理解を深める。	
			イギリス文学Ⅰ	この授業は、7世紀から18世紀までのイギリス文学の概要を理解することを目的とする。具体的には、主要な作家や作品について、作品の背景にある歴史的・文化的経緯について解説し、作品が当時の人間やその後の作家に与えた影響について理解する。また、映像資料などを閲覧し、作品が生み出された時代背景についても紹介する。	
			イギリス文学Ⅱ	この授業は、19世紀から現代までのイギリス文学の概要を理解することを目的とする。具体的には、主要な作家や作品について、作品の背景にある歴史的・文化的経緯について解説し、作品が現代の人間やその後の作家に与えた影響について理解する。また映像資料などを閲覧し、作品が生み出された時代背景についても紹介する。	
		英語コミュニケーション	日本紹介の英語	（英文）This course is designed to enhance the communicative skills necessary to introduce Japan to a foreign visitor. A range of regionally specific and diverse source materials introducing Japan and its culture via English will be presented to students. Students will develop the ability to introduce the places and culture representative of various regions of Japan, and learn to explain things Japanese which may be commonplace to them but unfamiliar to someone visiting Japan for the first time. In addition to activities designed to develop core language ability, students will engage in a wide variety of student centered skills based communicative tasks. （和訳）この授業は、海外からの旅行者に日本について紹介するために必要なコミュニケーションスキルを学ぶことを目的とする。英語を通じて日本を紹介している様々なマテリアルを使って学習する。日本を代表する場所や文化について紹介できる力をつけるとともに、日本人にとってはあたりまえなことだが、初めて日本を訪問した人々にはなじみのない日本的なことがらについて説明する方法を学ぶ。言語の基本的な力を伸ばすための活動の他、学習者が中心となるコミュニケーション重視のタスクに基づいた多様な活動が行われる。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教育職員養成課程科目 教科に関する科目	英語コミュニケーション専攻 中一種・高一種免（英語）	英語コミュニケーション	Japan Studies Ⅰ	（英文）This English medium course provides an introduction to Anglophone Japan Studies. Basic knowledge of modern and contemporary Japanese Cultural History will be developed through a variety of topic based lectures. A foundational knowledge of Japanese Cultural History will be developed by lectures and set readings on the diversity of society on the Japanese islands, food culture, consumer culture, sleep, family and Buddhism in postwar Japan. （和訳）この授業は、英語による日本研究の入門となる。基礎的な現代日本についての知識を、様々な講義内容を通して学んでいく。そして、戦後日本における「多様な日本社会」を、食文化、消費文化、日常生活、家族と宗教に主眼を置きながら、国際的研究に適応した日本文化史への基礎知識を、英語を通じて育成する。	
			Japan Studies Ⅱ	（英文）This English medium course builds on the introduction to modern and contemporary Japanese Cultural History provided in Japan Studies I. Basic Japan Studies knowledge will be developed and new concepts introduced. Ongoing lectures will continue to develop the knowledge of Japanese Cultural History necessary for critical thinking related to the topics introduced by the instructor, particularly technology and architecture, 3.11, politics, security and defense, education and the arts in postwar Japan. （和訳）この授業は、Japan Studies Iの基礎的な近代・現代の日本研究の知識を基に、より発展的な学修を行う。基礎的な日本文化史の知識はJapan Studies Iの内容をもとに、より発展的なレベルの到達を目指した課題を通して育成される。そして、戦後日本における技術と建築、東日本大震災、治安と防衛論、教育と文芸・芸術などに主眼を置きながら、引き続き英語圏における日本研究に基づいた批判的思考を育成する講義を行う。	
		異文化理解	異文化理解Ⅰ	この授業は、日本人と異文化の交流について西洋文化を中心に概説し、異文化理解の基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、文化の意味やその伝播、さらに中世末から近世初頭の南蛮文化やオランダ文化の日本への移入について取り上げ、日本への西洋文化の移入から見える異文化交流の意義について考える。	
			異文化理解Ⅱ	この授業は、日本人と西洋文化の交流について、互いの理解のための方策を解説しながら、異文化理解の意義について理解することを目的とする。具体的には、幕末の開国以来、アメリカ、ロシア、イギリスなどの諸外国に対して、日本人がどのように対応していたのか、事例を取り上げ考察する。さらに、明治期における欧米列強と日本人の交流も踏まえ、異文化理解の意義について理解を深める。	
教科又は教職に関する科目	日本文化専攻 中一種・高一種免（国語）		国語教育概論Ⅰ	本講義は国語教育の歴史や概要を学ぶことを通して、国語科教育についての基礎的な知識を修得することを目的とする。具体的には、明治以降今日に至るまでの国語教育の歴史や国語教科書の歴史および学習指導要領の変遷等について概説するとともに、国語科の教科構造や教科内容、単元構成、系統性、他教科との関連等について概説する。さらに「国語を学ぶ」とはどういうことなのか、その本質や意味についても考察していく。	
			国語教育概論Ⅱ	本講義は現在の国語教育の内容や諸問題を学ぶことを通して、国語科教育の意義を理解し、国語科の教員として必要な知識を身につけることを目的とする。具体的には現行の学習指導要領の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域の内容を概説したうえで、国語教育の方法や学習指導法、教材について、さらには国語教育の様々な問題について概説する。国語科とは何を教え、どういう力を育てるべき教科なのか、考える力を修得する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教育職員養成課程科目　教科又は教職に関する科目	日本文化専攻　中一種・高一種免（国語）	児童文学	本講義は、明治以降子どもを意識して書かれるようになった児童文学の特質を探ることを目的とする。具体的には、日本の近代児童文学・児童音楽の創世期に最も重要な影響を与えた『赤い鳥』をはじめとする児童雑誌を取り上げ、芥川龍之介や有島武郎の作品や、小川未明や北原白秋の童謡や童話を通して、大正から昭和初期にかけての児童文学の諸相について考察していく。自分なりの興味、関心を持って児童文学に向かい合う姿勢を身につけるようにする。	
		日本の詩歌	本講義は、日本の詩歌の特質について学ぶことを目的とする。具体的には、中古の和歌を中心とし、上代の和歌、中世の連歌、近世の俳諧なども取り扱う。また、近代以降の詩歌については正岡子規の改革運動を中心として概説する。日本文学における詩歌の意義について理解し、作品に表れたものの見方や考え方、現代における詩歌の意義などについて、各受講者なりの考えを持つことができるようにする。	
		介護等の体験	中学教諭の免許取得希望者は「介護等の体験」が必須である。本授業はその体験を行う前の予備知識と行動規範を身につけることを目標とする。近年の高齢社会や障害者の社会参加など変わりゆく時代のなかで、私たちが人として、学生として、家族として、社会人として、現状を把握し、これから何が出来るかを考えていきたい。体験活動を行うために最低限必要な知識を習得するとともに、社会人としての一般的な礼儀作法も身につけていきたい。	
		視聴覚教育メディア論	本講義は、視聴覚教育の歴史や教育方法について考え、その意義や教材、メディアとの関係性や重要性を知り、日本における視聴覚教育の始まりや定義、視聴覚教材の長所短所を検討することを目的とする。教育の場で活用する視聴覚機器（テレビ、DVD、スライド、映画等）、情報機器（PC、Web等）などの教育メディアについて、その機能や種類、利用方法が身につくように授業を展開させていきたい。必要に応じて、メディア機器を使っている作成現場を見学することもある。	
		ボランティア実習Ⅰ	自分にもできることを通じて、様々な人々をサポートし、社会に貢献することにより、新しい自分を発見することを目的とする。ボランティア活動の実施場所は、大学の地元の稲城市および近隣地域の施設などを想定している。①担当教員による個別ガイダンス、②担当教員との事前面談、③危機管理ガイダンスへの参加、④ボランティア活動届の事前提出（学生支援課）、⑤ボランティア活動記録の提出、等が義務づけられる。	共同
		ボランティア実習Ⅱ	自分にもできることを通じて、様々な人々をサポートし、社会に貢献することにより、新しい自分を発見することを目的とする。実施場所は海外を想定している。海外ボランティアでは、海外における活動を通して、履修者が多種多様な文化、習慣の違いを受け入れ、将来、国際社会の中で生き抜く術を学ぶ。夏季休暇中に、学外の団体が行う海外ボランティアに2週間以上参加することが要件である。危機管理ガイダンスや活動記録の提出も義務づけられる。	
		生涯学習論Ⅰ	生涯学習に興味・関心がある学生を対象に、生涯学習の意義や目的、歴史や基礎理論、生涯学習の内容や方法を概説する。生涯学習には、「学びたい」ことだけではなく、「学ばなければいけないこと」も含まれている。本授業における到達目標として、①生涯学習の意義や目的を理解し、生涯学習を支える者の役割を充分に自覚する、②生涯学習の歴史（誕生と展開）を理解・説明することができる、③生涯学習を支える基礎理論を理解・説明することができる、④生涯学習の内容や方法を理解・説明することができる、以上の4点をあげる。	
		生涯学習論Ⅱ	生涯学習に興味・関心がある学生を対象に、生涯学習に関する制度や施設・職員の役割について概説し、生涯学習支援の担い手として必要な基礎技能を修得することを目指す。本授業における到達目標に、①生涯学習の意義や目的を理解し、生涯学習支援の担い手としての基礎技能を修得する、②生涯学習を支える制度（法律や行政の取り組み）を理解・説明することができる、③女性の社会進出に伴う生涯学習の変化を理解・説明することができる、④生涯学習プログラムを開発・宣伝することができる、以上の4点をあげる。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教育職員養成課程科目　教科又は教職に関する科目	日本文化専攻　中一種・高一種免（国語）	道徳教育の指導法	我が国の学校教育における道徳教育は、学校の全教育活動を通して行うことを原則とし、その教育活動全体で行う道徳教育を補充、深化、統合する目的で道徳の授業が設定されている。本講義では、こうした道徳教育の内容や諸問題について解説し、さらに道徳の授業の事例をもとに実際に検討を加える研究を行う。同時に、道徳教育の指導者としてふさわしい人材の育成を目指す。道徳とその教育について理解を深め、その指導の実践法を習得し、道徳教育の指導者としての資質を身につけることを目標としたい。	
	英語コミュニケーション専攻　中一種・高一種免（英語）	英語教育学概論Ⅰ	この授業は、ディスカッションを通して英語教育・英語学習の基本的な事項を学ぶことを目的とする。言語習得の基礎的な理論を理解し、説明できるようにさせる。英語学習者として英語の授業を受けた経験、英語学習をしてきた経験を踏まえ、「どのように英語を教えることが大切なのか」「英語の学びはどのように起こるか」などの問いに対しての回答を考えさせる。自分の行ってきた英語学習を授業で学んだ理論を用いて分析できるようにさせる。同時に日本の小中高の英語教育の現状および課題を知る。	
		英語教育学概論Ⅱ	この授業は、ディスカッションを通して英語教育・英語学習の基本的な事項を学ぶことを目的とする。言語習得の理論および英語の授業の実践方法の原則を理解し、説明できるようにさせる。英語学習者として英語の授業を受けた経験、英語学習をしてきた経験を踏まえ、「どのように英語を教えることが大切なのか」「英語の学びはどのように起こるか」などの問いに対しての回答を考えさせる。授業で学習した理論や原則を用いて、日本の小中高の英語教育の課題を解決できる方法を提案できるようにさせる。	
		英会話Ⅲ	（英文）This course will build on the content of English Conversation Ⅰ and Ⅱ, providing students with training in a deeper level of natural English communication. There will be particular emphasis on sustaining conversations over longer periods of time. To help with this goal, students will be exposed to various methods of turn taking and conversation strategies that pertain to forming follow up questions and how pause in mid conversation. Students will work on attaining natural English rhythm in their speaking, with the goal of improving their overall fluency. Additionally specific pronunciation practices that relate to the various methods and strategies will be provided on a regular basis. （和訳）「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」の学習を踏まえ、主に英語による自然なコミュニケーションができるようになることを目指す。そのため、補足質問を作ることや「会話の調整」（会話を途切らすという会話の技法）を学生に紹介する。本講義では会話を長く続けることに重点を置き、会話の進め方や会話技法を指導する。英語の発音や自然なリズム、流暢さについても適宜指導する。	
		英会話Ⅳ	（英文）This final course in English conversation will synthesize the practices thus far learned with the goal of making students confident and natural in their English communication styles. Students will work on sustaining fluent, extended conversations about pertinent current events and issues. The differences in casual and more formal types of conversation will be studied. Pragmatics relative to American and British culture will also be examined, with particular emphasis placed on hedging and expressing disagreements. Students will become sensitive to cultural differences amongst native English speakers and how interact appropriately in different international situations. （和訳）「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」「英会話Ⅲ」の学習を踏まえ、自信を持って自然な英語を使えるようになることを目指す。本講義では時事問題を話題にして、より長く英語で話せるようになることに主眼を置く。また、「カジュアル」な会話と「フォーマル」な会話の相違について学習する。英米の文化について考え、自身の考えを主張できるような力をつけさせる。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教育職員養成課程科目　教科又は教職に関する科目	英語コミュニケーション専攻　中一種・高一種免（英語）	アメリカの文化と歴史Ⅰ	アメリカ合衆国の歴史と文化に関して、英領植民地時代から南北戦争時代までを概説する。アメリカ合衆国は、好むと好まざるとにかかわらず、日本との関係は光である。また、アメリカに関する知識や情報は「洪水」のように溢れているが、それらのなかには事実と異なるものや誤解に基づくものも少なくない。本授業では、アメリカの歴史を跡付けながら、歴史を学ぶ意義と楽しさを感じてもらえるよう心がけるとともに、日本と関係が深いアメリカという他国の歴史についての学びを通じて自国を改めて考える機会とする。	
		アメリカの文化と歴史Ⅱ	アメリカ合衆国の歴史と文化に関して、南北戦争時代から現代までを概説する。アメリカ合衆国は、好むと好まざるとにかかわらず、日本との関係は光である。また、アメリカに関する知識や情報は「洪水」のように溢れているが、それらのなかには事実と異なるものや誤解に基づくものも少なくない。本授業では、アメリカの歴史を跡付けながら、歴史を学ぶ意義と楽しさを感じてもらえるよう心がけるとともに、日本と関係が深いアメリカという他国の歴史についての学びを通じて自国を改めて考える機会とする。	
		介護等の体験	中学教諭の免許取得希望者は「介護等の体験」が必須である。本授業はその体験を行う前の予備知識と行動規範を身につけることを目標とする。近年の高齢社会や障害者の社会参加など変わりゆく時代のなかで、私たちが人として、学生として、家族として、社会人として、現状を把握し、これから何が出来るかを考えていきたい。体験活動を行うために最低限必要な知識を習得するとともに、社会人としての一般的な礼儀作法も身につけていきたい。	
		視聴覚教育メディア論	本講義は、視聴覚教育の歴史や教育方法について考え、その意義や教材、メディアとの関係性や重要性を知り、日本における視聴覚教育の始まりや定義、視聴覚教材の長所短所を検討することを目的とする。教育の場で活用する視聴覚機器（テレビ、DVD、スライド、映画等）、情報機器（PC、Web等）などの教育メディアについて、その機能や種類、利用方法が身につくように授業を展開させていきたい。必要に応じて、メディア機器を使っている作成現場を見学することもある。	
		ボランティア実習Ⅰ	自分にもできることを通じて、様々な人々をサポートし、社会に貢献することにより、新しい自分を発見することを目的とする。ボランティア活動の実施場所は、大学の地元の稲城市および近隣地域の施設などを想定している。①担当教員による個別ガイダンス、②担当教員との事前面談、③危機管理ガイダンスへの参加、④ボランティア活動届の事前提出（学生支援課）、⑤ボランティア活動記録の提出、等が義務づけられる。	共同
		ボランティア実習Ⅱ	自分にもできることを通じて、様々な人々をサポートし、社会に貢献することにより、新しい自分を発見することを目的とする。実施場所は海外を想定している。海外ボランティアでは、海外における活動を通して、履修者が多種多様な文化、習慣の違いを受け入れ、将来、国際社会の中で生き抜く術を学ぶ。夏季休暇中に、学外の団体が行う海外ボランティアに2週間以上参加することが要件である。危機管理ガイダンスや活動記録の提出も義務づけられる。	
		生涯学習論Ⅰ	生涯学習に興味・関心がある学生を対象に、生涯学習の意義や目的、歴史や基礎理論、生涯学習の内容や方法を概説する。生涯学習には、「学びたい」ことだけではなく、「学ばなければいけないこと」も含まれている。本授業における到達目標として、①生涯学習の意義や目的を理解し、生涯学習を支える者の役割を充分に自覚する、②生涯学習の歴史（誕生と展開）を理解・説明することができる、③生涯学習を支える基礎理論を理解・説明することができる、④生涯学習の内容や方法を理解・説明することができる、以上の4点をあげる。	
		生涯学習論Ⅱ	生涯学習に興味・関心がある学生を対象に、生涯学習に関する制度や施設・職員の役割について概説し、生涯学習支援の担い手として必要な基礎技能を修得することを目指す。本授業における到達目標として、①生涯学習の意義や目的を理解し、生涯学習支援の担い手としての基礎技能を修得する、②生涯学習を支える制度（法律や行政の取り組み）を理解・説明することができる、③女性の社会進出に伴う生涯学習の変化を理解・説明することができる、④生涯学習プログラムを開発・宣伝することができる、以上の4点をあげる。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教科又は教職に関する科目	英語コミュニケーション専攻中一種・高一種免（英語）	道徳教育の指導法	我が国の学校教育における道徳教育は、学校の全教育活動を通して行うことを原則とし、その教育活動全体で行う道徳教育を補充、深化、統合する目的で道徳の授業が設定されている。本講義では、こうした道徳教育の内容や諸問題について解説し、さらに道徳の授業の事例をもとに実際に検討を加える研究を行う。同時に、道徳教育の指導者としてふさわしい人材の育成を目指す。道徳とその教育について理解を深め、その指導の実践法を習得し、道徳教育の指導者としての資質を身につけることを目標としたい。	
教育職員養成課程科目　教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	教職入門	本授業は、多角的アプローチにより、教師および教育について学び、教育全般および教師の仕事について理解を深めることを目標とする。具体的には、今まで受けてきた中学・高校教育について考える、自分の中学校・高等学校について調べる、学校現場の様子を知る、自分の受けてきた学校教育から学ぶ（私の中学・高等学校の先生）、教育現場の話題（生徒に関わること・保護者に関わること）、学校制度、教員研修、入試改革、といった順で授業を進め、最終的に、学校教育全体に関する事項を総括したい。	
	教育の基礎理論に関する科目	教育原理	教育という文化的事象は、教育を規定する時代や社会、文化の要請に応えなければならない。しかし、教育はそれらに即応すべきものでもなく、それらを批判し、改善し、改革する、教育固有の論理、あるいは理論を備えなくてはならない。この教育の論理あるいは理論の解明と構築が、今日の教育状況を打開し、これからの教育にとっても不可欠になってくる。本講義は、このような問題意識に基づき、具体的な教育諸問題に可能な限り触れながら、教育の本質について考察し、理解を深める。	
		発達心理学	本授業では、フロイトやコールバーグの発達理論を参考にしつつ発達心理学的視点から、誕生から青年期に至る心理過程について解説する。また講義のなかで、心理学者のジャン・ピアジェが指摘したように「成人の精神構造は子供のそれを基礎として発展的に構築される」ことを理解し、大人の内なる幼子との対話は、自分自身の精神をより深く理解することにつながることを学んでいく。	
	教育の基礎理論に関する科目	教育制度論	本授業は、我国の教育制度について歴史的・社会的出来事との関連で講述し、教育の社会的、制度的、行政的な知識の習得をめざす。前半で学校教育を中心として明治以降の教育を辿り、我国の教育理念の歴史資料を用いて学習する。後半は、教育の制度的事項としての教育制度を主要諸外国と比較検討し、続けて教育の社会的な事項としての公教育とその具体的な表現である学校制度を考察し、そのなかで社会的・国家的な営みとしての教育行政の意義と内容について理解を深める。	
	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程論	教育課程の意味と意義を「カリキュラム」という語源から理解し、その上で教育課程の変遷を概観することで、その成果と問題点を整理していく。さらに、教育課程の編成原理、展開過程と評価についても理解を深める。教育実習を視野に置き、指導計画（授業案）を実際に作成するなど体験的な学びの時間も設けていく。	
		国語科教育法Ⅰ	国語科の教員を志望する学生が国語科教育の意義や学習指導要領等、国語科教育に関する重要事項等について学ぶための授業である。①国語科教育の意義について理解する、②高等学校学習指導要領（国語）の内容を理解する、③学習指導計画について理解する、④教材研究の方法を理解する、以上の4点を学習目標としたい。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教育職員養成課程科目　教職に関する科目	教育課程及び指導法に関する科目	国語科教育法Ⅱ	国語の教員を志望する学生が、高等学校の国語の授業の方法と実際について学び、実際に模擬授業を行う授業である。国語の教員としての教養を身につけるとともに、国語教育の課題についても考えさせる。①国語の授業を行うための知識を身につける、②実践的な国語の教授法を学ぶ､以上の2点を学習目標としたい。	
		国語科教育法Ⅲ	中学校国語科の教員を志望する学生が、国語科教育の目的や歴史ならびに、中学校国語科教育の内容および指導について学ぶ授業である。中学校の国語科の教員を目指すための重要事項を習得するとともに、国語の教員として必要な教養も身につけるように導く。①国語科教育の目的について理解し、説明できる、②中学校学習指導要領（国語）の内容を理解する、③中学校の国語の指導について理解する、以上の3点を学習目標としたい。	
		国語科教育法Ⅳ	国語の教員を志望する学生が、中学校の国語の授業の方法と実際について学び、実際に模擬授業を行う授業である。国語の教員としての教養を身につけるとともに、国語教育の課題についても考えさせる。①国語の授業を行うための知識を身につける、②実践的な国語の教授法を身につける、以上の2点を到達目標としたい。	
		英語科教育法Ⅰ	本授業は、英語科教育法の基本事項を、文献等を読み、ディスカッションをすることで、理論と実践面から理解を深めていくことを目的とする。①英語科教育の意識について理解する、②高等学校学習指導要領（英語）の内容を理解する、③学習指導計画について理解する、④教材研究の方法を理解する、以上の4点を到達目標とする。具体的には、教科書の分析、教科書の扱い、コミュニケーション英語基礎、英語表現、他の英語授業（学校設定科目・多読・速読）、帯学習（語彙・文法）、定期考査（筆記・リスニング）、といった順で授業を進めていく。	
		英語科教育法Ⅱ	本授業は、英語科教育法の基本事項を、文献等を読み、ディスカッションをすることで、理論と実践面から理解を深めていくことを目的とする。①英語の授業を行うための知識を身につける、② 実践的な英語の教授法を学ぶ、以上の2点を学習目標とする。具体的には、教科書・教材の選定、復習・導入活動の工夫、文法・文型導入活動の工夫、語彙指導、授業展開、定着活動、宿題（家庭学習）、指導案作成、マイクロティーチング（分詞・関係副詞・完了形・話法・仮定法）、高等学校の授業についての学びの総括、といった順で授業を進めていく。	
		英語科教育法Ⅲ	本授業は、英語科教育法の基本事項を、文献等を読み、ディスカッションをすることで、理論と実践面から理解を深めていくことを目的とする。①英語科教育の目的について理解し、説明できる、②中学校学習指導要領（英語）の内容を理解する、③ 中学校の英語の指導について理解する、以上の3点を学習目標に定める。具体的には、新旧学習指導要領の違い、教科書の分析、中学校の授業（導入・展開）、その他の英語学習（多読・資格試験対策）、定期考査（筆記・リスニング）、中学校の授業についての学びの総括、といった順で授業を展開させていきたい。	
		英語科教育法Ⅳ	本授業は、英語科教育法の基本事項を、文献等を読み、ディスカッションをすることで、理論と実践面から理解を深め、英語の授業を行うための知識、実践的な英語の教授法を身につけてることを目的とする。具体的には、アクティブ・ラーニング、ハンドアウト、英語で行う授業について、ALTとのteam teaching 、ICTを使った授業、長期的視野に立った授業計画の作成、1時間の授業計画の作成、評価について、マイクロティーチング（アルファベットの指導・be動詞の指導・一般動詞・受動態・関係代名詞）、中学校の授業についての学びの総括、といった順で授業を進めていきたい。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教育職員養成課程科目　教職に関する科目	教育課程及び指導法に関する科目	道徳教育の指導法	我が国の学校教育における道徳教育は、学校の全教育活動を通して行うことを原則とし、その教育活動全体で行う道徳教育を補充、深化、統合する目的で道徳の授業が設定されている。本講義では、こうした道徳教育の内容や諸問題について解説し、さらに道徳の授業の事例をもとに実際に検討を加える研究を行う。同時に、道徳教育の指導者としてふさわしい人材の育成を目指す。道徳とその教育について理解を深め、その指導の実践法を習得し、道徳教育の指導者としての資質を身につけることを目標としたい。	
		特別活動の指導法	学校教育の場で日常行われている学級活動（ホームルーム）、児童会・生徒会活動、学校行事といったものが特別活動である。いずれの活動も受講者には経験があるだろう。授業では、これら特別活動の意義をはじめ、目的や内容、集団指導における特別活動の機能等の基礎理論について、実践例を取り上げながら学び、理解することをねらいとする。特別活動（学級活動、生徒会活動、学校行事）の目的、内容、問題点、そして指導法を理解し、実際的場面で実践できる基本的能力を身につけることを目標とする。	
		教育方法・技術	学校現場の教育改善に資する教育方法・技術の知見について事例等を基に学び、受講者各自が教育実践において活かせることを目標とする。また、学校での教育活動を研究、開発する際に必要となる基礎的な知識や考え方、特に子どもの学びを授業において成り立たせる条件を、授業の構想、実践、反省・評価、教材・教育情報機器の活用などといった視点から考察できるようになることも目指す。教育方法・技術および学習理論の習得と、これらを活かした授業構成力を身につけることを目標としたい。	
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導論 (進路指導を含む)	授業で得た新たな知見が教職を目指す受講生の力量形成の一助となることを主眼に置き、生徒指導の意義と役割、さらには指導機能が働く実際的な場面と諸問題について実践例を取り上げながらできる限り詳細かつ具体的に解説し、理解を深めていく。生徒指導の知識及び理論の理解と、実際的場面で用いられる児童理解の方法、個別指導の方法等といった実践的能力を身につけることを目標とする。	
		カウンセリング論	本授業はカウンセリングの基礎知識を学ぶことが目的である。具体的には、①カウンセリングの定義と意義、②カウンセリングの歴史、③カウンセリング法、④カウンセリングの理論、⑤カウンセラーの資質と姿勢などについて理解を深めたうえで、教育現場における教育相談の目的・体制・機会等についても修得していく。	
	教職実践演習	教職実践演習（中・高）	本授業は、これまでの教職課程で身につけたこと、課題であることを明らかにして、不足している知識や技能等を演習等により補い、定着を図ることにより、教員として最小限必要な資質能力を身につけることが目的である。教員として求められる４つの事項―①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項②社会性や対人関係能力に関する事項③生徒理解や学級経営等に関する事項④教科等の指導力に関する事項―を身につけるために、ロールプレイング、事例研究、現地調査、模擬授業など演習を中心とした授業を行う。１２回目、１３回目におこなう教科指導力（模擬授業）については国語（古典）三田・（現代文）松村、英語中野が行う。	共同
	教育実習	教育実習指導	本授業は、次年度教育実習に行く前段階として、教員に必要な識見、態度、技能を得るための学習を行う。具体的には、教師に求められる資質能力、中学生とは（中学生の実態）、高校生とは（高校生の実態）、駒沢学園女子中学・高等学校見学の準備（生活指導・教科指導）、中学校の立場、高等学校の立場、教職の素晴らしさ、教材研究と授業構想、教材研究の意義、学習指導案、指導案の問題点、指導案の見直し、教育実習授業後の反省、教育実習授業後の自己研鑽課題、といった内容で授業を進めていく。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する科目	教育実習	教育実習Ⅰ（中学校）	国語科・英語科の教員に必要な識見、態度、技能を得るために実際に中学校あるいは高等学校で教員生活を実習体験する。実際の教育現場における体験をとおし、教師として必要な教科の専門的知識、教える技能、態度、教育の現場での実践力等を修得することを目標とする。	
		教育実習Ⅱ（高等学校）	国語科・英語科の教員に必要な識見、態度、技能を得るために実際に中学校あるいは高等学校で教員生活を実習体験する。実際の教育現場における体験をとおし、教師として必要な教科の専門的知識、教える技能、態度、教育の現場での実践力等を修得することを目標とする。	
教育職員養成課程科目 教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目	日本国憲法	日本国憲法Ⅰ	日本国憲法とは、日本国のあり方を定めた基本法を意味する。本授業では、第二次世界大戦後に定められた憲法の基本的な仕組みを歴史的に検証する。その上で、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」という3つの柱について、急がずに具体例を踏まえつつ理解を深めていく。日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標とします。	
		日本国憲法Ⅱ	現在の日本国憲法は、戦前に対する深い反省の下で制定された。一人ひとりの国民を人格の担い手として尊重するために、憲法は国家の政治のあり方を定めている。この授業では、国家統治の仕組みを中心に学び、現在憲法をめぐって議論されている問題点についても触れていく。日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標とする。	
	体育	スポーツⅠ	健康・体力づくりは、国民全体の大きな課題となっている。この科目は、継続できる身体運動（テニスとリラックスヨガ）を選択しながら、健康志向への動機付けを図り、実践に関する知識や技術を得ると共に、その方法を自分自身に当てはめ、応用展開する能力を体験することを目標とする。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。	
		スポーツⅡ	健康・体力づくりは、国民全体の大きな課題となっている。この科目は、継続できる身体運動（バドミントンとゆがみ修正体操）を選択しながら、健康志向への動機付けを図り、実践に関する知識や技術を得ると共に、その方法を自分自身に当てはめ、応用展開する能力を体験することを目標とする。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。	
	外国語コミュニケーション	英会話Ⅰ	（英文）This course will focus primarily on improving students' speaking and listening skills, with some reading and writing, as well. Natural and current forms of conversation will be covered with an emphasis on improving students' pronunciation, intonation and fluency. Real world topics will be provided and students will be given language structures that will help them in a variety of real life situations. Through a combination of pair and group work, students will be given multiple activities to help them become confident in using the target conversational structures. （和訳）主にスピーキング力とリスニング力の向上を目指す授業である。 本講義では発音・抑揚の改善と流暢さに重点を置いて指導を行う。実際にメディアで取り上げられた英文を材料として使用することで、より現実に近い場面での学習ができるように工夫する。できるだけペアワークやグループワークを取り入れ、学生たちが積極的に学習できるような機会を提供する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教育職員養成課程科目 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	外国語コミュニケーション	英会話Ⅱ	（英文）This course will continue where English Conversation Ⅰ left off and continue to strengthen students' communication skills in English. Students will learn confirmation and clarification conversation strategies. Specific attention will be given to developing active knowledge of colloquial English and the ability to interact on a variety of popular and current conversational topics. Real world media will be used as a springboard for meaningful exchange. Interactive structures relative to communicating in modern English will be provided and students will be given opportunities to practice their learning with each other through a variety of communicative tasks. （和訳）「英会話Ⅰ」の学習を踏まえ、英語によるコミュニケーションスキルを強化することを目指す。学生は「確認」や「明確化」という会話の仕方を学ぶ。本講義では口語表現の学習と様々なトピックについて前向きに考えることに重点を置いて指導を行う。実際にメディアで取り上げられた英文を材料として使用することで、より現実に近い場面での学習ができるように工夫する。学生たちが相互に関わり合いながら積極的に学習できるような機会を提供する。	
	情報機器の操作	コンピュータ演習Ⅰ	本授業は、高度情報社会における情報収集やその処理の基礎を学ぶことを目的とする。具体的には、諸々の検定を指標としたレベル設定（ビジネスの現場において基礎的な文書処理ができる程度）を行い、情報通信技術（ICT）を使いこなすための知識と実技演習を中心に授業を進めていく。本授業では、文書作成、レイアウト作成、作表、作図、表計算などの技能を必要とする基本的なビジネス文書作成を繰返して実践的な演習を行う。	
		コンピュータ演習Ⅱ	本授業の目標は、「コンピュータ演習Ⅰ」で身に付けたスキル（ビジネスの現場において基礎的な文書処理が行える程度）を確認しつつ、さらに発展させることにある。具体的には、「Microsoft Office Specialist」に沿ってビジネスの現場で応用できる基本的な情報処理能力を身につけることを目標に、さらに実践的な演習を行う。併せて、プレゼンテーション技術として情報発信能力を高める表現力を身につける。	
学校図書館司書教諭課程科目	講習規定に定める科目	学校経営と学校図書館	学校図書館は、学校の中で行われるすべての教育活動に関わりを持っている。司書教諭は、学校図書館運営の中核となり教育活動において学校図書館活用のリーダーとなることを求められている。本講座では、①司書教諭として活動する際に必要な基本的な知識（学校図書館の役割・機能・活動など）の理解、②司書教諭による学校図書館利活用指導の実際、以上の2点に重点を置き学習を進めていきたい。司書教諭として教育目標に合わせた年間指導計画をたてることができるようになることを目標とする。	
		学校図書館メディアの構成	学校図書館は、児童・生徒に読書教材を提供する読書センターとしての役割だけではなく、学習情報センター・教材センターとしての役割も担っていかなければならない。そのためには、適切なメディアの選択・組織化が不可欠である。本授業では、学校図書館におけるコレクション形成がいかにあるべきかを探っていく。多様なメディアの種類と管理方法を学び、司書教諭として組織化を行える実務的な能力を習得すること、学校図書館におけるコレクション形成のあるべき姿を、自分で描き出せる力を身につけることを目標とする。	
		読書と豊かな人間性	近年、子どもの読書活動を推進する動きが活発になっている。特に学校で行われる読書活動が重要視され、各学校種において多様な取り組みが行われている。子どもの読書活動を取りまく現状（家庭・地域・学校）をふまえつつ、それに対応して司書教諭の役割を考え、教養の育成と豊かな人間性の涵養を目指す。そのために読書のアニマシオンやビブリオバトル等の作成を行う。学校図書館司書教諭として、児童・生徒に読書を勧めるための、ブックトークや読書のアニマシオン等の方法を身につけることを目標としたい。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学校図書館司書教諭課程科目	講習規定に定める科目	学習指導と学校図書館	本講義は、学校教育における学校図書館の「学習情報センター」としての役割を理解し、教科の学習指導をどう支援するかを学ぶことを目的とする。具体的には、学校図書館における生徒の主体的な情報活用能力の育成、担任や教科教諭と連携して行う司書教諭の活動について解説する。そのうえで、レファレンス・サービスや生徒や教員に対して行うべき学校図書館の学習支援活動を模擬体験してみたい。学校図書館司書教諭として、情報活動指導計画を作成し、学習指導を支援する方法（ブックリスト・パスファインダー等）を身につけることを目標としたい。	
		情報メディアの活用	電子機器を使うことが日常化している今日、情報メディアに関連した事件や被害の低年齢化が大きな社会問題となっている。本講義は、このような状況をふまえ、情報メディアを活用する際にどのようなことを意識しなければならないのかを教授すると同時に、快適にインターネットを使うためのノウハウやセキュリティについても学習する。情報メディアの特性や高度情報社会における情報と人間とのかかわりについて考え、学校図書館司書教諭過程取得に向けた多様な情報メディアの特性と活用方法が理解できるようになることを目標としたい。	
博物館学芸員養成課程科目	省令必修科目	生涯学習論Ⅰ	生涯学習に興味・関心がある学生を対象に、生涯学習の意義や目的、歴史や基礎理論、生涯学習の内容や方法を概説する。生涯学習には、「学びたい」ことだけではなく、「学ばなければいけないこと」も含まれている。本授業における到達目標として、①生涯学習の意義や目的を理解し、生涯学習を支える者の役割を充分に自覚する、②生涯学習の歴史（誕生と展開）を理解・説明することができる、③生涯学習を支える基礎理論を理解・説明することができる、④生涯学習の内容や方法を理解・説明することができる、以上の4点をあげる。	
		博物館概論	現代社会において、教育・文化施設である博物館の果たす役割は大きい。本講義は、博物館に関する基礎的知識を習得することを目的とする。生涯学習社会へと移行する中で、博物館の基本を身に付け、博物館に課された役割について考えることで、専門への導入教育としたい。博物館について、存在意義にかかわる本質的な問題、歴史的な歩み、現状と課題、といった観点から概要を説明したあと、国内外の博物館の事例を紹介する。さらに、現実的な立場から、学芸員に何が求められているかについて、理解できるように授業を進めていく。	
		博物館資料論	本講義は、博物館資料の収集、整理保管、情報管理の方法等、理論と知識を含めた、資料に対する基本的な能力を養うことを目標とする。合わせて、考古・民族・美術・歴史・自然史資料等、具体的な資料の特性に即しながら、資料の取り扱いの実際について学んでいく。博物館資料に対する基本的な考え方を講じたあと、資料の収集・整理・活用、一次資料と二次資料、デジタル資料等について解説する。また、博物館では資料を通した調査研究活動がいかに行われているのか、具体例をあげながら説明する。	
		博物館展示論	本講義は、歴史的観点、意味論（教育論）的観点から博物館の展示について解説し、また具体的事例、あるいは特定の展示を想定しながら展示の組み立て方やデザインの仕方等を講じることで、博物館展示の基本を学ぶことを目的とする。博物館の展示が社会的にどのような意味を持つのか、展示の意義や実態を一般論として学んだあと、展示資料の分類、展示資料の選定、展示の設計、配置計画、導線計画、解説パネル文章作成、広報手段等、展示全般を想定した講義をする。	
		博物館資料保存論	本講義は、博物館における資料保存の基本を講じることを目的とする。展示環境、収蔵環境を科学的にとらえ、資料を良好な状態で次の世代に引き継いでいくための知識を習得することで、資料の保存が、博物館の文化活動においていかに大切なことかを学ぶ。資料保存の意義、資料の現状調査、資料の修理と修復、資料の梱包と輸送、資料の保存環境（劣化条件・災害・総合的有害生物管理･･･）、環境保護と博物館の役割等について講じる。具体的な施設を事例としながら、資料保存の問題について総合的に考えていきたい。	
		博物館経営論	本講義は、博物館の使命と組織形態、及び実際の管理運営の方法について、具体的事例を通して学び、博物館を経営すること（ミュージアム・マネジメント）の基礎的能力を養うことを目的とする。博物館経営の基盤となる、博物館行政制度、博物館の財務、施設設備、組織と職員等について学んだあと、博物館経営の使命と評価、マーケティングとパブリシティ活動、地域社会と博物館等、博物館経営の実際について授業を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	省令必修科目	博物館教育論	本講義は、博物館における教育活動の重要性を理解させることをねらいとする。授業では、具体的な事例を示しながら、教育活動の基礎となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館教育に関する基礎的な能力が身に付くよう配慮する。博物館教育の理論的側面として、生涯教育の場、人材養成の場、地域教育の場、文化情報リテラシー教育の場等の視点から解説する。そのあと、博物館の利用と学びの実際について、心理的効果、教育的効果、教育活動等の内容を事例をあげながら講義する。	
		博物館情報・メディア論	本講義は、博物館における情報の意義と活用方法、情報発信の課題等について、ソフト面、ハード面ともに理解し、博物館の情報提供と活用に関する基礎的能力を養うことをねらいとする。博物館における情報・メディアの歴史と意義、博物館活動と情報ネット化の現状を踏まえ、博物館におけるデジタル情報発信の基本をネット実習等を交えて教授する。さらに、著作権や個人情報等、博物館の知的財産に関しての理解を深める。	
		博物館実習A （見学実習）	博物館実習A（見学実習）は、博物館の実態や展示の仕方を学ぶという観点から、さまざまな博物館を見学し、他の博物館に関する科目で習得した知識を深めることを目的とする。見学は、教員が引率するものと、学生が単独で訪れるものがある。どちらの見学でも、特定のテーマ（展示物の配置、照明と採光、展示資料の解説等）を設定したレポートを課す。また、見学に訪れた博物館の学芸員から直接話を聞くことにより、学芸員の仕事とはどのようなものかについても、理解を深める。	共同
		博物館実習B （実務実習）	博物館実習B（実務実習）は、博物館における館園実習の準備と他の博物館に関する科目の補足を兼ねて、学内の実習施設等において、資料の取り扱いや収集・保管・展示・整理・分類等の方法、調査研究の手法等について学ぶことを目的とする。館園実習では、博物館が所蔵する資料や展示物に直接触れるため、事前に学内において、資料の取り扱いに関する注意点を十分理解するとともに、資料や展示物に触れる際に必要な技術や方法論を身につける。	共同
		博物館実習C （館園実習）	博物館実習C（館園実習）は、学内実習で学んだ内容を博物館の現場で実際に経験することで、博物館の理念や設置目的、業務の流れ等に対する理解を深めると同時に、博物館資料の取り扱いや収集・保管・展示・整理・調査研究・教育普及活動、来館者対応等の実務の一端を担うことにより、学芸員としての責任感や社会意識を身につけ、学芸員としての心構えを涵養することを目的とする。また、事前には実習に当たっての心構え等について、事後には実習の反省・自己評価等をもとに課題解決のための指導を実施する。	共同
	基礎選択必修科目	日本美術史	本講義は、日本の原始から現代に至る日本美術の展開について、各時代別にテーマを設定し、日本美術史上の名品を軸に、日本美術の基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、絵画・彫刻・工芸の美術品を軸に日本美術の歴史について解説する。この学びを通じて、信仰・各種儀式から生み出された美、建築や工芸にみる多様なデザインなど、日本美術の特徴、さらに日本の美意識に大きな影響を与えた海外文化など、広くその特質を考察する。	
		西洋文化史	ヨーロッパ文化の特質とその流れを、ビデオやスライドを多用して概観し、一つの文化の成長から衰退までの経緯を研究する。さらに、日記、手紙、装飾品や日常の必需品などの多岐にわたるモノを通して、ヨーロッパ各地の人々の生活と考え方を知る。本講義では、古代世界（古代ギリシア文化）からヨーロッパ文化の基層を形成した中世、その結実としてのルネサンスまでを扱う。西洋文化の歴史的な展開についての基本的な知識を把握することを目標とする。	
		日本文化史Ⅰ	本講義は、日本の文化に関する歴史を総合的に学び、日本人の文化に対する価値観や個々の文化事象について基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、古代から近現代に至る文化史を学びつつ、それぞれの時代における文化的特徴について考察する。また風土論についても側面的に学習する。なお、海外から評価されるさまざまな日本の文化や世界遺産などについても学び、社会人として理解しておくべき実践的な日本文化学を修得する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 人間文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	基礎選択必修科目	日本文化史Ⅱ	本講義は、日本の芸能の歴史に関する基礎知識を学びながら、日本文化における芸術と技芸の全体像を把握すること目的とする。具体的には、神楽、能、文楽、歌舞伎などの日本を代表する演劇をはじめ、映画・歌謡・舞踊・落語などのさまざまな芸能文化について解説する。また必要に応じて映像や音楽の鑑賞を行い、伝統的な古典芸能とともに、現代の新しい芸能文化についても幅広く学ぶ。なお、大学の地元である稲城市の里神楽について知り、身近な日本の伝統芸能についても親しむ。	
		地域文化概論	本講義は、地域社会に残された文化財から地域社会で営まれてきた人々の暮らしに関する知識を修得することを目的とする。具体的には、石造物、祭礼、年中行事など、地域に残された人々の暮らしの痕跡から見えてくる地域文化について解説する。この学びを通じて、教科書や年表には登場しない普通の人々の暮らしが基となって私たちの生活文化が形成されていることを学習する。さらに人々の暮らしにおいて大きな影響力を持っていた寺社を通して見えてくる地域社会の新たな側面など、地域文化の面白さについても学習する。	
		世界遺産研究	現在を生きる世界中の人々が過去から現在に引き継ぎ、未来へと伝える責務を負う人類共通の財産である世界遺産について、1972年にユネスコ総会で採択された世界遺産条約に記されている定義、世界遺産の種類、登録の基準と手続きなど基本的な理解を深めるとともに、DVDで登録されている世界遺産を鑑賞する。また、「危機遺産」の調査を通じて、世界遺産活動の現状と課題を考える。	
		世界のミュージアム	ヨーロッパとアメリカ各地の著名なミュージアムの成立過程とその収蔵品を中心に、ビデオやスライド等の映像資料を多用して、各館の特徴を解説する。次に、収蔵品の中からよく知られた作品を数点選んで、その文化的価値について詳細に検討を加え、展示方法・作品の魅力、問題点を探る。最終的には観光文化資源としての欧米のミュージアムの特徴を学び、ミュージアムの成立過程を研究することにより、当該地の文化と歴史を把握する。 (オムニバス方式／全15回) (26 羽鳥修・28 糟谷惠次・27 加藤ナツ子／1回)（共同） 海外におけるミュージアムの役割についてそれぞれの立場から概要を述べる。 (26 羽鳥修／5回) アメリカ合衆国の主要なミュージアムを紹介する。 (28 糟谷惠次／5回) ドイツ、オーストリアの主要なミュージアムを紹介する。 (27 加藤ナツ子／4回) スペインの主要なミュージアムを紹介する。	オムニバス方式 共同(一部)
		日本のミュージアム	観光資源の観点から日本各地の著名なミュージアムの成立過程とその収蔵品を中心に、ビデオやスライド等の映像資料を多用して、その館の特徴を解説する。次に、収蔵品の中からよく知られた作品を数点選び、その価値について検討を加え、その魅力を探る。さらに、各ミュージアムが現在抱える問題を取り上げ、解決策を考察する。最終的には個々の館の垣根を越えたミュージアムを巡る観光ツアープランを計画する。	

授　業　科　目　の　概　要 （人間総合学群 人間文化学類）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	基礎選択必修科目	西洋美術の旅Ⅰ	古代エジプト、ギリシア、ローマ、中世ロマネスク、ゴシックから16世紀ルネサンスまでの西洋美術の流れを多くのスライドやビデオ等によって概観しながら、各時代と各地の特徴を捉える。また作品の鑑賞等をおこなうことによって、西洋美術の様式的な特質と画家や彫刻家たちの個性を探求しながら、一点の作品の背後に隠された依頼者と確執を明らかにする。最終的には西洋美術の基本的な知識を習得し、著名な作品とその作者の特質を把握する。	
		西洋美術の旅Ⅱ	17世紀から20世紀までの西洋美術の流れをスライドやビデオによって概観しながら、各時代と各地の特徴を捉える。また作品の鑑賞と対比によって、西洋美術の様式的な特質と画家や彫刻家たちの個性を探求する。対象とするのは、バロック様式と17世紀様式の類似と相違、18世紀ロココ様式、18世紀後半からの新古典様式とロマン主義様式の対比、19世紀後半からの印象主義とそれ以降のフォヴィズムとキュビズムの展開、20世紀後半の多様化する西洋美術までの特徴を明らかにする。	
	専攻選択必修科目	日本の文化財Ⅰ	本講義は、日本における文化財保護の状況と代表的な文化財について概説し、日本の文化財に関する基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、近代以降の欧米社会との関わりを視野に入れながら、日本の近代化と文化財保護の歩みについて学習し、博物館の果たしてきた役割や、日本の代表的な文化財の特質を考察し、文化財の鑑賞・調査方法についての基礎を学習する。	
		日本の文化財Ⅱ	本講義は、日本の文化財Ⅰでの学びを基に、日本の文化財に関する知識を深めることを目的とする。具体的には、文化財保護法によって指定された文化財の概要と、日本を代表する有形文化財（建造物・美術工芸品）・無形文化財・民俗文化財・記念物・文化的景観・伝統的建造物群保存地区・選定保存技術・埋蔵文化財等の基礎知識を学び、近年注目されている世界遺産、世界無形文化遺産の概要と課題点など、現代社会と文化財の関わりについて学習する。	
		歴史資料論	本講義は、日本文化を学ぶ上で基本となる歴史資料について概説し、その読解、調査、整理を行うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、古代から近代までの代表的な古文書、古記録等の文献資料、絵図、考古資料等の概要を学び、近世以降の古文書等の原本史料の読解方法、調査・整理方法について学習する。なお必要に応じて、学外の博物館・資料館に行き、原本史料を閲覧・調査し、歴史資料を扱うための実践的な学習を行う。	
		民俗資料論	本講義は、日本文化を学ぶ上で基本となる有形・無形の民俗資料について概説し、その読解、調査、整理を行うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、地域文化を理解するために有益な風習・伝説・信仰・芸能・民具等の民俗資料について解説し、学内外での実習を通して、稲城市およびその周辺地域に伝承されてきた民俗資料を事例として取り扱いながら、これらの収集・調査・分類・整理・保存のための方法を実践的に学習する。	
		歴史考古学	本講義は、中世から近代までの歴史について考古学の視点から概説し、考古学を通史的に見据える視点を養うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、城郭、宗教、交通、生活、戦争等に関する中世から近代までの考古学の成果について解説し、中世から近代までの歴史研究における考古学の可能性について学習する。さらに、歴史研究だけでなく、民俗学をはじめとする諸分野との関わりについても理解を深め、多角的に考えるための力を養う。	
		歴史地理学	本講義は、産業と人びとのくらしについて、歴史的特徴だけでなく、地域的特徴も視野に入れ見据える視点を養うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、衣食住の世界だけでなく、地域の産業とくらしについて、それを支える人々を含めて、通史的、立体的な歴史像、地域像について学習し、新たな歴史観、地域観の可能性について学習する。この学びを通じて、地域から文化や歴史を多角的に調査、研究するための基礎知識を修得する。	

授　業　科　目　の　概　要				
（人間総合学群 人間文化学類）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	専攻選択必修科目	文化交流史Ⅰ	本講義は、日本と海外の交流の歴史について、その歴史的特質を考察することを目的とする。具体的には、縄文時代から平安時代までの日本と諸外国との交流の事例を取り上げ、海外文化を取捨選択しながら主体的に受容した社会的背景や意義についての歴史的変遷とその特徴について学習する。この学びを通じて、国際交流の中で形作られてきた日本文化の意義や、日本文化が海外からどのように理解されてきたのかなどについて考察する。	
		文化交流史Ⅱ	本講義は、日本と海外の交流の歴史について、その歴史的特質を考察することを目的とする。具体的には、平安・鎌倉時代から幕末までの日本と諸外国との交流の歴史を振り返り、海外文化を取捨選択しながら主体的に受容した社会的背景や意義についての歴史的変遷とその特徴について学習する。この学びを通じて、国際交流の中で形作られてきた日本文化の意義、日本文化が海外からどのように理解されてきたのかについて考察する。	

（注）
1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。
2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	初年次教育科目	基礎ゼミⅠ	大学におけるさまざまなタイプの授業に対応するための基礎的な学習方法を学ぶ。受け身の態度で講義に臨むのではなく、自ら問題意識を持って講義に参加し、さまざまな課題に対して主体的に取り組む姿勢を養う。少人数クラスでの対話を通じて、大学でなにを学ぶか、どのような大学生活を過ごすかを考え、学生ひとりひとりが自分の目的を発見する手助けをする。また、本の読み方、講義の聞き方、講義録のとり方、意見発表の仕方等を考えさせる。	
		基礎ゼミⅡ	基礎ゼミⅠに引き続き、大学生活と大学での学びを充実させるための技術と姿勢を養う。自分で調べ、それらを整理し、他者に的確に伝えるための技術の習熟を目指し、さらに、自己について理解と認識を深めることも目標とする。ゼミは、基本的に、参加学生の主体的な参加と、相互の積極的な意見交換によって進められる。個々のテーマをめぐって発表したり議論したりすることを通して、大学で学ぶことの意義について理解を深める。	
	建学の精神を学ぶ科目	仏教学Ⅰ	本講義は、建学の精神を学ぶための基礎として仏教の開祖、ゴータマ・ブッダの生涯とその教えを知り、仏教学および宗教学に関する基本的な知識をひろく修得することを目的とする。具体的にはインドをはじめとするアジアの歴史的・文化的背景をふまえながら、歴史上の人物としてのゴータマ・ブッダの生涯と思想について解説する。またこれらに基づいて現代に継承された仏教行事や、仏教に由来する年中行事の文化的事象についても学習する。なお照心館の坐禅堂にて2回程度の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	
		仏教学Ⅱ	本講義は、建学の精神を学ぶための基礎として曹洞宗の開祖、道元禅師の生涯とその教えを知り、仏教学および宗教学に関する基本的な知識をひろく修得することを目的とする。具体的には仏教学Ⅰにおける学びに基づき、鎌倉時代を中心として日本の歴史的・文化的背景をふまえながら、歴史上の人物としての道元禅師の生涯と思想について解説する。また現代に継承された仏教行事や禅宗の文化的事象、さらには禅の哲学や思想についても学習する。なお照心館の坐禅堂にて2回程度の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	
		仏教学Ⅲ	本講義は、建学の精神を学ぶための発展的学修として日本仏教の歴史とその教えを知り、仏教学および宗教学に関する教養や知識をひろく修得することを目的とする。具体的には仏教学Ⅰ・Ⅱにおける学びに基づき、鎌倉時代を中心として日本の歴史的・文化的背景をふまえながら、日本仏教史における各宗派について概説する。また現代に継承された仏教行事や禅宗の文化的事象、さらには禅の哲学や思想についても学習する。なお照心館の坐禅堂にて2回程度の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	
		仏教学Ⅳ	本講義は、建学の精神を学ぶための発展的学修として禅の歴史とその教えを知り、仏教学および宗教学に関する教養や知識をひろく修得することを目的とする。具体的には仏教学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおける学びに基づき、日本の禅宗文化に関する歴史的・文化的背景をふまえながら、禅宗史や曹洞宗の歴史上の人物について概説する。また現代に継承された仏教行事や禅宗の文化的事象、さらには禅の哲学や思想についても学習する。なお照心館の坐禅堂にて2回程度の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	建学の精神を学ぶ科目	駒沢女子大学入門	（概要）本講義は、駒沢女子大学の学園創立以来の歩み、本学の教育の特色などを学ぶことによって、駒沢女子大学の学生としてのアイデンティティーを確立させることを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （ 8　光田督良／1回） 建学の精神をふまえた駒沢女子大学の教育理念と教育の特色と題して、テーラーメイド教育、ミッション、教育力、学位授与の方針などについての講義を行う。 （18　佐々木俊道／2回） 駒沢女子大学の1年と題して、学燈会、花まつり、追善記念日、成道会と摂心会、誕生記念日、涅槃会と針供養などについての講義を行う。 （26　千葉公慈／2回） 駒沢女子大学の歩みと校歌・校章と題して、校歌の成立過程、歌詞の内容、解釈などについての講義を行う。校歌をCDで聴かせ周知を図る。 （14　安藤嘉則／2回） 創立者、山上曹源先生の生涯と教育理念と題し、学園の歴史に即しながら山上先生の教えについて講義を行う。合わせて明治初頭の日本の様子も紹介する。 （32　皆川義孝／4回） 前半は稲城の自然と歴史、稲城の文化財について紹介したうえで、近隣の高勝寺、三沢川などを散策することで理解を深める。後半は駒沢学園の歩みを草創期から戦前、戦後から現在に分けて講義を行う。学園内の施設や裏山を歩くことで本学に対する愛着を高める。 （18　佐々木俊道・26　千葉公慈・14　安藤嘉則・32　皆川義孝・43　石川創／4回）（共同） 駒沢女子大学の学生としてのアイデンティティを確立させるため、これまでの学修の振り返りをグループに分かれて行い、また学修結果の確認作業として「駒女検定」を実施する。	オムニバス方式 共同（一部）
	入門科目	日本文化入門Ⅰ	本講義では、言語・文学・思想・風習など多岐にわたる日本文化について、広く基礎知識を習得し、日本文化の専門的学習に必要不可欠な教養を学習する。具体的には、日本文化を生み出す土壌となった、日常生活やその周辺における身近な文化事象である衣・食・住について解説し、さらにこれらを育んできた日本人の精神についても学習する。この学びを通じて、日本文化にこめられた意味と、現代的意義、そして未来への継承を考えるための基礎力を身につける。	共同
		日本文化入門Ⅱ	本講義では、言語・文学・思想・風習など多岐にわたる日本文化について、広く基礎知識を習得し、日本文化の専門的学習に必要不可欠な教養を学習する。具体的には、自然の中に神を見出し、祭祀・儀礼・芸能などの文化を生み出す土壌となった、日本の多彩な風土について解説し、そこに根ざした特色ある生活文化の歴史について学習する。この学びを通じて、日本文化にこめられた意味と、現代的意義、そして未来への継承を考えるための基礎力を身につける。	共同

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	入門科目	人間関係入門Ⅰ	（概要）人間存在の本質や、人びとが営む文化活動、人びとどうしのコミュニケーションに対して、人文科学・社会科学の諸学問（心理学、社会学、身体文化論、メディア研究、国際社会論など）は、再帰的・反省的・複眼的な視座を提供する。これらの諸学問に関心を寄せる学生を対象に、それぞれの学的アプローチのエッセンスを紹介する。各分野・手法の特徴と魅力について概括的な理解をつかむことを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （46 倉住友恵／5回） 心理学の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。 （40 大貫恵佳／5回） 社会学の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。 （24 田澤秀司／5回） 企画・表現研究の視座と研究対象について具体例を交えながら解説する。	オムニバス方式
		人間関係入門Ⅱ	（概要）人間関係入門Ⅰに引き続いて、人間関係に関連する諸学問（心理学、社会学、身体文化論、メディア研究、国際社会論など）に関心を寄せる学生を対象に、それぞれの学的アプローチのエッセンスを紹介する。各分野・手法の特徴と魅力について概括的な理解をつかむことを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （27 石田かおり／5回） 身体文化論の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。 （13 臼井実稲子／5回） 国際関係論の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。 （31 榎本環／5回） 社会学の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。	オムニバス方式
		英語コミュニケーション入門Ⅰ	会話、語彙力テスト、多読、英語日記等の活動を通し、基礎的な英語運用能力を養うとともに、振り返りを行い、自律的学習態度を育成する。1人の英語ネイティヴ教員が少人数グループカンバセーション、マンツーマンカンバセーションを担当し、キーワードやキーセンテンスの確認、定着を図る。録音した会話内容を再聴し、発音や表現のミスに気付かせる。2人の日本人教員が個別指導時間を設定し、個々の学習効果を高めるための指導を行う。学生は授業外で個別指導に沿った学習法を実践し、翌週の授業で実践内容を確認する。	共同
		英語コミュニケーション入門Ⅱ	英語コミュニケーション入門Ⅰに引き続き、同様の活動を行い、基礎的な英語運用能力を養う。振り返りを通し、自律的学習態度を育成する。1人の英語ネイティヴ教員が少人数グループカンバセーション、マンツーマンカンバセーションを担当し、キーワードやキーセンテンスの確認、定着を図る。録音した会話内容を再聴し、発音や表現のミスに気付かせる。2人の日本人教員が個別指導時間を設定し、個々の学習効果を高めるための指導を行う。学生は授業外で個別指導に沿った学習法を実践し、翌週の授業で実践内容を確認する。	共同
		観光文化入門Ⅰ	観光は人々の余暇活動の中心的位置を占めており、今後高齢化社会が進展し、生活の豊かさが求められる中で、観光の果たす役割はますます大きくなっていくと思われる。また、「観光立国」が推進されている現在、観光が国の経済や文化・国民の生活にもたらす効果も高まってきている。この授業では、観光の意義を考え、わが国の重要産業の一つとして成長した観光に関わる基本的な事項を広く学び、現在観光ビジネス分野で起きている問題や将来の課題を正しく理解する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	入門科目		観光文化入門Ⅱ	観光事業とは、経済面のみならず、文化面・社会面など公共性の高い多様な側面で行われる活動を含む、観光に関わる事業を言い、「観光の意義・効果を高め、観光という社会的な現象を盛んにしようとする様々な活動」という概念を持っている。このような前提に立って、観光事業の意義を理解し、観光を構成する観光者・観光対象・観光媒体・観光行政という４つの要素から観光事業について具体的に考察する。また、観光産業を支える旅行・交通運輸・宿泊の３事業を中心に、観光産業の現状を理解し、今後の課題についても考察する。	
			心理学入門Ⅰ	心理学は、観察・実験・調査等の方法によって一般法則の探求を推し進める基礎心理学と、基礎心理学の知見を活かして現実生活上の問題の解決や改善に寄与することを目指す応用心理学に大別されるが、本授業では前者を柱とした授業を行う。心理学の成立過程という歴史的視点と、こころを理解するための感覚・知覚、学習、記憶、認知、情動といった基礎的な知識を教授する。それらを通じて、心理学を学ぶ意義を理解させる。	
			心理学入門Ⅱ	心理学の基礎Ⅰで学んだ基礎的知識を踏まえた上で、心理学が社会生活の中でどのように生かされているのか、教育・医療・福祉・司法・産業などの領域に焦点を当てる。出来る限り具体例を交えながら解説するとともに適宜レポートを課していく。また、心理学の研究領域は学際的であり、隣接する他の学問との相互連携が不可欠であるため、必要な知識や心構えなどについても言及する。	
			住空間デザイン入門Ⅰ	住まいやくらしの環境について理解するための基本的な知識を養い、建築・インテリアからものづくり（家具、陶器、織物）までをトータルにデザインする「リビングデザイン」について学ぶ。また、見学会や共同作業などの実践の場を通してデザインの基礎を学び、自分の考えを表現する力や人に伝達する力、批判する力を身につけることを目的とする。	共同
			住空間デザイン入門Ⅱ	住まいやくらしの環境を総合的に捉え、建築・インテリアからものづくり（家具、陶器、織物）までをトータルにデザインする「リビングデザイン」について幅広く客観的な視点から学ぶ。また、見学会や共同作業などの実践の場を通してデザインの基礎を学び、自分の考えを表現する力や人に伝達する力、批判する力を身につけることを目的とする。	共同
	教養知科目	人間を学ぶ科目	人間と思想Ⅰ	人間とはどのような存在なのか、人間の本質はどのようなものなのかを考察することが本授業の目的である。ギリシア、ヘレニズム、原始キリスト教から中世ルネサンスまでの哲学的知識を紹介し、学んだ学説や概念を使って、現代的な問題についての考察、演習問題を行う。考える材料として西洋哲学を歴史的に学び、かつ現代社会の情報を踏まえつつ、学生が自分で考察ができるようになることを達成目標とする。	
			人間と思想Ⅱ	近代以降の西洋哲学についての知識を深めつつ、人間はどのような存在として考えられてきたかということを考察する。倫理や道徳に関する現代的なテーマについてもとりあげて、知識を増やし、哲学的知識を実践で役立てる方法を講義する。哲学史を覚えるだけでなく、その知識を活用して、現代社会における様々な事象や社会問題との関連の中で人間について考察を深めていくことができるようになることを目指す。	
			人間と文化Ⅰ	本講義は、幕末以降の近代日本における日本文化や日本人について考察を深める。日本は古来より諸外国からの文化を受容し、独自の文化を発展させてきた。外国から移入された文化の変容のパターンはおどろくほど共通した特徴がみられる。このような観点から、言語、思想、教育、メディア、交通などを取り上げ、近代日本における日本人の精神性や日本の文化の歴史的変遷をみていく。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	教養知科目	人間を学ぶ科目	人間と文化Ⅱ	本講義は、人間と文化Ⅰの学びに基づき、第2次世界大戦以降の日本人や日本文化の特徴について考察を深める。1945年以降の日本文化は、1953年に放送がはじまったテレビを中心としたアメリカ文化の移入との関わりなしには語ることができない。このような観点から、現在に至るまでの日本人や日本文化について、戦後の日本や日本人に関する論考を紹介しながら概説していく。	
			生命の科学	生命の源は細胞であり、細胞は複製され増殖し進化する。これを生物という。生命の連続は細胞を進化させ、単純な形態からより複雑で高度な機能を進化させた。本講義は生命科学の最新の話題とそれらを理解する上で必要となる基礎的な知識を学習し、加速度的に進歩する生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。最低限の到達目標として、 一般常識の範囲で生命科学の時事内容が理解できる基礎知識の習得を目指したい。	
			倫理学	本講義では、倫理学の概要と現代における倫理的テーマを考察する。具体的には、倫理学の歴史、自由の価値、功利主義、倫理学の現代的展開、科学と倫理、科学の中立性、科学技術と倫理、医療と倫理、終末期医療、人間の尊厳などの諸問題について、事例をあげながら紹介する。これらの学修を通じて、平等や正義に関する哲学的知識を身につけ、倫理的に生きるとはどのようなことなのかを学生自身が考え、議論できるようになることを目指したい。	
			人権の基礎	本講義では、「人間はただ人間であるだけで価値がある」とする『人間の尊厳』という観念、これを具体化するための方法としての「人権」、これらがどのようにして形成され、どのような内容を持ち、どのような問題性を孕んでいるかを、さまざまな観点から検討し、人権の意義と内容を再確認する。①人権とは何か、なぜその保障が必要かについて理解すること、②人権獲得の歴史と各種人権宣言等の概略を理解すること、③これらを基に人権保障の実現について自分の見解を持てるようになること、以上の3点を到達目標とする。	
			女性の人権	人権思想の具体化を「女性の人権」を例にとりながら検討し、いかにすれば女性の人権が実現されるかを、女性の人権がないがしろにされてきた原因の把握とその排除という視点から解説する。その際、平等だけでなく、権利論の視点をも取り入れていく。人権保障の議論の中で、なぜ女性の人権が別枠で取り上げられなければならないか、その原因を理解し、また女性の人権が充分に保障されるためには何が必要かについて、自分の意見を述べられるようにすることを学習目標としたい。	
			心理学Ⅰ	心理学はさまざまな科学的方法を駆使して、こころについての研究を行う学問である。この授業では、これまで積み重ねられてきた様々な研究を紹介し、心理学の基礎的な知識と考え方を身に付けることを大きな目標とする。心理学Ⅰでは、主に人間の発達について説明し、非常に無力な状態で誕生した赤ちゃんがどのような経験をして心身ともに発達し大人になっていくのかを理解し、自分のことばで説明できるようになることを目標とする。	
			心理学Ⅱ	心理学はさまざまな科学的方法を駆使して、こころについての研究を行う学問である。この授業では、これまで積み重ねられてきた様々な研究を紹介し、心理学の基礎的な知識と考え方を身に付けることを大きな目標とする。心理学Ⅱでは、知覚や記憶、学習といった基本的な心のメカニズムについて説明する。また、他者および集団とのかかわりによってどのようなことが生じてくるのか、日常生活で誰もが体験することが心理学でどのように研究されているのか、例を挙げて紹介し自分自身の行動について考える。	
			生涯学習論Ⅰ	生涯学習に興味・関心がある学生を対象に、生涯学習の意義や目的、歴史や基礎理論、生涯学習の内容や方法を概説する。生涯学習には、「学びたい」ことだけではなく、「学ばなければいけないこと」も含まれている。本授業における到達目標として、①生涯学習の意義や目的を理解し、生涯学習を支える者の役割を充分に自覚する、②生涯学習の歴史（誕生と展開）を理解・説明することができる、③生涯学習を支える基礎理論を理解・説明することができる、④生涯学習の内容や方法を理解・説明することができる、以上の4点をあげる。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	教養知科目	人間を学ぶ科目	生涯学習論Ⅱ	生涯学習に興味・関心がある学生を対象に、生涯学習に関する制度や施設・職員の役割について概説し、生涯学習支援の担い手として必要な基礎技能を修得することを目指す。本授業における到達目標として、①生涯学習の意義や目的を理解し生涯学習支援の担い手としての基礎技能を修得する、②生涯学習を支える制度（法律や行政の取り組み）を理解・説明することができる、③女性の社会進出に伴う生涯学習の変化を理解・説明することができる、④生涯学習プログラムを開発・宣伝することができる、以上の4点をあげる。	
			社会福祉概論Ⅰ	社会福祉概論Ⅰでは社会福祉論という領域の基本を学習する。授業では、まず社会福祉論の基本的視点を紹介し、次に社会福祉の歴史としてイギリスやアメリカを中心に学び、日本については、古代から現在に至るまでの流れを押さえる。そして、女性福祉、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉といった個別の福祉分野について、制度的な歴史や現代的問題について取り上げる。社会福祉論の基本的理解を学習課題とし、社会福祉の諸現象に対して、その社会的要因や背景を探り、その改善や解決につながる働きかけを考察できることを目標とする。	
			社会福祉概論Ⅱ	社会福祉概論Ⅱでは社会福祉の理念や倫理を学び、ソーシャルワークの実際として、社会福祉の実施体制や社会福祉援助技術について理解する。授業後半では、各自がソーシャルワーカーの立場に立って、個別援助技術（ケースワーク）および集団援助技術（グループワーク）の具体的な事例に取り組み、発表と討議を行う。社会福祉援助技術に関する知識や技術を習得し、社会福祉援助活動に活用できる能力と態度を育てることを目標とする。	
		文化と歴史を学ぶ科目	日本の歴史	本講義は、日本の古代から近代に至る各時代の、国家の形成と展開、社会や文化の特色、国際関係に関する基礎的知識を修得することを目的とする。具体的には、各時代の政治、経済、社会、文化、国際環境などの特色について、歴史資料や先行研究に基づいて解説し、日本の文化的特徴について学習する。この学びを通じて、時代の変遷を総合的に把握し、考察する歴史的思考力を修得し、現代社会を生きるために必要な基礎力を学習する。	
			世界の歴史	本講義の目的は、私たちが普段当たり前のものと考えている様々な「権利」と、それらを獲得するために行われた様々な「排除」を結びつけながら学習することで、受講生の思考能力を高めていくことにある。対立する階級、民族、そして国家の中で、人々がどのように権利を獲得したのか。この疑問を考えることにより、受講生自身が持つ「権利」を改めて考える機会を提供していきたい。なお、本講義は主にヨーロッパを中心に世界の歴史を概観していく。	
			戦争と平和の歴史Ⅰ	戦争はなぜ繰り返されるのか？人類にとって戦争は避けられないものなのか？この問いに対する答えを求めて、19世紀末から第二次世界大戦までの国際関係を分析する。欧米の国際関係が中心となるが、19世紀後半に国際社会で頭角を現すようになった日本についても言及する。国際関係史の基礎的知識の習得、さらに社会科学的思考方法を身につけることが目的である。映像資料を多用し、世界史を学ぶ機会が少なかった学生にも理解しやすいよう工夫をしていきたい。	
			戦争と平和の歴史Ⅱ	戦争はなぜ繰り返されるのか？人類にとって戦争は避けられないものなのか？この問いに対する答えを求めて、第二次世界大戦後から冷戦の終結までの国際関係を分析する。アメリカ、ソ連（ロシア）、ヨーロッパはもとより、アジア、オセアニア、南北アメリカ、中東、アフリカと世界を俯瞰し、現在進行形の国際問題に言及しつつ、現代史の基礎的知識の習得、さらに社会科学的思考方法を身につけることが目的である。映像資料を多用し、世界史を学ぶ機会が少なかった学生にも理解しやすいよう工夫をしていきたい。	
			西洋文化史	ヨーロッパ文化の特質とその流れを、ビデオやスライドを多用して概観し、一つの文化の成長から衰退までの経緯を研究する。さらに、日記、手紙、装飾品や日常の必需品などの多岐にわたるモノを通して、ヨーロッパ各地の人々の生活と考え方を知る。本講義では、古代世界（古代ギリシア文化）からヨーロッパ文化の基層を形成した中世、その結実としてのルネサンスまでを扱う。西洋文化の歴史的な展開についての基本的な知識を把握することを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	教養知科目	文化と歴史を学ぶ科目	日本美術史	本講義は、日本の原始から現代に至る日本美術の展開について、各時代別にテーマを設定し、日本美術史上の名品を軸に、日本美術の基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、絵画・彫刻・工芸の美術品を軸に日本美術の歴史について解説する。この学びを通じて、信仰・各種儀式から生み出された美、建築や工芸にみる多様なデザインなど、日本美術の特徴、さらに日本の美意識に大きな影響を与えた海外文化など、広くその特質を考察する。	
			比較文化	この授業では、日本人が、西洋文化・キリスト教文化に初めて接したときの「衝撃と憧憬と葛藤」について、第一次資料を読みながら、考察する。世界の中の日本を、歴史的にも、空間的にも、正確に把握することを目的とする。16世紀後半から17世紀初頭の安土桃山時代におけるポルトガルとスペインの南蛮文化との衝撃的な出会いに始まり、江戸時代のオランダの実用学への憧れと探求、明治期におけるアメリカやヨーロッパの列強との積極的かつ批判的な交流を、具体例をあげて探求する。	
			日本の文化	本講義では、日本文化に多大な影響を与えた仏教文化を中心にみていく。日本で生まれ育った者は誰でも挨拶と言う言葉を知っており、日常生活で実践し無意識に文化として身に付けている。しかし、これが、仏教・禅から派生した言葉であることは、ほとんどの人が知らない。挨拶のような無意識に身に付いている日本人の日常の型やそこに込められた心を理解し、さらに、無意識に行っている行為を意識下に置く事により、自分自身の文化的背景を見直す事が出来るようになることを目標とする。	
			観光地理（日本）	観光地理という観点から日本各地の観光資源や地域の文化・風物、特産物などについて幅広く学ぶことにより、「旅行」に対して専門的に対応できるよう知識を高める。地図と現地の映像などを利用して、バーチャルな旅行を意識しながら観光資源の特徴、位置関係などを学んでいく。「旅行業務取扱管理者」の資格を得る国家試験にも備える。また、講義で取り上げた観光資源の所在都道府県を説明でき、想定される国家試験内容の60%が答えられる知識を得る。	
			観光地理（世界）	グローバル化する社会において、世界各地域の様々な観光資源や歴史・文化・習慣などを学び、国際人としてのしっかりとした幅広い知識を身に付ける。「旅行業務取扱管理者」の資格を得るための国家試験に向けての基礎知識を学ぶ。また、世界遺産検定や地理検定を受検することも可能となるので、講義の対象となった各国の位置と地形、その国の成り立ち等を理解し、特筆すべき観光資産を合わせて説明できるようにする。	
			日本の文学	芥川龍之介の短編小説「鼻」「芋粥」と、太宰治の短編小説「魚服記」「道化の華」を読み、それぞれの作家についての基礎的な知識と、小説の読み方、作品へのアプローチの仕方について講義する。芥川と太宰の小説テクストの分析を通して、単なる感想に留まらない、文学研究の基礎を身につけることを目的とする。本講義を受講することで、小説の構成や語りについて独自の論点を見つけ出し、また小説の読解を通して、自分の考えを論理的に説明できるようになることを目標とする。	
			ヨーロッパの文学	ヨーロッパ文学における個々の作品を取り上げながら、中世から現代に至る外国文学のテーマとその問題性を歴史的に概観する。授業では、中世の文学である『アーサー王の死』『トリスタンとイゾルデ』『カンタベリー物語』、ダンテの『神曲』、シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』、ゲーテの『若きヴェルテルの悩み』『ファウスト』、グリム童話、カフカ『変身』などをとりあげる。ヨーロッパの個々の文学作品を通史的に考察することで、中世から近世、現代に至る西欧の精神・思想の流れを把握していきたい。	
		社会と自然を学ぶ科目	日本の政治	日本の政治を、戦後から今日まで、国会、政党、議員、官僚、政権交代にスポットライトを当てながら探ることが、本講義の目標である。私達の日常生活は、様々な局面で政治と密接に結びついている。政治に対する無関心は、政治家任せの生活を送ることにつながる。未来に希望の持てる日本にする為に、今何をすべきかを受講生と一緒に考えると同時に、学生として知っておくべき時事問題力を養うことも念頭に置いて講義をしたい。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	教養知科目	社会と自然を学ぶ科目	世界の政治	国際社会における諸問題や世界における日本国家のポジションを探るのがこの講義の目標である。国際社会で日本は異質な国家とみなされる場合が多々ある。なぜ日本は世界から「異質」と思われるのか。日本が「異質な国家」と思われる構造を、国際政治における日本政治の特徴や日本国憲法の規定から検証する。また、日本を取り巻く国際社会の今日的な問題も取り上げ、教養を深めていく。	
			政治と市民参加	現代社会における市民は、日本国憲法で保障される参政権（選挙権、被選挙権、レファレンダム）を通じて様々な政治参加が可能となっている。この講義は、選挙権や被選挙権の歴史的変遷、国会や地方議会の仕組み、そしてレファレンダム（国民投票と住民投票）の仕組みを通じて、一般市民による政治参加の可能性と限界について考察することを目的とする。また18歳選挙権の意義と影響についても、諸外国の実情と比較しながら一緒に考えてみたい。	
			日本の経済	この授業は、経済学の基礎知識と日本の経済情勢全般について教授する。それにより、新聞や雑誌の経済記事を読む素養、また経済ニュースが理解できるようになることを最低限の目標とする。授業では、実際の新聞記事や雑誌記事、ニュースを題材に、インフレ、デフレ、GDP、失業率等の基本的経済用語や現在の日本経済、日々の経済の動きを学び、経済全般についての知識を修得する。卒業後、社会人となったときに役に立つ経済学の基礎を身につけさせる。	
			世界の経済	現在の経済活動は、グローバル化の波のなかで、海外との関係を無視して語ることはできない状況になっている。政治も含めた社会のさまざまな問題は、世界経済と連動した動きを見せている。本講義は、経済の基礎理論や基礎知識を身に付けたうえで、世界経済の根源的な仕組みを理解することを目的とする。さらに、現在世界で起きている経済的諸問題の原因を探り、それを解決に導くための考え方を習得していきたい。	
			新聞と報道	新聞を題材に、報道の読み方と意義を理解することが本授業の目的である。具体的には、記事の内容を、政治報道、経済報道、国際報道、社会問題報道、事件･事故報道、生活報道、スポーツ報道、文化報道に分類し、それぞれの文脈の理解の仕方を学ぶことで新聞のリテラシー能力を養う。そこに書いていることをただ受動的に受け取るのではなく、能動的に理解し、批判精神を持って解釈する能力を身につけていきたい。	
			グローバル共生論	経済、社会、文化などのグローバル化にともない、国境を越えた人的交流は近年活発になっている。海外で仕事や生活をする日本人は、過去最高を記録し、今後も増加することが見込まれる。本授業では、私たちの周りの「多文化」化に目を向けながら、異なる文化、言語、宗教などを有する人々とのコミュニケーションの現状と課題を考察し、グローバルな時代の生き方や多文化との共生のあり方をケーススタディやディスカッションを中心に学ぶ。	
			法学	私たちの生活は法によって規律されている。法は社会をよりよく営んでいくための手段であるが、時に私たちの生活を厳しく制限する。この授業では、近代以降の市民社会のあゆみを踏まえ「法とは何か」ということをていねいに伝えていく。身近な裁判例も紹介する。新聞やテレビの社会問題などについて、結論を急がずに考えるためのきっかけを作り、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標としたい。	
			法と社会	この授業は、社会制度の分野を中心に法的素養を修得することで、各種資格取得や卒業後に向けた社会人力の育成を目指す。国民主権と権力分立という基本的な考えを確認した後、立法と行政については各資料を参考に現在の政治を立憲民主主義に照らして分析する。司法については裁判員制度の実践に触れ、市民理性を裁判に反映させることの意義と課題を考察する。日本国の基本法である日本国憲法の役割を理解したうえで、社会問題を考える指標を提供したい。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	教養知科目	社会と自然を学ぶ科目	日本国憲法Ⅰ	日本国憲法とは、日本国のあり方を定めた基本法を意味する。本授業では、第二次世界大戦後に定められた憲法の基本的な仕組みを歴史的に検証する。その上で、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」という3つの柱について、急がずに具体例を踏まえつつ理解を深めていく。日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標としたい。	
			日本国憲法Ⅱ	現在の日本国憲法は、戦前に対する深い反省の下で制定された。一人ひとりの国民を人格の担い手として尊重するために、憲法は国家の政治のあり方を定めている。この授業では、国家統治の仕組みを中心に学び、現在憲法をめぐって議論されている問題点についても触れていく。日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標とする。	
			社会学Ⅰ	社会学の基本的な考え方を理解するために、社会とは何か、相互行為と自己、社会秩序と権力、組織とネットワーク、文化と再生産、といったテーマを取り上げる。理論についての講義が中心となるが、身近な話題と結びつけながら講義を進めていく。到達目標は、社会学の基本的な考え方を理解すると同時に、社会学的な概念、理論の理解を通じて、社会学的な「ものの考え方」を習得すること、そして自分の日常生活の「当たり前なこと」に対して、一歩引いて批判的な視点をもった柔軟な思考ができるようになることとする。	
			社会学Ⅱ	社会学Ⅱでは、社会学の基本的な理論や概念をもとに、より具体的な社会現象の理解ができるよう、家族、教育、労働といった身近なテーマを取り上げ、それらの歴史や現代の問題を学ぶ。授業後半では、小グループに分かれて、発表と討議を行う。到達目標は、社会学の理論や概念の習得を土台として、より具体的な社会現象の理解ができるようになること、家族、教育、労働の領域における歴史や現代の問題についての理解を深め、身のまわりの「社会」に対して、主体的、批判的にとらえる能力を養うこと、以上の2点とする。	
			数学の世界	数学というと敬遠しがちな科目の代表格であるが、実は、数学は哲学とも結び付く、人間の本質と深い関わりをもった学問である。本講義は、まず数学の楽しさ、奥深さについて講義する。その後、社会に出てからも役立つような数学の基礎を講じる。具体的には、式と計算、平方と平方根、一元一次方程式、連立方程式、グラフと関数、図形の面積･体積、合同と相似等について学ぶ。	
			物理の世界	物理の考え方は生活に溶けこみ、日頃意識されることはほとんどない。しかし、物理学は、物質を極限まで突き詰めていくと宇宙創成の問題にまで展開するようなダイナミズムを秘めた学問である。この講義では、目には直接見えない「力」の物理現象について議論を深めたい。加速度、遠心力などの物理学的な理解からはじまり、構造、剛性、耐震についての考え方と、その大きさを計算する手法を平易に講義する。	
			生物と生命	生物及び生命について、古生物学、遺伝学、ＤＮＡ遺伝子学等から得られた知見を基に講義する。地球という惑星に生命はどのようにして誕生したのか、生物は進化しどのようにしてホモ･サピエンスにまでたどり着いたのか、生命の大切さを意識しながら生物進化の過程を跡づけることが本講義の目的である。そして個々の生物の生き残りをかけた戦略と生物の多様性について議論し、人間が生きてゆくことの意義を考えたい。	
			地球と宇宙	古代より太陽・月・星は、人びとを魅了してきた。人類は、夜空に巨大な絵を描いたり、運命を託したり、また宇宙にまつわる物語を創世している。本講義は、さまざまな民族が描いてきた宇宙観を概観することから始まる。そして、宇宙創成であるとされるビックバン以後の宇宙の成り立ちを、星の誕生や終焉を学ぶことで理解する。宇宙を見つめることで、かけがえのない惑星である地球の特質に関して学識を深めていきたい。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	教養知科目	社会と自然を学ぶ科目	物質と化学	高度な科学技術の発展により、現代人は豊かな生活を享受している。中でも「化学」は、最も身近な姿・形で私たちの日常生活に密接に関わっている。たとえば、医薬品や化粧品、香料、食品、携帯電話、パソコンなどは、すべて化学に基づく「物質」で構成されている。本講義では、実生活に役に立つ「化学」の知識を教授することで、より身近な「物質」について学ぶ。	
			情報と科学	本授業は、言語をはじめ、視覚、聴覚など五感から得られた情報を再編しあらたな表現として発信するために必要な、ＩＴ端末やネットワークの仕組み、および、その安全対策について理解することを目的とする。特に、過去から現在に至る情報の歴史、世界史の新たな段階である情報社会という視点を重視したい。このような理解を通して最後は、フェイスブックに代表されるＳＮＳの可能性と限界について情報科学の立場から議論する。	
			色彩と科学	視覚コミュニケーションの基本的要素である色彩の本質を理解し、色彩が心理的、社会的、文化的に果すさまざまな役割について科学的理解を深める。色彩をコミュニケーションツールとして扱う上での基本的理論の習得に加え、視覚的な課題により豊かな色彩表現のための感性を養う。文部科学省後援の色彩士検定を視野に入れて主要項目の解説を行い資格取得を支援していきたい。色を扱う基礎知識として、色の表示、伝達の方法を理解するとともに、課題作成を通して基本的色彩技法を習得することを目指す。	
	実践知科目	実習科目	ボランティア実習Ⅰ	自分にもできることを通じて、様々な人々をサポートし、社会に貢献することにより、新しい自分を発見することを目的とする。ボランティア活動の実施場所は、大学の地元の稲城市および近隣地域の施設などを想定している。①担当教員による個別ガイダンス、②担当教員との事前面談、③危機管理ガイダンスへの参加、④ボランティア活動届の事前提出（学生支援課）、⑤ボランティア活動記録の提出、等が義務づけられる。	共同
			ボランティア実習Ⅱ	自分にもできることを通じて、様々な人々をサポートし、社会に貢献することにより、新しい自分を発見することを目的とする。実施場所は海外を想定している。海外ボランティアでは、海外における活動を通して、履修者が多種多様な文化、習慣の違いを受け入れ、将来、国際社会の中で生き抜く術を学ぶ。夏季休暇中に、学外の団体が行う海外ボランティアに2週間以上参加することが要件である。危機管理ガイダンスや活動記録の提出も義務づけられる。	
			海外英語研修Ⅰ	この授業は研修を通して海外での生活や異文化に触れ、言語ばかりでなく総合的なコミュニケーションスキルの習得を目標にする。通常2週間ホームステイをしながら、大学指定の語学学校に通学し、英語の語学研修を受講する。英語のみで行われる授業を受講することで、日本の授業との違いを実地で学ぶことができる。またホームステイをすることで全く違う習慣や文化をもつ人々の中で必要とするコミュニケーション能力を改めて考えることができる。体験を通して英語学習に対する動機を学生が問い直し、語学習得に引き続き臨めるようにする。英語専任教員が共同して、エージェントとの打ち合わせ、事前説明会、科目申請を行う。	共同
			海外英語研修Ⅱ	この授業は「海外英語研修Ⅰ」を取得済みの学生を対象とする。学生は既に研修等で必要な最低限の総合的なコミュニケーションスキルを習得しているので、それらの力を発展的に向上させることを目的とする。通常2週間ホームステイをしながら、大学指定の語学学校に通学し、英語の語学研修を受講する。「海外英語研修Ⅰ」では、行うことのできなかったアクティビティにも挑戦し、自らの語学力等が「海外英語研修Ⅰ」の履修後に行った学習で向上しているのか、また引き続き不足している能力があるか、再確認を行うことができる。英語専任教員が共同して、エージェントとの打ち合わせ、事前説明会、科目申請を行う。	共同

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	実践知科目	実習科目	国際協力実習	国際協力の関係者は、援助を受ける側の人々、政府関係者、国際協力機構（ＪＩＣＡ）などの援助実施機関職員や専門家など多種多様にわたる。開発の現場は途上国が中心であるため、国際協力実習では、実際に現地を訪ねて、国際協力の本質を効果的に学び、開発の現場の視察と様々な関係者との交流を通じて、国際協力の難しさや意義などを体感することを目的とする。実習参加前には、訪問国について、歴史や社会・経済情勢、日本との関係など基本的知識を習得し、十分な事前準備に基づいて、訪問国の人々と積極的に交流を行う。	
			国際協力実習フォローアップ	国際協力実習フォローアップは、国際協力実習の参加者を対象とし、国際協力の現場視察や援助関係者などとの交流を振り返りながら、気づきの点を参加学生同士でプレゼンテーションし、それをもとに報告の準備を行う。実習の成果として、日本（政府、企業、地域社会、大学あるいは学生個人）が国際開発・国際協力にどのように関与すべきか、自分の意見をまとめた実習報告書を作成するとともに、実習成果の発表内容や発表方法について、学生主体で企画・準備し、報告会を開催する。	
		就業力育成科目	進路設計	経済のグローバル化にともない、これまで日本の経済を支えてきた産業構造や人口構成は、大きく変化し、就業形態や人生観も多様化している。本講義では、女性の「生き方」について「就業観」「生きがい」「子育て」などを通して議論を進める。この作業を通して、卒業後の就業に際して「企業が求める人物像」と「個人の抱く社会人観」「家族観」をつなぐ価値観を再編し、具体的に語ることのできる素養を身につけることをめざす。	
			社会と教養演習A	大学を卒業し、社会人として胸を張って生活するには、大学の専門的な教育以外に「社会人基礎力」と呼ばれるような、生きていくうえで習得すべき知識・知見が求められる。本講義では、自分自身のイメージを描くことから始め、そのうえで、社会人として必要とされる最低限のコミュニケーション能力を身に付ける。そしてそれを実践可能とするための自己啓発、及びコミュニケーションスキルの訓練を行ってみたい。	
			社会と教養演習B	社会にはその集団が守るべき価値と規範があり、社会人あるいは企業人として個人が守るべきルールーやマナーがある。しかしそこでは個々人の個性を生かした対応も求めらる。本講義では身体技法を含めた基本的ビジネスマナーの習得と個性の発見を目指したい。具体的には、個性を重視しながらも、駒沢女子大学生としてふさわしい、建学の精神を踏まえた行動規範を学ぶことになる。	
			社会と教養演習C	本授業は、「社会と教養演習A」を踏まえ、社会に出るために必要とされる「社会人基礎力」をさらに養っていくことを目的とする。社会人として自立するためには、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」が必要といわれる。毎回の授業では、これらの力を磨いていくための、実践的訓練を行う。特に、チームワーク作業における、想像力、発信力、傾聴力、柔軟性、規律性を涵養することに力を注いでいきたい。	
			社会と教養演習D	本授業は、「社会と教養演習B」を踏まえ、社会人としての規範、とりわけ、道元禅師の禅を建学の精神とする本学ならではの身体技法とは何かを深く学んでいきたい。具体的には、社会での様々な現場でそれがどのように活かされるのかを教授したあと、想定シミュレーションや、学生の自主性を尊重したグループ学習、体験学習を行う。それにより、社会に出てはずかしくないだけの素養を身に付けてもらうことにする。	
			キャリアリテラシー	就職活動生を取り巻く環境が変化する中、本授業では、就職活動への不安を緩和し、前向きな気持ちで行動していくことを目指し、就職活動での自分の「軸」を見出すプロセスを学ぶ。具体的には「自己分析」と「業界・仕事研究」の“すり合わせ”に取り組む。そのために個人やチームで調べ、考え、話し合うなど、集団討論形式で授業を進め、同時に、社会に出てから役立つ意識やスキルも習得していく。自分自身の可能性を広げ、納得のできる就職活動にチャレンジしていくことを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	実践知科目	就業力育成科目	就業への知識と技能A	はじめに業種分類の基本を学ぶ。その上で、金融・リース・航空・ホテル・モバイル等の業界について、その成り立ちや特色を考える。様々な業種について実業界で豊富な経験を積んだ教員が様々なエピソードを交えながら、業種や会社を研究するための基礎知識を教授する。業界・業種の社会的な使命とその実態を知ることにより、社会の動向に関心を深めながら自分に適した業種を客観的に考えられるようにする。	
			就業への知識と技能B	様々な業種における業務の基本を学ぶ。その上で、損害保険・出版・不動産などの業界や、公務員・教育職における様々な業務内容や相互関係を考える。様々な業種について実業界で豊富な経験を積んだ教員が様々なエピソードを交えながら、業務を選択するための基礎知識を提供する。組織における様々な業務の役割とその実態を知ることにより、社会の動向に関心を深めながら自分に適した業務を客観的に考えられるようにする。	
		健康体育科目	女性と健康Ⅰ	人間は成長と共に体型や生理機能に様々な変化が起こるが、各年代によって発症し易い病の種類も異なる。本講義は、女性の体の基本的な生理機能とその健康管理を取り上げる。特に、二十歳になるまでに知っておいて欲しい女性の健康と病気について、具体例を交えながら話題を提供し、少女から大人の女性に成長する過程の健康問題について論じていく。本講義を通して人間の本質を理解し、正しい医学知識を身に着け、健康管理に関して自分で考える能力を養いたい。	
			女性と健康Ⅱ	人間は成長と共に体型や生理機能に様々な変化が起こるが、各年代によって発症し易い病の種類も異なる。本講義は、二十歳以降の女性の健康と病気について、結婚、妊娠、出産、育児に関係することなどを含めて論じていく。本講義を通して人間の本質を理解し、正しい医学知識を身に着け、健康管理に関して自分で考える能力を養いたい。日常生活の中で、自分のみならず家族や友人などの周りの人達の健康管理にも気を配り、病気の早期発見や正しい予防法に役立てることのできる内容とする。	
			スポーツⅠ	健康・体力づくりは、国民全体の大きな課題となっている。この科目は、継続できる身体運動（テニスとリラックスヨガ）を選択しながら、健康志向への動機付けを図り、実践に関する知識や技術を得ると共に、その方法を自分自身に当てはめ、応用展開する能力を体験することを目標とする。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。	
			スポーツⅡ	健康・体力づくりは、国民全体の大きな課題となっている。この科目は、継続できる身体運動（バドミントンとゆがみ修正体操）を選択しながら、健康志向への動機付けを図り、実践に関する知識や技術を得ると共に、その方法を自分自身に当てはめ、応用展開する能力を体験することを目標とする。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。	
	技法知科目	日本語育成科目	言語表現演習Ⅰ	大学生として、また社会人として必要な日本語の運用能力を養うことを目的とする。具体的には、日本の社会におけるコミュニケーションに大きな影響を与える「敬語」の体系、および、会話における誤用を防ぐために欠かせない日本語文法についての基礎知識を学ぶ。また、様々な文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、大学生にふさわしい文章を書ける力を養うことを目標とする。	
			言語表現演習Ⅱ	言語表現演習Ⅰを受け、日本語の正しい語法に習熟し、日本語の運用能力を高めることを目的とする。具体的には、自らの言語生活を振り返りつつ多くの語彙に触れて、さまざまな表現を生み出す力を身につけ、正確な表記で各種の文章を作成できる能力を身につける。また、文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、社会人にふさわしいコミュニケーション力を身につけることを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	英語AⅠ	高校までの英語学習を基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。日常生活において、数字や品物の値段の確認、日付、曜日等の、必要であると同時に重要な情報を正確に聞き取ったり、伝えたりできるようにする。簡単な単語やフレーズを使って、自分の気持ちや意見を相手に伝えられるかを意識させながら、会話や英作文での表現の幅を広げる。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
			英語AⅡ	英語AⅠを基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。自分の身の回りのトピックについて、場所や時間といった具体的な情報を聞き取ったり、自分の趣味や興味のあることなどを伝えたりできるようにする。簡単な単語やフレーズを使って、自分の気持ちや意見を相手に伝えることを意識させ、会話や英作文での表現の幅を広げていく。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
			英語AⅢ	英語AⅠ・Ⅱを基に、発展的な英語力の向上を目標とする。自分自身や自分の家族・学校・地域など、身の回りの事柄に関連した表現を理解し、伝えることができるようにする。基本的な単語やフレーズを用い、買い物や外食など、日常生活の場面での指示や説明ができるようにする。英語で表現することを意識させ、よく使われる構文を用い、自分の伝えたいことを書く練習をさせ、表現の幅を広げられるようにする。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
			英語AⅣ	英語AⅢを基に、発展的な英語力の向上を目標とする。公共の場で発信される短い簡潔なアナウンスを理解し、自分でその内容を言えるようにする。個人的予定や大学生活などの明確で具体的な事実について、要点を理解し、英語で表現できるようにする。スポーツ・料理など連続した動作の一連の手順を英語で表現できるようにする。英語で表現することを意識させ、よく使われる構文を用い、自分の伝えたいことを書く練習をさせ、表現の幅を広げられるようにする。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
			英語BⅠ	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「語彙・語法」について学ぶ。	
			英語BⅡ	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「文法」について学ぶ。	
			英語BⅢ	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「聴解力」の向上を図る。	
			英語BⅣ	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「読解力」の向上を図る。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	英会話Ⅰ	（英文）This course will focus primarily on improving students' speaking and listening skills, with some reading and writing, as well. Natural and current forms of conversation will be covered with an emphasis on improving students' pronunciation, intonation and fluency. Real world topics will be provided and students will be given language structures that will help them in a variety of real life situations. Through a combination of pair and group work, students will be given multiple activities to help them become confident in using the target conversational structures. （和訳）主にスピーキング力とリスニング力の向上を目指す授業である。 本講義では発音・抑揚の改善と流暢さに重点を置いて指導を行う。実際にメディアで取り上げられた英文を材料として使用することで、より現実に近い場面での学習ができるように工夫する。できるだけペアワークやグループワークを取り入れ、学生たちが積極的に学習できるような機会を提供する。	
			英会話Ⅱ	（英文）This course will continue where English Conversation Ⅰ left off and continue to strengthen students' communication skills in English. Students will learn confirmation and clarification conversation strategies. Specific attention will be given to developing active knowledge of colloquial English and the ability to interact on a variety of popular and current conversational topics. Real world media will be used as a springboard for meaningful exchange. Interactive structures relative to communicating in modern English will be provided and students will be given opportunities to practice their learning with each other through a variety of communicative tasks. （和訳）「英会話Ⅰ」の学習を踏まえ、英語によるコミュニケーションスキルを強化することを目指す。学生は「確認」や「明確化」という会話の仕方を学ぶ。本講義では口語表現の学習と様々なトピックについて前向きに考えることに重点を置いて指導を行う。実際にメディアで取り上げられた英文を材料として使用することで、より現実に近い場面での学習ができるように工夫する。学生たちが相互に関わり合いながら積極的に学習できるような機会を提供する。	
			英会話Ⅲ	（英文）This course will build on the content of English Conversation Ⅰ and Ⅱ, providing students with training in a deeper level of natural English communication. There will be particular emphasis on sustaining conversations over longer periods of time. To help with this goal, students will be exposed to various methods of turn taking and conversation strategies that pertain to forming follow up questions and how pause in mid conversation. Students will work on attaining natural English rhythm in their speaking, with the goal of improving their overall fluency. Additionally specific pronunciation practices that relate to the various methods and strategies will be provided on a regular basis. （和訳）「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」の学習を踏まえ、主に英語による自然なコミュニケーションができるようになることを目指す。そのため、補足質問を作ることや「会話の調整」（会話を途切らすという会話の技法）を学生に紹介する。本講義では会話を長く続けることに重点を置き、会話の進め方や会話技法を指導する。英語の発音や自然なリズム、流暢さについても適宜指導する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	英会話Ⅳ	（英文）This final course in English conversation will synthesize the practices thus far learned with the goal of making students confident and natural in their English communication styles. Students will work on sustaining fluent, extended conversations about pertinent current events and issues. The differences in casual and more formal types of conversation will be studied. Pragmatics relative to American and British culture will also be examined, with particular emphasis placed on hedging and expressing disagreements. Students will become sensitive to cultural differences amongst native English speakers and how interact appropriately in different international situations. （和訳）「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」「英会話Ⅲ」の学習を踏まえ、自信を持って自然な英語を使えるようになることを目指す。本講義では時事問題を話題にして、より長く英語で話せるようになることに主眼を置く。また、「カジュアル」な会話と「フォーマル」な会話の相違について学習する。英米の文化について考え、自身の考えを主張できるような力をつけさせる。	
			Receptive English Ⅰ	（英文）This is a specialist English course designed to support students in improving their ability to understand English through listening and reading. Key methods used include paraphrasing and summarizing of key content, story-retelling and listening/reading without translation using accessible materials such as graded readers. Students will learn to use existing knowledge to predict the meaning of unknown vocabulary, while developing topic based English ability. By the end of the course, students will have an enhanced ability to understand basic spoken English without listening repeatedly and to read and understand basic written English. （和訳）主に基本的な英語運用能力を習得させることを目的とし、特に「聞く・読む」という英語を理解する能力の育成を目指す。指導方法としては、重要な文の言い換えや要約、内容を理解して第三者に伝えること、または難易度別英語読本等の学習者用英文資料を訳さずに読む・聞くことを含む。トピックに関する英語知識を増やしながら、学生が未知の語の意味を推測する際、既存知識を活用することを学ぶ。本講義終了時には、基本的な英文であれば一度で聞き取り、一回読んだだけで理解できるだけの力が身に付くようになることを目指す。	
			Receptive English Ⅱ	（英文）This is a specialist English course which builds on skills developed in Receptive English Ⅰ designed to support students in improving their ability to understand English through listening and reading. Key additional methods in this course include listening and reading at a near-native speed, listening/reading note-taking skills, using confirmation checks and clarification requests as a means to increase understanding and identifying elements of spoken and written style as a means to understand the intentions of a speaker or writer. By the end of the course, students will have an enhanced ability to understand more complex spoken English without listening repeatedly and to read and understand more complex written English. （和訳）「Receptive English 1」の学習を踏まえ、主に基本的な英語運用能力を向上させることを目的とし、特に「聞く・読む」という英語を理解する能力の育成を目指す。授業の方法としては、メモを取りながら自然な速度のものを聞く・読む、「確認」や「明確化」を活用し理解度を高める、（脱落、連結、同化など音変化などの）口述・記述のスタイル要素を認識し書き手・話し手の意図を理解することを含む。内容のある英文を一度で聞き取り、一回読んだだけで理解できるだけの力が身に付くようになることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	Productive English Ⅰ	（英文）This is a specialist English course designed to support students in acquiring a functional command of English. Improving students' ability to produce English output through speaking and writing is a particular aim of this class. Key methods introduced in this course include speed training for writing and speaking, conversational topic shift and turn-taking strategies in both spoken and written communication and strategies such as confirmation and clarification for continuing conversations when language difficulties are encountered. In addition to creative writing corrected in detail by the instructor, students will learn about typical English sentence formations and learn to use various different sentence styles. By the end of the course, students will have an enhanced ability to use basic spoken English without extended guidance and be confident in writing basic English sentences. （和訳）主に基本的な英語運用能力を習得させることを目的とし、特に「書く・話す」という英語を発信する能力の育成を目指す。本コースで採用される方法は話す・書くの速度練習、「話題転換」「確認」や「明確化」などの困った時も話を続ける会話技法を紹介する。教員によって精密に添削される自由英作文とともに、典型的英語文の組立てを学び、様々な文章が書けるようになる。	
			Productive English Ⅱ	（英文）This is a specialist English course building on skills developed in Productive English Ⅰ, designed to support students in acquiring a functional command of spoken and written English. Students will gain experience in various types of spoken English (such as speech making, presentation, conversation, interview, debate) and written English (such as letter, diary, report, paragraph writing, process writing journalism and online writing). Choosing their subject matter, students will work on descriptive and explanatory phrasing for effective communication in producing a range of spoken and written output while focusing on fluency and accuracy. By the end of the course, students will have an enhanced ability to use more complex spoken English without extended guidance and be confident in producing more complex English compositions. （和訳）「Productive English Ⅰ」の学習を踏まえ、基本的な英語運用能力を向上させることを目的とし、特に「書く・話す」という英語を発信する能力の育成を目指す。学生は演説、発表、会話、インタービュー、議論等の口頭英語と手紙や日記を書くこと、パラグラフライティングやプロセスライティング等の英作文の経験を積む。主題を決め、説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように、様々な発信的アウトプットを作る際に流暢さと正確さを意識して話したり書いたりすることを学ぶ。本講義終了時には、独力で内容のある英文を書き、あまり時間をかけずに内容のある英語で話すことができるだけの力が身に付くようになることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	English Summer Seminar	（英文）The English Summer Seminar is an intensive three-day course and will provide students many opportunities to become users of English outside of the classroom. The course is student-centered, interactive, and reflective and will have an English-only policy. Students will take an active part in communicative activities, discussions, games, and students will also teach something practical in English to a small group of peers. Everyone will leave feeling more confident in her ability to communicate in English in addition, make new friendships with all participants. （和訳）英語夏期セミナーは、3日間の集中コースで、学生に教室外で英語を使う多くの機会を提供する。このコースは学習者中心で、相互学習型、思考型であり、英語しか使わないことが原則である。学生は、会話活動、ディスカッション、ゲームに積極的に参加し、小グループやペアになって互いに教え合う機会を持つ。参加者は、英語でのコミュニケーションに自信を持つとともに、参加者同志で新しい友人関係を築いて本プログラムを終了することを目指す。学生は英語母語者間の文化的相違に敏感になり、様々な国際的場面で適切に交流できるようになる。 2名の英語教員が協働でグループをマネージメントをし、タスクやアクティビティを与え、休暇中に学生とグループで会話をする。	共同
			フランス語Ⅰ	フランス語の読み・書き・会話の基礎力を育成することがテーマである。まず表記と発音の関係を理解し、特徴的な音が発音できるように練習を重ねる。文法では、名詞の性と数、不定冠詞・定冠詞・部分冠詞の使い分けを理解し、形容詞の性数一致ができるようにする。動詞ではavoirとêtre、および第一群規則動詞の活用と用法を学ぶ。授業ではコミュニケーションを目的として意識し、CDによる練習やロールプレイを取り入れながら、簡単な挨拶や自己紹介ができるまでになる。	
			フランス語Ⅱ	第二群規則動詞finir、日常生活で頻繁に使われる不規則動詞aller、venir、partir、voirなどの活用に見られる共通のパターンを理解して、テンポよく活用ができるようにする。さらに、疑問代名詞・疑問副詞のある疑問文を学ぶことで、対話者どうしのさまざまな状況について情報交換ができるように、CDやロールプレイによる練習を継続する。また、比較級・最上級の表現をマスターし、総合的な言語運用能力の向上を目指す。フランス語検定5級の受験を奨励する。	
			フランス語Ⅲ	フランス語を1年間学習してきた学生を対象とする。まず、非人称構文や強調構文など、一定のパターンによる表現を身につける。直接目的語・間接目的語の仕組みを理解し、代名詞に置き換えられるようにする。さらに、直説法複合過去の仕組みと意味を理解し、英語の現在完了形と比較しながら、フランス語の時間に関する感覚を身につける。4つの基本的な関係代名詞の用法を学習し、複文を使うことにより、より複雑な説明ができるようにする。	
			フランス語Ⅳ	単純未来形の活用と用法を学ぶことで、表現の幅をさらに拡大する。また、フランス語独特のしくみである代名動詞の用法を学び、フランス語らしい表現に磨きをかける。さらに複合過去と対比しながら半過去の活用と用法を学び、会話で用いられる一般的な過去の表現ができるようにする。フランス語検定4級の受験を奨励する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	ドイツ語Ⅰ	Ⅰ～Ⅳの学習で初級文法を基礎としたドイツ語の基本的語学力（聴く・話す・読む・書く）の習得を目指す。このドイツ語Ⅰでは、アルファベットの読み方から始め、ドイツ語の単語の発音（つづり・アクセント・母音の長短）に親しみ、動詞の現在人称変化、名詞と冠詞の格変化、基本的文型を学ぶ。簡単な日常会話を材料にしながら聴き取り・書き取り、また話す練習を行う。随時実施される小テストによって各人が習得の確認を行う。（ドイツ語検定試験5級に対応）	
			ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅰを習得した者を対象とする。初級文法を基礎としたドイツ語の基本的語学力（聴く・話す・読む・書く）の習得を目指す。このドイツ語Ⅱでは、名詞の複数形、冠詞類、前置詞、人称代名詞と再帰代名詞、話法の助動詞と未来形、分離動詞などの新たな文法事項を追加しながら、平易な会話文の学習を進める。聴き取り・書き取り、また話す練習を行う。随時実施される小テストによって各人が習得の確認を行う。（ドイツ語検定試験4級に対応）	
			ドイツ語Ⅲ	ドイツ語Ⅱを習得した者を対象とする。初級文法を基礎としたドイツ語の基本的語学力（聴く・話す・読む・書く）の習得を目指す。このドイツ語Ⅲでは、動詞の三基本形、過去形、現在完了形、接続詞と副文、形容詞の格変化、比較（形容詞と副詞）について学習する。動詞の時制と文の構造について特に多くの例文に触れ、ドイツ語固有の文構造に習熟することを目指す。聴き取り・書き取り、また話す練習を行う。随時実施される小テストによって各人が習得の確認を行う。（ドイツ語検定試験3級に対応）	
			ドイツ語Ⅳ	ドイツ語Ⅲを習得した者を対象とする。初級文法を基礎としたドイツ語の基本的語学力（聴く・話す・読む・書く）の習得を目指す。このドイツ語Ⅳでは、zu不定詞句、受動態、関係代名詞、接続法を学習する。聴き取り・書き取り、話す練習と並んで平易な日常的ドイツ文を読解する力を養う。随時実施される小テストによって各人が習得の確認を行う。（ドイツ語検定試験3級に対応）	
			スペイン語Ⅰ	スペイン語の読み・書き・会話の基本的な力をバランス良くつけることをテーマとする。今期はまずスペイン語の音、リズム、イントネーションを耳で聴き、声に出して発音することに慣れてゆく。次に男性名詞・女性名詞、冠詞、形容詞、動詞serとestar、3種類の規則動詞の基本的な用法などを理解し、身につける。場面に応じた会話をペアで練習し、関連語句を覚えて応用力を養う。教科書を録音したCDを用いて、聴き取り練習をする。各課が終わるごとに小テストを行うことで学んだことを定着させてゆく。	
			スペイン語Ⅱ	スペイン語Ⅰを修得済みの学生を対象とし、読み・書き・会話の基本的な力をさらにつけることをテーマとする。今期は不規則動詞の直説法現在を中心に、目的語の代名詞、比較級・最上級などを理解し、身につける。不規則動詞は種類別に学習する。スペイン語Ⅰ同様、場面に応じた会話をペアで練習し、関連語句を覚えて応用力を養う。CDを用いた聴き取り練習、小テストも継続して行う。スペイン語検定6級の受験を奨励する。	
			スペイン語Ⅲ	スペイン語Ⅱを修得済みの学生を対象とし、読み・書き・会話の基本的な力をさらにつけることをテーマとする。動詞は再帰動詞、2人称の肯定命令、点過去の規則動詞・不規則動詞を中心に学習する。点過去の活用形は現在形の規則性があてはまらない部分があり、さらに不規則動詞も多いので時間をかけて学習する。スペイン語Ⅱ同様、テーマに応じた会話をペアで練習し、関連語句を覚えて応用力を養う。CDを用いた聴き取り練習、小テストも継続して行う。	
			スペイン語Ⅳ	スペイン語Ⅲを修得済みの学生を対象とし、読み・書き・会話の基本的な力をさらにつけることをテーマとする。今期は動詞の線過去、現在完了、接続法現在とそれを用いる命令を中心に学習する。また接続詞・関係代名詞を使った複文の作り方などを理解し、練習を繰り返す。スペイン語Ⅲ同様、テーマに応じた会話をペアで練習し、関連語句を覚えて応用力を養う。簡単な昔話を読み、メールを書く練習もする。CDを用いた聴き取り練習、小テストも継続して行う。スペイン語検定5級の受験を奨励する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	中国語Ⅰ	中国語の「読む・書く・聞く・話す」の基本的な力を身に着けることを目指す。まず、中国語のピンイン表記法を学び、中国語の声調、母音、子音を正しく聞き取り、かつ正しく発音できるようにし、続いて挨拶表現の練習を通じて中国語の発音に慣れていく。その後、日付、曜日、時間、年の表現や数量表現を学び、動詞述語文、形容詞述語文、名詞述語文、諾否疑問文などの文法事項を学習し、中国語で簡単な意思疎通ができるようにする。	
			中国語Ⅱ	中国語Ⅰで身につけた「読む・書く・聞く・話す」の基本的な力を高めていくことを目指す。中国語における完了・経験・未来および変化を表す用法を助詞と共に学び、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文を学習し、会話練習を通じて定着させていく。また少しまとまった文章を読み、動詞や形容詞、名詞の語彙を増やし、会話の内容を深めバリエーションを広げていく。同時に身に着けた単文の基本文型を組み合わせることで、ややまとまった文章を綴ることができるようにする。	
			中国語Ⅲ	中国語Ⅰ・Ⅱで習得した中国語の基礎の上に、実践的な「読む・書く・聞く・話す」の力をつけ、コミュニケーションの手段として使える中国語へのレベルアップを目標に、様々な場面に合わせた表現を学ぶ。願望や依頼、感謝や謝罪などの表現や関連語句を覚え、実際の会話練習を通じて定着させていく。豊かな言語表現のために呼応文型やさまざまな補語の用法も学び、やや難易度の高い文章を正確に読み取り、聞き取る練習も並行して行う。	
			中国語Ⅳ	中国語検定受験を視野に入れ、より実践的な中国語力を養うことを目指す。日中を取り巻く社会への関心と理解を深めるために、教科書や音声教材のほかに教材として新聞やインターネット上の記事、映像資料なども使用する。また情報を収集するためネット上で使用される中国語、電子メールでのやりとりで使用される中国語表現なども学び、授業を離れても、身近な事柄について口頭および書面で表現することができる力をバランスよく身につけていく。	
		情報力育成科目	コンピュータ演習Ⅰ	本授業は、高度情報社会における情報収集やその処理の基礎を学ぶことを目的とする。具体的には、諸々の検定を指標としたレベル設定（ビジネスの現場において基礎的な文書処理ができる程度）を行い、情報通信技術（ICT）を使いこなすための知識と実技演習を中心に授業を進めていく。本授業では、文書作成、レイアウト作成、作表、作図、表計算などの技能を必要とする基本的なビジネス文書作成を繰返して実践的な演習を行う。	
			コンピュータ演習Ⅱ	本授業の目標は、「コンピュータ演習Ⅰ」で身に付けたスキル（ビジネスの現場において基礎的な文書処理が行える程度）を確認しつつ、さらに発展させることにある。具体的には、「Microsoft Office Specialist」に沿ってビジネスの現場で応用できる基本的な情報処理能力を身につけることを目標に、さらに実践的な演習を行う。併せて、プレゼンテーション技術として情報発信能力を高める表現力を身につける。	
			コンピュータ演習Ⅲ	スマートフォンに代表される情報端末の進化はすさまじく、それに伴い私たちの扱う情報も飛躍的に広がってきた。とりわけ、情報を発信・共有する機会が多くなり、情報を処理することから、情報を選り分け、メディアを選択し、魅力的に表現することまで求められるようになってきた。本授業では、インターネットを中心とした多彩なメディアを活用したウェブ表現を中心に、情報を利活用するための表現力を身につける。	
			コンピュータ演習Ⅳ	本授業の目標は、「コンピュータ演習Ⅲ」で身につけたウェブ表現を確認しつつ、さらに発展させることにある。具体的には、ウェブ表現で必須となっている写真表現や映像表現、アニメーション等高度な表現力を身につけることを目標に、デジタル１眼レフカメラ等の機材を使い、より実践的な実習を行う。併せて、MOSエキスパートやVBAなどシステムエンジニアの基本レベルの習得も視野に入れる。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	特設科目（留学生）	日本語AⅠ	本授業は、大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を修得することを目的とする。特に講義を聞くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。具体的には、助詞や副詞、接続詞や敬語等について学び、聞きやすくわかりやすい発音で話せるようになること、人前で話すことに慣れること、そして論理的な表現ができるようにする。	留学生対象
		日本語BⅠ	本授業は、「書く」ための日本語能力を修得することを目的とする。具体的には、身近な題材について文章を書くことによって、文を書くことに慣れるとともに、文法的に正しい文を書けるようにする。授業は、助詞や語句の使い方などの練習、文章作成を基本として進める。提出した課題について指摘された問題点を把握するとともに、文法的課題を含んだ練習を通して、日本語の基本的な格助詞を間違いなく使える能力を身につけるとともに、文章を書く課題を通して、間違いの少ない日本語文を書く能力を身につける。	留学生対象
		日本語AⅡ	本授業は、大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を修得することを目的とする。特に講義を聞くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。具体的には、様々な文型を使ったり、慣用表現を使ったりしながら、文を作る練習をする。聞きやすくわかりやすい発音で話せるようになること、人前で話すことに慣れること、そして論理的な表現ができるようにする。	留学生対象
		日本語BⅡ	本授業は、「書く」ための日本語能力を修得することを目的とする。具体的には、新聞記事を読み、社会的な題材について文章を書くことによって日本語能力を深めていく。授業は、文法の練習、文章の要約やレポートの書き方などの文章作成を基本として進める。提出した課題について指摘された問題点を自ら学習するとともに、童話のあらすじをまとめたり、小論文を作成したりする課題を通して、長い文章を正しい表現で書く能力を身につける。	留学生対象
		日本語AⅢ	本授業は、大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を修得することを目的とする。特に日本人学生の中でも臆せず自己表現できるよう、聴解力と口頭表現能力を伸ばすことに重点を置く。具体的には、日本の観光地や日本人の生活習慣などについて調査し、発表することを通して、語彙を増やし、話の内容に即した表現ができるようにするとともに、時事ニュースに親しみ、視野を広げ、様々な問題について日本語で討論できるようにする。	留学生対象
		日本語BⅢ	本授業は、「書く」ための日本語能力を修得することを目的とする。具体的には、格助詞の使い方や語句の使い方を修得するために、テキスト読解および確認テストに取り組んだり、与えられたテーマについて、要約や感想、レポートを書いたりする。テキストおよび関連課題をこなすことによって、文法や語彙に関して、高度な日本語能力を身につける。特に、受け身や使役といった態の変化による格助詞の使い方や、組み合わせて用いる慣用表現などに慣れるようにする。	留学生対象
		日本語AⅣ	本授業は、大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を修得することを目的とする。パネルディスカッション、グラフを使った意思表明のスピーチ、ディベート等を通して日本語能力をさらに伸ばす。日本の少子化問題や、高齢化社会など時事問題について資料を読み、原稿を作成してスピーチし、レポートにまとめることによって、語彙を増やし、話の内容に即した表現ができるようにするとともに、時事ニュースに親しみ、視野を広げ、様々な問題について日本語で討論できるようにする。	留学生対象
		日本語BⅣ	本授業は、「書く」ための日本語能力を修得することを目的とする。具体的には、新聞記事を読み、語句を調べることで、語彙量を増やすとともに、さまざまな文法の問題に取り組む。また、引用の仕方や段落について学んだうえで、論文を作成する。自らテーマを決めて調査し、報告する、あるいは自らの論を展開するという論文作成を通じて、さらに日本語能力を高めることを目指す。小論文を書くために必要な文章記述能力を高め、長い文章を書く能力を身につける。	留学生対象

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	特設科目（留学生）	日本事情Ⅰ	本授業は、日本での一般的な生活の実態について学ぶことで、日本に関する基礎的な知識を修得することを目的とする。具体的には、「どこかに行くこと」「食べる」ことなどを出発点として、日本の地理、交通、施設、食事情など、日本で生活するために必要な情報について概説する。パソコン上のウェブ情報などを活用し、実際に都内の公園や美術館や飲食店を紹介させることで、日本に関する情報を習得していく。	留学生対象
		日本事情Ⅱ	本授業は、日本の文化的な側面を学ぶことで、日本に関する基礎的な知識を修得することを目的とする。具体的には、年中行事、芸能、伝統工芸をはじめとする日本の文化的な側面や観光名所等、日本の文化の伝統的な側面について概説する。パソコン上のウェブ情報などを活用し、実際に日本の年中行事や祭りや歌舞伎、能、落語といった伝統芸能や観光名所などについて調べ、紹介させることで、日本に関する情報を習得し、理解を深める。	留学生対象
		日本事情Ⅲ	本授業は、日本や世界の時事問題について学び、幅広い話題に対応できる日本語力を修得することを目的とする。具体的には、グラフや統計資料をもとに、日本の国土、気候、政治、経済、社会等について学んだうえで、関連するニュースやテレビ番組の映像なども視聴する。また、日本のゴミ問題やリサイクル、交通インフラ、物価、エネルギー問題等、身近な問題について理解したうえで、具体的な意見を述べる力を身につける。	留学生対象
		日本事情Ⅳ	本授業は、日本や世界の時事問題について学び、幅広い話題に対応できる日本語力を修得することを目的とする。具体的には、グラフや統計資料をもとに、日本の農林水産業、工業、商業、貿易や国際協力などについて学び、関連するニュースやテレビ番組の映像なども視聴する。また、ゴミ問題やリサイクル、交通インフラ、物価、エネルギー問題等、身近な問題について、自国と比較することにより理解をふかめ、具体的な意見を述べる力を身につける。	留学生対象
人間総合学群 観光文化学類 専門教育科目	基本科目	観光学	観光学は歴史の浅い学問でありながら、現代社会においてその重要性は増している。なぜならば、観光は人々の余暇活動の中心的位置を占めており、今後観光の果たす役割はますます大きくなっていくと思われるからである。さらに、観光が国の経済や文化・国民の生活にもたらす効果も高まってきている。本授業では、観光学の基礎理論を中心に観光の新たな動きと現場での対応にも触れる。観光に関わる基本的なことを広く学び、観光産業分野で起きていることや課題について理解を深める。	
		観光政策論	観光政策は、観光を通じた豊かな生活の実現及び国・地域の発展を推進していく上で重要な役割を担っている。我が国では平成１９年に「観光立国推進基本法」が施行され、それに基づく「観光立国推進基本計画」に沿って観光政策が行われている。観光政策論では、明治時代以降の観光政策が、我が国の進むべき方向性や国策とどのように関わって推進されてきたのかを時系列に概観し、「観光立国」を推進する現在の観光政策・行政の動向を学ぶ。これらの基礎知識をもとに、「地域創生」に観光が果たす役割を考察する。	
		観光マーケティング論	観光は人口減少、高齢化などに悩む日本にとって注目を浴び続けている産業である。しかし、「モノ」を売るビジネスと違い、観光はその対価として「サービス」や「旅の感動」などが求められ、違う観点からのマーケティングが注目を浴びている。また旅行ニーズの多様化、インターネット情報収集による旅行形態の変化などで、「観光マーケティングの独自性と重要性」が高まっている。本授業では、マーケティングに関する基礎的な理論を学んだうえ、観光関連企業・行政の観光マーケティングの実例を検証し、マーケティングの手法について学ぶ。	
		観光メディア	近年のメディアの発展は、私たちの生活に様々な変化をもたらしている。従来のマスメディアに加え、インターネットやSNSなどによる情報発信手段の飛躍的な進化に伴い、各種メディアの観光産業に対する影響や役割は拡大する一方である。観光メディア論では、観光の商品化や観光の消費に対してメディアがどのような影響を及ぼしてきたのか、そしてメディアが観光産業の発展にどのような役割を担ってきたのかを概観し、進化し続けるメディアが観光産業に今後いかなる可能性をもちうるのかを考察する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　観光文化学類　専門教育科目	基本科目	ホスピタリティ概論	現代のホスピタリティ産業は、観光業界はもちろん、医療、金融、エンターテイメント等、極めて視野の広い産業になっており、日本の経済と地域活性化に大きな影響力を持っている。本授業では、ホスピタリティの歴史、ホスピタリティとサービスなど、ホスピタリティを理解するための基礎知識を修得するとともに、ホスピタリティ産業を事例として紹介することで、現場視点でのホスピタリティ関連情報を理解する。学生は授業に参加することで、自分で考え、関連情報を正確に把握し、理論的に説明できる力を養う。	
		ホスピタリティ・マネジメント	日本など先進諸国ではサービス産業が果たす役割は大きい。とりわけ旅行業、飲食・宿泊業、エンターテインメント業など観光関連産業では、同業他社との差を図るために、どのような付加価値を付けた「ホスピタリティ・サービス」を提供するかが重要な意味をもつ。本授業では、観光関連企業各社の取り組みを具体的に比較検討する。また、履修者をグループに分けて、観光関連企業毎にホスピタリティ・サービスを具体的に提案する企画書を作成・発表してもらう。	
		観光社会学	現代社会における観光のあり方、つまり産業としての観光だけでなく観光がどのような背景で生み出され消費され再生産されているのかについて学び、現代社会の成り立ちを観光という観点から捉えることが観光社会学の基本にある。本授業は、社会学の基礎的な理論や考え方を理解しながら、社会学の観点から人の移動と観光現象を分析する手法を習得することを目的としている。日本における農村の民俗儀礼や民俗芸能などの視点から、「観光的なもの」がいかに消費・経験されているかについても見ていきたい。	
		観光人類学	グローバル化を迎えて人の移動がこれまでにないぐらい活発化してきている現在、観光現象は先進国のみならず途上国においても重要な産業となってきている。こうした世界的産業としての観光を人類学は新たな研究領域として再度認識している。本授業は、移動と観光にまつわる社会構造の変化や文化現象の拡大を、文化人類学の視点から読み解くことを目標としている。また「観光」という学問テーマは領域横断的であり、人類学に隣接するその他の社会科学の領域がどのように「観光」を捉えているのかについても見ていきたい。	
	観光実務関連科目	旅行業実務論	旅行業は交通運輸業・宿泊業とともに観光を支える三大産業の一つと言われ、余暇時間の拡大や可処分所得の増大による旅行の大衆化に伴って、発展・拡大してきたが、インターネットやSNSの普及により、旅行業界を取り巻く環境は近年大きく変化している。こうした状況を踏まえながら、旅行業実務論では、旅行業の発展の歴史を概観するとともに、旅行業の仕事、旅行商品、販売形態、経営の現状など、実務面を中心に旅行業の基本を広く学び、旅行業の課題や業界の今後の方向性を考察する。	
		宿泊業・飲食業実務論	宿泊業・飲食業実務論では、観光産業の中で重要な役割を果たし、私たちのライフスタイルに大きな影響力を与えているホテルなどの宿泊業やレストランなどの飲食業の歴史と特性を理解し、心地良い究極のサービスがどのようにして日常的に提供されているのか、業界の全体像に迫る。また、各業態の内容と役割について、具体的な事例を基に分かり易く学んでいく。さらに、実務面での理解を深めるため、「サービス」と「ホスピタリティ」、「外資系ホテル」と「日本のホテル」の特徴や業界の最新動向も紹介する。	
		航空・空港業実務論	グローバル化が進む中で、国際的な人的交流を支える航空業界の重要性は高まっており、飛行機による旅行や移動が日常化するに伴い、航空業界に求められる「ホスピタリティ」の質も高くなってきている。航空・空港業実務論では、日系の航空会社や日本の空港を中心に、航空・空港業の発展の歴史や企業組織・企業文化を紹介するとともに、航空会社の提供するサービスについて、キャビンアテンダントやグランドスタッフの実務を通じて学び、航空業界で働くために必要なマナーやホスピタリティ精神も身に付ける。	
		広告・メディア業実務論	現代社会に生きる私たちの情報源はインターネットやSNSなど多様化しているが、広告やメディアは依然として重要な位置を占めており、マスメディアからの情報は、私たちの日常生活のあらゆる面において多大な影響力を持っている。広告・メディア業実務論では、現代のメディアの発展の過程と特徴を概観し、広告やメディア・マーケティングに関する基礎的な知識を学び、各種メディアの理解を深める。その上で、実際の業務内容、企業文化などの実務面を中心に、広告業やメディア・出版業界の現状、課題、今後の方向性を考察する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　観光文化学類　専門教育科目	観光実務関連科目	エンターテインメント業実務論	かつて日本には地域に根ざす遊園地が娯楽地としての機能を果たしていたが、既に閉園したもの、生き残っているものがある一方、現在は外資系のTDLやUSJがエンターテインメント業界をリードしている。本授業では、娯楽・観光地を具体的に挙げて、機能・内容面を比較検討するとともに、エンターテインメント産業が変化してきた要因を日本の社会変化に着目して分析する。インターンシップ実習でエンターテインメント業界を考えている場合は、本授業を履修することが望ましい。	
		インターンシップ実習A	サービス産業（リゾートホテル、ブライダル産業）のみならず、様々な分野でのホスピタリティサービスを、インターンシップを通じて体得し、社会人としての素養を育てるとともに、就職準備につなげていく。行政（県庁、市役所）や金融（証券会社等）も広い意味ではホスピタリティが必要な業種と言える。「ホスピタリティ概論」履修者を対象とし、ホスピタリティの必要な産業全般に亘って実施する。　なお、この実習では、企業人としての「身だしなみ」「礼儀作法」「履歴書や礼状の書き方」等についても学習する。	共同
		インターンシップ実習B	観光の中心的産業である宿泊業の知識を深めるため、ホテルでのインターンシップ（実習）を実施し、併せて社会人としての素養を育てる。宿泊業界は外国人観光客の増加等により客室利用率が上昇し、首都圏や近畿圏では空室の少ない状況が発生している。この業界にとって２０２０年の東京オリンピックまでの客室不足への対応が緊急課題となっている。なお、この実習では、企業人としての「身だしなみ」「礼儀作法」「履歴書や礼状の書き方」等についても学習する。	共同
		インターンシップ実習C	広告会社・出版社または両業種と関係の深い団体や企業の実務と実際を、そこに携わる人達と交わる中で学ぶ。現在出版業界はインターネットの普及や若者の書籍離れにより大変厳しい状況である。しかし一部の話題書については大きく販売を伸ばしており、出せば売れる時代からの脱却を図っている。一方広告業界はインターネット広告の増加等により着実に業績を伸ばしている。なお、この実習では、企業人としての「身だしなみ」「礼儀作法」「履歴書や礼状の書き方」等についても学習する。	共同
		海外インターンシップ実習	観光の中心的産業である旅行業・ホテル業の知識を深めるため、ホノルル（ハワイ）でのインターンシップ（実習）を実施し、併せて社会人としての素養を育てる。ハワイでの実習先としては「ワイキキビーチ・マリオットホテル」、旅行会社では「ＪＴＢホノルル支店」で実習すると共に、日本とハワイの文化交流イベントである「ホノルルフェスティバル」でのボランティアも経験する。また、事前学習として「東京マリオットホテル」見学やＪＴＢでの「実用英語」のレクチャーも行われる。	共同
		国内旅行研修	講義を通じて、先ず旅行業界の現状と課題を多面的に分析し、特に団体旅行部門を扱う旅行社の業務の基礎を概説する。続いて、1泊2日の研修におけるツアープランの作成と指導、旅行社の見学、最後に1泊2日の添乗員体験研修を実施する。	共同
		海外旅行研修	海外旅行を行うに際して必要な渡航手続などの実務を学ぶとともに、研修旅行先である「シンガポール」について旅行事情の調査研究を行った後、現地への研修旅行を実施する。研修旅行では、体験を通じて講義内容の理解を深めるとともに、ホテル見学・旅行会社訪問などにより研修先の観光事情を幅広く学ぶ。また、シンガポールにある「国立シンガポール大学」を訪問し、事前に授業で作成した「日本の文化やイベント」をパワーポイントを使って紹介し、大学生との交流を深める	共同
	観光資源・文化関連科目	世界遺産研究	現在を生きる世界中の人々が過去から現在に引き継ぎ、未来へと伝える責務を負う人類共通の財産である世界遺産について、1972年にユネスコ総会で採択された世界遺産条約に記されている定義、世界遺産の種類、登録の基準と手続きなど基本的な理解を深めるとともに、DVDで登録されている世界遺産を鑑賞する。また、「危機遺産」の調査を通じて、世界遺産活動の現状と課題を考える。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　観光文化学類　専門教育科目	観光資源・文化関連科目	地域観光資源研究	本学は、地元の稲城市と地域貢献活動や地域の活性化、ボランティア活動などについて相互に協力することなどを含む包括協定を結んでいる。この関係をもとに、本授業では稲城市の観光資源を調査したものをパンフレットにまとめ、稲城市役所経済観光課に対して地元を広く発信するための具体的な提案を行う。また、ボランティアとして稲城市が実施している市民祭りなどにどのような貢献活動が可能かを検討する。これらの研究成果を学園祭で展示発表する。	
		国内観光資源研究A（東京・首都圏）	東京、神奈川、千葉、埼玉、群馬、栃木、茨城，山梨からなる首都圏の観光資源を研究する。履修者が自身の出身地あるいは興味関心のある場所を選び、７グループに分かれて観光資源を調査・発表する。グループ学習を通じてリーダーシップや協調性などを身に付けることを目標として、授業は次のPDCAサイクル形式で行う。第１に企画会議（リーダーの選出、調査・発表者の選出など役割分担の決定、企画書の作成、企画会議）の開催、第２に質疑応答形式で合同発表会の開催、第３に合同発表会の反省点を洗い出して完成版の企画書を作成する。	
		国内観光資源研究B（東日本）	東日本を便宜的に北海道、東北、東京・首都圏の除く関東、中部の４ブロックに分けて、各ブロックの観光資源を研究する。具体的には、履修者を４ブロックに分け、各グループで観光資源を調査して発表するが、グループ学習を通じてリーダーシップや協調性などを身に付けることを目標として、授業は次のPDCAサイクル形式で行う。第１に企画会議（リーダーの選出、調査・発表者の選出など役割分担の決定、企画書の作成、企画会議）の開催、第２に質疑応答形式で合同発表会の開催、第３に合同発表会の反省点を洗い出して企画書の完成版を作成する。	
		国内観光資源研究C（西日本）	西日本を便宜的に近畿、中国、四国、九州・沖縄の４ブロックに分けて、各ブロックの観光資源を研究する。具体的には、履修者を４ブロックに分け、各グループで観光資源を調査して発表するが、グループ学習を通じてリーダーシップや協調性などを身に付けることを目標として、授業は次のPDCAサイクル形式で行う。第１に企画会議（リーダーの選出、調査・発表者の選出など役割分担の決定、企画書の作成、企画会議）の開催、第２に質疑応答形式で合同発表会の開催、第３に合同発表会の反省点を洗い出して企画書の完成版を作成する。	
		海外観光資源研究A（ヨーロッパ1）	海外観光資源研究シリーズの一つであるこの科目では、観光大国スペインの観光資源を紹介する。ヨーロッパの西端に位置するスペインは、海外からの観光客数は世界第3位、観光収入は世界第2位、世界遺産の数も世界第3位を誇る。また華やかな祭り、天才芸術家の残した芸術作品、独特の料理など観光客を惹きつける要素に事欠かない。その地理・気候風土・歴史が育んだ多様な観光資源を見てゆく。	
		海外観光資源研究B（ヨーロッパ2）	海外観光資源研究シリーズの一つであるこの科目では、ヨーロッパの観光旅行先として人気のドイツの観光資源を紹介する。明治時代に日本に大きな影響を与えたドイツは、日本同様第二次世界大戦では敗北し、復興を果たした経済大国である。その歴史を振り返り、ドイツという国の理解を深め、豊かな観光資源を見てゆく。	
		海外観光資源研究C（アジア1）	観光資源は、様々な形で分類が可能であるが、基本的には自然観光資源、人文観光資源、複合観光資源に大別される。近年、韓国でも上記のような様々な観光資源が観光対象として活発に開発、保存されている。しかし、未だに日本にあまり知られていないものも多々ある。本授業では、韓国の観光資源について把握し、各地域における観光資源の特徴とその差異を考察する。特に韓国の観光地や世界遺産を題材に、「異文化の理解」、「自然と人類の共生の重要性」を学習する。	
		海外観光資源研究D（アジア2）	観光資源は、様々な形で分類が可能であるが、基本的には自然観光資源、人文観光資源、複合観光資源に大別される。近年、中国でも上記のような様々な観光資源が観光対象として活発に開発、保存されている。しかし、未だに日本にあまり知られていないものも多々ある。本授業では、中国の観光資源について把握し、各地域における観光資源の特徴とその差異を考察する。特に中国の観光地や世界遺産を題材に、「異文化の理解」、「自然と人類の共生の重要性」を学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　観光文化学類　専門教育科目	観光資源・文化関連科目	海外観光資源研究E （オセアニア）	海外観光資源研究シリーズの一つであるこの科目では、オセアニアの観光資源を紹介する。オセアニアはその地理、気候、歴史的要因から、ヨーロッパやアジアとは異なる、独特で多様性に富む豊かな文化を育んできた。まず観光資源の基本を学ぶために、地理、気候風土、歴史の基礎的な知識を修得する。さらにその文化形成に多大な影響を与えてきた複雑な歴史的背景に注目し、オセアニアの豊かで魅力的な観光資源を見てゆく。	
		世界のミュージアム	ヨーロッパとアメリカ各地の著名なミュージアムの成立過程とその収蔵品を中心に、ビデオやスライド等の映像資料を多用して、各館の特徴を解説する。次に、収蔵品の中からよく知られた作品を数点選んで、その文化的価値について詳細に検討を加え、展示方法・作品の魅力、問題点を探る。最終的には観光文化資源としての欧米のミュージアムの特徴を学び、ミュージアムの成立過程を研究することにより、当該地の文化と歴史を把握する。 (オムニバス方式／全15回) (1 羽鳥修・11 糟谷惠次・2 加藤ナツ子／1回)（共同） 海外におけるミュージアムの役割についてそれぞれの立場から概要を述べる。 (1　羽鳥修／5回) アメリカ合衆国の主要なミュージアムを紹介する。 (11　糟谷惠次／5回) ドイツ、オーストリアの主要なミュージアムを紹介する。 (2　加藤ナツ子／4回) スペインの主要なミュージアムを紹介する。	オムニバス方式 共同(一部)
		日本のミュージアム	観光資源の観点から日本各地の著名なミュージアムの成立過程とその収蔵品を中心に、ビデオやスライド等の映像資料を多用して、その館の特徴を解説する。次に、収蔵品の中からよく知られた作品を数点選び、その価値について検討を加え、その魅力を探さぐる。さらに、各ミュージアムが現在抱える問題を取り上げ、解決策を考察する。最終的には個々の館の垣根を越えたミュージアムを巡る観光ツアープランを計画する。	
		西洋美術の旅Ⅰ	古代エジプト、ギリシア、ローマ、中世ロマネスク、ゴシックから16世紀ルネサンスまでの西洋美術の流れを多くのスライドやビデオ等によって概観しながら、各時代と各地の特徴を捉える。また作品の鑑賞等をおこなうことによって、西洋美術の様式的な特質と画家や彫刻家たちの個性を探求しながら、一点の作品の背後に隠された依頼者と確執を明らかにする。最終的には西洋美術の基本的な知識を習得し、著名な作品とその作者の特質を把握する。	
		西洋美術の旅Ⅱ	17世紀から20世紀までの西洋美術の流れをスライドやビデオによって概観しながら、各時代と各地の特徴を捉える。また作品の鑑賞と対比によって、西洋美術の様式的な特質と画家や彫刻家たちの個性を探求する。対象とするのは、バロック様式と17世紀様式の類似と相違、18世紀ロココ様式、18世紀後半からの新古典様式とロマン主義様式の対比、19世紀後半からの印象主義とそれ以降のフォヴィズムとキュビズムの展開、20世紀後半の多様化する西洋美術までの特徴を明らかにする。	
		異文化交流Ⅰ	アメリカ合衆国は多人種・多民族国家で、すべてのアメリカ人が「ハイフン付き」である。本授業では、アメリカを構成しているさまざまなエスニック・グループを取り上げるが、特にアフリカ系アメリカ人を取り上げ、彼らの出自の要因、アメリカ社会におけるコミュニティの形成過程、文化的貢献などを歴史的に遡って解説する。併せて、例えばニューオリンズとジャズの関係など、観光資源という観点でエスニック・グループと関係が深い場所・出来事についても随時紹介する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　観光文化学類　専門教育科目	観光資源・文化関連科目	異文化交流Ⅱ	アメリカ合衆国は多人種・多民族国家で、すべてのアメリカ人が「ハイフン付き」である。本授業では、アメリカを構成するいくつかのエスニック・グループを取り上げるが、特にイギリス系アメリカ人のほかアイルランド系、ドイツ系、イタリア系、ユダヤ系、ヒスパニックを取り上げ、彼らの出自の要因、アメリカ社会におけるコミュニティの形成過程、文化的貢献などを歴史的に遡って解説する。併せて、観光資源という観点でそれぞれのエスニック・グループと関係が深い場所・出来事についても随時紹介する。	
		文化交流論A （日本とヨーロッパ）	日本とヨーロッパとは近世以降、政治・経済のみならず、文化的な交流を積極的に行ってきた。特に、明治政府はヨーロッパの文物を急速に導入することで、「富国強兵」「殖産興業」を推進していった。このような交流について、来日した諸国の外交官、芸術家、文学者、旅行者の残した足跡、また、渡欧した人々の足跡を通して、日本にもたらされた文物の影響、そこから派生した現代にいたるまでの様々な問題を研究する (オムニバス方式／全15回) (11 糟谷惠次・2 加藤ナツ子・20 弥久保宏・25 米金孝雄／1回)（共同） ヨーロッパと日本の文化交流についてそれぞれの立場から概要を述べる。 (11 糟谷惠次／3回) ドイツと日本の文化交流を取り上げ、考察する。 （2 加藤ナツ子／3回） スペイン日本の文化交流を取り上げ、考察する。 (20 弥久保宏／5回） イギリスと日本の文化交流を取り上げ、考察する。 (25 米金孝雄／3回) フランスと日本の文化交流を取り上げ、考察する。	オムニバス方式 共同(一部)
		文化交流論B （日本とアメリカ）	ペリー来航から現在までの日本とアメリカ合衆国の政府間関係の歴史を概説する。また、例えば北海道を舞台に展開された開拓の過程でみられた異文化交流の歴史など日米の人的交流、そして日本からアメリカに「輸出」された文化、逆にアメリカから日本に「輸出」された文化など、日米の文化交流の歴史を具体的事例を挙げながら概説する。	
		文化交流論C （日本とアジア）	国際化、グローバル化が著しい現在、「異なる文化に対する理解力」と「共感する心」は重要である。特に見た目は似たようで異なる文化を持っているアジア地域の生活習慣、衣・食・住、宗教について分析し、比較する力が問われる時代である。本授業では、アジア地域、特に漢字文化圏に属する中国、朝鮮半島地域と日本との交流について歴史を振り返ってみる事で、日本文化及びその関連性を再認識する。授業では、積極的に視聴覚資料およびインターネットの資料を利用することで、アジアの異国情報との接触や文化交流のあり方などを読み解く。	
		イスラーム文化論	イスラームを信仰する人びと（ムスリム）の人口は、2030年には世界の４分の１を占めるといわれ、日本のインバウンド観光客にもムスリムが増加し、新たなビジネスチャンスも広がっている。その一方で、ムスリムやイスラームについての理解不足に起因する偏見や誤解があるのも事実である。イスラーム文化論では、イスラームの誕生と教義の概要及びムスリムが多数を占める中東・イスラーム世界の歴史と社会について学び、イスラームに対する基本的な知識を身につけることを目的とする。	

授　業　科　目　の　概　要 （人間総合学群 観光文化学類）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　観光文化学類　専門教育科目	観光資源・文化関連科目	キリスト教文化論	キリスト教徒は世界の人口の約３分の１を占め、キリスト教やその世界観は現代においても国際政治や国際社会に大きな影響を及ぼしている。日本においても、16世紀にキリスト教が伝来して以来、日本人や日本社会に影響を与え、身近に感じられる一方で、日本のキリスト教徒は全人口の１％にも満たず、宗教としてのキリスト教は十分に理解されてはいないのが現状である。キリスト教文化論では、キリスト教に関する基本的な知識を身につけ、世界のキリスト教徒の歴史と社会についても学ぶ。	
	国家試験対策科目	旅行法規Ⅰ	旅行業者は「旅行業法」の規制を受けると同時に、消費者との営業取引にあたっては「旅行業約款」を遵守しなければならない。そこで、旅行業の基本である「旅行業法」と「旅行業約款」のポイントを学習する。併せて、旅行営業を行う上で理解しておかなければならない「運送約款」「宿泊約款」や「景品表示法」などの基礎も学ぶ。　また、旅行業を営む上で必要な「旅行業務取扱管理者（総合・国内）」取得のための国家試験にも備える。	
		旅行法規Ⅱ	この授業は「旅行業務取扱管理者（総合・国内）」取得を目的として開講するものであり、「旅行法規Ⅰ」の単位取得者のみが受講できる。「旅行業法」「旅行業約款」をより専門的に学習することにより、国家試験に備える。また、授業では毎回「理解度チェック」を行うとともに、過去の出題問題を中心に自己診断のテストを行う。同時に毎年９月に行われる国家試験の対策科目である「旅行業務取扱管理者試験特講」を受講する事を勧める。	
		国内旅行実務論Ⅰ	2020年に開催される東京オリンピックに向けて、将来、旅行業で活躍したいと考えている学生、または旅行業に興味を持つ学生を対象として、旅客鉄道会社（JR）の運賃・料金の仕組みや規則を学び、専門的な知識を習得する。同時に「国内旅行業務取扱管理者」資格取得の国家試験に向けての基礎知識を得る。同時に毎年9月に行われる国家試験の対策科目である「旅行業務取扱管理者試験特講」を受講する事を勧める。	
		国内旅行実務論Ⅱ	将来、旅行業で活躍しようとする学生、あるいは旅行業に興味を持つ学生を対象に、国内の旅客鉄道会社（JR）をはじめとして、航空・その他運輸機関や宿泊機関の運賃や料金の仕組み、約款等の規則を学び、専門的な知識を身に付ける。旅行業務取扱管理者（総合・国内）の資格を得る国家試験に向けての高いレベルの知識と実務能力を養成する。同時に毎年９月に行われる国家試験の対策科目である「旅行業務取扱管理者試験特講」を受講する事を勧める。	
		海外旅行実務論Ⅰ	将来、旅行業で活躍しようとする学生、あるいは旅行業に興味を持つ学生を対象に、旅行会社の海外旅行業務の基礎知識や、関連する運輸機関などの知識、渡航手続や出入国に関する法令などを学ぶ。旅行業務取扱管理者（総合）の資格を得る国家試験にも備える。海外旅行には国内旅行と異なり、「旅券」「査証（ビザ）」「予防接種」などの手続きが必要となるため、これら諸手続きの十分な知識と理解が不可欠である。	
		海外旅行実務論Ⅱ	企業や人々の活動のグローバル化が益々進む今日、海外旅行には欠かせない国際航空券と国際航空運賃について、その仕組みと規則、運賃計算の基礎について学ぶ。旅行業務取扱管理者（総合）資格取得の国家試験にも備える。現在航空運賃にはＩＡＴＡ（国際航空運送協会）運賃、キャリア運賃の他にＩＡＴＡ不参加の航空会社やＬＣＣなどの独自運賃も存在し、大変複雑な構造となっている点もしっかりと理解しておく。	
		旅行業務取扱管理者試験特講	将来、旅行業で活躍しようとする学生、あるいは旅行業に興味を持つ学生を対象に、9月上旬に予定されている「国内旅行業務取扱管理者」資格取得の国家試験合格を目指して受験準備を行う。毎年国家試験の直前にこの集中講義を受ける事により、効果的な受験対応が出来る。国家試験では「旅行業法」「旅行業・運送・宿泊各約款」「旅行実務」から出題され、そのいずれも６０点以上が合格点となっているので、バランスの良い学習が必要となる。	集中

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　観光文化学類　専門教育科目	観光の外国語科目	観光の英語Ⅰ	観光の英語Ⅰでは、学生自身の海外旅行や国際的な観光業務に役立つ英語の運用能力を習得することを目的とし、観光英語検定３級レベルの到達を目標とする。具体的な能力としては、海外グループ旅行の自由行動の際に、英語を使って買い物をしたり、食事を頼んだりすることができ、訪日観光客に対し、簡単な道案内などができるようになることを目指す。ペアワークなどによる実際のシミュレーションを多く行い、自ら積極的にコミュニケーションする姿勢も養う。	
		観光の英語Ⅱ	観光の英語Ⅱでは、Ⅰで習得した語学力を基礎として、学生自身の海外旅行や国際的な観光業務に役立つ英語の運用能力を習得することを目的とし、観光英語検定２級レベルの到達を目標とする。具体的な能力としては、海外個人旅行の際に、乗り物やホテルの予約、観光、買い物などを自分で行うことができ、訪日観光客に対し、観光地や名所などの概要を英語で説明することができるようになることを目指す。ペアワークなどによる実際のシミュレーションを多く行い、自ら積極的にコミュニケーションする姿勢も養う。	
		観光の英語Ⅲ	観光の英語Ⅲでは、Ⅱで習得した語学力を基礎として、旅行・観光業界を中心とした国際的な業務に役立つ英語の運用能力を習得することを目的し、観光英語検定１級レベルの到達を目標とする。具体的な能力としては、海外で日本人旅行者を案内し、問題発生時に対処することができ、訪日観光客に対し、観光地や名所、日本の習慣などについて英語で説明をし、質問に対応することができるようになることを目指す。ペアワークなどによる実際のシミュレーションを多く行い、自ら積極的にコミュニケーションする姿勢も養う。	
		観光のフランス語	「観光の外国語」シリーズのひとつである本授業では、空港・観光地・レストラン・宿泊所・乗り物・ショッピングなど、外国で体験するさまざまな場面を想定し、フランス語を使ってコミュニケーションする力を養う。授業では毎回語彙とキーフレーズを説明・練習した後、観光客と応対者に分かれ、ロールプレイ形式で会話を繰り返し練習して実践力を養成する。初修者のために、発音・文法の説明も毎回織り込むことで理解を深めてゆく。	
		観光のドイツ語	「観光の外国語」シリーズのひとつである本授業では、空港・観光地・レストラン・宿泊所・乗り物・ショッピングなど、観光旅行で体験するさまざまな場面を想定し、ドイツ語を使ってコミュニケーションする力を養う。授業では毎回語彙とキーフレーズを説明・練習した後、観光客と応対者に分かれ、ロールプレイ形式で会話を繰り返し練習して実践力を養成する。初修者のために、発音・文法の説明も毎回織り込むことで理解を深めてゆく。	
		観光のスペイン語	「観光の外国語」シリーズのひとつである本授業では、空港・観光地・レストラン・宿泊所・乗り物・ショッピングなど、観光旅行で体験するさまざまな場面を想定し、スペイン語を使ってコミュニケーションする力を養う。授業では毎回語彙とキーフレーズを説明・練習した後、観光客と応対者に分かれ、ロールプレイ形式で会話を繰り返し練習して実践力を養成する。初修者のために、発音・文法の説明も毎回織り込むことで理解を深めてゆく。	
		観光の中国語	「観光の外国語」シリーズのひとつである本授業では、空港・観光地・レストラン・宿泊所・乗り物・ショッピングなど、観光旅行で体験するさまざまな場面を想定し、中国語を使ってコミュニケーションする力を養う。授業では毎回語彙とキーフレーズを説明・練習した後、観光客と応対者に分かれ、ロールプレイ形式で会話を繰り返し練習して実践力を養成する。初修者のために、発音・文法の説明も毎回織り込むことで理解を深めてゆく。	
		観光の韓国語	「観光の外国語」シリーズのひとつである本授業では、空港・観光地・レストラン・宿泊所・乗り物・ショッピングなど、観光旅行で体験するさまざまな場面を想定し、韓国語を使ってコミュニケーションする力を養う。授業では毎回語彙とキーフレーズを説明・練習した後、観光客と応対者に分かれ、ロールプレイ形式で会話を繰り返し練習して実践力を養成する。初修者のために、発音・文法の説明も毎回織り込むことで理解を深めてゆく。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　観光文化学類　専門教育科目	観光の外国語科目	観光ガイドの英語	観光ガイドの英語では、地域のボランティア観光ガイドとして活動するために必要な英語表現や外国人を対象とする観光ガイドの心得について実践練習を通じて習得し、地域の魅力を口頭及び紙媒体で発信できるようになることを目標とする。駒沢女子大学の案内や稲城市の観光スポットのガイドを例に練習を行う。また、英字メディアでの観光案内にも慣れ親しむため、ガイドブックなどで使われる表現についても学び、実践的な取り組みとして、駒沢女子大学の英語案内又は稲城市の観光ガイドブック英語版の作成も試みる。	共同
		ホスピタリティ英語Ⅰ	ホスピタリティの英語では、レストラン、デパート、ホテルなどでの外国人客に対する接客業務に必要な英語でのコミュニーション能力を習得することを目的とする。Ⅰでは、接客の場面でよく使われる定型表現と応答のパターンや外国人に対する接客のマナーを重点的に学び、英語を使って簡単な接客ができるようになることを目指す。英語での接客に慣れるため、ロールプレイなどによる実践的な接客シミュレーションを多く行い、積極的に接客する姿勢も養う。	
		ホスピタリティ英語Ⅱ	ホスピタリティの英語Ⅱでは、Ⅰで習得した語学力を基礎として、レストラン、デパート、ホテルなどでの外国人客に対する接客業務に必要な英語でのコミュニーション能力を習得することを目的とする。Ⅱでは、問題が発生したときの対応の仕方などを学ぶほか、定型表現の使いこなしにとどまらず、個別の配慮や気遣いをしながら、パーソナルな接客ができるようになることを目指す。英語での接客に慣れるため、ロールプレイなどによる実践的な接客シミュレーションを多く行い、積極的に接客する姿勢も養う。	
	専門ゼミ科目	観光文化ゼミⅠ	2年間の観光文化ゼミを通して、各地の文化、観光資源を研究し、ツアープランを作成する。今期は各国の地理、気候、歴史、文化、世界遺産等の概要を調べた後、各自関心のあるテーマについて研究発表し、レポートを書く。パワーポイントとレジュメを用いたプレゼンテーションを行うことでプレゼンテーション力を養い、レポートを作成することでアカデミックな表現力を養う。	
		観光文化ゼミⅡ	2年間の観光文化ゼミを通して、各地の文化、観光資源を研究し、ツアープランを作成する。今期は4年次の最後に提出するゼミ論につながるテーマを決定し、基本的な部分について調査研究する。パワーポイントの使用に熟達し、レジュメは聴き手の理解を助けることを念頭に作成する。また研究成果をレポートにまとめる。	
		観光文化ゼミⅢ	2年間の観光文化ゼミを通して、各地の文化、観光資源を研究し、ツアープランを作成する。今期はツアープランの作り方を学んだ後、各自でテーマ性のあるツアープランを作成し発表する。パンフレット作成し、パワーポイントを使って実際に販売するつもりでプレゼンテーションを行う。並行してゼミ論のための研究を進行させる。	
		観光文化ゼミⅣ	2年間の観光文化ゼミを通して、各地の文化、観光資源を研究し、ツアープランを作成する。今期はゼミ生全員で協力して、合同発表会のためのツアープランを作成する。担当の分担、発表会までの作業工程はゼミ長を中心に学生が自主的に行う。並行して各自ゼミ論のためのテーマ研究を続け、最後にゼミ論を完成させて提出する。	
		卒業研究	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を観光文化の研究対象として選び、専門的な知識の修得をふまえたうえで、自らの分析の視点と問題意識を明確にしつつ、適切な方法を用いて深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化して論文としてまとめる。また、それらの内容を高度なプレゼンテーションの技法を使って表現することで、社会人へ向けての実践力も身につけていく。	

授　業　科　目　の　概　要 （人間総合学群 観光文化学類）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	省令必修科目	生涯学習論Ⅰ	生涯学習に興味・関心がある学生を対象に、生涯学習の意義や目的、歴史や基礎理論、生涯学習の内容や方法を概説する。生涯学習には、「学びたい」ことだけではなく、「学ばなければいけないこと」も含まれている。本授業における到達目標として、①生涯学習の意義や目的を理解し、生涯学習を支える者の役割を充分に自覚する、②生涯学習の歴史（誕生と展開）を理解・説明することができる、③生涯学習を支える基礎理論を理解・説明することができる、④生涯学習の内容や方法を理解・説明することができる、以上の4点をあげる。	
		博物館概論	現代社会において、教育・文化施設である博物館の果たす役割は大きい。本講義は、博物館に関する基礎的知識を習得することを目的とする。生涯学習社会へと移行する中で、博物館の基本を身に付け、博物館に課された役割について考えることで、専門への導入教育としたい。博物館について、存在意義にかかわる本質的な問題、歴史的な歩み、現状と課題、といった観点から概要を説明したあと、国内外の博物館の事例を紹介する。さらに、現実的な立場から、学芸員に何が求められているかについて、理解できるように授業を進めていく。	
		博物館資料論	本講義は、博物館資料の収集、整理保管、情報管理の方法等、理論と知識を含めた、資料に対する基本的な能力を養うことを目標とする。合わせて、考古・民族・美術・歴史・自然史資料等、具体的な資料の特性に即しながら、資料の取り扱いの実際について学んでいく。博物館資料に対する基本的な考え方を講じたあと、資料の収集・整理・活用、一次資料と二次資料、デジタル資料等について解説する。また、博物館では資料を通した調査研究活動がいかに行われているのか、具体例をあげながら説明する。	
		博物館展示論	本講義は、歴史的観点、意味論（教育論）的観点から博物館の展示について解説し、また具体的事例、あるいは特定の展示を想定しながら展示の組み立て方やデザインの仕方等を講じることで、博物館展示の基本を学ぶことを目的とする。博物館の展示が社会的にどのような意味を持つのか、展示の意義や実態を一般論として学んだあと、展示資料の分類、展示資料の選定、展示の設計、配置計画、導線計画、解説パネル文章作成、広報手段等、展示全般を想定した講義をする。	
		博物館資料保存論	本講義は、博物館における資料保存の基本を講じることを目的とする。展示環境、収蔵環境を科学的にとらえ、資料を良好な状態で次の世代に引き継いでいくための知識を習得することで、資料の保存が、博物館の文化活動においていかに大切なことかを学ぶ。資料保存の意義、資料の現状調査、資料の修理と修復、資料の梱包と輸送、資料の保存環境（劣化条件・災害・総合的有害生物管理･･･）、環境保護と博物館の役割等について講じる。具体的な施設を事例としながら、資料保存の問題について総合的に考えていきたい。	
		博物館経営論	本講義は、博物館の使命と組織形態、及び実際の管理運営の方法について、具体的事例を通して学び、博物館を経営すること（ミュージアム・マネジメント）の基礎的能力を養うことを目的とする。博物館経営の基盤となる、博物館行政制度、博物館の財務、施設設備、組織と職員等について学んだあと、博物館経営の使命と評価、マーケティングとパブリシティ活動、地域社会と博物館等、博物館経営の実際について授業を行う。	
		博物館教育論	本講義は、博物館における教育活動の重要性を理解させることをねらいとする。授業では、具体的な事例を示しながら、教育活動の基礎となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館教育に関する基礎的な能力が身に付くよう配慮する。博物館教育の理論的側面として、生涯教育の場、人材養成の場、地域教育の場、文化情報リテラシー教育の場等の視点から解説する。そのあと、博物館の利用と学びの実際について、心理的効果、教育的効果、教育活動等の内容を事例をあげながら講義する。	
		博物館情報・メディア論	本講義は、博物館における情報の意義と活用方法、情報発信の課題等について、ソフト面、ハード面ともに理解し、博物館の情報提供と活用に関する基礎的能力を養うことをねらいとする。博物館における情報・メディアの歴史と意義、博物館活動と情報ネット化の現状を踏まえ、博物館におけるデジタル情報発信の基本をネット実習等を交えて教授する。さらに、著作権や個人情報等、博物館の知的財産に関しての理解を深める。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	省令必修科目	博物館実習A（見学実習）	博物館実習A（見学実習）は、博物館の実態や展示の仕方を学ぶという観点から、さまざまな博物館を見学し、他の博物館に関する科目で習得した知識を深めることを目的とする。見学は、教員が引率するものと、学生が単独で訪れるものがある。どちらの見学でも、特定のテーマ（展示物の配置、照明と採光、展示資料の解説等）を設定したレポートを課す。また、見学に訪れた博物館の学芸員から直接話を聞くことにより、学芸員の仕事とはどのようなものかについても、理解を深める。	共同
		博物館実習B（実務実習）	博物館実習B（実務実習）は、博物館における館園実習の準備と他の博物館に関する科目の補足を兼ねて、学内の実習施設等において、資料の取り扱いや収集・保管・展示・整理・分類等の方法、調査研究の手法等について学ぶことを目的とする。館園実習では、博物館が所蔵する資料や展示物に直接触れるため、事前に学内において、資料の取り扱いに関する注意点を十分理解するとともに、資料や展示物に触れる際に必要な技術や方法論を身につける。	共同
		博物館実習C（館園実習）	博物館実習C（館園実習）は、学内実習で学んだ内容を博物館の現場で実際に経験することで、博物館の理念や設置目的、業務の流れ等に対する理解を深めると同時に、博物館資料の取り扱いや収集・保管・展示・整理・調査研究・教育普及活動、来館者対応等の実務の一端を担うことにより、学芸員としての責任感や社会意識を身につけ、学芸員としての心構えを涵養することを目的とする。また、事前には実習に当たっての心構え等について、事後には実習の反省・自己評価等をもとに課題解決のための指導を実施する。	共同
	基礎選択必修科目	日本美術史	本講義は、日本の原始から現代に至る日本美術の展開について、各時代別にテーマを設定し、日本美術史上の名品を軸に、日本美術の基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、絵画・彫刻・工芸の美術品を軸に日本美術の歴史について解説する。この学びを通じて、信仰・各種儀式から生み出された美、建築や工芸にみる多様なデザインなど、日本美術の特徴、さらに日本の美意識に大きな影響を与えた海外文化など、広くその特質を考察する。	
		西洋文化史	ヨーロッパ文化の特質とその流れを、ビデオやスライドを多用して概観し、一つの文化の成長から衰退までの経緯を研究する。さらに、日記、手紙、装飾品や日常の必需品などの多岐にわたるモノを通して、ヨーロッパ各地の人々の生活と考え方を知る。本講義では、古代世界（古代ギリシア文化）からヨーロッパ文化の基層を形成した中世、その結実としてのルネサンスまでを扱う。西洋文化の歴史的な展開についての基本的な知識を把握することを目標とする。	
		日本文化史Ⅰ	本講義は、日本の文化に関する歴史を総合的に学び、日本人の文化に対する価値観や個々の文化事象について基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、古代から近現代に至る文化史を学びつつ、それぞれの時代における文化的特徴について考察する。また風土論についても側面的に学習する。なお、海外から評価されるさまざまな日本の文化や世界遺産などについても学び、社会人として理解しておくべき実践的な日本文化学を修得する。	
		日本文化史Ⅱ	本講義は、日本の芸能の歴史に関する基礎知識を学びながら、日本文化における芸術と技芸の全体像を把握すること目的とする。具体的には、神楽、能、文楽、歌舞伎などの日本を代表する演劇をはじめ、映画・歌謡・舞踊・落語などのさまざまな芸能文化について解説する。また必要に応じて映像や音楽の鑑賞を行い、伝統的な古典芸能とともに、現代の新しい芸能文化についても幅広く学ぶ。なお、大学の地元である稲城市の里神楽について知り、身近な日本の伝統芸能についても親しむ。	
		地域文化概論	本講義は、地域社会に残された文化財から地域社会で営まれてきた人々の暮らしに関する知識を修得することを目的とする。具体的には、石造物、祭礼、年中行事など、地域に残された人々の暮らしの痕跡から見えてくる地域文化について解説する。この学びを通じて、教科書や年表には登場しない普通の人々の暮らしが基となって私たちの生活文化が形成されていることを学習する。さらに人々の暮らしにおいて大きな影響力を持っていた寺社を通して見えてくる地域社会の新たな側面など、地域文化の面白さについても学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 観光文化学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	基礎選択必修科目	世界遺産研究	現在を生きる世界中の人々が過去から現在に引き継ぎ、未来へと伝える責務を負う人類共通の財産である世界遺産について、1972年にユネスコ総会で採択された世界遺産条約に記されている定義、世界遺産の種類、登録の基準と手続きなど基本的な理解を深めるとともに、DVDで登録されている世界遺産を鑑賞する。また、「危機遺産」の調査を通じて、世界遺産活動の現状と課題を考える。	
		世界のミュージアム	ヨーロッパとアメリカ各地の著名なミュージアムの成立過程とその収蔵品を中心に、ビデオやスライド等の映像資料を多用して、各館の特徴を解説する。次に、収蔵品の中からよく知られた作品を数点選んで、その文化的価値について詳細に検討を加え、展示方法・作品の魅力、問題点を探る。最終的には観光文化資源としての欧米のミュージアムの特徴を学び、ミュージアムの成立過程を研究することにより、当該地の文化と歴史を把握する。 (オムニバス方式／全15回) (1 羽鳥修・11 糟谷惠次・2 加藤ナツ子／1回)（共同） 海外におけるミュージアムの役割についてそれぞれの立場から概要を述べる。 (1 羽鳥修／5回) アメリカ合衆国の主要なミュージアムを紹介する。 (11 糟谷惠次／5回) ドイツ、オーストリアの主要なミュージアムを紹介する。 (2 加藤ナツ子／4回) スペインの主要なミュージアムを紹介する。	オムニバス方式 共同(一部)
		日本のミュージアム	観光資源の観点から日本各地の著名なミュージアムの成立過程とその収蔵品を中心に、ビデオやスライド等の映像資料を多用して、その館の特徴を解説する。次に、収蔵品の中からよく知られた作品を数点選び、その価値について検討を加え、その魅力を探る。さらに、各ミュージアムが現在抱える問題を取り上げ、解決策を考察する。最終的には個々の館の垣根を越えたミュージアムを巡る観光ツアープランを計画する。	
		西洋美術の旅Ⅰ	古代エジプト、ギリシア、ローマ、中世ロマネスク、ゴシックから16世紀ルネサンスまでの西洋美術の流れを多くのスライドやビデオ等によって概観しながら、各時代と各地の特徴を捉える。また作品の鑑賞等をおこなうことによって、西洋美術の様式的な特質と画家や彫刻家たちの個性を探求しながら、一点の作品の背後に隠された依頼者と確執を明らかにする。最終的には西洋美術の基本的な知識を習得し、著名な作品とその作者の特質を把握する。	
		西洋美術の旅Ⅱ	17世紀から20世紀までの西洋美術の流れをスライドやビデオによって概観しながら、各時代と各地の特徴を捉える。また作品の鑑賞と対比によって、西洋美術の様式的な特質と画家や彫刻家たちの個性を探求する。対象とするのは、バロック様式と17世紀様式の類似と相違、18世紀ロココ様式、18世紀後半からの新古典様式とロマン主義様式の対比、19世紀後半からの印象主義とそれ以降のフォヴィズムとキュビズムの展開、20世紀後半の多様化する西洋美術までの特徴を明らかにする。	
	専攻選択必修科目	日本の文化財Ⅰ	本講義は、日本における文化財保護の状況と代表的な文化財について概説し、日本の文化財に関する基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、近代以降の欧米社会との関わりを視野に入れながら、日本の近代化と文化財保護の歩みについて学習し、博物館の果たしてきた役割や、日本の代表的な文化財の特質を考察し、文化財の鑑賞・調査方法についての基礎を学習する。	

授　業　科　目　の　概　要 （人間総合学群 観光文化学類）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	専攻選択必修科目	日本の文化財Ⅱ	本講義は、日本の文化財Ⅰでの学びを基に、日本の文化財に関する知識を深めることを目的とする。具体的には、文化財保護法によって指定された文化財の概要と、日本を代表する有形文化財（建造物・美術工芸品）・無形文化財・民俗文化財・記念物・文化的景観・伝統的建造物群保存地区・選定保存技術・埋蔵文化財等の基礎知識を学び、近年注目されている世界遺産、世界無形文化遺産の概要と課題点など、現代社会と文化財の関わりについて学習する。	
		歴史資料論	本講義は、日本文化を学ぶ上で基本となる歴史資料について概説し、その読解、調査、整理を行うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、古代から近代までの代表的な古文書、古記録等の文献資料、絵図、考古資料等の概要を学び、近世以降の古文書等の原本史料の読解方法、調査・整理方法について学習する。なお必要に応じて、学外の博物館・資料館に行き、原本史料を閲覧・調査し、歴史資料を扱うための実践的な学習を行う。	
		民俗資料論	本講義は、日本文化を学ぶ上で基本となる有形・無形の民俗資料について概説し、その読解、調査、整理を行うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、地域文化を理解するために有益な風習・伝説・信仰・芸能・民具等の民俗資料について解説し、学内外での実習を通して、稲城市およびその周辺地域に伝承されてきた民俗資料を事例として取り扱いながら、これらの収集・調査・分類・整理・保存のための方法を実践的に学習する。	
		歴史考古学	本講義は、中世から近代までの歴史について考古学の視点から概説し、考古学を通史的に見据える視点を養うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、城郭、宗教、交通、生活、戦争等に関する中世から近代までの考古学の成果について解説し、中世から近代までの歴史研究における考古学の可能性について学習する。さらに、歴史研究だけでなく、民俗学をはじめとする諸分野との関わりについても理解を深め、多角的に考えるための力を養う。	
		歴史地理学	本講義は、産業と人びとのくらしについて、歴史的特徴だけでなく、地域的特徴も視野に入れ見据える視点を養うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、衣食住の世界だけでなく、地域の産業とくらしについて、それを支える人々を含めて、通史的、立体的な歴史像、地域像について学習し、新たな歴史観、地域観の可能性について学習する。この学びを通じて、地域から文化や歴史を多角的に調査、研究するための基礎知識を修得する。	
		文化交流史Ⅰ	本講義は、日本と海外の交流の歴史について、その歴史的特質を考察することを目的とする。具体的には、縄文時代から平安時代までの日本と諸外国との交流の事例を取り上げ、海外文化を取捨選択しながら主体的に受容した社会的背景や意義についての歴史的変遷とその特徴について学習する。この学びを通じて、国際交流の中で形作られてきた日本文化の意義や、日本文化が海外からどのように理解されてきたのかなどについて考察する。	
		文化交流史Ⅱ	本講義は、日本と海外の交流の歴史について、その歴史的特質を考察することを目的とする。具体的には、平安・鎌倉時代から幕末までの日本と諸外国との交流の歴史を振り返り、海外文化を取捨選択しながら主体的に受容した社会的背景や意義についての歴史的変遷とその特徴について学習する。この学びを通じて、国際交流の中で形作られてきた日本文化の意義、日本文化が海外からどのように理解されてきたのかについて考察する。	

（注）
1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。
2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	初年次教育科目	基礎ゼミⅠ	大学におけるさまざまなタイプの授業に対応するための基礎的な学習方法を学ぶ。受け身の態度で講義に臨むのではなく、自ら問題意識を持って講義に参加し、さまざまな課題に対して主体的に取り組む姿勢を養う。少人数クラスでの対話を通じて、大学でなにを学ぶか、どのような大学生活を過ごすかを考え、学生ひとりひとりが自分の目的を発見する手助けをする。また、本の読み方、講義の聞き方、講義録のとり方、意見発表の仕方等を考えさせる。	
		基礎ゼミⅡ	基礎ゼミⅠに引き続き、大学生活と大学での学びを充実させるための技術と姿勢を養う。自分で調べ、それらを整理し、他者に的確に伝えるための技術の習熟を目指し、さらに、自己について理解と認識を深めることも目標とする。ゼミは、基本的に、参加学生の主体的な参加と、相互の積極的な意見交換によって進められる。個々のテーマをめぐって発表したり議論したりすることを通して、大学で学ぶことの意義について理解を深める。	
	建学の精神を学ぶ科目	仏教学Ⅰ	本講義は、建学の精神を学ぶための基礎として仏教の開祖、ゴータマ・ブッダの生涯とその教えを知り、仏教学および宗教学に関する基本的な知識をひろく修得することを目的とする。具体的にはインドをはじめとするアジアの歴史的・文化的背景をふまえながら、歴史上の人物としてのゴータマ・ブッダの生涯と思想について解説する。またこれらに基づいて現代に継承された仏教行事や、仏教に由来する年中行事の文化的事象についても学習する。なお照心館の坐禅堂にて2回程度の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	
		仏教学Ⅱ	本講義は、建学の精神を学ぶための基礎として曹洞宗の開祖、道元禅師の生涯とその教えを知り、仏教学および宗教学に関する基本的な知識をひろく修得することを目的とする。具体的には仏教学Ⅰにおける学びに基づき、鎌倉時代を中心として日本の歴史的・文化的背景をふまえながら、歴史上の人物としての道元禅師の生涯と思想について解説する。また現代に継承された仏教行事や禅宗の文化的事象、さらには禅の哲学や思想についても学習する。なお照心館の坐禅堂にて2回程度の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	
		仏教学Ⅲ	本講義は、建学の精神を学ぶための発展的学修として日本仏教の歴史とその教えを知り、仏教学および宗教学に関する教養や知識をひろく修得することを目的とする。具体的には仏教学Ⅰ・Ⅱにおける学びに基づき、鎌倉時代を中心として日本の歴史的・文化的背景をふまえながら、日本仏教史における各宗派について概説する。また現代に継承された仏教行事や禅宗の文化的事象、さらには禅の哲学や思想についても学習する。なお照心館の坐禅堂にて2回程度の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	
		仏教学Ⅳ	本講義は、建学の精神を学ぶための発展的学修として禅の歴史とその教えを知り、仏教学および宗教学に関する教養や知識をひろく修得することを目的とする。具体的には仏教学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおける学びに基づき、日本の禅宗文化に関する歴史的・文化的背景をふまえながら、禅宗史や曹洞宗の歴史上の人物について概説する。また現代に継承された仏教行事や禅宗の文化的事象、さらには禅の哲学や思想についても学習する。なお照心館の坐禅堂にて2回程度の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	建学の精神を学ぶ科目	駒沢女子大学入門	（概要）本講義は、駒沢女子大学の学園創立以来の歩み、本学の教育の特色などを学ぶことによって、駒沢女子大学の学生としてのアイデンティティーを確立させることを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （13　光田督良／1回） 建学の精神をふまえた駒沢女子大学の教育理念と教育の特色と題して、テーラーメイド教育、ミッション、教育力、学位授与の方針などについての講義を行う。 （24　佐々木俊道／2回） 駒沢女子大学の1年と題して、学燈会、花まつり、追善記念日、成道会と摂心会、誕生記念日、涅槃会と針供養などについての講義を行う。 （30　千葉公慈／2回） 駒沢女子大学の歩みと校歌・校章と題して、校歌の成立過程、歌詞の内容、解釈などについての講義を行う。校歌をCDで聴かせ周知を図る。 （21　安藤嘉則／2回） 創立者、山上曹源先生の生涯と教育理念と題し、学園の歴史に即しながら山上先生の教えについて講義を行う。合わせて明治初頭の日本の様子も紹介する。 （36　皆川義孝／4回） 前半は稲城の自然と歴史、稲城の文化財について紹介したうえで、近隣の高勝寺、三沢川などを散策することで理解を深める。後半は駒沢学園の歩みを草創期から戦前、戦後から現在に分けて講義を行う。学園内の施設や裏山を歩くことで本学に対する愛着を高める。 （24　佐々木俊道・30　千葉公慈・21　安藤嘉則・36　皆川義孝・46　石川創／4回）（共同） 駒沢女子大学の学生としてのアイデンティティを確立させるため、これまでの学修の振り返りをグループに分かれて行い、また学修結果の確認作業として「駒女検定」を実施する。	オムニバス方式 共同（一部）
	入門科目	日本文化入門Ⅰ	本講義では、言語・文学・思想・風習など多岐にわたる日本文化について、広く基礎知識を習得し、日本文化の専門的学習に必要不可欠な教養を学習する。具体的には、日本文化を生み出す土壌となった、日常生活やその周辺における身近な文化事象である衣・食・住について解説し、さらにこれらを育んできた日本人の精神についても学習する。この学びを通じて、日本文化にこめられた意味と、現代的意義、そして未来への継承を考えるための基礎力を身につける。	共同
		日本文化入門Ⅱ	本講義では、言語・文学・思想・風習など多岐にわたる日本文化について、広く基礎知識を習得し、日本文化の専門的学習に必要不可欠な教養を学習する。具体的には、自然の中に神を見出し、祭祀・儀礼・芸能などの文化を生み出す土壌となった、日本の多彩な風土について解説し、そこに根ざした特色ある生活文化の歴史について学習する。この学びを通じて、日本文化にこめられた意味と、現代的意義、そして未来への継承を考えるための基礎力を身につける。	共同

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	入門科目	人間関係入門Ⅰ	（概要）人間存在の本質や、人びとが営む文化活動、人びとどうしのコミュニケーションに対して、人文科学・社会科学の諸学問（心理学、社会学、身体文化論、メディア研究、国際社会論など）は、再帰的・反省的・複眼的な視座を提供する。これらの諸学問に関心を寄せる学生を対象に、それぞれの学的アプローチのエッセンスを紹介する。各分野・手法の特徴と魅力について概括的な理解をつかむことを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （48 倉住友恵／5回） 心理学の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。 （43 大貫恵佳／5回） 社会学の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。 （29 田澤秀司／5回） 企画・表現研究の視座と研究対象について具体例を交えながら解説する。	オムニバス方式
		人間関係入門Ⅱ	（概要）人間関係入門Ⅰに引き続いて、人間関係に関連する諸学問（心理学、社会学、身体文化論、メディア研究、国際社会論など）に関心を寄せる学生を対象に、それぞれの学的アプローチのエッセンスを紹介する。各分野・手法の特徴と魅力について概括的な理解をつかむことを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （31 石田かおり／5回） 身体文化論の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。 （19 臼井実稲子／5回） 国際関係論の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。 （35 榎本環／5回） 社会学の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。	オムニバス方式
		英語コミュニケーション入門Ⅰ	会話、語彙力テスト、多読、英語日記等の活動を通し、基礎的な英語運用能力を養うとともに、振り返りを行い、自律的学習態度を育成する。1人の英語ネイティヴ教員が少人数グループカンバセーション、マンツーマンカンバセーションを担当し、キーワードやキーセンテンスの確認、定着を図る。録音した会話内容を再聴し、発音や表現のミスに気付かせる。2人の日本人教員が個別指導時間を設定し、個々の学習効果を高めるための指導を行う。学生は授業外で個別指導に沿った学習法を実践し、翌週の授業で実践内容を確認する。	共同
		英語コミュニケーション入門Ⅱ	英語コミュニケーション入門Ⅰに引き続き、同様の活動を行い、基礎的な英語運用能力を養う。振り返りを通し、自律的学習態度を育成する。1人の英語ネイティヴ教員が少人数グループカンバセーション、マンツーマンカンバセーションを担当し、キーワードやキーセンテンスの確認、定着を図る。録音した会話内容を再聴し、発音や表現のミスに気付かせる。2人の日本人教員が個別指導時間を設定し、個々の学習効果を高めるための指導を行う。学生は授業外で個別指導に沿った学習法を実践し、翌週の授業で実践内容を確認する。	共同
		観光文化入門Ⅰ	観光は人々の余暇活動の中心的位置を占めており、今後高齢化社会が進展し、生活の豊かさが求められる中で、観光の果たす役割はますます大きくなっていくと思われる。また、「観光立国」が推進されている現在、観光が国の経済や文化・国民の生活にもたらす効果も高まってきている。この授業では、観光の意義を考え、わが国の重要産業の一つとして成長した観光に関わる基本的な事項を広く学び、現在観光ビジネス分野で起きている問題や将来の課題を正しく理解する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	入門科目		観光文化入門Ⅱ	観光事業とは、経済面のみならず、文化面・社会面など公共性の高い多様な側面で行われる活動を含む、観光に関わる事業を言い、「観光の意義・効果を高め、観光という社会的な現象を盛んにしようとする様々な活動」という概念を持っている。このような前提に立って、観光事業の意義を理解し、観光を構成する観光者・観光対象・観光媒体・観光行政という４つの要素から観光事業について具体的に考察する。また、観光産業を支える旅行・交通運輸・宿泊の３事業を中心に、観光産業の現状を理解し、今後の課題についても考察する。	
			心理学入門Ⅰ	心理学は、観察・実験・調査等の方法によって一般法則の探求を推し進める基礎心理学と、基礎心理学の知見を活かして現実生活上の問題の解決や改善に寄与することを目指す応用心理学に大別されるが、本授業では前者を柱とした授業を行う。心理学の成立過程という歴史的視点と、こころを理解するための感覚・知覚、学習、記憶、認知、情動といった基礎的な知識を教授する。それらを通じて、心理学を学ぶ意義を理解させる。	
			心理学入門Ⅱ	心理学の基礎Ⅰで学んだ基礎的知識を踏まえた上で、心理学が社会生活の中でどのように生かされているのか、教育・医療・福祉・司法・産業などの領域に焦点を当てる。出来る限り具体例を交えながら解説するとともに適宜レポートを課していく。また、心理学の研究領域は学際的であり、隣接する他の学問との相互連携が不可欠であるため、必要な知識や心構えなどについても言及する。	
			住空間デザイン入門Ⅰ	住まいやくらしの環境について理解するための基本的な知識を養い、建築・インテリアからものづくり（家具、陶器、織物）までをトータルにデザインする「リビングデザイン」について学ぶ。また、見学会や共同作業などの実践の場を通してデザインの基礎を学び、自分の考えを表現する力や人に伝達する力、批判する力を身につけることを目的とする。	共同
			住空間デザイン入門Ⅱ	住まいやくらしの環境を総合的に捉え、建築・インテリアからものづくり（家具、陶器、織物）までをトータルにデザインする「リビングデザイン」について幅広く客観的な視点から学ぶ。また、見学会や共同作業などの実践の場を通してデザインの基礎を学び、自分の考えを表現する力や人に伝達する力、批判する力を身につけることを目的とする。	共同
	教養知科目	人間を学ぶ科目	人間と思想Ⅰ	人間とはどのような存在なのか、人間の本質はどのようなものなのかを考察することが本授業の目的である。ギリシア、ヘレニズム、原始キリスト教から中世ルネサンスまでの哲学的知識を紹介し、学んだ学説や概念を使って、現代的な問題についての考察、演習問題を行う。考える材料として西洋哲学を歴史的に学び、かつ現代社会の情報を踏まえつつ、学生が自分で考察ができるようになることを達成目標とする。	
			人間と思想Ⅱ	近代以降の西洋哲学についての知識を深めつつ、人間はどのような存在として考えられてきたかということを考察する。倫理や道徳に関する現代的なテーマについてもとりあげて、知識を増やし、哲学的知識を実践で役立てる方法を講義する。哲学史を覚えるだけでなく、その知識を活用して、現代社会における様々な事象や社会問題との関連の中で人間について考察を深めていくことができるようになることを目指す。	
			人間と文化Ⅰ	本講義は、幕末以降の近代日本における日本文化や日本人について考察を深める。日本は古来より諸外国からの文化を受容し、独自の文化を発展させてきた。外国から移入された文化の変容のパターンはおどろくほど共通した特徴がみられる。このような観点から、言語、思想、教育、メディア、交通などを取り上げ、近代日本における日本人の精神性や日本の文化の歴史的変遷をみていく。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	教養知科目	人間を学ぶ科目	人間と文化Ⅱ	本講義は、人間と文化Ⅰの学びに基づき、第2次世界大戦以降の日本人や日本文化の特徴について考察を深める。1945年以降の日本文化は、1953年に放送がはじまったテレビを中心としたアメリカ文化の移入との関わりなしには語ることができない。このような観点から、現在に至るまでの日本人や日本文化について、戦後の日本や日本人に関する論考を紹介しながら概説していく。	
			生命の科学	生命の源は細胞であり、細胞は複製され増殖し進化する。これを生物という。生命の連続は細胞を進化させ、単純な形態からより複雑で高度な機能を進化させた。本講義は生命科学の最新の話題とそれらを理解する上で必要となる基礎的な知識を学習し、加速度的に進歩する生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。最低限の到達目標として、 一般常識の範囲で生命科学の時事内容が理解できる基礎知識の習得を目指したい。	
			倫理学	本講義では、倫理学の概要と現代における倫理的テーマを考察する。具体的には、倫理学の歴史、自由の価値、功利主義、倫理学の現代的展開、科学と倫理、科学の中立性、科学技術と倫理、医療と倫理、終末期医療、人間の尊厳などの諸問題について、事例をあげながら紹介する。これらの学修を通じて、平等や正義に関する哲学的知識を身につけ、倫理的に生きるとはどのようなことなのかを学生自身が考え、議論できるようになることを目指したい。	
			人権の基礎	本講義では、「人間はただ人間であるだけで価値がある」とする『人間の尊厳』という観念、これを具体化するための方法としての「人権」、これらがどのようにして形成され、どのような内容を持ち、どのような問題性を孕んでいるかを、さまざまな観点から検討し、人権の意義と内容を再確認する。①人権とは何か、なぜその保障が必要かについて理解すること、②人権獲得の歴史と各種人権宣言等の概略を理解すること、③これらを基に人権保障の実現について自分の見解を持てるようになること、以上の3点を到達目標とする。	
			女性の人権	人権思想の具体化を「女性の人権」を例にとりながら検討し、いかにすれば女性の人権が実現されるかを、女性の人権がないがしろにされてきた原因の把握とその排除という視点から解説する。その際、平等だけでなく、権利論の視点をも取り入れていく。人権保障の議論の中で、なぜ女性の人権が別枠で取り上げられなければならないか、その原因を理解し、また女性の人権が充分に保障されるためには何が必要かについて、自分の意見を述べられるようにすることを学習目標としたい。	
			心理学Ⅰ	心理学はさまざまな科学的方法を駆使して、こころについての研究を行う学問である。この授業では、これまで積み重ねられてきた様々な研究を紹介し、心理学の基礎的な知識と考え方を身に付けることを大きな目標とする。心理学Ⅰでは、主に人間の発達について説明し、非常に無力な状態で誕生した赤ちゃんがどのような経験をして心身ともに発達し大人になっていくのかを理解し、自分のことばで説明できるようになることを目標とする。	
			心理学Ⅱ	心理学はさまざまな科学的方法を駆使して、こころについての研究を行う学問である。この授業では、これまで積み重ねられてきた様々な研究を紹介し、心理学の基礎的な知識と考え方を身に付けることを大きな目標とする。心理学Ⅱでは、知覚や記憶、学習といった基本的な心のメカニズムについて説明する。また、他者および集団とのかかわりによってどのようなことが生じてくるのか、日常生活で誰もが体験することが心理学でどのように研究されているのか、例を挙げて紹介し自分自身の行動について考える。	
			生涯学習論Ⅰ	生涯学習に興味・関心がある学生を対象に、生涯学習の意義や目的、歴史や基礎理論、生涯学習の内容や方法を概説する。生涯学習には、「学びたい」ことだけではなく、「学ばなければいけないこと」も含まれている。本授業における到達目標として、①生涯学習の意義や目的を理解し、生涯学習を支える者の役割を充分に自覚する、②生涯学習の歴史（誕生と展開）を理解・説明することができる、③生涯学習を支える基礎理論を理解・説明することができる、④生涯学習の内容や方法を理解・説明することができる、以上の4点をあげる。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	教養知科目	人間を学ぶ科目	生涯学習論Ⅱ	生涯学習に興味・関心がある学生を対象に、生涯学習に関する制度や施設・職員の役割について概説し、生涯学習支援の担い手として必要な基礎技能を修得することを目指す。本授業における到達目標として、①生涯学習の意義や目的を理解し生涯学習支援の担い手としての基礎技能を修得する、②生涯学習を支える制度（法律や行政の取り組み）を理解・説明することができる、③女性の社会進出に伴う生涯学習の変化を理解・説明することができる、④生涯学習プログラムを開発・宣伝することができる、以上の4点をあげる。	
			社会福祉概論Ⅰ	社会福祉概論Ⅰでは社会福祉論という領域の基本を学習する。授業では、まず社会福祉論の基本的視点を紹介し、次に社会福祉の歴史としてイギリスやアメリカを中心に学び、日本については、古代から現在に至るまでの流れを押さえる。そして、女性福祉、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉といった個別の福祉分野について、制度的な歴史や現代的問題について取り上げる。社会福祉論の基本的理解を学習課題とし、社会福祉の諸現象に対して、その社会的要因や背景を探り、その改善や解決につながる働きかけを考察できることを目標とする。	
			社会福祉概論Ⅱ	社会福祉概論Ⅱでは社会福祉の理念や倫理を学び、ソーシャルワークの実際として、社会福祉の実施体制や社会福祉援助技術について理解する。授業後半では、各自がソーシャルワーカーの立場に立って、個別援助技術（ケースワーク）および集団援助技術（グループワーク）の具体的な事例に取り組み、発表と討議を行う。社会福祉援助技術に関する知識や技術を習得し、社会福祉援助活動に活用できる能力と態度を育てることを目標とする。	
		文化と歴史を学ぶ科目	日本の歴史	本講義は、日本の古代から近代に至る各時代の、国家の形成と展開、社会や文化の特色、国際関係に関する基礎的知識を修得することを目的とする。具体的には、各時代の政治、経済、社会、文化、国際環境などの特色について、歴史資料や先行研究に基づいて解説し、日本の文化的特徴について学習する。この学びを通じて、時代の変遷を総合的に把握し、考察する歴史的思考力を修得し、現代社会を生きるために必要な基礎力を学習する。	
			世界の歴史	本講義の目的は、私たちが普段当たり前のものと考えている様々な「権利」と、それらを獲得するために行われた様々な「排除」を結びつけながら学習することで、受講生の思考能力を高めていくことにある。対立する階級、民族、そして国家の中で、人々がどのように権利を獲得したのか。この疑問を考えることにより、受講生自身が持つ「権利」を改めて考える機会を提供していきたい。なお、本講義は主にヨーロッパを中心に世界の歴史を概観していく。	
			戦争と平和の歴史Ⅰ	戦争はなぜ繰り返されるのか？人類にとって戦争は避けられないものなのか？この問いに対する答えを求めて、19世紀末から第二次世界大戦までの国際関係を分析する。欧米の国際関係が中心となるが、19世紀後半に国際社会で頭角を現すようになった日本についても言及する。国際関係史の基礎的知識の習得、さらに社会科学的思考方法を身につけることが目的である。映像資料を多用し、世界史を学ぶ機会が少なかった学生にも理解しやすいよう工夫をしていきたい。	
			戦争と平和の歴史Ⅱ	戦争はなぜ繰り返されるのか？人類にとって戦争は避けられないものなのか？この問いに対する答えを求めて、第二次世界大戦後から冷戦の終結までの国際関係を分析する。アメリカ、ソ連（ロシア）、ヨーロッパはもとより、アジア、オセアニア、南北アメリカ、中東、アフリカと世界を俯瞰し、現在進行形の国際問題に言及しつつ、現代史の基礎的知識の習得、さらに社会科学的思考方法を身につけることが目的である。映像資料を多用し、世界史を学ぶ機会が少なかった学生にも理解しやすいよう工夫をしていきたい。	
			西洋文化史	ヨーロッパ文化の特質とその流れを、ビデオやスライドを多用して概観し、一つの文化の成長から衰退までの経緯を研究する。さらに、日記、手紙、装飾品や日常の必需品などの多岐にわたるモノを通して、ヨーロッパ各地の人々の生活と考え方を知る。本講義では、古代世界（古代ギリシア文化）からヨーロッパ文化の基層を形成した中世、その結実としてのルネサンスまでを扱う。西洋文化の歴史的な展開についての基本的な知識を把握することを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	教養知科目	文化と歴史を学ぶ科目	日本美術史	本講義は、日本の原始から現代に至る日本美術の展開について、各時代別にテーマを設定し、日本美術史上の名品を軸に、日本美術の基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、絵画・彫刻・工芸の美術品を軸に日本美術の歴史について解説する。この学びを通じて、信仰・各種儀式から生み出された美、建築や工芸にみる多様なデザインなど、日本美術の特徴、さらに日本の美意識に大きな影響を与えた海外文化など、広くその特質を考察する。	
			比較文化	この授業では、日本人が、西洋文化・キリスト教文化に初めて接したときの「衝撃と憧憬と葛藤」について、第一次資料を読みながら、考察する。世界の中の日本を、歴史的にも、空間的にも、正確に把握することを目的とする。16世紀後半から17世紀初頭の安土桃山時代におけるポルトガルとスペインの南蛮文化との衝撃的な出会いに始まり、江戸時代のオランダの実用学への憧れと探求、明治期におけるアメリカやヨーロッパの列強との積極的かつ批判的な交流を、具体例をあげて探求する。	
			日本の文化	本講義では、日本文化に多大な影響を与えた仏教文化を中心にみていく。日本で生まれ育った者は誰でも挨拶と言う言葉を知っており、日常生活で実践し無意識に文化として身に付けている。しかし、これが、仏教・禅から派生した言葉であることは、ほとんどの人が知らない。挨拶のような無意識に身に付いている日本人の日常の型やそこに込められた心を理解し、さらに、無意識に行っている行為を意識下に置く事により、自分自身の文化的背景を見直す事が出来るようになることを目標とする。	
			観光地理（日本）	観光地理という観点から日本各地の観光資源や地域の文化・風物、特産物などについて幅広く学ぶことにより、「旅行」に対して専門的に対応できるよう知識を高める。地図と現地の映像などを利用して、バーチャルな旅行を意識しながら観光資源の特徴、位置関係などを学んでいく。「旅行業務取扱管理者」の資格を得る国家試験にも備える。また、講義で取り上げた観光資源の所在都道府県を説明でき、想定される国家試験内容の60%が答えられる知識を得る。	
			観光地理（世界）	グローバル化する社会において、世界各地域の様々な観光資源や歴史・文化・習慣などを学び、国際人としてのしっかりとした幅広い知識を身に付ける。「旅行業務取扱管理者」の資格を得るための国家試験に向けての基礎知識を学ぶ。また、世界遺産検定や地理検定を受検することも可能となるので、講義の対象となった各国の位置と地形、その国の成り立ち等を理解し、特筆すべき観光資産を合わせて説明できるようにする。	
			日本の文学	芥川龍之介の短編小説「鼻」「芋粥」と、太宰治の短編小説「魚服記」「道化の華」を読み、それぞれの作家についての基礎的な知識と、小説の読み方、作品へのアプローチの仕方について講義する。芥川と太宰の小説テクストの分析を通して、単なる感想に留まらない、文学研究の基礎を身につけることを目的とする。本講義を受講することで、小説の構成や語りについて独自の論点を見つけ出し、また小説の読解を通して、自分の考えを論理的に説明できるようになることを目標とする。	
			ヨーロッパの文学	ヨーロッパ文学における個々の作品を取り上げながら、中世から現代に至る外国文学のテーマとその問題性を歴史的に概観する。授業では、中世の文学である『アーサー王の死』『トリスタンとイゾルデ』『カンタベリー物語』、ダンテの『神曲』、シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』、ゲーテの『若きヴェルテルの悩み』『ファウスト』、グリム童話、カフカ『変身』などをとりあげる。ヨーロッパの個々の文学作品を通史的に考察することで、中世から近世、現代に至る西欧の精神・思想の流れを把握していきたい。	
		社会と自然を学ぶ科目	日本の政治	日本の政治を、戦後から今日まで、国会、政党、議員、官僚、政権交代にスポットライトを当てながら探ることが、本講義の目標である。私達の日常生活は、様々な局面で政治と密接に結びついている。政治に対する無関心は、政治家任せの生活を送ることにつながる。未来に希望の持てる日本にする為に、今何をすべきかを受講生と一緒に考えると同時に、学生として知っておくべき時事問題力を養うことも念頭に置いて講義をしたい。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	教養知科目	社会と自然を学ぶ科目	世界の政治	国際社会における諸問題や世界における日本国家のポジションを探るのがこの講義の目標である。国際社会で日本は異質な国家とみなされる場合が多々ある。なぜ日本は世界から「異質」と思われるのか。日本が「異質な国家」と思われる構造を、国際政治における日本政治の特徴や日本国憲法の規定から検証する。また、日本を取り巻く国際社会の今日的な問題も取り上げ、教養を深めていく。	
			政治と市民参加	現代社会における市民は、日本国憲法で保障される参政権（選挙権、被選挙権、レファレンダム）を通じて様々な政治参加が可能となっている。この講義は、選挙権や被選挙権の歴史的変遷、国会や地方議会の仕組み、そしてレファレンダム（国民投票と住民投票）の仕組みを通じて、一般市民による政治参加の可能性と限界について考察することを目的とする。また18歳選挙権の意義と影響についても、諸外国の実情と比較しながら一緒に考えてみたい。	
			日本の経済	この授業は、経済学の基礎知識と日本の経済情勢全般について教授する。それにより、新聞や雑誌の経済記事を読む素養、また経済ニュースが理解できるようになることを最低限の目標とする。授業では、実際の新聞記事や雑誌記事、ニュースを題材に、インフレ、デフレ、GDP、失業率等の基本的経済用語や現在の日本経済、日々の経済の動きを学び、経済全般についての知識を修得する。卒業後、社会人となったときに役に立つ経済学の基礎を身につけさせる。	
			世界の経済	現在の経済活動は、グローバル化の波のなかで、海外との関係を無視して語ることはできない状況になっている。政治も含めた社会のさまざまな問題は、世界経済と連動した動きを見せている。本講義は、経済の基礎理論や基礎知識を身に付けたうえで、世界経済の根源的な仕組みを理解することを目的とする。さらに、現在世界で起きている経済的諸問題の原因を探り、それを解決に導くための考え方を習得していきたい。	
			新聞と報道	新聞を題材に、報道の読み方と意義を理解することが本授業の目的である。具体的には、記事の内容を、政治報道、経済報道、国際報道、社会問題報道、事件･事故報道、生活報道、スポーツ報道、文化報道に分類し、それぞれの文脈の理解の仕方を学ぶことで新聞のリテラシー能力を養う。そこに書いていることをただ受動的に受け取るのではなく、能動的に理解し、批判精神を持って解釈する能力を身につけていきたい。	
			グローバル共生論	経済、社会、文化などのグローバル化にともない、国境を越えた人的交流は近年活発になっている。海外で仕事や生活をする日本人は、過去最高を記録し、今後も増加することが見込まれる。本授業では、私たちの周りの「多文化」化に目を向けながら、異なる文化、言語、宗教などを有する人々とのコミュニケーションの現状と課題を考察し、グローバルな時代の生き方や多文化との共生のあり方をケーススタディやディスカッションを中心に学ぶ。	
			法学	私たちの生活は法によって規律されている。法は社会をよりよく営んでいくための手段であるが、時に私たちの生活を厳しく制限する。この授業では、近代以降の市民社会のあゆみを踏まえ「法とは何か」ということをていねいに伝えていく。身近な裁判例も紹介する。新聞やテレビの社会問題などについて、結論を急がずに考えるためのきっかけを作り、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標としたい。	
			法と社会	この授業は、社会制度の分野を中心に法的素養を修得することで、各種資格取得や卒業後に向けた社会人力の育成を目指す。国民主権と権力分立という基本的な考えを確認した後、立法と行政については各資料を参考に現在の政治を立憲民主主義に照らして分析する。司法については裁判員制度の実践に触れ、市民理性を裁判に反映させることの意義と課題を考察する。日本国の基本法である日本国憲法の役割を理解したうえで、社会問題を考える指標を提供したい。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	教養知科目	社会と自然を学ぶ科目	日本国憲法Ⅰ	日本国憲法とは、日本国のあり方を定めた基本法を意味する。本授業では、第二次世界大戦後に定められた憲法の基本的な仕組みを歴史的に検証する。その上で、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」という3つの柱について、急がずに具体例を踏まえつつ理解を深めていく。日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標としたい。	
			日本国憲法Ⅱ	現在の日本国憲法は、戦前に対する深い反省の下で制定された。一人ひとりの国民を人格の担い手として尊重するために、憲法は国家の政治のあり方を定めている。この授業では、国家統治の仕組みを中心に学び、現在憲法をめぐって議論されている問題点についても触れていく。日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標とする。	
			社会学Ⅰ	社会学の基本的な考え方を理解するために、社会とは何か、相互行為と自己、社会秩序と権力、組織とネットワーク、文化と再生産、といったテーマを取り上げる。理論についての講義が中心となるが、身近な話題と結びつけながら講義を進めていく。到達目標は、社会学の基本的な考え方を理解すると同時に、社会学的な概念、理論の理解を通じて、社会学的な「ものの考え方」を習得すること、そして自分の日常生活の「当たり前なこと」に対して、一歩引いて批判的な視点をもった柔軟な思考ができるようになることとする。	
			社会学Ⅱ	社会学Ⅱでは、社会学の基本的な理論や概念をもとに、より具体的な社会現象の理解ができるよう、家族、教育、労働といった身近なテーマを取り上げ、それらの歴史や現代の問題を学ぶ。授業後半では、小グループに分かれて、発表と討議を行う。到達目標は、社会学の理論や概念の習得を土台として、より具体的な社会現象の理解ができるようになること、家族、教育、労働の領域における歴史や現代の問題についての理解を深め、身のまわりの「社会」に対して、主体的、批判的にとらえる能力を養うこと、以上の2点とする。	
			数学の世界	数学というと敬遠しがちな科目の代表格であるが、実は、数学は哲学とも結び付く、人間の本質と深い関わりをもった学問である。本講義は、まず数学の楽しさ、奥深さについて講義する。その後、社会に出てからも役立つような数学の基礎を講じる。具体的には、式と計算、平方と平方根、一元一次方程式、連立方程式、グラフと関数、図形の面積･体積、合同と相似等について学ぶ。	
			物理の世界	物理の考え方は生活に溶けこみ、日頃意識されることはほとんどない。しかし、物理学は、物質を極限まで突き詰めていくと宇宙創成の問題にまで展開するようなダイナミズムを秘めた学問である。この講義では、目には直接見えない「力」の物理現象について議論を深めたい。加速度、遠心力などの物理学的な理解からはじまり、構造、剛性、耐震についての考え方と、その大きさを計算する手法を平易に講義する。	
			生物と生命	生物及び生命について、古生物学、遺伝学、ＤＮＡ遺伝子学等から得られた知見を基に講義する。地球という惑星に生命はどのようにして誕生したのか、生物は進化しどのようにしてホモ･サピエンスにまでたどり着いたのか、生命の大切さを意識しながら生物進化の過程を跡づけることが本講義の目的である。そして個々の生物の生き残りをかけた戦略と生物の多様性について議論し、人間が生きてゆくことの意義を考えたい。	
			地球と宇宙	古代より太陽・月・星は、人びとを魅了してきた。人類は、夜空に巨大な絵を描いたり、運命を託したり、また宇宙にまつわる物語を創世している。本講義は、さまざまな民族が描いてきた宇宙観を概観することから始まる。そして、宇宙創成であるとされるビックバン以後の宇宙の成り立ちを、星の誕生や終焉を学ぶことで理解する。宇宙を見つめることで、かけがえのない惑星である地球の特質に関して学識を深めていきたい。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	教養知科目	社会と自然を学ぶ科目	物質と化学	高度な科学技術の発展により、現代人は豊かな生活を享受している。中でも「化学」は、最も身近な姿・形で私たちの日常生活に密接に関わっている。たとえば、医薬品や化粧品、香料、食品、携帯電話、パソコンなどは、すべて化学に基づく「物質」で構成されている。本講義では、実生活に役に立つ「化学」の知識を教授することで、より身近な「物質」について学ぶ。	
			情報と科学	本授業は、言語をはじめ、視覚、聴覚など五感から得られた情報を再編しあらたな表現として発信するために必要な、ＩＴ端末やネットワークの仕組み、および、その安全対策について理解することを目的とする。特に、過去から現在に至る情報の歴史、世界史の新たな段階である情報社会という視点を重視したい。このような理解を通して最後は、フェイスブックに代表されるＳＮＳの可能性と限界について情報科学の立場から議論する。	
			色彩と科学	視覚コミュニケーションの基本的要素である色彩の本質を理解し、色彩が心理的、社会的、文化的に果すさまざまな役割について科学的理解を深める。色彩をコミュニケーションツールとして扱う上での基本的理論の習得に加え、視覚的な課題により豊かな色彩表現のための感性を養う。文部科学省後援の色彩士検定を視野に入れて主要項目の解説を行い資格取得を支援していきたい。色を扱う基礎知識として、色の表示、伝達の方法を理解するとともに、課題作成を通して基本的色彩技法を習得することを目指す。	
	実践知科目	実習科目	ボランティア実習Ⅰ	自分にもできることを通じて、様々な人々をサポートし、社会に貢献することにより、新しい自分を発見することを目的とする。ボランティア活動の実施場所は、大学の地元の稲城市および近隣地域の施設などを想定している。①担当教員による個別ガイダンス、②担当教員との事前面談、③危機管理ガイダンスへの参加、④ボランティア活動届の事前提出（学生支援課）、⑤ボランティア活動記録の提出、等が義務づけられる。	共同
			ボランティア実習Ⅱ	自分にもできることを通じて、様々な人々をサポートし、社会に貢献することにより、新しい自分を発見することを目的とする。実施場所は海外を想定している。海外ボランティアでは、海外における活動を通して、履修者が多種多様な文化、習慣の違いを受け入れ、将来、国際社会の中で生き抜く術を学ぶ。夏季休暇中に、学外の団体が行う海外ボランティアに2週間以上参加することが要件である。危機管理ガイダンスや活動記録の提出も義務づけられる。	
			海外英語研修Ⅰ	この授業は研修を通して海外での生活や異文化に触れ、言語ばかりでなく総合的なコミュニケーションスキルの習得を目標にする。通常2週間ホームステイをしながら、大学指定の語学学校に通学し、英語の語学研修を受講する。英語のみで行われる授業を受講することで、日本の授業との違いを実地で学ぶことができる。またホームステイをすることで全く違う習慣や文化をもつ人々の中で必要とするコミュニケーション能力を改めて考えることができる。体験を通して英語学習に対する動機を学生が問い直し、語学習得に引き続き臨めるようにする。英語専任教員が共同して、エージェントとの打ち合わせ、事前説明会、科目申請を行う。	共同
			海外英語研修Ⅱ	この授業は「海外英語研修Ⅰ」を取得済みの学生を対象とする。学生は既に研修等で必要な最低限の総合的なコミュニケーションスキルを習得しているので、それらの力を発展的に向上させることを目的とする。通常2週間ホームステイをしながら、大学指定の語学学校に通学し、英語の語学研修を受講する。「海外英語研修Ⅰ」では、行うことのできなかったアクティビティにも挑戦し、自らの語学力等が「海外英語研修Ⅰ」の履修後に行った学習で向上しているのか、また引き続き不足している能力があるか、再確認を行うことができる。英語専任教員が共同して、エージェントとの打ち合わせ、事前説明会、科目申請を行う。	共同

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	実践知科目	実習科目	国際協力実習	国際協力の関係者は、援助を受ける側の人々、政府関係者、国際協力機構（ＪＩＣＡ）などの援助実施機関職員や専門家など多種多様にわたる。開発の現場は途上国が中心であるため、国際協力実習では、実際に現地を訪ねて、国際協力の本質を効果的に学び、開発の現場の視察と様々な関係者との交流を通じて、国際協力の難しさや意義などを体感することを目的とする。実習参加前には、訪問国について、歴史や社会・経済情勢、日本との関係など基本的知識を習得し、十分な事前準備に基づいて、訪問国の人々と積極的に交流を行う。	
			国際協力実習フォローアップ	国際協力実習フォローアップは、国際協力実習の参加者を対象とし、国際協力の現場視察や援助関係者などとの交流を振り返りながら、気づきの点を参加学生同士でプレゼンテーションし、それをもとに報告の準備を行う。実習の成果として、日本（政府、企業、地域社会、大学あるいは学生個人）が国際開発・国際協力にどのように関与すべきか、自分の意見をまとめた実習報告書を作成するとともに、実習成果の発表内容や発表方法について、学生主体で企画・準備し、報告会を開催する。	
		就業力育成科目	進路設計	経済のグローバル化にともない、これまで日本の経済を支えてきた産業構造や人口構成は、大きく変化し、就業形態や人生観も多様化している。本講義では、女性の「生き方」について「就業観」「生きがい」「子育て」などを通して議論を進める。この作業を通して、卒業後の就業に際して「企業が求める人物像」と「個人の抱く社会人観」「家族観」をつなぐ価値観を再編し、具体的に語ることのできる素養を身につけることをめざす。	
			社会と教養演習A	大学を卒業し、社会人として胸を張って生活するには、大学の専門的な教育以外に「社会人基礎力」と呼ばれるような、生きていくうえで習得すべき知識・知見が求められる。本講義では、自分自身のイメージを描くことから始め、そのうえで、社会人として必要とされる最低限のコミュニケーション能力を身に付ける。そしてそれを実践可能とするための自己啓発、及びコミュニケーションスキルの訓練を行ってみたい。	
			社会と教養演習B	社会にはその集団が守るべき価値と規範があり、社会人あるいは企業人として個人が守るべきルールーやマナーがある。しかしそこでは個々人の個性を生かした対応も求めらる。本講義では身体技法を含めた基本的ビジネスマナーの習得と個性の発見を目指したい。具体的には、個性を重視しながらも、駒沢女子大学生としてふさわしい、建学の精神を踏まえた行動規範を学ぶことになる。	
			社会と教養演習C	本授業は、「社会と教養演習A」を踏まえ、社会に出るために必要とされる「社会人基礎力」をさらに養っていくことを目的とする。社会人として自立するためには、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」が必要といわれる。毎回の授業では、これらの力を磨いていくための、実践的訓練を行う。特に、チームワーク作業における、想像力、発信力、傾聴力、柔軟性、規律性を涵養することに力を注いでいきたい。	
			社会と教養演習D	本授業は、「社会と教養演習B」を踏まえ、社会人としての規範、とりわけ、道元禅師の禅を建学の精神とする本学ならではの身体技法とは何かを深く学んでいきたい。具体的には、社会での様々な現場でそれがどのように活かされるのかを教授したあと、想定シミュレーションや、学生の自主性を尊重したグループ学習、体験学習を行う。それにより、社会に出てはずかしくないだけの素養を身に付けてもらうことにする。	
			キャリアリテラシー	就職活動生を取り巻く環境が変化する中、本授業では、就職活動への不安を緩和し、前向きな気持ちで行動していくことを目指し、就職活動での自分の「軸」を見出すプロセスを学ぶ。具体的には「自己分析」と「業界・仕事研究」の“すり合わせ”に取り組む。そのために個人やチームで調べ、考え、話し合うなど、集団討論形式で授業を進め、同時に、社会に出てから役立つ意識やスキルも習得していく。自分自身の可能性を広げ、納得のできる就職活動にチャレンジしていくことを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	実践知科目	就業力育成科目	就業への知識と技能A	はじめに業種分類の基本を学ぶ。その上で、金融・リース・航空・ホテル・モバイル等の業界について、その成り立ちや特色を考える。様々な業種について実業界で豊富な経験を積んだ教員が様々なエピソードを交えながら、業種や会社を研究するための基礎知識を教授する。業界・業種の社会的な使命とその実態を知ることにより、社会の動向に関心を深めながら自分に適した業種を客観的に考えられるようにする。	
			就業への知識と技能B	様々な業種における業務の基本を学ぶ。その上で、損害保険・出版・不動産などの業界や、公務員・教育職における様々な業務内容や相互関係を考える。様々な業種について実業界で豊富な経験を積んだ教員が様々なエピソードを交えながら、業務を選択するための基礎知識を提供する。組織における様々な業務の役割とその実態を知ることにより、社会の動向に関心を深めながら自分に適した業務を客観的に考えられるようにする。	
		健康体育科目	女性と健康Ⅰ	人間は成長と共に体型や生理機能に様々な変化が起こるが、各年代によって発症し易い病の種類も異なる。本講義は、女性の体の基本的な生理機能とその健康管理を取り上げる。特に、二十歳になるまでに知っておいて欲しい女性の健康と病気について、具体例を交えながら話題を提供し、少女から大人の女性に成長する過程の健康問題について論じていく。本講義を通して人間の本質を理解し、正しい医学知識を身に着け、健康管理に関して自分で考える能力を養いたい。	
			女性と健康Ⅱ	人間は成長と共に体型や生理機能に様々な変化が起こるが、各年代によって発症し易い病の種類も異なる。本講義は、二十歳以降の女性の健康と病気について、結婚、妊娠、出産、育児に関係することなどを含めて論じていく。本講義を通して人間の本質を理解し、正しい医学知識を身に着け、健康管理に関して自分で考える能力を養いたい。日常生活の中で、自分のみならず家族や友人などの周りの人達の健康管理にも気を配り、病気の早期発見や正しい予防法に役立てることのできる内容とする。	
			スポーツⅠ	健康・体力づくりは、国民全体の大きな課題となっている。この科目は、継続できる身体運動（テニスとリラックスヨガ）を選択しながら、健康志向への動機付けを図り、実践に関する知識や技術を得ると共に、その方法を自分自身に当てはめ、応用展開する能力を体験することを目標とする。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。	
			スポーツⅡ	健康・体力づくりは、国民全体の大きな課題となっている。この科目は、継続できる身体運動（バドミントンとゆがみ修正体操）を選択しながら、健康志向への動機付けを図り、実践に関する知識や技術を得ると共に、その方法を自分自身に当てはめ、応用展開する能力を体験することを目標とする。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。	
	技法知科目	日本語育成科目	言語表現演習Ⅰ	大学生として、また社会人として必要な日本語の運用能力を養うことを目的とする。具体的には、日本の社会におけるコミュニケーションに大きな影響を与える「敬語」の体系、および、会話における誤用を防ぐために欠かせない日本語文法についての基礎知識を学ぶ。また、様々な文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、大学生にふさわしい文章を書ける力を養うことを目標とする。	
			言語表現演習Ⅱ	言語表現演習Ⅰを受け、日本語の正しい語法に習熟し、日本語の運用能力を高めることを目的とする。具体的には、自らの言語生活を振り返りつつ多くの語彙に触れて、さまざまな表現を生み出す力を身につけ、正確な表記で各種の文章を作成できる能力を身につける。また、文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、社会人にふさわしいコミュニケーション力を身につけることを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	英語AⅠ	高校までの英語学習を基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。日常生活において、数字や品物の値段の確認、日付、曜日等の、必要であると同時に重要な情報を正確に聞き取ったり、伝えたりできるようにする。簡単な単語やフレーズを使って、自分の気持ちや意見を相手に伝えられるかを意識させながら、会話や英作文での表現の幅を広げる。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
			英語AⅡ	英語AⅠを基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。自分の身の回りのトピックについて、場所や時間といった具体的な情報を聞き取ったり、自分の趣味や興味のあることなどを伝えたりできるようにする。簡単な単語やフレーズを使って、自分の気持ちや意見を相手に伝えることを意識させ、会話や英作文での表現の幅を広げていく。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
			英語AⅢ	英語AⅠ・Ⅱを基に、発展的な英語力の向上を目標とする。自分自身や自分の家族・学校・地域など、身の回りの事柄に関連した表現を理解し、伝えることができるようにする。基本的な単語やフレーズを用い、買い物や外食など、日常生活の場面での指示や説明ができるようにする。英語で表現することを意識させ、よく使われる構文を用い、自分の伝えたいことを書く練習をさせ、表現の幅を広げられるようにする。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
			英語AⅣ	英語AⅢを基に、発展的な英語力の向上を目標とする。公共の場で発信される短い簡潔なアナウンスを理解し、自分でその内容を言えるようにする。個人的予定や大学生活などの明確で具体的な事実について、要点を理解し、英語で表現できるようにする。スポーツ・料理など連続した動作の一連の手順を英語で表現できるようにする。英語で表現することを意識させ、よく使われる構文を用い、自分の伝えたいことを書く練習をさせ、表現の幅を広げられるようにする。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
			英語BⅠ	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「語彙・語法」について学ぶ。	
			英語BⅡ	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「文法」について学ぶ。	
			英語BⅢ	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「聴解力」の向上を図る。	
			英語BⅣ	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「読解力」の向上を図る。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	英会話Ⅰ	（英文）This course will focus primarily on improving students' speaking and listening skills, with some reading and writing, as well. Natural and current forms of conversation will be covered with an emphasis on improving students' pronunciation, intonation and fluency. Real world topics will be provided and students will be given language structures that will help them in a variety of real life situations. Through a combination of pair and group work, students will be given multiple activities to help them become confident in using the target conversational structures. （和訳）主にスピーキング力とリスニング力の向上を目指す授業である。 本講義では発音・抑揚の改善と流暢さに重点を置いて指導を行う。実際にメディアで取り上げられた英文を材料として使用することで、より現実に近い場面での学習ができるように工夫する。できるだけペアワークやグループワークを取り入れ、学生たちが積極的に学習できるような機会を提供する。	
			英会話Ⅱ	（英文）This course will continue where English Conversation Ⅰ left off and continue to strengthen students' communication skills in English. Students will learn confirmation and clarification conversation strategies. Specific attention will be given to developing active knowledge of colloquial English and the ability to interact on a variety of popular and current conversational topics. Real world media will be used as a springboard for meaningful exchange. Interactive structures relative to communicating in modern English will be provided and students will be given opportunities to practice their learning with each other through a variety of communicative tasks. （和訳）「英会話Ⅰ」の学習を踏まえ、英語によるコミュニケーションスキルを強化することを目指す。学生は「確認」や「明確化」という会話の仕方を学ぶ。本講義では口語表現の学習と様々なトピックについて前向きに考えることに重点を置いて指導を行う。実際にメディアで取り上げられた英文を材料として使用することで、より現実に近い場面での学習ができるように工夫する。学生たちが相互に関わり合いながら積極的に学習できるような機会を提供する。	
			英会話Ⅲ	（英文）This course will build on the content of English Conversation Ⅰ and Ⅱ, providing students with training in a deeper level of natural English communication. There will be particular emphasis on sustaining conversations over longer periods of time. To help with this goal, students will be exposed to various methods of turn taking and conversation strategies that pertain to forming follow up questions and how pause in mid conversation. Students will work on attaining natural English rhythm in their speaking, with the goal of improving their overall fluency. Additionally specific pronunciation practices that relate to the various methods and strategies will be provided on a regular basis. （和訳）「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」の学習を踏まえ、主に英語による自然なコミュニケーションができるようになることを目指す。そのため、補足質問を作ることや「会話の調整」（会話を途切らすという会話の技法）を学生に紹介する。本講義では会話を長く続けることに重点を置き、会話の進め方や会話技法を指導する。英語の発音や自然なリズム、流暢さについても適宜指導する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	英会話Ⅳ	（英文）This final course in English conversation will synthesize the practices thus far learned with the goal of making students confident and natural in their English communication styles. Students will work on sustaining fluent, extended conversations about pertinent current events and issues. The differences in casual and more formal types of conversation will be studied. Pragmatics relative to American and British culture will also be examined, with particular emphasis placed on hedging and expressing disagreements. Students will become sensitive to cultural differences amongst native English speakers and how interact appropriately in different international situations. （和訳）「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」「英会話Ⅲ」の学習を踏まえ、自信を持って自然な英語を使えるようになることを目指す。本講義では時事問題を話題にして、より長く英語で話せるようになることに主眼を置く。また、「カジュアル」な会話と「フォーマル」な会話の相違について学習する。英米の文化について考え、自身の考えを主張できるような力をつけさせる。	
			Receptive English Ⅰ	（英文）This is a specialist English course designed to support students in improving their ability to understand English through listening and reading. Key methods used include paraphrasing and summarizing of key content, story-retelling and listening/reading without translation using accessible materials such as graded readers. Students will learn to use existing knowledge to predict the meaning of unknown vocabulary, while developing topic based English ability. By the end of the course, students will have an enhanced ability to understand basic spoken English without listening repeatedly and to read and understand basic written English. （和訳）主に基本的な英語運用能力を習得させることを目的とし、特に「聞く・読む」という英語を理解する能力の育成を目指す。指導方法としては、重要な文の言い換えや要約、内容を理解して第三者に伝えること、または難易度別英語読本等の学習者用英文資料を訳さずに読む・聞くことを含む。トピックに関する英語知識を増やしながら、学生が未知の語の意味を推測する際、既存知識を活用することを学ぶ。本講義終了時には、基本的な英文であれば一度で聞き取り、一回読んだだけで理解できるだけの力が身に付くようになることを目指す。	
			Receptive English Ⅱ	（英文）This is a specialist English course which builds on skills developed in Receptive English Ⅰ designed to support students in improving their ability to understand English through listening and reading. Key additional methods in this course include listening and reading at a near-native speed, listening/reading note-taking skills, using confirmation checks and clarification requests as a means to increase understanding and identifying elements of spoken and written style as a means to understand the intentions of a speaker or writer. By the end of the course, students will have an enhanced ability to understand more complex spoken English without listening repeatedly and to read and understand more complex written English. （和訳）「Receptive English 1」の学習を踏まえ、主に基本的な英語運用能力を向上させることを目的とし、特に「聞く・読む」という英語を理解する能力の育成を目指す。授業の方法としては、メモを取りながら自然な速度のものを聞く・読む、「確認」や「明確化」を活用し理解度を高める、（脱落、連結、同化など音変化などの）口述・記述のスタイル要素を認識し書き手・話し手の意図を理解することを含む。内容のある英文を一度で聞き取り、一回読んだだけで理解できるだけの力が身に付くようになることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	Productive English Ⅰ	（英文）This is a specialist English course designed to support students in acquiring a functional command of English. Improving students' ability to produce English output through speaking and writing is a particular aim of this class. Key methods introduced in this course include speed training for writing and speaking, conversational topic shift and turn-taking strategies in both spoken and written communication and strategies such as confirmation and clarification for continuing conversations when language difficulties are encountered. In addition to creative writing corrected in detail by the instructor, students will learn about typical English sentence formations and learn to use various different sentence styles. By the end of the course, students will have an enhanced ability to use basic spoken English without extended guidance and be confident in writing basic English sentences. （和訳）主に基本的な英語運用能力を習得させることを目的とし、特に「書く・話す」という英語を発信する能力の育成を目指す。本コースで採用される方法は話す・書くの速度練習、「話題転換」「確認」や「明確化」などの困った時も話を続ける会話技法を紹介する。教員によって精密に添削される自由英作文とともに、典型的英語文の組立てを学び、様々な文章が書けるようになる。	
			Productive English Ⅱ	（英文）This is a specialist English course building on skills developed in Productive English Ⅰ, designed to support students in acquiring a functional command of spoken and written English. Students will gain experience in various types of spoken English (such as speech making, presentation, conversation, interview, debate) and written English (such as letter, diary, report, paragraph writing, process writing journalism and online writing). Choosing their subject matter, students will work on descriptive and explanatory phrasing for effective communication in producing a range of spoken and written output while focusing on fluency and accuracy. By the end of the course, students will have an enhanced ability to use more complex spoken English without extended guidance and be confident in producing more complex English compositions. （和訳）「Productive English Ⅰ」の学習を踏まえ、基本的な英語運用能力を向上させることを目的とし、特に「書く・話す」という英語を発信する能力の育成を目指す。学生は演説、発表、会話、インタービュー、議論等の口頭英語と手紙や日記を書くこと、パラグラフライティングやプロセスライティング等の英作文の経験を積む。主題を決め、説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように、様々な発信的アウトプットを作る際に流暢さと正確さを意識して話したり書いたりすることを学ぶ。本講義終了時には、独力で内容のある英文を書き、あまり時間をかけずに内容のある英語で話すことができるだけの力が身に付くようになることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	English Summer Seminar	（英文）The English Summer Seminar is an intensive three-day course and will provide students many opportunities to become users of English outside of the classroom. The course is student-centered, interactive, and reflective and will have an English-only policy. Students will take an active part in communicative activities, discussions, games, and students will also teach something practical in English to a small group of peers. Everyone will leave feeling more confident in her ability to communicate in English in addition, make new friendships with all participants. （和訳）英語夏期セミナーは、3日間の集中コースで、学生に教室外で英語を使う多くの機会を提供する。このコースは学習者中心で、相互学習型、思考型であり、英語しか使わないことが原則である。学生は、会話活動、ディスカッション、ゲームに積極的に参加し、小グループやペアになって互いに教え合う機会を持つ。参加者は、英語でのコミュニケーションに自信を持つとともに、参加者同志で新しい友人関係を築いて本プログラムを終了することを目指す。学生は英語母語者間の文化的相違に敏感になり、様々な国際的場面で適切に交流できるようになる。 2名の英語教員が協働でグループをマネージメントをし、タスクやアクティビティを与え、休暇中に学生とグループで会話をする。	共同
			フランス語Ⅰ	フランス語の読み・書き・会話の基礎力を育成することがテーマである。まず表記と発音の関係を理解し、特徴的な音が発音できるように練習を重ねる。文法では、名詞の性と数、不定冠詞・定冠詞・部分冠詞の使い分けを理解し、形容詞の性数一致ができるようにする。動詞ではavoirとêtre、および第一群規則動詞の活用と用法を学ぶ。授業ではコミュニケーションを目的として意識し、CDによる練習やロールプレイを取り入れながら、簡単な挨拶や自己紹介ができるまでになる。	
			フランス語Ⅱ	第二群規則動詞finir、日常生活で頻繁に使われる不規則動詞aller、venir、partir、voirなどの活用に見られる共通のパターンを理解して、テンポよく活用ができるようにする。さらに、疑問代名詞・疑問副詞のある疑問文を学ぶことで、対話者どうしのさまざまな状況について情報交換ができるように、CDやロールプレイによる練習を継続する。また、比較級・最上級の表現をマスターし、総合的な言語運用能力の向上を目指す。フランス語検定5級の受験を奨励する。	
			フランス語Ⅲ	フランス語を1年間学習してきた学生を対象とする。まず、非人称構文や強調構文など、一定のパターンによる表現を身につける。直接目的語・間接目的語の仕組みを理解し、代名詞に置き換えられるようにする。さらに、直説法複合過去の仕組みと意味を理解し、英語の現在完了形と比較しながら、フランス語の時間に関する感覚を身につける。4つの基本的な関係代名詞の用法を学習し、複文を使うことにより、より複雑な説明ができるようにする。	
			フランス語Ⅳ	単純未来形の活用と用法を学ぶことで、表現の幅をさらに拡大する。また、フランス語独特のしくみである代名動詞の用法を学び、フランス語らしい表現に磨きをかける。さらに複合過去と対比しながら半過去の活用と用法を学び、会話で用いられる一般的な過去の表現ができるようにする。フランス語検定4級の受験を奨励する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	ドイツ語Ⅰ	Ⅰ～Ⅳの学習で初級文法を基礎としたドイツ語の基本的語学力（聴く・話す・読む・書く）の習得を目指す。このドイツ語Ⅰでは、アルファベットの読み方から始め、ドイツ語の単語の発音（つづり・アクセント・母音の長短）に親しみ、動詞の現在人称変化、名詞と冠詞の格変化、基本的文型を学ぶ。簡単な日常会話を材料にしながら聴き取り・書き取り、また話す練習を行う。随時実施される小テストによって各人が習得の確認を行う。（ドイツ語検定試験5級に対応）	
			ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅰを習得した者を対象とする。初級文法を基礎としたドイツ語の基本的語学力（聴く・話す・読む・書く）の習得を目指す。このドイツ語Ⅱでは、名詞の複数形、冠詞類、前置詞、人称代名詞と再帰代名詞、話法の助動詞と未来形、分離動詞などの新たな文法事項を追加しながら、平易な会話文の学習を進める。聴き取り・書き取り、また話す練習を行う。随時実施される小テストによって各人が習得の確認を行う。（ドイツ語検定試験4級に対応）	
			ドイツ語Ⅲ	ドイツ語Ⅱを習得した者を対象とする。初級文法を基礎としたドイツ語の基本的語学力（聴く・話す・読む・書く）の習得を目指す。このドイツ語Ⅲでは、動詞の三基本形、過去形、現在完了形、接続詞と副文、形容詞の格変化、比較（形容詞と副詞）について学習する。動詞の時制と文の構造について特に多くの例文に触れ、ドイツ語固有の文構造に習熟することを目指す。聴き取り・書き取り、また話す練習を行う。随時実施される小テストによって各人が習得の確認を行う。（ドイツ語検定試験3級に対応）	
			ドイツ語Ⅳ	ドイツ語Ⅲを習得した者を対象とする。初級文法を基礎としたドイツ語の基本的語学力（聴く・話す・読む・書く）の習得を目指す。このドイツ語Ⅳでは、zu不定詞句、受動態、関係代名詞、接続法を学習する。聴き取り・書き取り、話す練習と並んで平易な日常的ドイツ文を読解する力を養う。随時実施される小テストによって各人が習得の確認を行う。（ドイツ語検定試験3級に対応）	
			スペイン語Ⅰ	スペイン語の読み・書き・会話の基本的な力をバランス良くつけることをテーマとする。今期はまずスペイン語の音、リズム、イントネーションを耳で聴き、声に出して発音することに慣れてゆく。次に男性名詞・女性名詞、冠詞、形容詞、動詞serとestar、3種類の規則動詞の基本的な用法などを理解し、身につける。場面に応じた会話をペアで練習し、関連語句を覚えて応用力を養う。教科書を録音したCDを用いて、聴き取り練習をする。各課が終わるごとに小テストを行うことで学んだことを定着させてゆく。	
			スペイン語Ⅱ	スペイン語Ⅰを修得済みの学生を対象とし、読み・書き・会話の基本的な力をさらにつけることをテーマとする。今期は不規則動詞の直説法現在を中心に、目的語の代名詞、比較級・最上級などを理解し、身につける。不規則動詞は種類別に学習する。スペイン語Ⅰ同様、場面に応じた会話をペアで練習し、関連語句を覚えて応用力を養う。CDを用いた聴き取り練習、小テストも継続して行う。スペイン語検定6級の受験を奨励する。	
			スペイン語Ⅲ	スペイン語Ⅱを修得済みの学生を対象とし、読み・書き・会話の基本的な力をさらにつけることをテーマとする。動詞は再帰動詞、2人称の肯定命令、点過去の規則動詞・不規則動詞を中心に学習する。点過去の活用形は現在形の規則性があてはまらない部分があり、さらに不規則動詞も多いので時間をかけて学習する。スペイン語Ⅱ同様、テーマに応じた会話をペアで練習し、関連語句を覚えて応用力を養う。CDを用いた聴き取り練習、小テストも継続して行う。	
			スペイン語Ⅳ	スペイン語Ⅲを修得済みの学生を対象とし、読み・書き・会話の基本的な力をさらにつけることをテーマとする。今期は動詞の線過去、現在完了、接続法現在とそれを用いる命令を中心に学習する。また接続詞・関係代名詞を使った複文の作り方などを理解し、練習を繰り返す。スペイン語Ⅲ同様、テーマに応じた会話をペアで練習し、関連語句を覚えて応用力を養う。簡単な昔話を読み、メールを書く練習もする。CDを用いた聴き取り練習、小テストも継続して行う。スペイン語検定5級の受験を奨励する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	中国語Ⅰ	中国語の「読む・書く・聞く・話す」の基本的な力を身に着けることを目指す。まず、中国語のピンイン表記法を学び、中国語の声調、母音、子音を正しく聞き取り、かつ正しく発音できるようにし、続いて挨拶表現の練習を通じて中国語の発音に慣れていく。その後、日付、曜日、時間、年の表現や数量表現を学び、動詞述語文、形容詞述語文、名詞述語文、諾否疑問文などの文法事項を学習し、中国語で簡単な意思疎通ができるようにする。	
			中国語Ⅱ	中国語Ⅰで身につけた「読む・書く・聞く・話す」の基本的な力を高めていくことを目指す。中国語における完了・経験・未来および変化を表す用法を助詞と共に学び、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文を学習し、会話練習を通じて定着させていく。また少しまとまった文章を読み、動詞や形容詞、名詞の語彙を増やし、会話の内容を深めバリエーションを広げていく。同時に身に着けた単文の基本文型を組み合わせることで、ややまとまった文章を綴ることができるようにする。	
			中国語Ⅲ	中国語Ⅰ・Ⅱで習得した中国語の基礎の上に、実践的な「読む・書く・聞く・話す」の力をつけ、コミュニケーションの手段として使える中国語へのレベルアップを目標に、様々な場面に合わせた表現を学ぶ。願望や依頼、感謝や謝罪などの表現や関連語句を覚え、実際の会話練習を通じて定着させていく。豊かな言語表現のために呼応文型やさまざまな補語の用法も学び、やや難易度の高い文章を正確に読み取り、聞き取る練習も並行して行う。	
			中国語Ⅳ	中国語検定受験を視野に入れ、より実践的な中国語力を養うことを目指す。日中を取り巻く社会への関心と理解を深めるために、教科書や音声教材のほかに教材として新聞やインターネット上の記事、映像資料なども使用する。また情報を収集するためネット上で使用される中国語、電子メールでのやりとりで使用される中国語表現なども学び、授業を離れても、身近な事柄について口頭および書面で表現することができる力をバランスよく身につけていく。	
		情報力育成科目	コンピュータ演習Ⅰ	本授業は、高度情報社会における情報収集やその処理の基礎を学ぶことを目的とする。具体的には、諸々の検定を指標としたレベル設定（ビジネスの現場において基礎的な文書処理ができる程度）を行い、情報通信技術（ICT）を使いこなすための知識と実技演習を中心に授業を進めていく。本授業では、文書作成、レイアウト作成、作表、作図、表計算などの技能を必要とする基本的なビジネス文書作成を繰返して実践的な演習を行う。	
			コンピュータ演習Ⅱ	本授業の目標は、「コンピュータ演習Ⅰ」で身に付けたスキル（ビジネスの現場において基礎的な文書処理が行える程度）を確認しつつ、さらに発展させることにある。具体的には、「Microsoft Office Specialist」に沿ってビジネスの現場で応用できる基本的な情報処理能力を身につけることを目標に、さらに実践的な演習を行う。併せて、プレゼンテーション技術として情報発信能力を高める表現力を身につける。	
			コンピュータ演習Ⅲ	スマートフォンに代表される情報端末の進化はすさまじく、それに伴い私たちの扱う情報も飛躍的に広がってきた。とりわけ、情報を発信・共有する機会が多くなり、情報を処理することから、情報を選り分け、メディアを選択し、魅力的に表現することまで求められるようになってきた。本授業では、インターネットを中心とした多彩なメディアを活用したウェブ表現を中心に、情報を利活用するための表現力を身につける。	
			コンピュータ演習Ⅳ	本授業の目標は、「コンピュータ演習Ⅲ」で身につけたウェブ表現を確認しつつ、さらに発展させることにある。具体的には、ウェブ表現で必須となっている写真表現や映像表現、アニメーション等高度な表現力を身につけることを目標に、デジタル１眼レフカメラ等の機材を使い、より実践的な実習を行う。併せて、MOSエキスパートやVBAなどシステムエンジニアの基本レベルの習得も視野に入れる。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	特設科目（留学生）	日本語AⅠ	本授業は、大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を修得することを目的とする。特に講義を聞くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。具体的には、助詞や副詞、接続詞や敬語等について学び、聞きやすくわかりやすい発音で話せるようになること、人前で話すことに慣れること、そして論理的な表現ができるようにする。	留学生対象
		日本語BⅠ	本授業は、「書く」ための日本語能力を修得することを目的とする。具体的には、身近な題材について文章を書くことによって、文を書くことに慣れるとともに、文法的に正しい文を書けるようにする。授業は、助詞や語句の使い方などの練習、文章作成を基本として進める。提出した課題について指摘された問題点を把握するとともに、文法的課題を含んだ練習を通して、日本語の基本的な格助詞を間違いなく使える能力を身につけるとともに、文章を書く課題を通して、間違いの少ない日本語文を書く能力を身につける。	留学生対象
		日本語AⅡ	本授業は、大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を修得することを目的とする。特に講義を聞くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。具体的には、様々な文型を使ったり、慣用表現を使ったりしながら、文を作る練習をする。聞きやすくわかりやすい発音で話せるようになること、人前で話すことに慣れること、そして論理的な表現ができるようにする。	留学生対象
		日本語BⅡ	本授業は、「書く」ための日本語能力を修得することを目的とする。具体的には、新聞記事を読み、社会的な題材について文章を書くことによって日本語能力を深めていく。授業は、文法の練習、文章の要約やレポートの書き方などの文章作成を基本として進める。提出した課題について指摘された問題点を自ら学習するとともに、童話のあらすじをまとめたり、小論文を作成したりする課題を通して、長い文章を正しい表現で書く能力を身につける。	留学生対象
		日本語AⅢ	本授業は、大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を修得することを目的とする。特に日本人学生の中でも臆せず自己表現できるよう、聴解力と口頭表現能力を伸ばすことに重点を置く。具体的には、日本の観光地や日本人の生活習慣などについて調査し、発表することを通して、語彙を増やし、話の内容に即した表現ができるようにするとともに、時事ニュースに親しみ、視野を広げ、様々な問題について日本語で討論できるようにする。	留学生対象
		日本語BⅢ	本授業は、「書く」ための日本語能力を修得することを目的とする。具体的には、格助詞の使い方や語句の使い方を修得するために、テキスト読解および確認テストに取り組んだり、与えられたテーマについて、要約や感想、レポートを書いたりする。テキストおよび関連課題をこなすことによって、文法や語彙に関して、高度な日本語能力を身につける。特に、受け身や使役といった態の変化による格助詞の使い方や、組み合わせて用いる慣用表現などに慣れるようにする。	留学生対象
		日本語AⅣ	本授業は、大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を修得することを目的とする。パネルディスカッション、グラフを使った意思表明のスピーチ、ディベート等を通して日本語能力をさらに伸ばす。日本の少子化問題や、高齢化社会など時事問題について資料を読み、原稿を作成してスピーチし、レポートにまとめることによって、語彙を増やし、話の内容に即した表現ができるようにするとともに、時事ニュースに親しみ、視野を広げ、様々な問題について日本語で討論できるようにする。	留学生対象
		日本語BⅣ	本授業は、「書く」ための日本語能力を修得することを目的とする。具体的には、新聞記事を読み、語句を調べることで、語彙量を増やすとともに、さまざまな文法の問題に取り組む。また、引用の仕方や段落について学んだうえで、論文を作成する。自らテーマを決めて調査し、報告する、あるいは自らの論を展開するという論文作成を通じて、さらに日本語能力を高めることを目指す。小論文を書くために必要な文章記述能力を高め、長い文章を書く能力を身につける。	留学生対象

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	特設科目（留学生）	日本事情Ⅰ	本授業は、日本での一般的な生活の実態について学ぶことで、日本に関する基礎的な知識を修得することを目的とする。具体的には、「どこかに行くこと」「食べる」ことなどを出発点として、日本の地理、交通、施設、食事情など、日本で生活するために必要な情報について概説する。パソコン上のウェブ情報などを活用し、実際に都内の公園や美術館や飲食店を紹介させることで、日本に関する情報を習得していく。	留学生対象
		日本事情Ⅱ	本授業は、日本の文化的な側面を学ぶことで、日本に関する基礎的な知識を修得することを目的とする。具体的には、年中行事、芸能、伝統工芸をはじめとする日本の文化的な側面や観光名所等、日本の文化の伝統的な側面について概説する。パソコン上のウェブ情報などを活用し、実際に日本の年中行事や祭りや歌舞伎、能、落語といった伝統芸能や観光名所などについて調べ、紹介させることで、日本に関する情報を習得し、理解を深める。	留学生対象
		日本事情Ⅲ	本授業は、日本や世界の時事問題について学び、幅広い話題に対応できる日本語力を修得することを目的とする。具体的には、グラフや統計資料をもとに、日本の国土、気候、政治、経済、社会等について学んだうえで、関連するニュースやテレビ番組の映像なども視聴する。また、日本のゴミ問題やリサイクル、交通インフラ、物価、エネルギー問題等、身近な問題について理解したうえで、具体的な意見を述べる力を身につける。	留学生対象
		日本事情Ⅳ	本授業は、日本や世界の時事問題について学び、幅広い話題に対応できる日本語力を修得することを目的とする。具体的には、グラフや統計資料をもとに、日本の農林水産業、工業、商業、貿易や国際協力などについて学び、関連するニュースやテレビ番組の映像なども視聴する。また、ゴミ問題やリサイクル、交通インフラ、物価、エネルギー問題等、身近な問題について、自国と比較することにより理解をふかめ、具体的な意見を述べる力を身につける。	留学生対象
人間総合学群 心理学類 専門教育科目	基本科目	心理学の基礎	心理学のさまざまな領域に関わる専門的なテーマについて理解を深め、2年次以降に配当されるより専門性の高い講義および専門ゼミを受講する準備段階として必要な知識習得を行う。具体的には「学習」、「発達」、「思考・言語」、「動機づけ」、「知能とパーソナリティ」、「社会的行動」、「心理学史」といったテーマを取り上げ、心理学というものが個人の内的世界だけではなく、対人相互的、社会相互的な視点から捉えられるべきものであることを知り、様々な応用が可能な学問であることを理解できるようにする。	
		心理学実験実習Ⅰ	心理学実験実習では、実証的科学である心理学の実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を習得する。実習内容は、実験心理学として総称される感覚・知覚、学習、記憶、思考領域の基礎的実験であり、複数の実験課題を心理学実験室において行う。そして、問題（仮説）の設定から実験手続きの実施、資料(データ)分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を学ぶ。	
		心理学実験実習Ⅱ	心理学実験実習Ⅰに引き続きⅡでは、実証的科学である心理学の実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を習得する。実習内容は、実験心理学として総称される学習、記憶、思考、社会、性格領域の基礎的実験であり、複数の実験課題を心理学実験室において行う。そして、問題（仮説）の設定から実験手続きの実施、資料(データ)分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を学ぶ。	
		心理学研究法Ⅰ	心理学の研究方法について、基本的な考え方から、具体的実施方法や研究資料の分析方法を解説する。本講義では、実験法、調査法、さらに近年日常生活の心理研究が注目される中多く用いられている観察法について、その方法論と手続きを解説する。次にそれぞれの手法が使われた具体的研究例を検討することにより、手法の利点や問題点を考察する。なお、研究によって得られた心理学データ(資料)の分析について、統計的な理解を含め、その分析手続きも論究する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　心理学類　専門教育科目	基本科目	心理学研究法Ⅱ	心理学研究の重要なデータ分析方法のひとつである、質的研究法の入門授業である。質的研究法は、調査の際だけではなく、カウンセリングや心理療法などの実践活動の過程を分析するためにも必要である。本科目では、グラウンデッド・セオリー・アプローチ、テキスト解釈や現象学的アプローチ，エスノグラフィ、会話分析などの研究法の概説と研究例の紹介を通じて、質的研究法の基礎を理解する。また、実際に質的分析法を用いた課題の実施を通して、方法の習得を目指す。	
		心理統計法Ⅰ	人間の心を研究対象とする心理学も実証的な科学の一領域として、観察・実験・調査などによって得られた実際の研究資料（観測データ）が必要であり、これに基づいて実証的に研究をすすめなければならない。本講義では、「観測データをどのように整理し、分析し、推論し、結論づけていくかに関する方法（統計法）」の習得を目的として、統計法習得のはじめの一歩を踏み出す学生用向けの内容を扱う。	
		心理統計法Ⅱ	心理学の研究を進める上で必要とされる「データの処理と解析」の統計的理解を深めることが、本授業の目標である。まずコンピュータを使ったデータの入力・加工・統計処理を説明し、基礎計算量、カイ２乗検定、平均値の差の検定・分散分析、回帰分析など統計分析を解説する。基本的な統計的考え方を理解するとともに、各自が統計解析ソフトを使って確認することを望む。	
		文芸と心理	文芸とは、言語を媒介とした芸術の総称であるが、本講義では、ソフォクレスの『オイディプス王』に描かれる、いわゆるエディプス・コンプレクスの意味を、言語芸術作品である原作を通じて理解・確認することから始め、さらにいくつかの文学作品を題材として、文芸における種々の心理学的テーマを検証する。特に、フロイトとユングの心理学的アプローチを紹介しながら、童話における心理学的解釈のさまざまな手法を『グリム童話』の何篇かを実際に読み解き考察していく。	
		言葉と心理	（概要）ある一つの文を発話するには、必ず、心理が作用する。講義では、「社会言語学」「ディスクール分析」「語用論」「相互作用の分析」「言語心理学」などを手がかりに、「言葉と心理」について考察する。 （オムニバス方式／全15回） （6　米金孝雄/8回）　話し手（発話者）と聞き手（受信者）の間には一定の儀礼的なディスクールが存在するとともに、他方では、発話者の使用する語彙（あなた、君、お前）や表現（謙譲語、尊敬語、俗語）、声の調子、抑揚や表情などが、両者の心的作用に多大な影響を及ぼすのである。講義では、「言語運用」に焦点を絞り、「言葉と心理」のメカニズムについて考察する。 （5　保坂律子/7回）私たちが意思疎通を行う上で、言葉は大切な手段である。しかし言葉で思いを表現する際、自分の意図が上手く相手に伝わらない場合がある。何故なら、同じ内容の発言であっても、言葉の受け止め方は聞き手の心理に左右されるからである。この授業では感謝と謝罪の言葉に焦点をあて、様々な実例から「言葉と心理」について考察する。	オムニバス方式
		心理学英語講読	心理学英語講読は、英語をとおして心理学を理解する能力を高めることをこと目的とする。このため次の心理学において基礎的なトッピクス（英文）を教材として講読演習を行う。「1. Introduction to background of psychology」「2. Nature vs. Nurture」「3. Conditioning」「4.　The Developing Child」「5. Language Development」「6. Health, Mind and Behavior」「7. Intellectual and Social Development」「8. Personality, Adjustment and Stress」「9. Defense Mechanisms」「10. Adolescence」「11. Mental Disorders」「12. Psychotherapies」「13. The Life Cycle」「14. Testing and Measurements」。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　心理学類　専門教育科目	基本科目	学外実習	3年次の夏季休暇中に、社会的活動団体や公的機関等の職場において、報酬を伴わない勤務実習を行う。インターンシップ的な活動であるが、就職活動の一環としてのインターンシップとは異なり、就職に直接結びつくものではない。実習体験を通して社会生活と職業生活の現場感覚を養い、自らの進路について意識を高め、今後の勉学意欲に結びつくことを目的とする。	共同
	現代心理学関連科目	社会心理学Ⅰ	社会と個人、あるいは個人間の相互作用を解明する社会心理学の視点から、「社会化」の問題を解説し、「社会と個人との関係のあり方」について理解を高める。本講義では、「個人はどのような発達課題を経て社会化していくのか」、「社会化の過程にはどのような人間が関わっているのか」、「社会化が阻害されるとどのような問題が生じるのか」をテーマとし、その現象と、家族・学校・地域社会など社会と個人との関係のあり方について論究する。	
		社会心理学Ⅱ	この講義では、初対面の人の印象や偏見、友人や恋人など親しい人との関係の成立・維持・崩壊といった「他者」、学校や会社などの「組織」、うわさや流行などの集合現象である「集団」、東洋文化や西洋文化といった「文化」まで幅広い心理を対象にし、社会心理学の中でも、「他者」・「集団・組織」・「文化」の心理への関心と理解の幅を深めることを目的とする。	
		発達心理学Ⅰ	発達心理学Ⅰでは、ピアジェやコールバーグの発達理論を参考にしつつ発達心理学的視点から、誕生から児童期に至る子供の心理過程について解説する。また講義のなかでは、発達の連続性、すなわち「成人の精神構造は子供のそれを基礎として発展的に構築される」ことを理解し、大人の内なる幼子との対話は、自分自身の精神をより深く理解することにつながることを学んでいく。	
		発達心理学Ⅱ	発達心理学Ⅱでは、青年期から老人期に焦点を当て、エリクソンの発達段階論を中心に解説をする。青年期から成人期にかけては「若者の今日的な状況」について理解を深める。とりわけ「青年期の延長」いわゆる「モラトリアム」の長期化や「一人前」意識の喪失といった問題が、若年層のみならず中高年齢層の疎外感とも深くかかわっていることを考察する。それ以降のいわゆる中年期から老人期にかけては、超高齢化社会を迎える現代社会の一員として、人間が精神的に充足した豊かな老後を過ごし人生を終えるとはどのようなことかを心理学的な観点から見つめ直していく。	
		犯罪心理学Ⅰ	非行は社会を映す鏡と言われるように社会状況と無縁ではない。子どもの発達、家族関係、学校や地域社会といった多様な要因が絡み合って非行は発生する。本講義では臨床心理学的な観点から発生のメカニズムや処遇を考えていくため、精神分析的視点（主に対象関係論，自己心理学）、認知行動論的視点等を学ぶ。また、地域社会、学校、仲間集団などとのかかわりなども視野に入れていく。	
		犯罪心理学Ⅱ	犯罪・非行に関する諸理論及び現状を概観し，非行や犯罪についての理解を深める。その上で，性犯罪，薬物犯罪，女性の犯罪，高齢の者犯罪などを取り上げ，具体的に考察していく。また，犯罪被害者の支援，裁判員制度などの新しい流れについても触れる。さらに、米国やカナダの司法制度や実証的な研究に基づくアセスメントと介入といった実践（evidence based practice）についても紹介する。	
		認知心理学	人間の認知機能の解明を目指す認知心理学について、その歴史的背景から成立、さらに現代までの発展を概観し、その方法論的特徴を講義する。次に、人間の主要な認知機能である視覚、記憶、学習、問題解決、思考等をテーマとした代表的研究について論究し、認知心理学的アプローチにより新しく解明された事実と、事実から構成された人間の認知機能に関するモデルについて考察する。また、実社会への応用例として、教育場面、産業場面での実例を示し、認知心理学的知見がどのように実社会に具体化され、生かされているかを検討し、今後の応用可能性について考察する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　心理学類　専門教育科目	現代心理学関連科目	家族心理学	非婚化、少子高齢化、離婚の増加、家庭内暴力、児童虐待など諸問題を抱えている現代の家族の形態、機能、役割について理解を深める。こうした理解を踏まえて家庭構成員の発達課題及び家族内の人間関係や社会とのかかわりについて、家族ライフサイクルとの関連で考察する。また、離婚や家庭内暴力、虐待などの家族内の人間関係における葛藤を理解し、そうした諸問題への援助方法について学ぶ。	
		教育心理学	教育心理学の知見に基づき、教授・学習場面を理解し、個に応じた教育を考える能力を高めることを目的とする。本講義では、学習意欲、動機づけ、学習行動、知識獲得、問題解決過程、自己学習力、授業と学級のはたらき、測定と評価などをとりあげる。また、教師の生徒理解の上では、子どもの心身の発達的特徴を知り、子どもの行動を理解することが必要である。授業の中で学習・発達・教授法などを具体例をあげて説明する。	
		健康心理学	本科目は、現代に生きる人々の健康の維持・増進や疾病の予防・治療、機能回復、健康管理システムなどの諸問題に対して、人のこころの健康的な側面に注目して考察することによって、健康心理学の基本知識と健康問題に関する見方・考え方を身につけることを目的とする。ストレスとストレスへの対処や、健康に対する価値観、態度、行動や健康回復・健康づくりへの支援について理解を深める。	
		コミュニティ心理学	コミュニティ心理学の目標は、人の心の問題を、個人とその個人を取り巻くコミュニティ（集団）との関係という視点から理解することである。まず、危機理論など、コミュニティ心理学的な問題理解のための理論を学ぶ。そして、コンサルテーションやコラボレーションなど、実際に問題を予防するための方法や対応法について、事例を通して学ぶ。また、学校現場における支援、精神障害者に対する支援、虐待問題への支援など、さまざまなコミュニティの問題への支援方法について学んでいく。	
		スポーツ心理学	現代社会では、競技としてのスポーツをはじめとして、教育としてのスポーツ、心身の健康増進のためのスポーツ、レクリエーションとしてのスポーツ、スポーツ観戦など、すべての人々がスポーツとのかかわりを持っている。本科目の目標は、スポーツのパフォーマンスに心がどのように関わっているのか、スポーツをすることが人の心にどのような影響を与えるか理解することである。スポーツと心の健康の関係、メンタル面の競技への影響、チームワークなどについて学ぶ。	
		産業心理学	企業とそこで働く人々が抱えるさまざまな問題を心理学的に理解することを目標とする。また、心理学的方法を用いて、それらの問題を解決できるように援助する産業カウンセリングの方法について学ぶ。作業効率と安全、職業適性、モチベーションとリーダーシップ、メンタルヘルス対策、働く人たちのキャリア開発、職場におけるより良い人間関係や職場環境を作るための働きかけや援助など、実際の企業の取り組み例を踏まえて理解を深める。	
		消費者心理学	本科目では、消費者行動を心理学的に理解し、自らが「ユーザー側」として適切な消費行動を行うことと、「メーカー側」として消費者の心理を把握し、効果的にアピールする方法を身につけることを目標とする。消費者心理を捉えるマーケティングの方法、消費者心理に訴える商品企画とプレゼンテーションの手法、広告が消費者に与える心理的影響、接客サービスにおける効果的なコミュニケーションの方法、などについて学ぶ。	
		社会福祉援助論	本科目は、臨床心理学的援助と社会福祉学的援助の近接領域について学ぶ。発達障害・適応障害・心身症など、生物的・心理的・社会的に重複した問題を抱える人々に対して、心理学的に支援すると同時に、適切な社会的資源や医療的援助を導入して、対象者の生活の質を向上させていくサポートのあり方を学ぶ。また、精神障害者・身体障害者のリハビリテーションや児童福祉臨床の現状と課題について、実際の取り組み例を交えて学び、理解を深める。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　心理学類　専門教育科目	現代心理学関連科目	高齢者心理学	中年期以降の高齢者の心理を学ぶ。加齢にともなう生理的な変化や心理的な変化について学び，高齢期における社会的な生活環境や典型的なライフイベントが与える影響などを考慮しながら，高齢期をいかに豊かに生きるかということを考える。また，認知症など高齢期に顕著な精神的な疾患を学び，その心理的・社会的サポートのあり方について理解を深める。	
		対人援助論Ⅰ	「人が人を助ける・支える」とはどのようなことか。対人援助論では、ソーシャルワークの視点に立ち、対人援助に関する知識や技術を学習する。Ⅰでは、個別援助技術の定義、原則、過程について押さえてから、対人援助で用いられる基本的な理論・アプローチを学ぶ。それぞれに短い事例を紹介しながら、発表、討議を行い、理解を深めていく。対人援助に関する知識と技術を習得し、社会福祉援助活動に活用できる能力と態度を育てることを目標とする。	
		対人援助論Ⅱ	「人が人を助ける・支える」とはどのようなことか。対人援助論では、ソーシャルワークの視点に立ち、対人援助に関する知識や技術を学習する。Ⅱでは、Ⅰで学んだエコロジカルアプローチ、行動アプローチ、ナラティブアプローチの理解を深めるため、長い事例を用いて、グループディスカッション等により参加型の学習を図り、対人援助を実践的に学んでいく。対人援助論について、実践的、主体的に考えられるようになることを目標とする。	
		現代心理学実習	心理学の基礎的な実験技術をもとに、より実践的な事象を科学的に分析するための方法を習得する。実習内容は、行動観察、協同的問題解決、質問紙調査の実際、コミュニケーション行動の記録と分析、生理的指標を用いた実験の構想と実施である。問題・仮説の設定から実験・調査の実施、取得データの分析、レポート作成、プレゼンテーションに至る、一連の心理学実験の進め方に従って授業を展開する。毎回授業に積極的に参加して実験・調査を実施に携わり、取得データの分析方法や結果について思考する姿勢を身につけてもらいたい。	
	臨床心理学関連科目	臨床心理学Ⅰ	臨床心理学の基礎として，人の心の構造や機能に関する理論を学ぶ。日常生活で何気なくやり過ごしている些細な失敗などの錯誤行為や睡眠時に見る夢、昔話や小説といった文学作品に描かれている人物像などの具体的な素材を題材にして、人の心の中では意識的に制御している合理的な領域と無意識的に働いている非合理的な領域が相互作用しているという力動的な見方を理解するのが目的である。あわせてS.フロイトやC.G.ユングなどの力動的心理学の創始者たちが人の心をどのように考えていたのか、その歴史的意義についても学ぶ。	
		臨床心理学Ⅱ	臨床心理学の基礎として，人の心の構造や機能に関する理論を学ぶ。後期の臨床心理学Ⅱでは、人の心や行動の問題を理解する理論として、①個人の認知と行動の特徴から理解する認知行動理論、②個人と家族や周囲の人間との対人関係との関係の観点から理解するシステム理論、③個人の所属するコミュニティや環境との関係の観点から理解するコミュニティ・アプローチ、の３つを取り上げる。それぞれの理論の歴史的背景と基本的モデルについて理解を深めることを目的とする。	
		人格心理学Ⅰ	人間理解の基礎となる、人格心理学の諸理論について学ぶ。パーソナリティとはどのような概念か、パーソナリティを捉える視点としての類型論と特性論の特徴、パーソナリティの測定法、パーソナリティの発達、対人関係とパーソナリティ、文化や社会のパーソナリティへの影響など、さまざまな角度からパーソナリティの成り立ちを理解する。また、臨床心理学的援助の基礎となる、精神分析等の人格構造論についても学ぶ。	
		人格心理学Ⅱ	本講義は、精神医学的疾患や発達障害、不適応行動などのこころの病やこころの発達の障害について理解を進め、基礎知識を得ることを目的とする。また、こころの病を抱えた方への関わりという点から人間関係の影響について、理解を深める。実際に、傾聴やアサーションの実践を行い、良好な人間関係を築くための心理学的な基礎知識と実践力を身につける。人格理論や測定方法を元に、人格を病むということとその変容をもたらす方法について考えていく。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　心理学類　専門教育科目	臨床心理学関連科目	心理検査法Ⅰ	本講義では、心理検査法の基礎と心理検査法を利用するにあたって必要とされる種々の知識を学ぶ。また、心理検査法の歴史、目的、種類、特に質問紙法を中心に、統計的技法の基礎、心理検査法の作成・標準化過程について概観し、客観的、実証的に心理検査法を活用する姿勢を身につける。実際に心理検査を体験し、その有用性と限界について実践的に理解し、さらに、実際の心理援助の場における検査の活用例から、心理検査の意義と役割に関する理解を深めることを目指したい。	
		心理検査法Ⅱ	本講義では、投映法を中心に、知能検査・発達検査などについて詳しい説明を行う。臨床心理学の領域では、パーソナリティのアセスメントが重要である。心理検査を通して精神状態を査定し行動を分析する方法、及び検査法を心理学研究法の一つとして用いる方法について教授したい。投影法検査の被験者としての体験、検査者としての体験を通して、投影法に対する理解を深め、検査としての投影法だけでなく、心理援助における投影法の役割を考察する。	
		精神医学	統合失調症やうつ病などの気分障害，あるいは神経症と呼ばれていた種々の身体症状や不安症状，また人格障害など，精神医学が対象とする疾患の歴史的な変遷から現在もっとも多く使われている診断マニュアルであるDSMまでを総括的に学ぶ。主だった疾患の状態像を知り，鑑別のための基本的な視点を身につける。また，治療について，抗精神病薬や抗うつ薬，抗不安薬など精神科で使われている薬物についての基本的な理解を得ると同時に，薬物療法以外の精神科における治療的な関与について学ぶ。	
		学校心理学	スクールカウンセリングに代表される、教育の分野における臨床心理学について学ぶ。学校というコミュニティの制度や組織の特徴、関連する法律、風土や文化など、児童・生徒を取り巻く環境について理解する。また、児童期・思春期の心理的発達と臨床的に生じやすい問題について理解する。そして、不登校やいじめなどの、実際に起こっている問題への対応法について、事例を交えて具体的に考察し、理解を深める。	
		医療心理学	医療の分野において、患者の心理を理解し、異職種や家族と協力しながら患者を支援するための臨床心理学的知識を学ぶことを目標とする。まず、身体の健康と心の関係について、健康心理学の観点から学び、慢性疾患や成人病、依存症などの治療における心理学的アプローチの重要性を理解する。また、気分障害や統合失調症、不安障害に代表されるような各種の精神疾患の特徴と、それらの心理学的な査定方法と援助方法の基礎についても、事例を通じて学ぶ。	
		カウンセリング論	本授業はカウンセリングの基礎知識を学ぶことが目的である。具体的には、①カウンセリングの定義と意義、②カウンセリングの歴史、③カウンセリング法、④カウンセリングの理論、⑤カウンセラーの資質と姿勢などについて理解を深めたうえで、教育現場における教育相談の目的・体制・機会等についても修得していく。	
		障害者援助論	身体障害者福祉を中心として基本資料および福祉制度を概説する。具体的には、自立生活運動、介助論・ボランティア論、施設福祉と地域福祉、家族支援・生活支援、障害者文化と障害学などのトピックスを紹介しながら近年のサービス提供・利用に関する動向に触れる。この科目では明日の自分の問題になるかもしれない、あるいは家族や知人が抱えている問題かもしれないという視点から、障害者の問題を身近で具体的な課題として考えていきたい。	
		精神病跡学	絵画や文学作品などを通して、当該作家の精神状態、とりわけ精神疾患の特徴について学ぶ。作品だけでなく伝記的な資料などをあわせて、作品だけなく多面的に見ることによって、その作家の生き方についての理解を深め、人間にとっての精神の病が持つ意味について考える機会を与える。また作品や資料からどのようなことが言えるのか、病跡学的なアプローチを学ぶことによって、各自が任意の作家や作品について検討できるようになることも目標のひとつとしたい。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　心理学類　専門教育科目	臨床心理学関連科目	神経心理学	本講義は、「こころ」をつくりだしている脳について生理学的理解を高めると共に、脳を解明する脳科学の現状を理解することを目的とする。授業では、「神経細胞と脳の構造」「機能の局在」「視覚と脳」「言語と脳」「記憶と脳、「脳研究の現状」について説明を行う。また、臨床的な神経心理学の古典的研究である「分離脳患者の研究」「失語症の研究」などについても説明し、言語に係わる最近のトピックスを紹介する。	
		言語心理学	人間と動物と分ける最も大きな違いは、その卓越した思考・言語能力に求められる。人は、考えることで、適応的な行動を選び、ことばを使って複雑な情報を伝達することができる。人はどのようにして考え、ことばを操ることができるのか、またそうした能力は、どのような性質を持ち、どのように発達するのか、といった言語能力のさまざまな側面について、認知心理学、発達心理学、動物心理学、神経心理学などの知見を交えながら、思考・言語の性質とその基盤についての理解を深めることを目的とする。	
		比較行動学	人間の行動を理解するために，動物の行動と比較しながら検討する。動物の進化や生態について学ぶことにより、動物の種としての人間が進化の過程における位置づけやその特殊性についての理解を深める。とりわけ言語の問題、自己意識の問題など、人間を他の動物から際立たせている側面について学ぶ。また，攻撃性についても動物との比較において学び、人間の攻撃性や道徳性などについて理解を深める。	
		発達臨床	乳幼児期から児童期にかけて子どもが示すさまざまな問題を発達の視点からとらえる。乳幼児における授乳・摂食障害や睡眠障害，排泄障害などの生活習慣上の諸問題について，その実態や生起メカニズムについて学ぶ。とりわけ母子のコミュニケーションの様相について焦点をあてて，良好な母子関係がどのようなものなのかということについて理解を深める。また，過度のしつけや虐待などの母子関係の問題についても学ぶ。	
		心理療法論Ⅰ	本科目は、認知行動療法の理論と臨床的援助の方法の基礎を学ぶことを目標とする。まず、認知行動理論の特色、認知行動理論が成立した歴史的背景や他の理論との違いについて学ぶ。次に、認知行動モデルについて学んだ上で、事例検討を通して、認知の変容が行動の変容を生じさせるという認知行動療法の実際を理解する。また、日誌法や認知再構成法などの、認知行動療法のさまざまな技法を自ら課題として実施してみることを通して、体験的にその有効性や限界について考察し、理解を深める。	
		心理療法論Ⅱ	精神分析の創始者S. フロイトの業績について学び、無意識についての理解を深める。人間の心を自我、エス、超自我という構造から成ると考え、心理的な問題をそれらの葛藤からとらえるという精神分析の基本的な理論を学ぶ。そして治療としての精神分析の設定とその目的について考察し、具体的な症例を通してその意義を理解できるようにする。とりわけ転移という精神分析的な治療のもっとも特徴的な現象やその取り扱いについて理解を深める。	
		臨床心理学実習	臨床心理学では、セラピストとクライアントの関係性が非常に重要となる。そのため、他者だけではなく、自分自身にも目を向けていくことがとても大切である。本授業は、幾つかの心理療法の技法や心理検査を通して、普段はあまり気にすることのない自分の諸側面に意識を向ける体験を得ることを目的とする。この際、自分ひとりでの気づきではなく、他者との関係の中で体験される気づきにも目を向ける。また、カウンセリングの基本である「話を聴く・聴いてもらう」ことの相互作用を体験的に学ぶ。	
	専門ゼミ科目	現代心理学ゼミⅠ	私たち人間は、誕生直後からめまぐるしい変化に満ちた環境に適応し、社会的な存在として他者とコミュニケーションをとりながら、高度な身体的・認知的スキルを発達させていく。現代心理学ゼミⅠでは、こうした「発達」を駆動している基盤について、発達心理学、認知心理学、そして新しい理論的立場である生態心理学という領域を横断しながら学習する。卒業論文のテーマ設定にも役立てられるように、幅広い視野から心理学の現代的な意義とその方法について理解を深める。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　心理学類　専門教育科目	専門ゼミ科目	現代心理学ゼミⅡ	現代心理学ゼミⅠで取り上げた人間の身体的・認知的スキルの発達に関するさまざまなトピックのなかから、学生各自で興味や関心があるものを選択し、関連する論文の講読、レポートの作成、プレゼンテーションおよびディスカッションを行う。こうした実践的な作業を通して、自ら問題を調査・探求し、その内容を的確に表現する能力を身に付けることを目標とする。	
		現代心理学ゼミⅢ	人間の身体的・認知的スキルの発達に関する理論・研究およびその方法を確実に理解することを目標にする一方、現代心理学ゼミⅢでは、卒業論文の執筆を見据えた具体的な準備も進めていく。人間の発達に関するテーマは多岐にわたり、実はそれが日常生活の中にふと見出されることもある。そこで学生各自が研究対象にできそうな事例やトピックを身近なところで探し出し、そのアイディアについてディスカッションをしながら、その事例に対してどのような心理学的アプローチが可能なのかを考察していく。	
		現代心理学ゼミⅣ	現代心理学ゼミⅢで学習した理論的な枠組みと、学生各自が関心を抱いている研究テーマとの接点を改めて精査する。研究テーマに沿った実験・観察・分析を進め、卒業論文を執筆し、その内容についてプレゼンテーションを行う。学生が主体性を持って取り組むようにし、大学生活における学術的活動の成果をしっかりとした形にすることを目標とする。	
		臨床心理学ゼミⅠ	学術論文や各省庁が出している資料などを用いて、メンタルヘルスの対象となっているテーマをゼミで手分けして調べる。この場合のメンタルヘルスは、狭義の「精神保健」でも広義の「心の健康」でもよい。調べたテーマについて、まずはその実態を把握し、今、そのテーマについては何が問題となっているのか、それはどの程度の数が生じているのか、どんな支援策がとられているのかなど、理解を深める。	
		臨床心理学ゼミⅡ	臨床心理学ゼミⅠで調べた内容をもとに、グループごとにメンタルヘルスに関わるテーマを1つ選び、そのテーマに潜む問題を参加型グループワークにより抽出する。次に、その問題を解決するための方略を自分たちなりに検討し、そのうえで、臨床心理の立場からはそこにどのように関われるかを考えてみる。最終成果物については、PowerPointを用いたグループ発表会を行う。	
		臨床心理学ゼミⅢ	文献のクリティカル・リーディングについて数回の演習を行った後、具体的な研究計画を立て、ゼミ論文・卒業論文の準備に取りかかる。取り上げるテーマは、メンタルヘルスに関わるものであれば、基本的に自由である。研究目的を書くときは、できるだけ具体的に焦点を絞り、何を明らかにしたいのかを明確にしておくことが、良い研究を導く。目的が漠然としていると、話の筋がぼやっと広がって、ただ素材を並べ立てただけのような成果になってしまいがちである。よい研究プロトコルの立て方を身につけていく。	
		臨床心理学ゼミⅣ	臨床心理学ゼミⅢで立てた研究計画に基づき、実際に研究を行う。研究の手法は、量的研究でも質的研究でもよい。研究の成果は、ゼミ論文・卒業論文としてまとめ上げる。最後は、PowerPointを用いた研究発表会で、自分の研究を他人にも分かるようにプレゼンテーションする。研究発表は、人が聞いて分かるものにすることが、聴き手に対しての誠意であり、かつ、科学としての公共性となる。	
		卒業論文	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、専門的な知識の修得をふまえたうえで、自らの分析の視点と問題意識を明確にしつつ、適切な方法を用いて深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化して卒業論文としてまとめる。	

授　業　科　目　の　概　要 （人間総合学群 心理学類）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	省令必修科目	生涯学習論Ⅰ	生涯学習に興味・関心がある学生を対象に、生涯学習の意義や目的、歴史や基礎理論、生涯学習の内容や方法を概説する。生涯学習には、「学びたい」ことだけではなく、「学ばなければいけないこと」も含まれている。本授業における到達目標として、①生涯学習の意義や目的を理解し、生涯学習を支える者の役割を充分に自覚する、②生涯学習の歴史（誕生と展開）を理解・説明することができる、③生涯学習を支える基礎理論を理解・説明することができる、④生涯学習の内容や方法を理解・説明することができる、以上の4点をあげる。	
		博物館概論	現代社会において、教育・文化施設である博物館の果たす役割は大きい。本講義は、博物館に関する基礎的知識を習得することを目的とする。生涯学習社会へと移行する中で、博物館の基本を身に付け、博物館に課された役割について考えることで、専門への導入教育としたい。博物館について、存在意義にかかわる本質的な問題、歴史的な歩み、現状と課題、といった観点から概要を説明したあと、国内外の博物館の事例を紹介する。さらに、現実的な立場から、学芸員に何が求められているかについて、理解できるように授業を進めていく。	
		博物館資料論	本講義は、博物館資料の収集、整理保管、情報管理の方法等、理論と知識を含めた、資料に対する基本的な能力を養うことを目標とする。合わせて、考古・民族・美術・歴史・自然史資料等、具体的な資料の特性に即しながら、資料の取り扱いの実際について学んでいく。博物館資料に対する基本的な考え方を講じたあと、資料の収集・整理・活用、一次資料と二次資料、デジタル資料等について解説する。また、博物館では資料を通した調査研究活動がいかに行われているのか、具体例をあげながら説明する。	
		博物館展示論	本講義は、歴史的観点、意味論（教育論）的観点から博物館の展示について解説し、また具体的事例、あるいは特定の展示を想定しながら展示の組み立て方やデザインの仕方等を講じることで、博物館展示の基本を学ぶことを目的とする。博物館の展示が社会的にどのような意味を持つのか、展示の意義や実態を一般論として学んだあと、展示資料の分類、展示資料の選定、展示の設計、配置計画、導線計画、解説パネル文章作成、広報手段等、展示全般を想定した講義をする。	
		博物館資料保存論	本講義は、博物館における資料保存の基本を講じることを目的とする。展示環境、収蔵環境を科学的にとらえ、資料を良好な状態で次の世代に引き継いでいくための知識を習得することで、資料の保存が、博物館の文化活動においていかに大切なことかを学ぶ。資料保存の意義、資料の現状調査、資料の修理と修復、資料の梱包と輸送、資料の保存環境（劣化条件・災害・総合的有害生物管理･･･）、環境保護と博物館の役割等について講じる。具体的な施設を事例としながら、資料保存の問題について総合的に考えていきたい。	
		博物館経営論	本講義は、博物館の使命と組織形態、及び実際の管理運営の方法について、具体的事例を通して学び、博物館を経営すること（ミュージアム・マネジメント）の基礎的能力を養うことを目的とする。博物館経営の基盤となる、博物館行政制度、博物館の財務、施設設備、組織と職員等について学んだあと、博物館経営の使命と評価、マーケティングとパブリシティ活動、地域社会と博物館等、博物館経営の実際について授業を行う。	
		博物館教育論	本講義は、博物館における教育活動の重要性を理解させることをねらいとする。授業では、具体的な事例を示しながら、教育活動の基礎となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館教育に関する基礎的な能力が身に付くよう配慮する。博物館教育の理論的側面として、生涯教育の場、人材養成の場、地域教育の場、文化情報リテラシー教育の場等の視点から解説する。そのあと、博物館の利用と学びの実際について、心理的効果、教育的効果、教育活動等の内容を事例をあげながら講義する。	
		博物館情報・メディア論	本講義は、博物館における情報の意義と活用方法、情報発信の課題等について、ソフト面、ハード面ともに理解し、博物館の情報提供と活用に関する基礎的能力を養うことをねらいとする。博物館における情報・メディアの歴史と意義、博物館活動と情報ネット化の現状を踏まえ、博物館におけるデジタル情報発信の基本をネット実習等を交えて教授する。さらに、著作権や個人情報等、博物館の知的財産に関しての理解を深める。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	省令必修科目	博物館実習A（見学実習）	博物館実習A（見学実習）は、博物館の実態や展示の仕方を学ぶという観点から、さまざまな博物館を見学し、他の博物館に関する科目で習得した知識を深めることを目的とする。見学は、教員が引率するものと、学生が単独で訪れるものがある。どちらの見学でも、特定のテーマ（展示物の配置、照明と採光、展示資料の解説等）を設定したレポートを課す。また、見学に訪れた博物館の学芸員から直接話を聞くことにより、学芸員の仕事とはどのようなものかについても、理解を深める。	共同
		博物館実習B（実務実習）	博物館実習B（実務実習）は、博物館における館園実習の準備と他の博物館に関する科目の補足を兼ねて、学内の実習施設等において、資料の取り扱いや収集・保管・展示・整理・分類等の方法、調査研究の手法等について学ぶことを目的とする。館園実習では、博物館が所蔵する資料や展示物に直接触れるため、事前に学内において、資料の取り扱いに関する注意点を十分理解するとともに、資料や展示物に触れる際に必要な技術や方法論を身につける。	共同
		博物館実習C（館園実習）	博物館実習C（館園実習）は、学内実習で学んだ内容を博物館の現場で実際に経験することで、博物館の理念や設置目的、業務の流れ等に対する理解を深めると同時に、博物館資料の取り扱いや収集・保管・展示・整理・調査研究・教育普及活動、来館者対応等の実務の一端を担うことにより、学芸員としての責任感や社会意識を身につけ、学芸員としての心構えを涵養することを目的とする。また、事前には実習に当たっての心構え等について、事後には実習の反省・自己評価等をもとに課題解決のための指導を実施する。	共同
	基礎選択必修科目	日本美術史	本講義は、日本の原始から現代に至る日本美術の展開について、各時代別にテーマを設定し、日本美術史上の名品を軸に、日本美術の基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、絵画・彫刻・工芸の美術品を軸に日本美術の歴史について解説する。この学びを通じて、信仰・各種儀式から生み出された美、建築や工芸にみる多様なデザインなど、日本美術の特徴、さらに日本の美意識に大きな影響を与えた海外文化など、広くその特質を考察する。	
		西洋文化史	ヨーロッパ文化の特質とその流れを、ビデオやスライドを多用して概観し、一つの文化の成長から衰退までの経緯を研究する。さらに、日記、手紙、装飾品や日常の必需品などの多岐にわたるモノを通して、ヨーロッパ各地の人々の生活と考え方を知る。本講義では、古代世界（古代ギリシア文化）からヨーロッパ文化の基層を形成した中世、その結実としてのルネサンスまでを扱う。西洋文化の歴史的な展開についての基本的な知識を把握することを目標とする。	
		日本文化史Ⅰ	本講義は、日本の文化に関する歴史を総合的に学び、日本人の文化に対する価値観や個々の文化事象について基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、古代から近現代に至る文化史を学びつつ、それぞれの時代における文化的特徴について考察する。また風土論についても側面的に学習する。なお、海外から評価されるさまざまな日本の文化や世界遺産などについても学び、社会人として理解しておくべき実践的な日本文化学を修得する。	
		日本文化史Ⅱ	本講義は、日本の芸能の歴史に関する基礎知識を学びながら、日本文化における芸術と技芸の全体像を把握すること目的とする。具体的には、神楽、能、文楽、歌舞伎などの日本を代表する演劇をはじめ、映画・歌謡・舞踊・落語などのさまざまな芸能文化について解説する。また必要に応じて映像や音楽の鑑賞を行い、伝統的な古典芸能とともに、現代の新しい芸能文化についても幅広く学ぶ。なお、大学の地元である稲城市の里神楽について知り、身近な日本の伝統芸能についても親しむ。	
		地域文化概論	本講義は、地域社会に残された文化財から地域社会で営まれてきた人々の暮らしに関する知識を修得することを目的とする。具体的には、石造物、祭礼、年中行事など、地域に残された人々の暮らしの痕跡から見えてくる地域文化について解説する。この学びを通じて、教科書や年表には登場しない普通の人々の暮らしが基となって私たちの生活文化が形成されていることを学習する。さらに人々の暮らしにおいて大きな影響力を持っていた寺社を通して見えてくる地域社会の新たな側面など、地域文化の面白さについても学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 心理学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	基礎選択必修科目	世界遺産研究	現在を生きる世界中の人々が過去から現在に引き継ぎ、未来へと伝える責務を負う人類共通の財産である世界遺産について、1972年にユネスコ総会で採択された世界遺産条約に記されている定義、世界遺産の種類、登録の基準と手続きなど基本的な理解を深めるとともに、DVDで登録されている世界遺産を鑑賞する。また、「危機遺産」の調査を通じて、世界遺産活動の現状と課題を考える。	
		世界のミュージアム	ヨーロッパとアメリカ各地の著名なミュージアムの成立過程とその収蔵品を中心に、ビデオやスライド等の映像資料を多用して、各館の特徴を解説する。次に、収蔵品の中からよく知られた作品を数点選んで、その文化的価値について詳細に検討を加え、展示方法・作品の魅力、問題点を探る。最終的には観光文化資源としての欧米のミュージアムの特徴を学び、ミュージアムの成立過程を研究することにより、当該地の文化と歴史を把握する。 (オムニバス方式／全15回) (14 羽鳥修・3 糟谷惠次・15 加藤ナツ子／1回)（共同） 海外におけるミュージアムの役割についてそれぞれの立場から概要を述べる。 (14 羽鳥修／5回) アメリカ合衆国の主要なミュージアムを紹介する。 (3 糟谷惠次／5回) ドイツ、オーストリアの主要なミュージアムを紹介する。 (15 加藤ナツ子／4回) スペインの主要なミュージアムを紹介する。	オムニバス方式 共同(一部)
		日本のミュージアム	観光資源の観点から日本各地の著名なミュージアムの成立過程とその収蔵品を中心に、ビデオやスライド等の映像資料を多用して、その館の特徴を解説する。次に、収蔵品の中からよく知られた作品を数点選び、その価値について検討を加え、その魅力を探る。さらに、各ミュージアムが現在抱える問題を取り上げ、解決策を考察する。最終的には個々の館の垣根を越えたミュージアムを巡る観光ツアープランを計画する。	
		西洋美術の旅Ⅰ	古代エジプト、ギリシア、ローマ、中世ロマネスク、ゴシックから16世紀ルネサンスまでの西洋美術の流れを多くのスライドやビデオ等によって概観しながら、各時代と各地の特徴を捉える。また作品の鑑賞等をおこなうことによって、西洋美術の様式的な特質と画家や彫刻家たちの個性を探求しながら、一点の作品の背後に隠された依頼者と確執を明らかにする。最終的には西洋美術の基本的な知識を習得し、著名な作品とその作者の特質を把握する。	
		西洋美術の旅Ⅱ	17世紀から20世紀までの西洋美術の流れをスライドやビデオによって概観しながら、各時代と各地の特徴を捉える。また作品の鑑賞と対比によって、西洋美術の様式的な特質と画家や彫刻家たちの個性を探求する。対象とするのは、バロック様式と17世紀様式の類似と相違、18世紀ロココ様式、18世紀後半からの新古典様式とロマン主義様式の対比、19世紀後半からの印象主義とそれ以降のフォヴィズムとキュビズムの展開、20世紀後半の多様化する西洋美術までの特徴を明らかにする。	
	専攻選択必修科目	日本の文化財Ⅰ	本講義は、日本における文化財保護の状況と代表的な文化財について概説し、日本の文化財に関する基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、近代以降の欧米社会との関わりを視野に入れながら、日本の近代化と文化財保護の歩みについて学習し、博物館の果たしてきた役割や、日本の代表的な文化財の特質を考察し、文化財の鑑賞・調査方法についての基礎を学習する。	

授　業　科　目　の　概　要 （人間総合学群 心理学類）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	専攻選択必修科目	日本の文化財Ⅱ	本講義は、日本の文化財Ⅰでの学びを基に、日本の文化財に関する知識を深めることを目的とする。具体的には、文化財保護法によって指定された文化財の概要と、日本を代表する有形文化財（建造物・美術工芸品）・無形文化財・民俗文化財・記念物・文化的景観・伝統的建造物群保存地区・選定保存技術・埋蔵文化財等の基礎知識を学び、近年注目されている世界遺産、世界無形文化遺産の概要と課題点など、現代社会と文化財の関わりについて学習する。	
		歴史資料論	本講義は、日本文化を学ぶ上で基本となる歴史資料について概説し、その読解、調査、整理を行うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、古代から近代までの代表的な古文書、古記録等の文献資料、絵図、考古資料等の概要を学び、近世以降の古文書等の原本史料の読解方法、調査・整理方法について学習する。なお必要に応じて、学外の博物館・資料館に行き、原本史料を閲覧・調査し、歴史資料を扱うための実践的な学習を行う。	
		民俗資料論	本講義は、日本文化を学ぶ上で基本となる有形・無形の民俗資料について概説し、その読解、調査、整理を行うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、地域文化を理解するために有益な風習・伝説・信仰・芸能・民具等の民俗資料について解説し、学内外での実習を通して、稲城市およびその周辺地域に伝承されてきた民俗資料を事例として取り扱いながら、これらの収集・調査・分類・整理・保存のための方法を実践的に学習する。	
		歴史考古学	本講義は、中世から近代までの歴史について考古学の視点から概説し、考古学を通史的に見据える視点を養うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、城郭、宗教、交通、生活、戦争等に関する中世から近代までの考古学の成果について解説し、中世から近代までの歴史研究における考古学の可能性について学習する。さらに、歴史研究だけでなく、民俗学をはじめとする諸分野との関わりについても理解を深め、多角的に考えるための力を養う。	
		歴史地理学	本講義は、産業と人びとのくらしについて、歴史的特徴だけでなく、地域的特徴も視野に入れ見据える視点を養うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、衣食住の世界だけでなく、地域の産業とくらしについて、それを支える人々を含めて、通史的、立体的な歴史像、地域像について学習し、新たな歴史観、地域観の可能性について学習する。この学びを通じて、地域から文化や歴史を多角的に調査、研究するための基礎知識を修得する。	
		文化交流史Ⅰ	本講義は、日本と海外の交流の歴史について、その歴史的特質を考察することを目的とする。具体的には、縄文時代から平安時代までの日本と諸外国との交流の事例を取り上げ、海外文化を取捨選択しながら主体的に受容した社会的背景や意義についての歴史的変遷とその特徴について学習する。この学びを通じて、国際交流の中で形作られてきた日本文化の意義や、日本文化が海外からどのように理解されてきたのかなどについて考察する。	
		文化交流史Ⅱ	本講義は、日本と海外の交流の歴史について、その歴史的特質を考察することを目的とする。具体的には、平安・鎌倉時代から幕末までの日本と諸外国との交流の歴史を振り返り、海外文化を取捨選択しながら主体的に受容した社会的背景や意義についての歴史的変遷とその特徴について学習する。この学びを通じて、国際交流の中で形作られてきた日本文化の意義、日本文化が海外からどのように理解されてきたのかについて考察する。	

（注）
1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。
2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	初年次教育科目	基礎ゼミⅠ	大学におけるさまざまなタイプの授業に対応するための基礎的な学習方法を学ぶ。受け身の態度で講義に臨むのではなく、自ら問題意識を持って講義に参加し、さまざまな課題に対して主体的に取り組む姿勢を養う。少人数クラスでの対話を通じて、大学でなにを学ぶか、どのような大学生活を過ごすかを考え、学生ひとりひとりが自分の目的を発見する手助けをする。また、本の読み方、講義の聞き方、講義録のとり方、意見発表の仕方等を考えさせる。	
		基礎ゼミⅡ	基礎ゼミⅠに引き続き、大学生活と大学での学びを充実させるための技術と姿勢を養う。自分で調べ、それらを整理し、他者に的確に伝えるための技術の習熟を目指し、さらに、自己について理解と認識を深めることも目標とする。ゼミは、基本的に、参加学生の主体的な参加と、相互の積極的な意見交換によって進められる。個々のテーマをめぐって発表したり議論したりすることを通して、大学で学ぶことの意義について理解を深める。	
	建学の精神を学ぶ科目	仏教学Ⅰ	本講義は、建学の精神を学ぶための基礎として仏教の開祖、ゴータマ・ブッダの生涯とその教えを知り、仏教学および宗教学に関する基本的な知識をひろく修得することを目的とする。具体的にはインドをはじめとするアジアの歴史的・文化的背景をふまえながら、歴史上の人物としてのゴータマ・ブッダの生涯と思想について解説する。またこれらに基づいて現代に継承された仏教行事や、仏教に由来する年中行事の文化的事象についても学習する。なお照心館の坐禅堂にて2回程度の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	
		仏教学Ⅱ	本講義は、建学の精神を学ぶための基礎として曹洞宗の開祖、道元禅師の生涯とその教えを知り、仏教学および宗教学に関する基本的な知識をひろく修得することを目的とする。具体的には仏教学Ⅰにおける学びに基づき、鎌倉時代を中心として日本の歴史的・文化的背景をふまえながら、歴史上の人物としての道元禅師の生涯と思想について解説する。また現代に継承された仏教行事や禅宗の文化的事象、さらには禅の哲学や思想についても学習する。なお照心館の坐禅堂にて2回程度の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	
		仏教学Ⅲ	本講義は、建学の精神を学ぶための発展的学修として日本仏教の歴史とその教えを知り、仏教学および宗教学に関する教養や知識をひろく修得することを目的とする。具体的には仏教学Ⅰ・Ⅱにおける学びに基づき、鎌倉時代を中心として日本の歴史的・文化的背景をふまえながら、日本仏教史における各宗派について概説する。また現代に継承された仏教行事や禅宗の文化的事象、さらには禅の哲学や思想についても学習する。なお照心館の坐禅堂にて2回程度の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	
		仏教学Ⅳ	本講義は、建学の精神を学ぶための発展的学修として禅の歴史とその教えを知り、仏教学および宗教学に関する教養や知識をひろく修得することを目的とする。具体的には仏教学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおける学びに基づき、日本の禅宗文化に関する歴史的・文化的背景をふまえながら、禅宗史や曹洞宗の歴史上の人物について概説する。また現代に継承された仏教行事や禅宗の文化的事象、さらには禅の哲学や思想についても学習する。なお照心館の坐禅堂にて2回程度の坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	建学の精神を学ぶ科目	駒沢女子大学入門	（概要）本講義は、駒沢女子大学の学園創立以来の歩み、本学の教育の特色などを学ぶことによって、駒沢女子大学の学生としてのアイデンティティーを確立させることを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （13　光田督良／1回） 建学の精神をふまえた駒沢女子大学の教育理念と教育の特色と題して、テーラーメイド教育、ミッション、教育力、学位授与の方針などについての講義を行う。 （25　佐々木俊道／2回） 駒沢女子大学の1年と題して、学燈会、花まつり、追善記念日、成道会と摂心会、誕生記念日、涅槃会と針供養などについての講義を行う。 （33　千葉公慈／2回） 駒沢女子大学の歩みと校歌・校章と題して、校歌の成立過程、歌詞の内容、解釈などについての講義を行う。校歌をCDで聴かせ周知を図る。 （21　安藤嘉則／2回） 創立者、山上曹源先生の生涯と教育理念と題し、学園の歴史に即しながら山上先生の教えについて講義を行う。合わせて明治初頭の日本の様子も紹介する。 （38　皆川義孝／4回） 前半は稲城の自然と歴史、稲城の文化財について紹介したうえで、近隣の高勝寺、三沢川などを散策することで理解を深める。後半は駒沢学園の歩みを草創期から戦前、戦後から現在に分けて講義を行う。学園内の施設や裏山を歩くことで本学に対する愛着を高める。 （25　佐々木俊道・33　千葉公慈・21　安藤嘉則・38　皆川義孝・47　石川創／4回）（共同） 駒沢女子大学の学生としてのアイデンティティを確立させるため、これまでの学修の振り返りをグループに分かれて行い、また学修結果の確認作業として「駒女検定」を実施する。	オムニバス方式 共同（一部）
	入門科目	日本文化入門Ⅰ	本講義では、言語・文学・思想・風習など多岐にわたる日本文化について、広く基礎知識を習得し、日本文化の専門的学習に必要不可欠な教養を学習する。具体的には、日本文化を生み出す土壌となった、日常生活やその周辺における身近な文化事象である衣・食・住について解説し、さらにこれらを育んできた日本人の精神についても学習する。この学びを通じて、日本文化にこめられた意味と、現代的意義、そして未来への継承を考えるための基礎力を身につける。	共同
		日本文化入門Ⅱ	本講義では、言語・文学・思想・風習など多岐にわたる日本文化について、広く基礎知識を習得し、日本文化の専門的学習に必要不可欠な教養を学習する。具体的には、自然の中に神を見出し、祭祀・儀礼・芸能などの文化を生み出す土壌となった、日本の多彩な風土について解説し、そこに根ざした特色ある生活文化の歴史について学習する。この学びを通じて、日本文化にこめられた意味と、現代的意義、そして未来への継承を考えるための基礎力を身につける。	共同

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	入門科目	人間関係入門Ⅰ	（概要）人間存在の本質や、人びとが営む文化活動、人びとどうしのコミュニケーションに対して、人文科学・社会科学の諸学問（心理学、社会学、身体文化論、メディア研究、国際社会論など）は、再帰的・反省的・複眼的な視座を提供する。これらの諸学問に関心を寄せる学生を対象に、それぞれの学的アプローチのエッセンスを紹介する。各分野・手法の特徴と魅力について概括的な理解をつかむことを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （50 倉住友恵／5回） 心理学の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。 （45 大貫恵佳／5回） 社会学の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。 （31 田澤秀司／5回） 企画・表現研究の視座と研究対象について具体例を交えながら解説する。	オムニバス方式
		人間関係入門Ⅱ	（概要）人間関係入門Ⅰに引き続いて、人間関係に関連する諸学問（心理学、社会学、身体文化論、メディア研究、国際社会論など）に関心を寄せる学生を対象に、それぞれの学的アプローチのエッセンスを紹介する。各分野・手法の特徴と魅力について概括的な理解をつかむことを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （34 石田かおり／5回） 身体文化論の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。 （19 臼井実稲子／5回） 国際関係論の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。 （37 榎本環／5回） 社会学の視座と研究対象について研究事例を紹介しながら解説する。	オムニバス方式
		英語コミュニケーション入門Ⅰ	会話、語彙力テスト、多読、英語日記等の活動を通し、基礎的な英語運用能力を養うとともに、振り返りを行い、自律的学習態度を育成する。1人の英語ネイティヴ教員が少人数グループカンバセーション、マンツーマンカンバセーションを担当し、キーワードやキーセンテンスの確認、定着を図る。録音した会話内容を再聴し、発音や表現のミスに気付かせる。2人の日本人教員が個別指導時間を設定し、個々の学習効果を高めるための指導を行う。学生は授業外で個別指導に沿った学習法を実践し、翌週の授業で実践内容を確認する。	共同
		英語コミュニケーション入門Ⅱ	英語コミュニケーション入門Ⅰに引き続き、同様の活動を行い、基礎的な英語運用能力を養う。振り返りを通し、自律的学習態度を育成する。1人の英語ネイティヴ教員が少人数グループカンバセーション、マンツーマンカンバセーションを担当し、キーワードやキーセンテンスの確認、定着を図る。録音した会話内容を再聴し、発音や表現のミスに気付かせる。2人の日本人教員が個別指導時間を設定し、個々の学習効果を高めるための指導を行う。学生は授業外で個別指導に沿った学習法を実践し、翌週の授業で実践内容を確認する。	共同
		観光文化入門Ⅰ	観光は人々の余暇活動の中心的位置を占めており、今後高齢化社会が進展し、生活の豊かさが求められる中で、観光の果たす役割はますます大きくなっていくと思われる。また、「観光立国」が推進されている現在、観光が国の経済や文化・国民の生活にもたらす効果も高まってきている。この授業では、観光の意義を考え、わが国の重要産業の一つとして成長した観光に関わる基本的な事項を広く学び、現在観光ビジネス分野で起きている問題や将来の課題を正しく理解する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	入門科目		観光文化入門Ⅱ	観光事業とは、経済面のみならず、文化面・社会面など公共性の高い多様な側面で行われる活動を含む、観光に関わる事業を言い、「観光の意義・効果を高め、観光という社会的な現象を盛んにしようとする様々な活動」という概念を持っている。このような前提に立って、観光事業の意義を理解し、観光を構成する観光者・観光対象・観光媒体・観光行政という４つの要素から観光事業について具体的に考察する。また、観光産業を支える旅行・交通運輸・宿泊の３事業を中心に、観光産業の現状を理解し、今後の課題についても考察する。	
			心理学入門Ⅰ	心理学は、観察・実験・調査等の方法によって一般法則の探求を推し進める基礎心理学と、基礎心理学の知見を活かして現実生活上の問題の解決や改善に寄与することを目指す応用心理学に大別されるが、本授業では前者を柱とした授業を行う。心理学の成立過程という歴史的視点と、こころを理解するための感覚・知覚、学習、記憶、認知、情動といった基礎的な知識を教授する。それらを通じて、心理学を学ぶ意義を理解させる。	
			心理学入門Ⅱ	心理学の基礎Ⅰで学んだ基礎的知識を踏まえた上で、心理学が社会生活の中でどのように生かされているのか、教育・医療・福祉・司法・産業などの領域に焦点を当てる。出来る限り具体例を交えながら解説するとともに適宜レポートを課していく。また、心理学の研究領域は学際的であり、隣接する他の学問との相互連携が不可欠であるため、必要な知識や心構えなどについても言及する。	
			住空間デザイン入門Ⅰ	住まいやくらしの環境について理解するための基本的な知識を養い、建築・インテリアからものづくり（家具、陶器、織物）までをトータルにデザインする「リビングデザイン」について学ぶ。また、見学会や共同作業などの実践の場を通してデザインの基礎を学び、自分の考えを表現する力や人に伝達する力、批判する力を身につけることを目的とする。	共同
			住空間デザイン入門Ⅱ	住まいやくらしの環境を総合的に捉え、建築・インテリアからものづくり（家具、陶器、織物）までをトータルにデザインする「リビングデザイン」について幅広く客観的な視点から学ぶ。また、見学会や共同作業などの実践の場を通してデザインの基礎を学び、自分の考えを表現する力や人に伝達する力、批判する力を身につけることを目的とする。	共同
	教養知科目	人間を学ぶ科目	人間と思想Ⅰ	人間とはどのような存在なのか、人間の本質はどのようなものなのかを考察することが本授業の目的である。ギリシア、ヘレニズム、原始キリスト教から中世ルネサンスまでの哲学的知識を紹介し、学んだ学説や概念を使って、現代的な問題についての考察、演習問題を行う。考える材料として西洋哲学を歴史的に学び、かつ現代社会の情報を踏まえつつ、学生が自分で考察ができるようになることを達成目標とする。	
			人間と思想Ⅱ	近代以降の西洋哲学についての知識を深めつつ、人間はどのような存在として考えられてきたかということを考察する。倫理や道徳に関する現代的なテーマについてもとりあげて、知識を増やし、哲学的知識を実践で役立てる方法を講義する。哲学史を覚えるだけでなく、その知識を活用して、現代社会における様々な事象や社会問題との関連の中で人間について考察を深めていくことができるようになることを目指す。	
			人間と文化Ⅰ	本講義は、幕末以降の近代日本における日本文化や日本人について考察を深める。日本は古来より諸外国からの文化を受容し、独自の文化を発展させてきた。外国から移入された文化の変容のパターンはおどろくほど共通した特徴がみられる。このような観点から、言語、思想、教育、メディア、交通などを取り上げ、近代日本における日本人の精神性や日本の文化の歴史的変遷をみていく。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	教養知科目	人間を学ぶ科目	人間と文化Ⅱ	本講義は、人間と文化Ⅰの学びに基づき、第2次世界大戦以降の日本人や日本文化の特徴について考察を深める。1945年以降の日本文化は、1953年に放送がはじまったテレビを中心としたアメリカ文化の移入との関わりなしには語ることができない。このような観点から、現在に至るまでの日本人や日本文化について、戦後の日本や日本人に関する論考を紹介しながら概説していく。	
			生命の科学	生命の源は細胞であり、細胞は複製され増殖し進化する。これを生物という。生命の連続は細胞を進化させ、単純な形態からより複雑で高度な機能を進化させた。本講義は生命科学の最新の話題とそれらを理解する上で必要となる基礎的な知識を学習し、加速度的に進歩する生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。最低限の到達目標として、 一般常識の範囲で生命科学の時事内容が理解できる基礎知識の習得を目指したい。	
			倫理学	本講義では、倫理学の概要と現代における倫理的テーマを考察する。具体的には、倫理学の歴史、自由の価値、功利主義、倫理学の現代的展開、科学と倫理、科学の中立性、科学技術と倫理、医療と倫理、終末期医療、人間の尊厳などの諸問題について、事例をあげながら紹介する。これらの学修を通じて、平等や正義に関する哲学的知識を身につけ、倫理的に生きるとはどのようなことなのかを学生自身が考え、議論できるようになることを目指したい。	
			人権の基礎	本講義では、「人間はただ人間であるだけで価値がある」とする『人間の尊厳』という観念、これを具体化するための方法としての「人権」、これらがどのようにして形成され、どのような内容を持ち、どのような問題性を孕んでいるかを、さまざまな観点から検討し、人権の意義と内容を再確認する。①人権とは何か、なぜその保障が必要かについて理解すること、②人権獲得の歴史と各種人権宣言等の概略を理解すること、③これらを基に人権保障の実現について自分の見解を持てるようになること、以上の3点を到達目標とする。	
			女性の人権	人権思想の具体化を「女性の人権」を例にとりながら検討し、いかにすれば女性の人権が実現されるかを、女性の人権がないがしろにされてきた原因の把握とその排除という視点から解説する。その際、平等だけでなく、権利論の視点をも取り入れていく。人権保障の議論の中で、なぜ女性の人権が別枠で取り上げられなければならないか、その原因を理解し、また女性の人権が充分に保障されるためには何が必要かについて、自分の意見を述べられるようにすることを学習目標としたい。	
			心理学Ⅰ	心理学はさまざまな科学的方法を駆使して、こころについての研究を行う学問である。この授業では、これまで積み重ねられてきた様々な研究を紹介し、心理学の基礎的な知識と考え方を身に付けることを大きな目標とする。心理学Ⅰでは、主に人間の発達について説明し、非常に無力な状態で誕生した赤ちゃんがどのような経験をして心身ともに発達し大人になっていくのかを理解し、自分のことばで説明できるようになることを目標とする。	
			心理学Ⅱ	心理学はさまざまな科学的方法を駆使して、こころについての研究を行う学問である。この授業では、これまで積み重ねられてきた様々な研究を紹介し、心理学の基礎的な知識と考え方を身に付けることを大きな目標とする。心理学Ⅱでは、知覚や記憶、学習といった基本的な心のメカニズムについて説明する。また、他者および集団とのかかわりによってどのようなことが生じてくるのか、日常生活で誰もが体験することが心理学でどのように研究されているのか、例を挙げて紹介し自分自身の行動について考える。	
			生涯学習論Ⅰ	生涯学習に興味・関心がある学生を対象に、生涯学習の意義や目的、歴史や基礎理論、生涯学習の内容や方法を概説する。生涯学習には、「学びたい」ことだけではなく、「学ばなければいけないこと」も含まれている。本授業における到達目標として、①生涯学習の意義や目的を理解し、生涯学習を支える者の役割を充分に自覚する、②生涯学習の歴史（誕生と展開）を理解・説明することができる、③生涯学習を支える基礎理論を理解・説明することができる、④生涯学習の内容や方法を理解・説明することができる、以上の4点をあげる。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	教養知科目	人間を学ぶ科目	生涯学習論Ⅱ	生涯学習に興味・関心がある学生を対象に、生涯学習に関する制度や施設・職員の役割について概説し、生涯学習支援の担い手として必要な基礎技能を修得することを目指す。本授業における到達目標として、①生涯学習の意義や目的を理解し生涯学習支援の担い手としての基礎技能を修得する、②生涯学習を支える制度（法律や行政の取り組み）を理解・説明することができる、③女性の社会進出に伴う生涯学習の変化を理解・説明することができる、④生涯学習プログラムを開発・宣伝することができる、以上の4点をあげる。	
			社会福祉概論Ⅰ	社会福祉概論Ⅰでは社会福祉論という領域の基本を学習する。授業では、まず社会福祉論の基本的視点を紹介し、次に社会福祉の歴史としてイギリスやアメリカを中心に学び、日本については、古代から現在に至るまでの流れを押さえる。そして、女性福祉、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉といった個別の福祉分野について、制度的な歴史や現代的問題について取り上げる。社会福祉論の基本的理解を学習課題とし、社会福祉の諸現象に対して、その社会的要因や背景を探り、その改善や解決につながる働きかけを考察できることを目標とする。	
			社会福祉概論Ⅱ	社会福祉概論Ⅱでは社会福祉の理念や倫理を学び、ソーシャルワークの実際として、社会福祉の実施体制や社会福祉援助技術について理解する。授業後半では、各自がソーシャルワーカーの立場に立って、個別援助技術（ケースワーク）および集団援助技術（グループワーク）の具体的な事例に取り組み、発表と討議を行う。社会福祉援助技術に関する知識や技術を習得し、社会福祉援助活動に活用できる能力と態度を育てることを目標とする。	
		文化と歴史を学ぶ科目	日本の歴史	本講義は、日本の古代から近代に至る各時代の、国家の形成と展開、社会や文化の特色、国際関係に関する基礎的知識を修得することを目的とする。具体的には、各時代の政治、経済、社会、文化、国際環境などの特色について、歴史資料や先行研究に基づいて解説し、日本の文化的特徴について学習する。この学びを通じて、時代の変遷を総合的に把握し、考察する歴史的思考力を修得し、現代社会を生きるために必要な基礎力を学習する。	
			世界の歴史	本講義の目的は、私たちが普段当たり前のものと考えている様々な「権利」と、それらを獲得するために行われた様々な「排除」を結びつけながら学習することで、受講生の思考能力を高めていくことにある。対立する階級、民族、そして国家の中で、人々がどのように権利を獲得したのか。この疑問を考えることにより、受講生自身が持つ「権利」を改めて考える機会を提供していきたい。なお、本講義は主にヨーロッパを中心に世界の歴史を概観していく。	
			戦争と平和の歴史Ⅰ	戦争はなぜ繰り返されるのか？人類にとって戦争は避けられないものなのか？この問いに対する答えを求めて、19世紀末から第二次世界大戦までの国際関係を分析する。欧米の国際関係が中心となるが、19世紀後半に国際社会で頭角を現すようになった日本についても言及する。国際関係史の基礎的知識の習得、さらに社会科学的思考方法を身につけることが目的である。映像資料を多用し、世界史を学ぶ機会が少なかった学生にも理解しやすいよう工夫をしていきたい。	
			戦争と平和の歴史Ⅱ	戦争はなぜ繰り返されるのか？人類にとって戦争は避けられないものなのか？この問いに対する答えを求めて、第二次世界大戦後から冷戦の終結までの国際関係を分析する。アメリカ、ソ連（ロシア）、ヨーロッパはもとより、アジア、オセアニア、南北アメリカ、中東、アフリカと世界を俯瞰し、現在進行形の国際問題に言及しつつ、現代史の基礎的知識の習得、さらに社会科学的思考方法を身につけることが目的である。映像資料を多用し、世界史を学ぶ機会が少なかった学生にも理解しやすいよう工夫をしていきたい。	
			西洋文化史	ヨーロッパ文化の特質とその流れを、ビデオやスライドを多用して概観し、一つの文化の成長から衰退までの経緯を研究する。さらに、日記、手紙、装飾品や日常の必需品などの多岐にわたるモノを通して、ヨーロッパ各地の人々の生活と考え方を知る。本講義では、古代世界（古代ギリシア文化）からヨーロッパ文化の基層を形成した中世、その結実としてのルネサンスまでを扱う。西洋文化の歴史的な展開についての基本的な知識を把握することを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	教養知科目	文化と歴史を学ぶ科目	日本美術史	本講義は、日本の原始から現代に至る日本美術の展開について、各時代別にテーマを設定し、日本美術史上の名品を軸に、日本美術の基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、絵画・彫刻・工芸の美術品を軸に日本美術の歴史について解説する。この学びを通じて、信仰・各種儀式から生み出された美、建築や工芸にみる多様なデザインなど、日本美術の特徴、さらに日本の美意識に大きな影響を与えた海外文化など、広くその特質を考察する。	
			比較文化	この授業では、日本人が、西洋文化・キリスト教文化に初めて接したときの「衝撃と憧憬と葛藤」について、第一次資料を読みながら、考察する。世界の中の日本を、歴史的にも、空間的にも、正確に把握することを目的とする。16世紀後半から17世紀初頭の安土桃山時代におけるポルトガルとスペインの南蛮文化との衝撃的な出会いに始まり、江戸時代のオランダの実用学への憧れと探求、明治期におけるアメリカやヨーロッパの列強との積極的かつ批判的な交流を、具体例をあげて探求する。	
			日本の文化	本講義では、日本文化に多大な影響を与えた仏教文化を中心にみていく。日本で生まれ育った者は誰でも挨拶と言う言葉を知っており、日常生活で実践し無意識に文化として身に付けている。しかし、これが、仏教・禅から派生した言葉であることは、ほとんどの人が知らない。挨拶のような無意識に身に付いている日本人の日常の型やそこに込められた心を理解し、さらに、無意識に行っている行為を意識下に置く事により、自分自身の文化的背景を見直す事が出来るようになることを目標とする。	
			観光地理（日本）	観光地理という観点から日本各地の観光資源や地域の文化・風物、特産物などについて幅広く学ぶことにより、「旅行」に対して専門的に対応できるよう知識を高める。地図と現地の映像などを利用して、バーチャルな旅行を意識しながら観光資源の特徴、位置関係などを学んでいく。「旅行業務取扱管理者」の資格を得る国家試験にも備える。また、講義で取り上げた観光資源の所在都道府県を説明でき、想定される国家試験内容の60%が答えられる知識を得る。	
			観光地理（世界）	グローバル化する社会において、世界各地域の様々な観光資源や歴史・文化・習慣などを学び、国際人としてのしっかりとした幅広い知識を身に付ける。「旅行業務取扱管理者」の資格を得るための国家試験に向けての基礎知識を学ぶ。また、世界遺産検定や地理検定を受検することも可能となるので、講義の対象となった各国の位置と地形、その国の成り立ち等を理解し、特筆すべき観光資産を合わせて説明できるようにする。	
			日本の文学	芥川龍之介の短編小説「鼻」「芋粥」と、太宰治の短編小説「魚服記」「道化の華」を読み、それぞれの作家についての基礎的な知識と、小説の読み方、作品へのアプローチの仕方について講義する。芥川と太宰の小説テクストの分析を通して、単なる感想に留まらない、文学研究の基礎を身につけることを目的とする。本講義を受講することで、小説の構成や語りについて独自の論点を見つけ出し、また小説の読解を通して、自分の考えを論理的に説明できるようになることを目標とする。	
			ヨーロッパの文学	ヨーロッパ文学における個々の作品を取り上げながら、中世から現代に至る外国文学のテーマとその問題性を歴史的に概観する。授業では、中世の文学である『アーサー王の死』『トリスタンとイゾルデ』『カンタベリー物語』、ダンテの『神曲』、シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』、ゲーテの『若きヴェルテルの悩み』『ファウスト』、グリム童話、カフカ『変身』などをとりあげる。ヨーロッパの個々の文学作品を通史的に考察することで、中世から近世、現代に至る西欧の精神・思想の流れを把握していきたい。	
		社会と自然を学ぶ科目	日本の政治	日本の政治を、戦後から今日まで、国会、政党、議員、官僚、政権交代にスポットライトを当てながら探ることが、本講義の目標である。私達の日常生活は、様々な局面で政治と密接に結びついている。政治に対する無関心は、政治家任せの生活を送ることにつながる。未来に希望の持てる日本にする為に、今何をすべきかを受講生と一緒に考えると同時に、学生として知っておくべき時事問題力を養うことも念頭に置いて講義をしたい。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	教養知科目	社会と自然を学ぶ科目	世界の政治	国際社会における諸問題や世界における日本国家のポジションを探るのがこの講義の目標である。国際社会で日本は異質な国家とみなされる場合が多々ある。なぜ日本は世界から「異質」と思われるのか。日本が「異質な国家」と思われる構造を、国際政治における日本政治の特徴や日本国憲法の規定から検証する。また、日本を取り巻く国際社会の今日的な問題も取り上げ、教養を深めていく。	
			政治と市民参加	現代社会における市民は、日本国憲法で保障される参政権（選挙権、被選挙権、レファレンダム）を通じて様々な政治参加が可能となっている。この講義は、選挙権や被選挙権の歴史的変遷、国会や地方議会の仕組み、そしてレファレンダム（国民投票と住民投票）の仕組みを通じて、一般市民による政治参加の可能性と限界について考察することを目的とする。また18歳選挙権の意義と影響についても、諸外国の実情と比較しながら一緒に考えてみたい。	
			日本の経済	この授業は、経済学の基礎知識と日本の経済情勢全般について教授する。それにより、新聞や雑誌の経済記事を読む素養、また経済ニュースが理解できるようになることを最低限の目標とする。授業では、実際の新聞記事や雑誌記事、ニュースを題材に、インフレ、デフレ、GDP、失業率等の基本的経済用語や現在の日本経済、日々の経済の動きを学び、経済全般についての知識を修得する。卒業後、社会人となったときに役に立つ経済学の基礎を身につけさせる。	
			世界の経済	現在の経済活動は、グローバル化の波のなかで、海外との関係を無視して語ることはできない状況になっている。政治も含めた社会のさまざまな問題は、世界経済と連動した動きを見せている。本講義は、経済の基礎理論や基礎知識を身に付けたうえで、世界経済の根源的な仕組みを理解することを目的とする。さらに、現在世界で起きている経済的諸問題の原因を探り、それを解決に導くための考え方を習得していきたい。	
			新聞と報道	新聞を題材に、報道の読み方と意義を理解することが本授業の目的である。具体的には、記事の内容を、政治報道、経済報道、国際報道、社会問題報道、事件･事故報道、生活報道、スポーツ報道、文化報道に分類し、それぞれの文脈の理解の仕方を学ぶことで新聞のリテラシー能力を養う。そこに書いていることをただ受動的に受け取るのではなく、能動的に理解し、批判精神を持って解釈する能力を身につけていきたい。	
			グローバル共生論	経済、社会、文化などのグローバル化にともない、国境を越えた人的交流は近年活発になっている。海外で仕事や生活をする日本人は、過去最高を記録し、今後も増加することが見込まれる。本授業では、私たちの周りの「多文化」化に目を向けながら、異なる文化、言語、宗教などを有する人々とのコミュニケーションの現状と課題を考察し、グローバルな時代の生き方や多文化との共生のあり方をケーススタディやディスカッションを中心に学ぶ。	
			法学	私たちの生活は法によって規律されている。法は社会をよりよく営んでいくための手段であるが、時に私たちの生活を厳しく制限する。この授業では、近代以降の市民社会のあゆみを踏まえ「法とは何か」ということをていねいに伝えていく。身近な裁判例も紹介する。新聞やテレビの社会問題などについて、結論を急がずに考えるためのきっかけを作り、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標としたい。	
			法と社会	この授業は、社会制度の分野を中心に法的素養を修得することで、各種資格取得や卒業後に向けた社会人力の育成を目指す。国民主権と権力分立という基本的な考えを確認した後、立法と行政については各資料を参考に現在の政治を立憲民主主義に照らして分析する。司法については裁判員制度の実践に触れ、市民理性を裁判に反映させることの意義と課題を考察する。日本国の基本法である日本国憲法の役割を理解したうえで、社会問題を考える指標を提供したい。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	教養知科目	社会と自然を学ぶ科目	日本国憲法Ⅰ	日本国憲法とは、日本国のあり方を定めた基本法を意味する。本授業では、第二次世界大戦後に定められた憲法の基本的な仕組みを歴史的に検証する。その上で、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」という3つの柱について、急がずに具体例を踏まえつつ理解を深めていく。日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標としたい。	
			日本国憲法Ⅱ	現在の日本国憲法は、戦前に対する深い反省の下で制定された。一人ひとりの国民を人格の担い手として尊重するために、憲法は国家の政治のあり方を定めている。この授業では、国家統治の仕組みを中心に学び、現在憲法をめぐって議論されている問題点についても触れていく。日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標とする。	
			社会学Ⅰ	社会学の基本的な考え方を理解するために、社会とは何か、相互行為と自己、社会秩序と権力、組織とネットワーク、文化と再生産、といったテーマを取り上げる。理論についての講義が中心となるが、身近な話題と結びつけながら講義を進めていく。到達目標は、社会学の基本的な考え方を理解すると同時に、社会学的な概念、理論の理解を通じて、社会学的な「ものの考え方」を習得すること、そして自分の日常生活の「当たり前なこと」に対して、一歩引いて批判的な視点をもった柔軟な思考ができるようになることとする。	
			社会学Ⅱ	社会学Ⅱでは、社会学の基本的な理論や概念をもとに、より具体的な社会現象の理解ができるよう、家族、教育、労働といった身近なテーマを取り上げ、それらの歴史や現代の問題を学ぶ。授業後半では、小グループに分かれて、発表と討議を行う。到達目標は、社会学の理論や概念の習得を土台として、より具体的な社会現象の理解ができるようになること、家族、教育、労働の領域における歴史や現代の問題についての理解を深め、身のまわりの「社会」に対して、主体的、批判的にとらえる能力を養うこと、以上の2点とする。	
			数学の世界	数学というと敬遠しがちな科目の代表格であるが、実は、数学は哲学とも結び付く、人間の本質と深い関わりをもった学問である。本講義は、まず数学の楽しさ、奥深さについて講義する。その後、社会に出てからも役立つような数学の基礎を講じる。具体的には、式と計算、平方と平方根、一元一次方程式、連立方程式、グラフと関数、図形の面積･体積、合同と相似等について学ぶ。	
			物理の世界	物理の考え方は生活に溶けこみ、日頃意識されることはほとんどない。しかし、物理学は、物質を極限まで突き詰めていくと宇宙創成の問題にまで展開するようなダイナミズムを秘めた学問である。この講義では、目には直接見えない「力」の物理現象について議論を深めたい。加速度、遠心力などの物理学的な理解からはじまり、構造、剛性、耐震についての考え方と、その大きさを計算する手法を平易に講義する。	
			生物と生命	生物及び生命について、古生物学、遺伝学、ＤＮＡ遺伝子学等から得られた知見を基に講義する。地球という惑星に生命はどのようにして誕生したのか、生物は進化しどのようにしてホモ･サピエンスにまでたどり着いたのか、生命の大切さを意識しながら生物進化の過程を跡づけることが本講義の目的である。そして個々の生物の生き残りをかけた戦略と生物の多様性について議論し、人間が生きてゆくことの意義を考えたい。	
			地球と宇宙	古代より太陽・月・星は、人びとを魅了してきた。人類は、夜空に巨大な絵を描いたり、運命を託したり、また宇宙にまつわる物語を創世している。本講義は、さまざまな民族が描いてきた宇宙観を概観することから始まる。そして、宇宙創成であるとされるビックバン以後の宇宙の成り立ちを、星の誕生や終焉を学ぶことで理解する。宇宙を見つめることで、かけがえのない惑星である地球の特質に関して学識を深めていきたい。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	教養知科目	社会と自然を学ぶ科目	物質と化学	高度な科学技術の発展により、現代人は豊かな生活を享受している。中でも「化学」は、最も身近な姿・形で私たちの日常生活に密接に関わっている。たとえば、医薬品や化粧品、香料、食品、携帯電話、パソコンなどは、すべて化学に基づく「物質」で構成されている。本講義では、実生活に役に立つ「化学」の知識を教授することで、より身近な「物質」について学ぶ。	
			情報と科学	本授業は、言語をはじめ、視覚、聴覚など五感から得られた情報を再編しあらたな表現として発信するために必要な、ＩＴ端末やネットワークの仕組み、および、その安全対策について理解することを目的とする。特に、過去から現在に至る情報の歴史、世界史の新たな段階である情報社会という視点を重視したい。このような理解を通して最後は、フェイスブックに代表されるＳＮＳの可能性と限界について情報科学の立場から議論する。	
			色彩と科学	視覚コミュニケーションの基本的要素である色彩の本質を理解し、色彩が心理的、社会的、文化的に果すさまざまな役割について科学的理解を深める。色彩をコミュニケーションツールとして扱う上での基本的理論の習得に加え、視覚的な課題により豊かな色彩表現のための感性を養う。文部科学省後援の色彩士検定を視野に入れて主要項目の解説を行い資格取得を支援していきたい。色を扱う基礎知識として、色の表示、伝達の方法を理解するとともに、課題作成を通して基本的色彩技法を習得することを目指す。	
	実践知科目	実習科目	ボランティア実習Ⅰ	自分にもできることを通じて、様々な人々をサポートし、社会に貢献することにより、新しい自分を発見することを目的とする。ボランティア活動の実施場所は、大学の地元の稲城市および近隣地域の施設などを想定している。①担当教員による個別ガイダンス、②担当教員との事前面談、③危機管理ガイダンスへの参加、④ボランティア活動届の事前提出（学生支援課）、⑤ボランティア活動記録の提出、等が義務づけられる。	共同
			ボランティア実習Ⅱ	自分にもできることを通じて、様々な人々をサポートし、社会に貢献することにより、新しい自分を発見することを目的とする。実施場所は海外を想定している。海外ボランティアでは、海外における活動を通して、履修者が多種多様な文化、習慣の違いを受け入れ、将来、国際社会の中で生き抜く術を学ぶ。夏季休暇中に、学外の団体が行う海外ボランティアに2週間以上参加することが要件である。危機管理ガイダンスや活動記録の提出も義務づけられる。	
			海外英語研修Ⅰ	この授業は研修を通して海外での生活や異文化に触れ、言語ばかりでなく総合的なコミュニケーションスキルの習得を目標にする。通常2週間ホームステイをしながら、大学指定の語学学校に通学し、英語の語学研修を受講する。英語のみで行われる授業を受講することで、日本の授業との違いを実地で学ぶことができる。またホームステイをすることで全く違う習慣や文化をもつ人々の中で必要とするコミュニケーション能力を改めて考えることができる。体験を通して英語学習に対する動機を学生が問い直し、語学習得に引き続き臨めるようにする。英語専任教員が共同して、エージェントとの打ち合わせ、事前説明会、科目申請を行う。	共同
			海外英語研修Ⅱ	この授業は「海外英語研修Ⅰ」を取得済みの学生を対象とする。学生は既に研修等で必要な最低限の総合的なコミュニケーションスキルを習得しているので、それらの力を発展的に向上させることを目的とする。通常2週間ホームステイをしながら、大学指定の語学学校に通学し、英語の語学研修を受講する。「海外英語研修Ⅰ」では、行うことのできなかったアクティビティにも挑戦し、自らの語学力等が「海外英語研修Ⅰ」の履修後に行った学習で向上しているのか、また引き続き不足している能力があるか、再確認を行うことができる。英語専任教員が共同して、エージェントとの打ち合わせ、事前説明会、科目申請を行う。	共同

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	実践知科目	実習科目	国際協力実習	国際協力の関係者は、援助を受ける側の人々、政府関係者、国際協力機構（ＪＩＣＡ）などの援助実施機関職員や専門家など多種多様にわたる。開発の現場は途上国が中心であるため、国際協力実習では、実際に現地を訪ねて、国際協力の本質を効果的に学び、開発の現場の視察と様々な関係者との交流を通じて、国際協力の難しさや意義などを体感することを目的とする。実習参加前には、訪問国について、歴史や社会・経済情勢、日本との関係など基本的知識を習得し、十分な事前準備に基づいて、訪問国の人々と積極的に交流を行う。	
			国際協力実習フォローアップ	国際協力実習フォローアップは、国際協力実習の参加者を対象とし、国際協力の現場視察や援助関係者などとの交流を振り返りながら、気づきの点を参加学生同士でプレゼンテーションし、それをもとに報告の準備を行う。実習の成果として、日本（政府、企業、地域社会、大学あるいは学生個人）が国際開発・国際協力にどのように関与すべきか、自分の意見をまとめた実習報告書を作成するとともに、実習成果の発表内容や発表方法について、学生主体で企画・準備し、報告会を開催する。	
		就業力育成科目	進路設計	経済のグローバル化にともない、これまで日本の経済を支えてきた産業構造や人口構成は、大きく変化し、就業形態や人生観も多様化している。本講義では、女性の「生き方」について「就業観」「生きがい」「子育て」などを通して議論を進める。この作業を通して、卒業後の就業に際して「企業が求める人物像」と「個人の抱く社会人観」「家族観」をつなぐ価値観を再編し、具体的に語ることのできる素養を身につけることをめざす。	
			社会と教養演習A	大学を卒業し、社会人として胸を張って生活するには、大学の専門的な教育以外に「社会人基礎力」と呼ばれるような、生きていくうえで習得すべき知識・知見が求められる。本講義では、自分自身のイメージを描くことから始め、そのうえで、社会人として必要とされる最低限のコミュニケーション能力を身に付ける。そしてそれを実践可能とするための自己啓発、及びコミュニケーションスキルの訓練を行ってみたい。	
			社会と教養演習B	社会にはその集団が守るべき価値と規範があり、社会人あるいは企業人として個人が守るべきルールーやマナーがある。しかしそこでは個々人の個性を生かした対応も求めらる。本講義では身体技法を含めた基本的ビジネスマナーの習得と個性の発見を目指したい。具体的には、個性を重視しながらも、駒沢女子大学生としてふさわしい、建学の精神を踏まえた行動規範を学ぶことになる。	
			社会と教養演習C	本授業は、「社会と教養演習A」を踏まえ、社会に出るために必要とされる「社会人基礎力」をさらに養っていくことを目的とする。社会人として自立するためには、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」が必要といわれる。毎回の授業では、これらの力を磨いていくための、実践的訓練を行う。特に、チームワーク作業における、想像力、発信力、傾聴力、柔軟性、規律性を涵養することに力を注いでいきたい。	
			社会と教養演習D	本授業は、「社会と教養演習B」を踏まえ、社会人としての規範、とりわけ、道元禅師の禅を建学の精神とする本学ならではの身体技法とは何かを深く学んでいきたい。具体的には、社会での様々な現場でそれがどのように活かされるのかを教授したあと、想定シミュレーションや、学生の自主性を尊重したグループ学習、体験学習を行う。それにより、社会に出てはずかしくないだけの素養を身に付けてもらうことにする。	
			キャリアリテラシー	就職活動生を取り巻く環境が変化する中、本授業では、就職活動への不安を緩和し、前向きな気持ちで行動していくことを目指し、就職活動での自分の「軸」を見出すプロセスを学ぶ。具体的には「自己分析」と「業界・仕事研究」の“すり合わせ”に取り組む。そのために個人やチームで調べ、考え、話し合うなど、集団討論形式で授業を進め、同時に、社会に出てから役立つ意識やスキルも習得していく。自分自身の可能性を広げ、納得のできる就職活動にチャレンジしていくことを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	実践知科目	就業力育成科目	就業への知識と技能A	はじめに業種分類の基本を学ぶ。その上で、金融・リース・航空・ホテル・モバイル等の業界について、その成り立ちや特色を考える。様々な業種について実業界で豊富な経験を積んだ教員が様々なエピソードを交えながら、業種や会社を研究するための基礎知識を教授する。業界・業種の社会的な使命とその実態を知ることにより、社会の動向に関心を深めながら自分に適した業種を客観的に考えられるようにする。	
			就業への知識と技能B	様々な業種における業務の基本を学ぶ。その上で、損害保険・出版・不動産などの業界や、公務員・教育職における様々な業務内容や相互関係を考える。様々な業種について実業界で豊富な経験を積んだ教員が様々なエピソードを交えながら、業務を選択するための基礎知識を提供する。組織における様々な業務の役割とその実態を知ることにより、社会の動向に関心を深めながら自分に適した業務を客観的に考えられるようにする。	
		健康体育科目	女性と健康Ⅰ	人間は成長と共に体型や生理機能に様々な変化が起こるが、各年代によって発症し易い病の種類も異なる。本講義は、女性の体の基本的な生理機能とその健康管理を取り上げる。特に、二十歳になるまでに知っておいて欲しい女性の健康と病気について、具体例を交えながら話題を提供し、少女から大人の女性に成長する過程の健康問題について論じていく。本講義を通して人間の本質を理解し、正しい医学知識を身に着け、健康管理に関して自分で考える能力を養いたい。	
			女性と健康Ⅱ	人間は成長と共に体型や生理機能に様々な変化が起こるが、各年代によって発症し易い病の種類も異なる。本講義は、二十歳以降の女性の健康と病気について、結婚、妊娠、出産、育児に関係することなどを含めて論じていく。本講義を通して人間の本質を理解し、正しい医学知識を身に着け、健康管理に関して自分で考える能力を養いたい。日常生活の中で、自分のみならず家族や友人などの周りの人達の健康管理にも気を配り、病気の早期発見や正しい予防法に役立てることのできる内容とする。	
			スポーツⅠ	健康・体力づくりは、国民全体の大きな課題となっている。この科目は、継続できる身体運動（テニスとリラックスヨガ）を選択しながら、健康志向への動機付けを図り、実践に関する知識や技術を得ると共に、その方法を自分自身に当てはめ、応用展開する能力を体験することを目標とする。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。	
			スポーツⅡ	健康・体力づくりは、国民全体の大きな課題となっている。この科目は、継続できる身体運動（バドミントンとゆがみ修正体操）を選択しながら、健康志向への動機付けを図り、実践に関する知識や技術を得ると共に、その方法を自分自身に当てはめ、応用展開する能力を体験することを目標とする。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。	
	技法知科目	日本語育成科目	言語表現演習Ⅰ	大学生として、また社会人として必要な日本語の運用能力を養うことを目的とする。具体的には、日本の社会におけるコミュニケーションに大きな影響を与える「敬語」の体系、および、会話における誤用を防ぐために欠かせない日本語文法についての基礎知識を学ぶ。また、様々な文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、大学生にふさわしい文章を書ける力を養うことを目標とする。	
			言語表現演習Ⅱ	言語表現演習Ⅰを受け、日本語の正しい語法に習熟し、日本語の運用能力を高めることを目的とする。具体的には、自らの言語生活を振り返りつつ多くの語彙に触れて、さまざまな表現を生み出す力を身につけ、正確な表記で各種の文章を作成できる能力を身につける。また、文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、社会人にふさわしいコミュニケーション力を身につけることを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	英語AⅠ	高校までの英語学習を基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。日常生活において、数字や品物の値段の確認、日付、曜日等の、必要であると同時に重要な情報を正確に聞き取ったり、伝えたりできるようにする。簡単な単語やフレーズを使って、自分の気持ちや意見を相手に伝えられるかを意識させながら、会話や英作文での表現の幅を広げる。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
			英語AⅡ	英語AⅠを基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。自分の身の回りのトピックについて、場所や時間といった具体的な情報を聞き取ったり、自分の趣味や興味のあることなどを伝えたりできるようにする。簡単な単語やフレーズを使って、自分の気持ちや意見を相手に伝えることを意識させ、会話や英作文での表現の幅を広げていく。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
			英語AⅢ	英語AⅠ・Ⅱを基に、発展的な英語力の向上を目標とする。自分自身や自分の家族・学校・地域など、身の回りの事柄に関連した表現を理解し、伝えることができるようにする。基本的な単語やフレーズを用い、買い物や外食など、日常生活の場面での指示や説明ができるようにする。英語で表現することを意識させ、よく使われる構文を用い、自分の伝えたいことを書く練習をさせ、表現の幅を広げられるようにする。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
			英語AⅣ	英語AⅢを基に、発展的な英語力の向上を目標とする。公共の場で発信される短い簡潔なアナウンスを理解し、自分でその内容を言えるようにする。個人的予定や大学生活などの明確で具体的な事実について、要点を理解し、英語で表現できるようにする。スポーツ・料理など連続した動作の一連の手順を英語で表現できるようにする。英語で表現することを意識させ、よく使われる構文を用い、自分の伝えたいことを書く練習をさせ、表現の幅を広げられるようにする。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。	
			英語BⅠ	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「語彙・語法」について学ぶ。	
			英語BⅡ	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「文法」について学ぶ。	
			英語BⅢ	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「聴解力」の向上を図る。	
			英語BⅣ	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「読解力」の向上を図る。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	英会話Ⅰ	（英文）This course will focus primarily on improving students' speaking and listening skills, with some reading and writing, as well. Natural and current forms of conversation will be covered with an emphasis on improving students' pronunciation, intonation and fluency. Real world topics will be provided and students will be given language structures that will help them in a variety of real life situations. Through a combination of pair and group work, students will be given multiple activities to help them become confident in using the target conversational structures. （和訳）主にスピーキング力とリスニング力の向上を目指す授業である。 本講義では発音・抑揚の改善と流暢さに重点を置いて指導を行う。実際にメディアで取り上げられた英文を材料として使用することで、より現実に近い場面での学習ができるように工夫する。できるだけペアワークやグループワークを取り入れ、学生たちが積極的に学習できるような機会を提供する。	
			英会話Ⅱ	（英文）This course will continue where English Conversation Ⅰ left off and continue to strengthen students' communication skills in English. Students will learn confirmation and clarification conversation strategies. Specific attention will be given to developing active knowledge of colloquial English and the ability to interact on a variety of popular and current conversational topics. Real world media will be used as a springboard for meaningful exchange. Interactive structures relative to communicating in modern English will be provided and students will be given opportunities to practice their learning with each other through a variety of communicative tasks. （和訳）「英会話Ⅰ」の学習を踏まえ、英語によるコミュニケーションスキルを強化することを目指す。学生は「確認」や「明確化」という会話の仕方を学ぶ。本講義では口語表現の学習と様々なトピックについて前向きに考えることに重点を置いて指導を行う。実際にメディアで取り上げられた英文を材料として使用することで、より現実に近い場面での学習ができるように工夫する。学生たちが相互に関わり合いながら積極的に学習できるような機会を提供する。	
			英会話Ⅲ	（英文）This course will build on the content of English Conversation Ⅰ and Ⅱ, providing students with training in a deeper level of natural English communication. There will be particular emphasis on sustaining conversations over longer periods of time. To help with this goal, students will be exposed to various methods of turn taking and conversation strategies that pertain to forming follow up questions and how pause in mid conversation. Students will work on attaining natural English rhythm in their speaking, with the goal of improving their overall fluency. Additionally specific pronunciation practices that relate to the various methods and strategies will be provided on a regular basis. （和訳）「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」の学習を踏まえ、主に英語による自然なコミュニケーションができるようになることを目指す。そのため、補足質問を作ることや「会話の調整」（会話を途切らすという会話の技法）を学生に紹介する。本講義では会話を長く続けることに重点を置き、会話の進め方や会話技法を指導する。英語の発音や自然なリズム、流暢さについても適宜指導する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	英会話Ⅳ	（英文）This final course in English conversation will synthesize the practices thus far learned with the goal of making students confident and natural in their English communication styles. Students will work on sustaining fluent, extended conversations about pertinent current events and issues. The differences in casual and more formal types of conversation will be studied. Pragmatics relative to American and British culture will also be examined, with particular emphasis placed on hedging and expressing disagreements. Students will become sensitive to cultural differences amongst native English speakers and how interact appropriately in different international situations. （和訳）「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」「英会話Ⅲ」の学習を踏まえ、自信を持って自然な英語を使えるようになることを目指す。本講義では時事問題を話題にして、より長く英語で話せるようになることに主眼を置く。また、「カジュアル」な会話と「フォーマル」な会話の相違について学習する。英米の文化について考え、自身の考えを主張できるような力をつけさせる。	
			Receptive English Ⅰ	（英文）This is a specialist English course designed to support students in improving their ability to understand English through listening and reading. Key methods used include paraphrasing and summarizing of key content, story-retelling and listening/reading without translation using accessible materials such as graded readers. Students will learn to use existing knowledge to predict the meaning of unknown vocabulary, while developing topic based English ability. By the end of the course, students will have an enhanced ability to understand basic spoken English without listening repeatedly and to read and understand basic written English. （和訳）主に基本的な英語運用能力を習得させることを目的とし、特に「聞く・読む」という英語を理解する能力の育成を目指す。指導方法としては、重要な文の言い換えや要約、内容を理解して第三者に伝えること、または難易度別英語読本等の学習者用英文資料を訳さずに読む・聞くことを含む。トピックに関する英語知識を増やしながら、学生が未知の語の意味を推測する際、既存知識を活用することを学ぶ。本講義終了時には、基本的な英文であれば一度で聞き取り、一回読んだだけで理解できるだけの力が身に付くようになることを目指す。	
			Receptive English Ⅱ	（英文）This is a specialist English course which builds on skills developed in Receptive English Ⅰ designed to support students in improving their ability to understand English through listening and reading. Key additional methods in this course include listening and reading at a near-native speed, listening/reading note-taking skills, using confirmation checks and clarification requests as a means to increase understanding and identifying elements of spoken and written style as a means to understand the intentions of a speaker or writer. By the end of the course, students will have an enhanced ability to understand more complex spoken English without listening repeatedly and to read and understand more complex written English. （和訳）「Receptive English 1」の学習を踏まえ、主に基本的な英語運用能力を向上させることを目的とし、特に「聞く・読む」という英語を理解する能力の育成を目指す。授業の方法としては、メモを取りながら自然な速度のものを聞く・読む、「確認」や「明確化」を活用し理解度を高める、（脱落、連結、同化など音変化などの）口述・記述のスタイル要素を認識し書き手・話し手の意図を理解することを含む。内容のある英文を一度で聞き取り、一回読んだだけで理解できるだけの力が身に付くようになることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	Productive English Ⅰ	（英文）This is a specialist English course designed to support students in acquiring a functional command of English. Improving students' ability to produce English output through speaking and writing is a particular aim of this class. Key methods introduced in this course include speed training for writing and speaking, conversational topic shift and turn-taking strategies in both spoken and written communication and strategies such as confirmation and clarification for continuing conversations when language difficulties are encountered. In addition to creative writing corrected in detail by the instructor, students will learn about typical English sentence formations and learn to use various different sentence styles. By the end of the course, students will have an enhanced ability to use basic spoken English without extended guidance and be confident in writing basic English sentences. （和訳）主に基本的な英語運用能力を習得させることを目的とし、特に「書く・話す」という英語を発信する能力の育成を目指す。本コースで採用される方法は話す・書くの速度練習、「話題転換」「確認」や「明確化」などの困った時も話を続ける会話技法を紹介する。教員によって精密に添削される自由英作文とともに、典型的英語文の組立てを学び、様々な文章が書けるようになる。	
			Productive English Ⅱ	（英文）This is a specialist English course building on skills developed in Productive English Ⅰ, designed to support students in acquiring a functional command of spoken and written English. Students will gain experience in various types of spoken English (such as speech making, presentation, conversation, interview, debate) and written English (such as letter, diary, report, paragraph writing, process writing journalism and online writing). Choosing their subject matter, students will work on descriptive and explanatory phrasing for effective communication in producing a range of spoken and written output while focusing on fluency and accuracy. By the end of the course, students will have an enhanced ability to use more complex spoken English without extended guidance and be confident in producing more complex English compositions. （和訳）「Productive English Ⅰ」の学習を踏まえ、基本的な英語運用能力を向上させることを目的とし、特に「書く・話す」という英語を発信する能力の育成を目指す。学生は演説、発表、会話、インタービュー、議論等の口頭英語と手紙や日記を書くこと、パラグラフライティングやプロセスライティング等の英作文の経験を積む。主題を決め、説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように、様々な発信的アウトプットを作る際に流暢さと正確さを意識して話したり書いたりすることを学ぶ。本講義終了時には、独力で内容のある英文を書き、あまり時間をかけずに内容のある英語で話すことができるだけの力が身に付くようになることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	English Summer Seminar	（英文）The English Summer Seminar is an intensive three-day course and will provide students many opportunities to become users of English outside of the classroom. The course is student-centered, interactive, and reflective and will have an English-only policy. Students will take an active part in communicative activities, discussions, games, and students will also teach something practical in English to a small group of peers. Everyone will leave feeling more confident in her ability to communicate in English in addition, make new friendships with all participants. （和訳）英語夏期セミナーは、3日間の集中コースで、学生に教室外で英語を使う多くの機会を提供する。このコースは学習者中心で、相互学習型、思考型であり、英語しか使わないことが原則である。学生は、会話活動、ディスカッション、ゲームに積極的に参加し、小グループやペアになって互いに教え合う機会を持つ。参加者は、英語でのコミュニケーションに自信を持つとともに、参加者同志で新しい友人関係を築いて本プログラムを終了することを目指す。学生は英語母語者間の文化的相違に敏感になり、様々な国際的場面で適切に交流できるようになる。 2名の英語教員が協働でグループをマネージメントをし、タスクやアクティビティを与え、休暇中に学生とグループで会話をする。	共同
			フランス語Ⅰ	フランス語の読み・書き・会話の基礎力を育成することがテーマである。まず表記と発音の関係を理解し、特徴的な音が発音できるように練習を重ねる。文法では、名詞の性と数、不定冠詞・定冠詞・部分冠詞の使い分けを理解し、形容詞の性数一致ができるようにする。動詞ではavoirとêtre、および第一群規則動詞の活用と用法を学ぶ。授業ではコミュニケーションを目的として意識し、CDによる練習やロールプレイを取り入れながら、簡単な挨拶や自己紹介ができるまでになる。	
			フランス語Ⅱ	第二群規則動詞finir、日常生活で頻繁に使われる不規則動詞aller、venir、partir、voirなどの活用に見られる共通のパターンを理解して、テンポよく活用ができるようにする。さらに、疑問代名詞・疑問副詞のある疑問文を学ぶことで、対話者どうしのさまざまな状況について情報交換ができるように、CDやロールプレイによる練習を継続する。また、比較級・最上級の表現をマスターし、総合的な言語運用能力の向上を目指す。フランス語検定5級の受験を奨励する。	
			フランス語Ⅲ	フランス語を1年間学習してきた学生を対象とする。まず、非人称構文や強調構文など、一定のパターンによる表現を身につける。直接目的語・間接目的語の仕組みを理解し、代名詞に置き換えられるようにする。さらに、直説法複合過去の仕組みと意味を理解し、英語の現在完了形と比較しながら、フランス語の時間に関する感覚を身につける。4つの基本的な関係代名詞の用法を学習し、複文を使うことにより、より複雑な説明ができるようにする。	
			フランス語Ⅳ	単純未来形の活用と用法を学ぶことで、表現の幅をさらに拡大する。また、フランス語独特のしくみである代名動詞の用法を学び、フランス語らしい表現に磨きをかける。さらに複合過去と対比しながら半過去の活用と用法を学び、会話で用いられる一般的な過去の表現ができるようにする。フランス語検定4級の受験を奨励する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	ドイツ語Ⅰ	Ⅰ～Ⅳの学習で初級文法を基礎としたドイツ語の基本的語学力（聴く・話す・読む・書く）の習得を目指す。このドイツ語Ⅰでは、アルファベットの読み方から始め、ドイツ語の単語の発音（つづり・アクセント・母音の長短）に親しみ、動詞の現在人称変化、名詞と冠詞の格変化、基本的文型を学ぶ。簡単な日常会話を材料にしながら聴き取り・書き取り、また話す練習を行う。随時実施される小テストによって各人が習得の確認を行う。（ドイツ語検定試験5級に対応）	
			ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅰを習得した者を対象とする。初級文法を基礎としたドイツ語の基本的語学力（聴く・話す・読む・書く）の習得を目指す。このドイツ語Ⅱでは、名詞の複数形、冠詞類、前置詞、人称代名詞と再帰代名詞、話法の助動詞と未来形、分離動詞などの新たな文法事項を追加しながら、平易な会話文の学習を進める。聴き取り・書き取り、また話す練習を行う。随時実施される小テストによって各人が習得の確認を行う。（ドイツ語検定試験4級に対応）	
			ドイツ語Ⅲ	ドイツ語Ⅱを習得した者を対象とする。初級文法を基礎としたドイツ語の基本的語学力（聴く・話す・読む・書く）の習得を目指す。このドイツ語Ⅲでは、動詞の三基本形、過去形、現在完了形、接続詞と副文、形容詞の格変化、比較（形容詞と副詞）について学習する。動詞の時制と文の構造について特に多くの例文に触れ、ドイツ語固有の文構造に習熟することを目指す。聴き取り・書き取り、また話す練習を行う。随時実施される小テストによって各人が習得の確認を行う。（ドイツ語検定試験3級に対応）	
			ドイツ語Ⅳ	ドイツ語Ⅲを習得した者を対象とする。初級文法を基礎としたドイツ語の基本的語学力（聴く・話す・読む・書く）の習得を目指す。このドイツ語Ⅳでは、zu不定詞句、受動態、関係代名詞、接続法を学習する。聴き取り・書き取り、話す練習と並んで平易な日常的ドイツ文を読解する力を養う。随時実施される小テストによって各人が習得の確認を行う。（ドイツ語検定試験3級に対応）	
			スペイン語Ⅰ	スペイン語の読み・書き・会話の基本的な力をバランス良くつけることをテーマとする。今期はまずスペイン語の音、リズム、イントネーションを耳で聴き、声に出して発音することに慣れてゆく。次に男性名詞・女性名詞、冠詞、形容詞、動詞serとestar、3種類の規則動詞の基本的な用法などを理解し、身につける。場面に応じた会話をペアで練習し、関連語句を覚えて応用力を養う。教科書を録音したCDを用いて、聴き取り練習をする。各課が終わるごとに小テストを行うことで学んだことを定着させてゆく。	
			スペイン語Ⅱ	スペイン語Ⅰを修得済みの学生を対象とし、読み・書き・会話の基本的な力をさらにつけることをテーマとする。今期は不規則動詞の直説法現在を中心に、目的語の代名詞、比較級・最上級などを理解し、身につける。不規則動詞は種類別に学習する。スペイン語Ⅰ同様、場面に応じた会話をペアで練習し、関連語句を覚えて応用力を養う。CDを用いた聴き取り練習、小テストも継続して行う。スペイン語検定6級の受験を奨励する。	
			スペイン語Ⅲ	スペイン語Ⅱを修得済みの学生を対象とし、読み・書き・会話の基本的な力をさらにつけることをテーマとする。動詞は再帰動詞、2人称の肯定命令、点過去の規則動詞・不規則動詞を中心に学習する。点過去の活用形は現在形の規則性があてはまらない部分があり、さらに不規則動詞も多いので時間をかけて学習する。スペイン語Ⅱ同様、テーマに応じた会話をペアで練習し、関連語句を覚えて応用力を養う。CDを用いた聴き取り練習、小テストも継続して行う。	
			スペイン語Ⅳ	スペイン語Ⅲを修得済みの学生を対象とし、読み・書き・会話の基本的な力をさらにつけることをテーマとする。今期は動詞の線過去、現在完了、接続法現在とそれを用いる命令を中心に学習する。また接続詞・関係代名詞を使った複文の作り方などを理解し、練習を繰り返す。スペイン語Ⅲ同様、テーマに応じた会話をペアで練習し、関連語句を覚えて応用力を養う。簡単な昔話を読み、メールを書く練習もする。CDを用いた聴き取り練習、小テストも継続して行う。スペイン語検定5級の受験を奨励する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	中国語Ⅰ	中国語の「読む・書く・聞く・話す」の基本的な力を身に着けることを目指す。まず、中国語のピンイン表記法を学び、中国語の声調、母音、子音を正しく聞き取り、かつ正しく発音できるようにし、続いて挨拶表現の練習を通じて中国語の発音に慣れていく。その後、日付、曜日、時間、年の表現や数量表現を学び、動詞述語文、形容詞述語文、名詞述語文、諾否疑問文などの文法事項を学習し、中国語で簡単な意思疎通ができるようにする。	
			中国語Ⅱ	中国語Ⅰで身につけた「読む・書く・聞く・話す」の基本的な力を高めていくことを目指す。中国語における完了・経験・未来および変化を表す用法を助詞と共に学び、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文を学習し、会話練習を通じて定着させていく。また少しまとまった文章を読み、動詞や形容詞、名詞の語彙を増やし、会話の内容を深めバリエーションを広げていく。同時に身に着けた単文の基本文型を組み合わせることで、ややまとまった文章を綴ることができるようにする。	
			中国語Ⅲ	中国語Ⅰ・Ⅱで習得した中国語の基礎の上に、実践的な「読む・書く・聞く・話す」の力をつけ、コミュニケーションの手段として使える中国語へのレベルアップを目標に、様々な場面に合わせた表現を学ぶ。願望や依頼、感謝や謝罪などの表現や関連語句を覚え、実際の会話練習を通じて定着させていく。豊かな言語表現のために呼応文型やさまざまな補語の用法も学び、やや難易度の高い文章を正確に読み取り、聞き取る練習も並行して行う。	
			中国語Ⅳ	中国語検定受験を視野に入れ、より実践的な中国語力を養うことを目指す。日中を取り巻く社会への関心と理解を深めるために、教科書や音声教材のほかに教材として新聞やインターネット上の記事、映像資料なども使用する。また情報を収集するためネット上で使用される中国語、電子メールでのやりとりで使用される中国語表現なども学び、授業を離れても、身近な事柄について口頭および書面で表現することができる力をバランスよく身につけていく。	
		情報力育成科目	コンピュータ演習Ⅰ	本授業は、高度情報社会における情報収集やその処理の基礎を学ぶことを目的とする。具体的には、諸々の検定を指標としたレベル設定（ビジネスの現場において基礎的な文書処理ができる程度）を行い、情報通信技術（ICT）を使いこなすための知識と実技演習を中心に授業を進めていく。本授業では、文書作成、レイアウト作成、作表、作図、表計算などの技能を必要とする基本的なビジネス文書作成を繰返して実践的な演習を行う。	
			コンピュータ演習Ⅱ	本授業の目標は、「コンピュータ演習Ⅰ」で身に付けたスキル（ビジネスの現場において基礎的な文書処理が行える程度）を確認しつつ、さらに発展させることにある。具体的には、「Microsoft Office Specialist」に沿ってビジネスの現場で応用できる基本的な情報処理能力を身につけることを目標に、さらに実践的な演習を行う。併せて、プレゼンテーション技術として情報発信能力を高める表現力を身につける。	
			コンピュータ演習Ⅲ	スマートフォンに代表される情報端末の進化はすさまじく、それに伴い私たちの扱う情報も飛躍的に広がってきた。とりわけ、情報を発信・共有する機会が多くなり、情報を処理することから、情報を選り分け、メディアを選択し、魅力的に表現することまで求められるようになってきた。本授業では、インターネットを中心とした多彩なメディアを活用したウェブ表現を中心に、情報を利活用するための表現力を身につける。	
			コンピュータ演習Ⅳ	本授業の目標は、「コンピュータ演習Ⅲ」で身につけたウェブ表現を確認しつつ、さらに発展させることにある。具体的には、ウェブ表現で必須となっている写真表現や映像表現、アニメーション等高度な表現力を身につけることを目標に、デジタル１眼レフカメラ等の機材を使い、より実践的な実習を行う。併せて、MOSエキスパートやVBAなどシステムエンジニアの基本レベルの習得も視野に入れる。	

授　業　科　目　の　概　要 （人間総合学群 住空間デザイン学類）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	特設科目（留学生）	日本語AⅠ	本授業は、大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を修得することを目的とする。特に講義を聞くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。具体的には、助詞や副詞、接続詞や敬語等について学び、聞きやすくわかりやすい発音で話せるようになること、人前で話すことに慣れること、そして論理的な表現ができるようにする。	留学生対象
		日本語BⅠ	本授業は、「書く」ための日本語能力を修得することを目的とする。具体的には、身近な題材について文章を書くことによって、文を書くことに慣れるとともに、文法的に正しい文を書けるようにする。授業は、助詞や語句の使い方などの練習、文章作成を基本として進める。提出した課題について指摘された問題点を把握するとともに、文法的課題を含んだ練習を通して、日本語の基本的な格助詞を間違いなく使える能力を身につけるとともに、文章を書く課題を通して、間違いの少ない日本語文を書く能力を身につける。	留学生対象
		日本語AⅡ	本授業は、大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を修得することを目的とする。特に講義を聞くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験N1レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。具体的には、様々な文型を使ったり、慣用表現を使ったりしながら、文を作る練習をする。聞きやすくわかりやすい発音で話せるようになること、人前で話すことに慣れること、そして論理的な表現ができるようにする。	留学生対象
		日本語BⅡ	本授業は、「書く」ための日本語能力を修得することを目的とする。具体的には、新聞記事を読み、社会的な題材について文章を書くことによって日本語能力を深めていく。授業は、文法の練習、文章の要約やレポートの書き方などの文章作成を基本として進める。提出した課題について指摘された問題点を自ら学習するとともに、童話のあらすじをまとめたり、小論文を作成したりする課題を通して、長い文章を正しい表現で書く能力を身につける。	留学生対象
		日本語AⅢ	本授業は、大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を修得することを目的とする。特に日本人学生の中でも臆せず自己表現できるよう、聴解力と口頭表現能力を伸ばすことに重点を置く。具体的には、日本の観光地や日本人の生活習慣などについて調査し、発表することを通して、語彙を増やし、話の内容に即した表現ができるようにするとともに、時事ニュースに親しみ、視野を広げ、様々な問題について日本語で討論できるようにする。	留学生対象
		日本語BⅢ	本授業は、「書く」ための日本語能力を修得することを目的とする。具体的には、格助詞の使い方や語句の使い方を修得するために、テキスト読解および確認テストに取り組んだり、与えられたテーマについて、要約や感想、レポートを書いたりする。テキストおよび関連課題をこなすことによって、文法や語彙に関して、高度な日本語能力を身につける。特に、受け身や使役といった態の変化による格助詞の使い方や、組み合わせて用いる慣用表現などに慣れるようにする。	留学生対象
		日本語AⅣ	本授業は、大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を修得することを目的とする。パネルディスカッション、グラフを使った意思表明のスピーチ、ディベート等を通して日本語能力をさらに伸ばす。日本の少子化問題や、高齢化社会など時事問題について資料を読み、原稿を作成してスピーチし、レポートにまとめることによって、語彙を増やし、話の内容に即した表現ができるようにするとともに、時事ニュースに親しみ、視野を広げ、様々な問題について日本語で討論できるようにする。	留学生対象
		日本語BⅣ	本授業は、「書く」ための日本語能力を修得することを目的とする。具体的には、新聞記事を読み、語句を調べることで、語彙量を増やすとともに、さまざまな文法の問題に取り組む。また、引用の仕方や段落について学んだうえで、論文を作成する。自らテーマを決めて調査し、報告する、あるいは自らの論を展開するという論文作成を通じて、さらに日本語能力を高めることを目指す。小論文を書くために必要な文章記述能力を高め、長い文章を書く能力を身につける。	留学生対象

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　教養教育科目	特設科目（留学生）	日本事情Ⅰ	本授業は、日本での一般的な生活の実態について学ぶことで、日本に関する基礎的な知識を修得することを目的とする。具体的には、「どこかに行くこと」「食べる」ことなどを出発点として、日本の地理、交通、施設、食事情など、日本で生活するために必要な情報について概説する。パソコン上のウェブ情報などを活用し、実際に都内の公園や美術館や飲食店を紹介させることで、日本に関する情報を習得していく。	留学生対象
		日本事情Ⅱ	本授業は、日本の文化的な側面を学ぶことで、日本に関する基礎的な知識を修得することを目的とする。具体的には、年中行事、芸能、伝統工芸をはじめとする日本の文化的な側面や観光名所等、日本の文化の伝統的な側面について概説する。パソコン上のウェブ情報などを活用し、実際に日本の年中行事や祭りや歌舞伎、能、落語といった伝統芸能や観光名所などについて調べ、紹介させることで、日本に関する情報を習得し、理解を深める。	留学生対象
		日本事情Ⅲ	本授業は、日本や世界の時事問題について学び、幅広い話題に対応できる日本語力を修得することを目的とする。具体的には、グラフや統計資料をもとに、日本の国土、気候、政治、経済、社会等について学んだうえで、関連するニュースやテレビ番組の映像なども視聴する。また、日本のゴミ問題やリサイクル、交通インフラ、物価、エネルギー問題等、身近な問題について理解したうえで、具体的な意見を述べる力を身につける。	留学生対象
		日本事情Ⅳ	本授業は、日本や世界の時事問題について学び、幅広い話題に対応できる日本語力を修得することを目的とする。具体的には、グラフや統計資料をもとに、日本の農林水産業、工業、商業、貿易や国際協力などについて学び、関連するニュースやテレビ番組の映像なども視聴する。また、ゴミ問題やリサイクル、交通インフラ、物価、エネルギー問題等、身近な問題について、自国と比較することにより理解をふかめ、具体的な意見を述べる力を身につける。	留学生対象
人間総合学群　住空間デザイン学類　専門教育科目	基本科目	住空間デザインの基礎Ⅰ	「大学と地域との関わり、大学生活をより豊かに」をテーマに、主体的な学習の方法を体得する。地域協力の一環として、ポスターのデザインに取り組み、多彩な表現力を習得する。また、りんどう祭の展示空間提案などの共同作業をとおして、デザインの基礎を実践しながら、共同作業を潤滑に行う力を養う。自分の考えを表現すること、伝達すること、批評することなどについて、課題をとおして学びながら、自己の能力を発見し、より高める。	
		住空間デザインの基礎Ⅱ	「大学と地域との関わり、大学生活をより豊かに」をテーマに、主体的な学習の方法を体得する。地域協力の一環として、ポスターのデザインに取り組み、多彩な表現力を習得する。また、学科PRなどの共同作業をとおして、デザインの基礎を実践しながら、共同作業を潤滑に行う力を養う。自分の考えを表現すること、伝達すること、批評することなどについて、課題をとおして学びながら、自己の能力を発見し、より高める。パワーポイント、WEB、紙媒体などのプレゼンテーションにおける基礎的な技術を身につける。	
		平面と立体表現の基礎	基本的な立体の構成を通して三次元としての建築空間について理解し、三次元による表現技法の基礎を学ぶ。連続する建築空間の構成を考えることにより、三次元で空間を認識する習慣を身につける。それと同時に、三次元としての建築空間を二次元で表現する技法を学ぶ。課題を通じて空間構成や三次元的空間認識力を高め、空間を三次元で思考する力と空間を多様な手法で表現する力を養う。また、材料や道具の基本的な使用方法を習得する。	共同
		製図の基礎	図面による建築空間の理解と図面表現の基礎的技術を学ぶことを目的とする。企画・計画・設計・施工の一連の設計活動において、図面は最も重要な表現手段の１つであり、伝達手段である。建築図面の読み方を学び、図面から空間を正確に把握できるようにする。また、建築図面のトレース作業を通して、正確な図面表現技術の基礎を習得する。図面が示す空間を正しく理解すると同時に、図面の種類に応じて空間を正確に図面化する手法を身につける。	共同

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　住空間デザイン学類　専門教育科目	基本科目	図学と透視画の基礎	空間や立体を正しく図面に表現する方法を、図法幾何学に沿って学ぶ。特に、建築・インテリア・造形に必要な透視図法（パース図法）による内観・外観の空間表現を中心に進める。また、デザインの検証やプレゼンテーションに使用する、パース図の着色表現技術を習得する。図面が示す空間や立体を正しく理解し、空間や立体を正確に図面化する手法を身につける。さらに、空間や立体に相応しい表現方法を選択し、表現することができる技術を身につける。	共同
		建築･インテリアデザイン入門	建築・インテリアデザイン計画の基礎的なプロセスと考え方について学ぶ。日本の近代・現代における住宅作品を題材にして、住宅の建築計画の手法を習得する。また、身近な空間のスケール感を身につけ、インテリアの計画手法についても習得する。図面の読み方や寸法計画、動線計画、環境計画、内装計画など、空間をデザインする際のプロセスの基礎についての理解を深めることにより、建築やインテリアデザインを多面的な視点から捉える力を養う。	共同
		プロダクトデザイン入門	（概要）「くらしの環境」をトータルに考えるために、身近なリビングプロダクトにおける3種類の自然素材を使い、デザインの基本を学ぶことを目標とする。3グループに分け、それぞれ3種類の内容を学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （ 4　磯谷慶子／5回） 陶芸デザインについて講義を行う。素材である土を触りながら手びねりや玉づくり、そして絵付けや窯詰めまで経験する。 （116　南雲理枝／5回） 立体織デザインについて講義を行う。織の基本的な要素である素材(繊維）・色・組織について学び、織造形の入口とする。 （ 3　榎本文夫／5回） 家具デザインについて講義を行う。木材を使いながらイスの基本となる立体的な構造を考える。	オムニバス方式
		設計製図Ⅰ	小店舗を併用した住宅の計画及び設計を行うことにより、建築設計の基礎を習得する。また、小店舗部分についてはインテリアの計画を行い、詳細な素材や造作についての知識や計画手法を身につける。敷地分析から事例研究、建築計画、建築設計、インテリア計画まで、建物のトータルなデザインスキルを習得することを目指す。建築やインテリアの図面作成方法やプレゼンテーション手法なども習得し、建築・インテリアを設計する際の表現力を磨く。	共同
		設計製図Ⅱ	シェアハウスの計画及び設計を行うことにより、建築設計の技術を習得する。平面・断面計画や動線計画、インテリア計画などを踏まえた建物の計画・設計スキルを習得する。敷地分析から事例研究、建築計画、建築設計、インテリア計画、ランドスケープデザインまで、建物のトータルなデザインスキルを習得することを目指す。建築やインテリアの図面作成方法やプレゼンテーション手法なども習得し、建築・インテリアを設計する際の表現力を磨く。	共同
		住空間とライフスタイル	ライフスタイルは時代の流れとともに変化し、近年は非常に多様化している。快適な生活を送るためには、ライフスタイルと住空間の関係が重要である。本授業は、住宅における様々な生活シーンと空間との関係を理解し、多様化するライフスタイルにあった住空間を考えるための知識を習得することを目的としている。①ライフスタイルに対応した様々な生活シーンと住空間の関係を理解できるようになること、ライフスタイルと住空間の関係性について自らの考えや意見を的確にまとめられるようになること、以上の2点を到達目標としたい。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　住空間デザイン学類　専門教育科目	基本科目	住空間とインテリアプロダクト	現代の住空間は様々なインテリアプロダクトによって構成され、機能している。この授業では、様々なインテリアプロダクトの知識、及びインテリアプロダクトと住空間の関係を学んでいく。インテリアプロダクトの数々を通して、造形、素材、機能に関する知識を得、住空間でのコーディネートスキルを高めることを目標とする。最終的には、環境性、経済性、安全性、社会性などの要素を考慮したサスティナブルデザインについて考えていきたい。	
		福祉住環境デザイン	福祉と住環境の関連する分野についての基礎的な知識を身につけ、高齢者や障害者にとって住みやすい住環境を整備するための手法を習得すること目的とする。またその背景にある社会制度などについての基礎的な知識を習得する。具体的には、住まいの整備のための基本技術、高齢期の住まい方、福祉のまちづくりなどについて講義を行う。東京商工会議所が主催する福祉住環境コーディネーター検定試験を視野に入れ、資格取得を支援していきたい。	
		環境デザイン	本講義は、持続可能な発展（サステナブル・ディベロップメント）を理解するため、地球の生態系保全（エコロジー）について考える「地球環境」の基礎知識を踏まえ、住宅や建築物における人間の快適性を追求する「生活環境」に重点を置いた「環境デザイン」を学ぶ。建築をとりまく環境を様々な側面から捉えて理解し、これからの循環型社会、持続可能な社会づくりに主体的に参画できるよう、応用力をつけていきたい。	
		色彩デザイン	色は人の心にどのように働きかけ、どのような影響を与えるか、造形要素としての色彩の本質を心理学的側面から理解し、人や環境と調和する豊かな色彩表現のあり方を考える。理論の習得に加え、色の連想、イメージ、象徴、流行を文化的背景や調査データから理解し、また配色カードによる課題作成を通して基本的色彩技法の習得を促す。文部科学省後援の色彩士検定を視野に入れ、重要事項の解説を行い資格取得を支援していきたい。	
		CADⅠ	建築設計やインテリアデザイン、プロダクトデザインなどの分野で一般的となっているコンピュータによる作図（CAD：キャド、Computer Aided Design）技術の基礎を学ぶ。CADソフトは「VectorWorks」（エーアンドエー株式会社）を使用する。「VectorWorks」の基本的な操作を学び、基本図形などの作図操作に慣れる。さらに、「VectorWorks」による二次元作図の基礎的な機能を習得し、一般的な平面図や断面図の作図ができる技術を身につける。	
		CADⅡ	建築設計やインテリアデザイン、プロダクトデザインなどの分野で一般的となっているコンピュータによる作図（CAD：キャド、Computer Aided Design）技術を学ぶ。CADソフト「VectorWorks」（エーアンドエー株式会社）を用いて、3Dの基本操作を学び、住宅や商業施設などの建築物のモデリングやプレゼンテーション技術を習得する。テキストの指示通りのモデリングができるようになるとともに、与えられた課題について、独力でモデリングができるようになることを目指す。	
		CADⅢ	建築設計やインテリアデザイン、プロダクトデザインなどの分野で一般的となっているコンピュータによる作図（CAD：キャド、Computer Aided Design）技術を学ぶ。CADソフト「VectorWorks」（エーアンドエー株式会社）を用いて、3Dの操作を学び、三次元データをCGにするための技能を習得する。さらに、「VectorWorks」を用いて、建築やインテリアなどのプレゼンテーション資料をまとめることができるようになることを目指す。	
		プレゼンテーション技法	「CADⅠ・Ⅱ・Ⅲ」で習得してきたCADソフト「VectorWorks」（エーアンドエー株式会社）を用いて2Dや3Dの作図における応用技術を習得する。「VectorWorks」だけでなく、グラフィックソフトである「イラストレーター」や「フォトショップ」などを用いたプレゼンテーション技術を習得する。「VectorWorks」の技能に加え、手書きスケッチ、グラフィックソフト等を融合することにより、建築やインテリアなどのプレゼンテーション能力の向上を目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　住空間デザイン学類　専門教育科目	基本科目	学外実習	学生が、企業・公共組織などでの社会活動の体験をとおして、その社会性を養う。事前学習では、学外実習の目的を明確にし、実習への心がまえを学ぶ。そのうえで企業におもむき、学校での学習・研究の成果や自身の生き方が社会でどのように評価されるかを体験し、自分自身を見つめ直し、今後の進路選択に生かす。また、実社会での体験から新たな学習意欲を喚起し、自主的に考えて行動できる力を養うとともに、社会人として必要なコミュニケーション能力を向上させる。	共同
		フィールドワーク	特色ある地方を訪ね、伝統的な建築や著名建築家およびアーティストによる現代建築などを見学し、芸術、工芸、食文化などを実際に体験・体感する事により、地方における衣・食・住の生活文化について調査・研究する事を目的とする。事前に的確な計画を立て、見学先についての事前調査を実施する。フィールドワークでは適切な判断の下に行動し、必要な情報を収集・整理する。フィールド調査後にはその成果をまとめ、明快な報告書を作成する。	共同
	インテリアデザイン関連科目	インテリアデザインⅠ	飲食店舗にはレストラン、カフェ、バー、屋台などのさまざまな種類と特徴がある。課題を通して、用途や条件をふまえた飲食店舗のインテリアデザインの設計プロセスを習得する。課題の主旨を正しく理解し、設計条件を踏まえながら、飲食店舗の機能や要素を計画する。飲食店におけるインテリア設計の基本知識などを総合的に習得し、インテリアの目的に合う適切な手法で、空間を正確に表現し、さらにその内容を人に的確に伝えられるようになることを目標とする。	共同
		インテリアデザインⅡ	ホテルは単に宿泊する機能だけでなく、ロビー、レストラン、バー、物販、式典、会合など、さまざまな用途施設の複合空間である。課題を通して、ホテルの立地条件や客層をふまえた具体的なインテリアデザインの企画提案と設計プロセスを習得する。課題の主旨を正しく理解し、設計条件を踏まえ、宿泊室などの機能や要素を理解したうえで、パブリック部分を含めたホテルにおけるインテリア設計の基礎知識などを総合的に習得することを目標とする。	共同
		インテリアデザイン論	インテリア空間を理解し、空間のデザインを促すための授業である。インテリア空間をデザインするためには、さまざまなインテリアの要素、要因などの知識が必要である。要素、要因の観点は多種多様であるが、この授業では、空間の考え方と有り様を中心に論ずる。その内容について各自が問題意識を持ち、研究・習得する。インテリアデザインを考える上で必要な知識を幅広く身につけ、それらの知識を踏まえて、インテリア空間を自分の視点で正確に読み取り、的確に表現できることを目標とする。	
		インテリアデザイン計画A	住宅のインテリア空間を形（造形）や機能としてとらえるだけでなく、光・音・香り・映像・会話、そして朝・昼・晩といった時間の経過を含む「情景／シーン」として考察する。住宅の実測や空間体験を通して、インテリアの材質感やスケール感覚などを理解し、身につける。また、エントランス・リビング・ダイニング・キッチン・サニタリー・寝室・子ども部屋など、住空間におけるインテリアデザイン計画の基本的知識を習得することを目的とする。	
		インテリアデザイン計画B	インテリア空間を形（造形）や機能としてとらえるだけでなく、光・音・香り・映像・会話そして朝昼晩といった時間の経過を含む「情景／シーン」として考察する。同時にインテリアデザインの前提となる「コンセプト」や「ターゲット設定」などの重要性とそれらの構築方法を「シーンメイクスペースデザイン」を通して理解してゆくことを目的とする。自身が対峙する空間の「課題」を明確にし、「コンセプト」「ターゲット設定」「提供価値」と必然となる具体的な解決提案に結びつけることができるようになることを目指す。	
		インテリアデザイン計画C	インテリア空間を形（造形）や機能としてとらえるだけでなく、光・音・香り・映像・会話そして朝昼晩といった時間の経過を含む「情景／シーン」として考察する。同時に多様なインテリアデザインのフィールドとその事例を通して、「シーンメイクスペースデザイン」におけるコミュニケーションとプレゼンテーションの重要性も理解してゆく。世の中の最新動向と問題点に目を向ける意識を向上させ、自身のコミュニケーションスキルとプレゼンテーションスキルにおける課題の自覚とその克服を目指した向上指針を明確にする。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　住空間デザイン学類　専門教育科目	インテリアデザイン関連科目	家具デザインⅠ	リビングデザインの重要な要素である家具デザインの、主要な材料となる木材について「加工材料学」と連動しながら素材の特性や加工方法などについて学ぶ。基本的な木材の特徴を理解することを目指す。また、デザインし、制作するために必要となる基本的な家具図の描き方について、CADソフト「VectorWorks」（エーアンドエー株式会社）を使いながら学び、さらに家具の模型の作り方や手工具を中心に道具の使い方と制作方法を学ぶ。	共同
		家具デザインⅡ	わたしたちの生活に欠かせない一番身近なすわるための道具「いす」について考える。生活の道具として本当に座りやすく、且つ美しい「すわるかかち」とはどんなものなのかということを学ぶ。合板という素材の特性を理解しながら「すわる」という人の行為を支えるためのかたちについて考え、実際に制作してみることでその考察を検証する。問題の発見からイメージの展開、そして具体化とプレゼンテーション、さらに制作と実証とデザインにおけるプロセスを体験する。	共同
		家具デザインⅢ	地域貢献としてのものづくりを考える。社会との関わりを意識したもののデザインを考えることに重点を置き、家具が地域の人々の集う場としてふさわしい環境を生み出せるかどうかを研究する。具体的に場所と使う人々が設定され、その条件を踏まえて安全で快適に使用できるデザインを考える。各自が考えたデザインの中から地域の方々の投票により制作するデザインを選び、その制作はグループワークで行う。制作したものは、実際に稲城市内に設置する予定である。	
		家具デザイン研究	前半は、東日本大震災復興支援のためのプロボノについて学ぶ。プロボノについて理解し、専門性を生かした制作に結びつける。後半は、エコプロダクトデザインやユニバーサルデザインについて考える。身近にあふれる多くの「もの」が、わたしたちの生活環境を構成している。それらの「もの」のあり方が地球環境にも大きな影響を及ぼしている現状について学びながら、これからの持続可能な社会を実現するための「もの」のデザインを探る。	
		陶芸デザインⅠ	陶磁制作で基本的な技法であるロクロ成形技術及び知識の習得と表現の研究・修練を目的とする。日常生活で最もよく使われる飯碗とその絵付けを研究し制作する。弁柄・呉須で下絵付けをする。食生活に欠かせない器をデザインする時の要素である形、大きさ、重さ、色、柄、収納性、食べ物との関係、いい雰囲気、魅力等をバランスよく考える。飯碗にはどんなものがあるか？たくさん見て触って調査、資料を集める。制作した飯碗は自分で毎日使って使い心地を確かめる。また他人から感想を聞き研究する。	共同
		陶芸デザインⅡ	陶磁における代表的な成形法、板作りを研究する。タタラ（粘土板）技法を用いて器物を考える。2～10mmのタタラは柔らかいうちに丸めたり、型に押しつけて変形させることが出来る。変形しない状態まで少し乾かすと、板として張り合わせて形を作ることができる。草花や苔、ドライフラワーまで植物の中から1つを選び、そのための花器をデザイン制作する。好きな場所を選び、いい空間設定を提案する。タタラ成形技法の理解と、設定空間に対して調和する器物の研究が目的である。	共同
		陶芸デザインⅢ	総合的なデザイン力を養い、高い技術力を身につけることを目的とする。使用頻度の高いコーヒーや紅茶を飲む器・カップ＆ソーサーの歴史や飲み方、茶葉の種類、サイズ、素材、また付属して使う器物を調査研究する。形状の研究ではカップと取っ手、カップとソーサーのバランス考えると同時に、のみ易さ、洗い易さ、収納といった使い心地（機能性）も研究する。空間や飲みたいものを限定し、魅力的な作品をデザイン制作する。実作とボードでのプレゼンも重要となる。	共同
		陶芸デザイン研究	陶磁の新たな造形表現・造形技術を知り、土に対する視野を広く持つ事を目的とする。また、石膏型を使った形成形を用いて、ロクロ成形や手びねりとは異なる、独自の大量生産（反復生産）やプロダクトデザインとの関わりを研究する。陶磁製タイルや文房具、照明などについてのデザインを研究する。石膏型を用いた形成形を通して、大量生産（反復生産）のアイテムがどの様に製造されるのかを理解する。それと同時にプロダクトデザインとの関わりを確認する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　住空間デザイン学類　専門教育科目	インテリアデザイン関連科目	立体織デザインⅠ	素材が持つ質感や色彩などを考察しながら、デザイン計画を行う。具体的には「つづれ織」による制作実習を行い、タペストリーをデザインし、織る。「つづれ織」とは、下絵に従って経（たて）糸に異なる緯（よこ）糸でカバーしながら折り込み、模様をあらわす織物の事である。経糸整経とその仕組みについて理解する。テキスタイルの基本的な構造、技術の基礎知識を身につける。コンセプトを立案し、デザインスケッチを描き、制作する「つづれ織」の過程について学ぶ。	
		立体織デザインⅡ	伝統工芸を未来に繋げていく事が出来るか、デザインワークを通して研究、考察する。物を生みだすためのコンセプトをつくる。制作実習は「裂き織り」を行う。「裂き織り」とは、糸の代わりに細く裂いたものを緯（よこ）糸にした織物である。伝統工芸にデザインを加えることにより、現代生活に生かし伝承させていく方法について考える。織機や木枠の構造やその仕組みについて理解する。コンセプトを立案し、デザインスケッチを描き、制作する「裂き織り」の過程について学ぶ。	
		立体織デザインⅢ	テキスタイルと他素材との組み合わせについて学ぶ。「住生活におけるテキスタイル」をテーマにコンセプトを立案し、素材や色、質感について考察し、制作実習を行う。様々な素材を用いることにより、テキスタイルに対する理解を深める。自らが素材や色・質感などを選択しながらコンセプトを立案し、デザインスケッチを描き、制作するテキスタイルデザインの過程について学ぶ。制作したもののプレゼンテーション手法を考え、習得する。	
		加工・材料学	素材と加工方法の知識は、建築／インテリア／プロダクトの全ての領域にまたがる重要な要素である。また、全てのものづくりやデザインは、今や環境問題を抜きにしては考えられない時代になっている。この授業では身近な素材を切り口にして、その特性や加工技術によるデザインの可能性をテーマに、環境問題に絡めながら学習する。また、講義、デザイン演習、製作、実験という体験型の授業や素材に実際に触れながら学ぶことで経験的に知識を身に付ける。	
		芸術論	多くの「もの」が溢れ、芸術の境界が曖昧な現代社会において、芸術とその背景となる世界との関係を探りながら、その真価・可能性を見つめなおす。ここでは西欧の各時代の特徴的な絵画や彫刻、建築、ランドスケープを多く鑑賞し、それらの基盤となる社会的・思想的な背景を照合させて理解していく。時代・場所を超えて真の芸術がもつ意味を考える。芸術全般について、その背景にある歴史・思想・技術などとの関係を理解したうえで、芸術の真価を見つめなおす。	
		工芸デザイン論	西欧と日本の近現代を中心とする工芸デザインを多角的に考察し、現在の生活・芸術に直結する近代以降の工芸理論とその実践活動を理解する。社会・文化・産業の動向と工芸デザインとの関連性・可能性を照らし合わせ、ものづくりによるこれからの課題や真の豊かさについて検討する。工芸理論とその実践活動を考えることで、関心をもって、これからの工芸デザインの可能性や伝統との向き合い方を考えられるようになることを目標とする。	
		空間演出A	展示空間の演出方法について考える。アートやデザインの展示や展示空間は、その空間のデザインや演出自体が表現であり､また展示される「もの」や「作品」をより良く見せるための背景や装置でもある。大学構内に「ギャラリー」を提案する想定とし、諸条件の把握・企画立案・インテリア設計をおこなう。　対象空間の与条件の整理・分析をする能力、企画アイデアを具体的なインテリア空間としてデザイン表現するスキル、プレゼンテーション能力の習得を目的とする。	共同
		空間演出B	ショップデザインをテーマとし、業種により異なる要求機能について研究し理解した上で、デザイン的にも美しく、機能的なショップをデザインする事をテーマとする。ショップ立地も各自で設定し、周囲の環境との関係を考察する。ショップデザインを課題とした学外コンペティションへチャレンジする。設定条件が少ない課題での柔軟な発想能力、自身の考えるインテリアデザインを限られたパネルの中で表現するスキル、短時間で理解してもらえる表現手法のスキル、プレゼンテーション能力の向上を目標とする。	共同

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　住空間デザイン学類　専門教育科目	インテリアデザイン関連科目	インテリアの知識と技術Ⅰ	学科の科目で学んだ内容を生かし、建築士やインテリアプランナー、インテリアコーディネーターなどを目指す際に必要となるインテリア空間に関わる基本知識と技術への総合的理解を深める。住空間のインテリアをデザインするために不可欠となる基本的かつ幅広い知識とインテリア計画技術の内容について理解し、習得する。特に、インテリアコーディネーターやインテリアプランナー、建築士などの学科試験に対応できる知識を身につける。	
		インテリアの知識と技術Ⅱ	学科の科目で学んだ内容を生かし、建築士やインテリアプランナー、インテリアコーディネーター等を目指す際に必要となるインテリア空間に関わる知識と技術について、実践的な問題演習をとおして学ぶ。住空間のインテリアをデザインするために不可欠となる基本的かつ幅広い知識とインテリア計画技術の内容について理解し、習得する。問題演習による学習を重ねることにより、特に、インテリアコーディネーターやインテリアプランナー、建築士などの資格取得に対応できる力を身につける。	
	建築デザイン関連科目	建築デザインⅠ	「設計製図Ⅰ、Ⅱ」で学んだ建築設計の技術を基に、小規模な集合住宅の計画及び設計を行う。そのテーマは住居の内部空間だけではなく住戸と住戸の関係、及び住戸と外部空間の関係を考えることにある。建築単体のあり方だけではなく外部空間や環境とのつながりを考えることの重要性を学ぶ。また、外部空間を考えるトレーニングとして短期課題を行う。短期課題を通してプレゼンテーションまでのプロセスを具体的に把握し、デザインプロセスと作業プロセスのコントロールの課程を学ぶ事を目標とする。	共同
		建築デザインⅡ	「建築デザインⅠ」で学んだ技術を踏まえ、より複雑な建築的課題に取り組み、より高度な提案とプレゼンテーションスキルを目指す。具体的には「建築デザインⅠ」で設計した小規模集合住宅を発展させ、都市的な環境の中で、複合的な機能をもった建物の計画提案を通じて、都市における建築物の今日的あり方を考え、学ぶ。また、パブリックな空間を考えるトレーニングとして短期課題を行う。複雑になる課題内容をコントロールし、デザインコンセプトを問題解決に導く要因として構築する方法を学ぶ。	共同
		建築デザイン論	日本及び海外の住宅や建築の事例紹介を通じて「建築デザイン」とは何かを考えて行く。具体的には平面計画と様々な外的・内的与条件の関係や、住空間及び建築空間に対する考え方を学ぶ。日本の現代住宅建築の基礎を築いた建築家の代表的作品に対する基礎的な知識を習得し、20世紀モダニズム建築を切り開いた近代建築の巨匠たちの作品とその歴史的価値を学ぶ。以上の事を踏まえて現代建築を切り開いている建築家たちの作品の建築的意味を理解する事を目標とする。	
		建築計画A	建築物の中で最も歴史が古く、また、人間が一生の中で多くの時間を過ごす「住宅」。建築設計の基本でありながら、一方で深く難しいともいわれる「住宅設計」を題材に、建築計画に必要な知識や方法を修得し、建築設計の基礎を学ぶ。敷地環境の分析から、動線計画、食空間・パブリック空間・プライベート空間の計画、収納計画などについて学ぶとともに、ユニバーサルデザインについても考える。また、名作といわれる住宅建築についての知識を広げる。	
		建築計画B	住空間の建築計画において主に集合住宅に視点をあて、その計画・設計に関する基礎的な知識を習得することを目的とする。国内外の集合住宅の事例について、建築計画の視点から分析・考察できるようになることを目指す。また、住空間を幅広い視点で捉え、子どもの居場所としての学校や、患者・高齢者など居場所としての医療・高齢者福祉施設の計画・設計についての基礎的な知識を習得するとともに、国内外の事例について分析・考察する。	
		建築計画C	「建築計画A」「建築計画B」のテーマであった住空間についての建築計画的知識の習得をふまえて、より公共的、複合的な機能を持った施設の建築計画の分析を事例研究とともに行う。そのうえで、都市の中での公共的建築の建築計画の意味、内容を考察していく。具体的には美術館、図書館、博物館、コミュニティ-施設などの公共的、複合的な建築物を対象として、建築計画の基礎知識を習得し、建築事例の研究・考察を行うことを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要 （人間総合学群 住空間デザイン学類）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　住空間デザイン学類　専門教育科目	建築デザイン関連科目	建築計画D	「一級建築士」および「二級建築士」の試験で出題される「建築計画」の分野について、基礎的な内容を重点的に習得する。基礎的な知識を身につけることにより、建築士の学科試験に対応できる力を養うとともに、応用問題への対応力の習得も目指す。建築士の学科試験に則した実践的な問題演習をとおして、問題の傾向や解き方を繰り返し学習することにより、資格取得のための対策を行う。また、インテリアコーディネーターやインテリアプランナーなどの学科試験対策にもつながる。	
		構造力学Ⅰ	基本的な建築構造力学の講義により、建築物を計画・設計・施工するために必要となる建築構造力学の知識を習得することを目標とする。静定構造物を中心に荷重・外力のモデル化、応力や変形の性質を学ぶ。モーメントの概念、部材の伸縮・応力度・ひずみ、トラスの原理などについて理解する。設定された構造モデルにおける、部材の断面算定が数値的にできることを目指す。演習問題を繰り返すことにより、建築構造力学に対する理解を深める。	
		構造力学Ⅱ	建築物を計画・設計・施工するために必要となる建築構造力学の知識、すなわち、力の流れや構造のしくみ、構造材料の特質などの力学的な知識と理解力を習得することを目標とする。トラスの種類や解法、応力度、不静定構造物などについて理解する。設定された構造モデルにおける、部材の断面算定が数値的にできることを目指す。それと同時に、部材内の応力度について理解を深めることを目指す。演習問題を繰り返すことにより、建築構造力学に対する理解を深める。	
		建築構造Ⅰ	建築の空間は構造体や設備が一体となって実現できるものである。空間を形作る種々の構造体の概念と成り立ちを理解する。「建築構造Ⅰ」では、木造建物を中心に、建築物の成り立ちについて理解を深めることを目標とする。木材の性質や構造原理、木造の小屋組・軸組、地盤・基礎、屋根の形状、壁の構造、集成材などについての知識を習得し、理解を深めることを目指す。また、歴史的建造物や近代建築、民家などの構造についても理解する。	
		建築構造Ⅱ	建物は材料と構法の組み合わせによって成立するものである。建物の設計において、建物に要求される断面・材料の基本を身につける。「建築構造Ⅱ」では、鋼構造及び鉄筋コンクリート構造建物を中心に、建物の成り立ちと特徴を理解することを目指す。鋼材の性質や構造原理、鉄骨構造の骨組、鉄骨構造の継手や筋かい、鉄筋コンクリートの構造形式や柱・梁配筋などについての知識を習得し、理解を深める。また、鉄骨鉄筋コンクリート構造やPC構造などの基礎知識についても理解する。	
		日本建築史	自然・社会・文化との密接な関わりのなかで、日本建築がいかに発展してきたかを概観し、その技術や意匠、様式上の特質について理解する。身近に接し鑑賞できる近代・現代の日本建築・都市などにも視野を拡げて考察する。日本建築についての様式上の特質や意匠、技術について理解を深め、関心をもって、自分自身の日本建築に対する考えを持つようにすることを目指す。日本の住様式から神社・寺院建築などについて、古代の飛鳥・奈良時代から江戸時代、そして近現代まで時代とともに学ぶ。	
		西洋建築史	西欧の建築・都市を古代から時代ごとに考察し、広い視野をもって世界の建築に対する関心を高めるようにする。建築や都市をその基底となる社会・文化と合わせて歴史的に理解すると同時に、専門的な理解を深めていく。西欧の建築について、様式や意匠、技術などの特徴を理解し、広い視野をもつと同時に、自分自身との関わりを考え、関心を持つようにすることを目指す。古代ギリシアから古代ローマ、ビザンティン、ロマネスク、ゴシック、ルネサンス、バロックなど、時代ごとの建築様式に対する理解を深める。	
		ランドスケープ論	環境に対する関心の高まりにともない、建物の積極的な緑化計画も進められ、街の風景が少しずつ変化してきている。ランドスケープの基礎知識や具体的なデザイン手法を習得し、住宅や街並みのランドスケープを通して、今後どのように環境に対してアプローチしていくべきかを考察する。ランドスケープの歴史やデザイン手法を通じて、私たちを取り巻く環境を多面的に考察できる能力を身につける。また、ランドスケープの作図の基礎を学習し、周囲の環境との関係を読み取きながら、ランドスケープ空間を創造する技術を習得する。	

授　業　科　目　の　概　要 （人間総合学群 住空間デザイン学類）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　住空間デザイン学類　専門教育科目	建築デザイン関連科目	建築環境設備	「健康」で「快適な」室内環境を形成するために必要な「建築設備」について理論やシステムの基礎知識を習得する。前半では空気調和設備・換気設備を、後半では給排水・衛生設備・その他の設備について解説する。特に、省エネルギー・省資源、建築デザインとの関連を理解することを目標とし、建築設備全般に関する基礎的な知識の習得を目指す。快適な生活の実現の為に建築設備がどのように寄与しているのか理解するとともに、発展を続ける建築設備の今後の方向性と課題について考えていく姿勢を身につける。	
		環境工学	人体周辺環境から室内環境、都市環境に至るまで一口に「建築環境」といっても広い定義を持っている。その中で、建築の環境を作り出している諸要因について基礎的な知識と理解を深める。気候・温熱・空気・音環境などの物理環境要素を建築物へ取り込む技術手法を交えながら講義する。建築の気候・光・温熱・空気・音環境などに関する基礎的な知識を習得し、人や建築などを取り巻く環境について自ら考察することができる力を身につける。	
		建築材料	建築物は、材料の組み合わせによって構成されており、材料に関する知識は建築を学ぶ者にとって重要である。ただし、単に個々の材料の性質を知るだけでは不十分であり、なぜそこにその材料が使用されているのかを理解する必要がある。構造材料の講義においては、主に材料の力学的性質について解説する。一方、屋根、壁、床といった部位構成材では、各部位に求められる機能・性能を知るとともに、そこに使用される材料の構成や基本的性質についても解説する。	
		建築生産	経済的、社会的、技術的な観点から建築物の企画・設計・施工・運用管理・最終処分を包括した建築生産及びそのプロセスについて講述する。建築生産のしくみと発注者と受注者との係りを学び、一連の施工技術と施工管理マネジメント技術を習得する。建築プロジェクトの経済行為としての意義、建設産業構造の実情について理解する。建築プロジェクトにおける企画／発注と企画／設計と監理／コスト管理／施工管理／解体の各内容を理解し、生産プロセスとしての特徴を習得する。	
		建築法規Ⅰ	住宅やビルを建築するには建築基準法等の各種の法規に適合しなければならない。そして、これらの法規制に適合していることを確認することが建築確認制度である。「建築法規Ⅰ」では、この建築確認制度を含む「制度および手続き」から勉強を始め、次に、個々の建築物に係る規定（単体規定）について講義と演習で学ぶ。建築基準法で用いる用語を覚え、単体規定の概要を理解する。建築物が、単体規定に適合しているかどうかの確認ができるようになることを目標とする。	
		建築法規Ⅱ	建築基準法の第３章「都市計画区域等における建築物の敷地、構造、建築設備及び用途」は、一般に集団規定と呼ばれ、道路と建築物、道路と敷地、用途地域制、形態制限、建ぺい率、容積率、各種高さ制限、防火地域制、優良な市街地環境の整備のための各種制度などが規定されている。「建築法規Ⅱ」では、この集団規定を講義と演習で学び、最後に建築確認申請書の作成を通じて、建築法規を使うことを学ぶ。関連の法規として品確法を主に学ぶ。 集団規定の概要を理解し、都市における集団規定の果たす役割を把握する。	
	専門ゼミ科目	インテリアデザインスタジオⅠ	2年次までの学びを踏まえ、インテリアデザインの領域を中心に、関心や興味のあるテーマを選定する。テーマに基づき、事例研究やデザイン活動などをとおして研究・考察する。それらの成果のまとめるとともに、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深める。さらに、発表を通して、プレゼンテーション能力などを高めることを目的とする。また、社会人基礎力を高めるために必要な知識の習得や自己管理能力などの向上を目指す。	
		インテリアデザインスタジオⅡ	「インテリアデザインスタジオⅠ」に引き続き、インテリアデザインの領域を中心に、関心や興味のあるテーマを選定する。テーマに基づき、事例研究やデザイン活動などをとおして研究・考察する。それらの成果のまとめるとともに、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深める。さらに、発表を通して、プレゼンテーション能力などを高めることを目的とする。また、社会で求められる主体性や問題解決力、チームワーク力などの向上を目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群　住空間デザイン学類　専門教育科目	専門ゼミ科目	インテリアデザインスタジオⅢ	インテリアデザインの領域を中心に、関心や興味のあるテーマを選定し、そのテーマに基づいた研究計画を立案する。各自の研究計画を踏まえ、そのプロセスにおいて調査・事例研究・討論・試作などを繰り返しながら、各自のテーマについての整理・分析・考察を行う。それらの成果をまとめるとともに、発表などを通して、プレゼンテーション力などを高める。表現手法や発表方法についても検討を重ねることで、伝達力や実行力などについても身につける。	
		インテリアデザインスタジオⅣ	「インテリアデザインスタジオⅢ」に引き続き、インテリアデザインの領域を中心に、関心や興味のあるテーマを選定し、そのテーマに基づいた研究計画を立案する。各自の研究計画を踏まえ、そのプロセスにおいて調査・事例研究・討論・試作などを繰り返しながら、各自のテーマについての整理・分析・考察を深める。最終的な成果をまとめるとともに、発表などを通して、説得力のある魅力的なプレゼンテーション力を身につける。表現手法や発表方法についても検討を重ねることで、伝達力や実行力などを向上させる。	
		建築デザインスタジオⅠ	2年次までの学びを踏まえ、建築デザインの領域を中心に、関心や興味のあるテーマを選定する。テーマに基づき、事例研究やデザイン活動などをとおして研究・考察する。それらの成果のまとめるとともに、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深める。さらに、発表を通して、プレゼンテーション能力などを高めることを目的とする。また、社会人基礎力を高めるために必要な知識の習得や自己管理能力などの向上を目指す。	
		建築デザインスタジオⅡ	「建築デザインスタジオⅠ」に引き続き、建築デザインの領域を中心に、関心や興味のあるテーマを選定する。テーマに基づき、事例研究やデザイン活動などをとおして研究・考察する。それらの成果のまとめるとともに、4年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深める。さらに、発表を通して、プレゼンテーション能力などを高めることを目的とする。また、社会で求められる主体性や問題解決力、チームワーク力などの向上を目指す。	
		建築デザインスタジオⅢ	建築デザインの領域を中心に、関心や興味のあるテーマを選定し、そのテーマに基づいた研究計画を立案する。各自の研究計画を踏まえ、そのプロセスにおいて調査・事例研究・討論・試作などを繰り返しながら、各自のテーマについての整理・分析・考察を行う。それらの成果をまとめるとともに、発表などを通して、プレゼンテーション力などを高める。表現手法や発表方法についても検討を重ねることで、伝達力や実行力などについても身につける。	
		建築デザインスタジオⅣ	「建築デザインスタジオⅢ」に引き続き、建築デザインの領域を中心に、関心や興味のあるテーマを選定し、そのテーマに基づいた研究計画を立案する。各自の研究計画を踏まえ、そのプロセスにおいて調査・事例研究・討論・試作などを繰り返しながら、各自のテーマについての整理・分析・考察を深める。最終的な成果をまとめるとともに、発表などを通して、説得力のある魅力的なプレゼンテーション力を身につける。表現手法や発表方法についても検討を重ねることで、伝達力や実行力などを向上させる。	
		卒業研究	住空間デザインに関するテーマを選定し、そのテーマに基づいた調査・研究を行い、作品や論文を作成する。インテリアや建築デザインの分野にまつわる問題について提起し、調査・分析を通して、プログラムも含めて提案することを目標とする。住空間デザインに関する知識を深め、調査・研究・制作手法について習得する。自らが問題を提起し、問題解決の為のコンセプトとデザインプロセスを構築できるようになることを目指す。また、自らの作品や論文について、人に理解してもらうための伝達力やコミュニケーション力を身につける。	

授　業　科　目　の　概　要 （人間総合学群 住空間デザイン学類）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	省令必修科目	生涯学習論Ⅰ	生涯学習に興味・関心がある学生を対象に、生涯学習の意義や目的、歴史や基礎理論、生涯学習の内容や方法を概説する。生涯学習には、「学びたい」ことだけではなく、「学ばなければいけないこと」も含まれている。本授業における到達目標として、①生涯学習の意義や目的を理解し、生涯学習を支える者の役割を充分に自覚する、②生涯学習の歴史（誕生と展開）を理解・説明することができる、③生涯学習を支える基礎理論を理解・説明することができる、④生涯学習の内容や方法を理解・説明することができる、以上の4点をあげる。	
		博物館概論	現代社会において、教育・文化施設である博物館の果たす役割は大きい。本講義は、博物館に関する基礎的知識を習得することを目的とする。生涯学習社会へと移行する中で、博物館の基本を身に付け、博物館に課された役割について考えることで、専門への導入教育としたい。博物館について、存在意義にかかわる本質的な問題、歴史的な歩み、現状と課題、といった観点から概要を説明したあと、国内外の博物館の事例を紹介する。さらに、現実的な立場から、学芸員に何が求められているかについて、理解できるように授業を進めていく。	
		博物館資料論	本講義は、博物館資料の収集、整理保管、情報管理の方法等、理論と知識を含めた、資料に対する基本的な能力を養うことを目標とする。合わせて、考古・民族・美術・歴史・自然史資料等、具体的な資料の特性に即しながら、資料の取り扱いの実際について学んでいく。博物館資料に対する基本的な考え方を講じたあと、資料の収集・整理・活用、一次資料と二次資料、デジタル資料等について解説する。また、博物館では資料を通した調査研究活動がいかに行われているのか、具体例をあげながら説明する。	
		博物館展示論	本講義は、歴史的観点、意味論（教育論）的観点から博物館の展示について解説し、また具体的事例、あるいは特定の展示を想定しながら展示の組み立て方やデザインの仕方等を講じることで、博物館展示の基本を学ぶことを目的とする。博物館の展示が社会的にどのような意味を持つのか、展示の意義や実態を一般論として学んだあと、展示資料の分類、展示資料の選定、展示の設計、配置計画、導線計画、解説パネル文章作成、広報手段等、展示全般を想定した講義をする。	
		博物館資料保存論	本講義は、博物館における資料保存の基本を講じることを目的とする。展示環境、収蔵環境を科学的にとらえ、資料を良好な状態で次の世代に引き継いでいくための知識を習得することで、資料の保存が、博物館の文化活動においていかに大切なことかを学ぶ。資料保存の意義、資料の現状調査、資料の修理と修復、資料の梱包と輸送、資料の保存環境（劣化条件・災害・総合的有害生物管理･･･）、環境保護と博物館の役割等について講じる。具体的な施設を事例としながら、資料保存の問題について総合的に考えていきたい。	
		博物館経営論	本講義は、博物館の使命と組織形態、及び実際の管理運営の方法について、具体的事例を通して学び、博物館を経営すること（ミュージアム・マネジメント）の基礎的能力を養うことを目的とする。博物館経営の基盤となる、博物館行政制度、博物館の財務、施設設備、組織と職員等について学んだあと、博物館経営の使命と評価、マーケティングとパブリシティ活動、地域社会と博物館等、博物館経営の実際について授業を行う。	
		博物館教育論	本講義は、博物館における教育活動の重要性を理解させることをねらいとする。授業では、具体的な事例を示しながら、教育活動の基礎となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館教育に関する基礎的な能力が身に付くよう配慮する。博物館教育の理論的側面として、生涯教育の場、人材養成の場、地域教育の場、文化情報リテラシー教育の場等の視点から解説する。そのあと、博物館の利用と学びの実際について、心理的効果、教育的効果、教育活動等の内容を事例をあげながら講義する。	
		博物館情報・メディア論	本講義は、博物館における情報の意義と活用方法、情報発信の課題等について、ソフト面、ハード面ともに理解し、博物館の情報提供と活用に関する基礎的能力を養うことをねらいとする。博物館における情報・メディアの歴史と意義、博物館活動と情報ネット化の現状を踏まえ、博物館におけるデジタル情報発信の基本をネット実習等を交えて教授する。さらに、著作権や個人情報等、博物館の知的財産に関しての理解を深める。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	省令必修科目	博物館実習A（見学実習）	博物館実習A（見学実習）は、博物館の実態や展示の仕方を学ぶという観点から、さまざまな博物館を見学し、他の博物館に関する科目で習得した知識を深めることを目的とする。見学は、教員が引率するものと、学生が単独で訪れるものがある。どちらの見学でも、特定のテーマ（展示物の配置、照明と採光、展示資料の解説等）を設定したレポートを課す。また、見学に訪れた博物館の学芸員から直接話を聞くことにより、学芸員の仕事とはどのようなものかについても、理解を深める。	共同
		博物館実習B（実務実習）	博物館実習B（実務実習）は、博物館における館園実習の準備と他の博物館に関する科目の補足を兼ねて、学内の実習施設等において、資料の取り扱いや収集・保管・展示・整理・分類等の方法、調査研究の手法等について学ぶことを目的とする。館園実習では、博物館が所蔵する資料や展示物に直接触れるため、事前に学内において、資料の取り扱いに関する注意点を十分理解するとともに、資料や展示物に触れる際に必要な技術や方法論を身につける。	共同
		博物館実習C（館園実習）	博物館実習C（館園実習）は、学内実習で学んだ内容を博物館の現場で実際に経験することで、博物館の理念や設置目的、業務の流れ等に対する理解を深めると同時に、博物館資料の取り扱いや収集・保管・展示・整理・調査研究・教育普及活動、来館者対応等の実務の一端を担うことにより、学芸員としての責任感や社会意識を身につけ、学芸員としての心構えを涵養することを目的とする。また、事前には実習に当たっての心構え等について、事後には実習の反省・自己評価等をもとに課題解決のための指導を実施する。	共同
	基礎選択必修科目	日本美術史	本講義は、日本の原始から現代に至る日本美術の展開について、各時代別にテーマを設定し、日本美術史上の名品を軸に、日本美術の基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、絵画・彫刻・工芸の美術品を軸に日本美術の歴史について解説する。この学びを通じて、信仰・各種儀式から生み出された美、建築や工芸にみる多様なデザインなど、日本美術の特徴、さらに日本の美意識に大きな影響を与えた海外文化など、広くその特質を考察する。	
		西洋文化史	ヨーロッパ文化の特質とその流れを、ビデオやスライドを多用して概観し、一つの文化の成長から衰退までの経緯を研究する。さらに、日記、手紙、装飾品や日常の必需品などの多岐にわたるモノを通して、ヨーロッパ各地の人々の生活と考え方を知る。本講義では、古代世界（古代ギリシア文化）からヨーロッパ文化の基層を形成した中世、その結実としてのルネサンスまでを扱う。西洋文化の歴史的な展開についての基本的な知識を把握することを目標とする。	
		日本文化史Ⅰ	本講義は、日本の文化に関する歴史を総合的に学び、日本人の文化に対する価値観や個々の文化事象について基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、古代から近現代に至る文化史を学びつつ、それぞれの時代における文化的特徴について考察する。また風土論についても側面的に学習する。なお、海外から評価されるさまざまな日本の文化や世界遺産などについても学び、社会人として理解しておくべき実践的な日本文化学を修得する。	
		日本文化史Ⅱ	本講義は、日本の芸能の歴史に関する基礎知識を学びながら、日本文化における芸術と技芸の全体像を把握すること目的とする。具体的には、神楽、能、文楽、歌舞伎などの日本を代表する演劇をはじめ、映画・歌謡・舞踊・落語などのさまざまな芸能文化について解説する。また必要に応じて映像や音楽の鑑賞を行い、伝統的な古典芸能とともに、現代の新しい芸能文化についても幅広く学ぶ。なお、大学の地元である稲城市の里神楽について知り、身近な日本の伝統芸能についても親しむ。	
		地域文化概論	本講義は、地域社会に残された文化財から地域社会で営まれてきた人々の暮らしに関する知識を修得することを目的とする。具体的には、石造物、祭礼、年中行事など、地域に残された人々の暮らしの痕跡から見えてくる地域文化について解説する。この学びを通じて、教科書や年表には登場しない普通の人々の暮らしが基となって私たちの生活文化が形成されていることを学習する。さらに人々の暮らしにおいて大きな影響力を持っていた寺社を通して見えてくる地域社会の新たな側面など、地域文化の面白さについても学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（人間総合学群 住空間デザイン学類）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	基礎選択必修科目	世界遺産研究	現在を生きる世界中の人々が過去から現在に引き継ぎ、未来へと伝える責務を負う人類共通の財産である世界遺産について、1972年にユネスコ総会で採択された世界遺産条約に記されている定義、世界遺産の種類、登録の基準と手続きなど基本的な理解を深めるとともに、DVDで登録されている世界遺産を鑑賞する。また、「危機遺産」の調査を通じて、世界遺産活動の現状と課題を考える。	
		世界のミュージアム	ヨーロッパとアメリカ各地の著名なミュージアムの成立過程とその収蔵品を中心に、ビデオやスライド等の映像資料を多用して、各館の特徴を解説する。次に、収蔵品の中からよく知られた作品を数点選んで、その文化的価値について詳細に検討を加え、展示方法・作品の魅力、問題点を探る。最終的には観光文化資源としての欧米のミュージアムの特徴を学び、ミュージアムの成立過程を研究することにより、当該地の文化と歴史を把握する。 (オムニバス方式／全15回) (14 羽鳥修・18 糟谷惠次・15 加藤ナツ子／1回)（共同） 海外におけるミュージアムの役割についてそれぞれの立場から概要を述べる。 (14 羽鳥修／5回) アメリカ合衆国の主要なミュージアムを紹介する。 (18 糟谷惠次／5回) ドイツ、オーストリアの主要なミュージアムを紹介する。 (15 加藤ナツ子／4回) スペインの主要なミュージアムを紹介する。	オムニバス方式 共同(一部)
		日本のミュージアム	観光資源の観点から日本各地の著名なミュージアムの成立過程とその収蔵品を中心に、ビデオやスライド等の映像資料を多用して、その館の特徴を解説する。次に、収蔵品の中からよく知られた作品を数点選び、その価値について検討を加え、その魅力を探る。さらに、各ミュージアムが現在抱える問題を取り上げ、解決策を考察する。最終的には個々の館の垣根を越えたミュージアムを巡る観光ツアープランを計画する。	
		西洋美術の旅Ⅰ	古代エジプト、ギリシア、ローマ、中世ロマネスク、ゴシックから16世紀ルネサンスまでの西洋美術の流れを多くのスライドやビデオ等によって概観しながら、各時代と各地の特徴を捉える。また作品の鑑賞等をおこなうことによって、西洋美術の様式的な特質と画家や彫刻家たちの個性を探求しながら、一点の作品の背後に隠された依頼者と確執を明らかにする。最終的には西洋美術の基本的な知識を習得し、著名な作品とその作者の特質を把握する。	
		西洋美術の旅Ⅱ	17世紀から20世紀までの西洋美術の流れをスライドやビデオによって概観しながら、各時代と各地の特徴を捉える。また作品の鑑賞と対比によって、西洋美術の様式的な特質と画家や彫刻家たちの個性を探求する。対象とするのは、バロック様式と17世紀様式の類似と相違、18世紀ロココ様式、18世紀後半からの新古典様式とロマン主義様式の対比、19世紀後半からの印象主義とそれ以降のフォヴィズムとキュビズムの展開、20世紀後半の多様化する西洋美術までの特徴を明らかにする。	
	専攻選択必修科目	日本の文化財Ⅰ	本講義は、日本における文化財保護の状況と代表的な文化財について概説し、日本の文化財に関する基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、近代以降の欧米社会との関わりを視野に入れながら、日本の近代化と文化財保護の歩みについて学習し、博物館の果たしてきた役割や、日本の代表的な文化財の特質を考察し、文化財の鑑賞・調査方法についての基礎を学習する。	

授　業　科　目　の　概　要 （人間総合学群 住空間デザイン学類）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	専攻選択必修科目	日本の文化財Ⅱ	本講義は、日本の文化財Ⅰでの学びを基に、日本の文化財に関する知識を深めることを目的とする。具体的には、文化財保護法によって指定された文化財の概要と、日本を代表する有形文化財（建造物・美術工芸品）・無形文化財・民俗文化財・記念物・文化的景観・伝統的建造物群保存地区・選定保存技術・埋蔵文化財等の基礎知識を学び、近年注目されている世界遺産、世界無形文化遺産の概要と課題点など、現代社会と文化財の関わりについて学習する。	
		歴史資料論	本講義は、日本文化を学ぶ上で基本となる歴史資料について概説し、その読解、調査、整理を行うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、古代から近代までの代表的な古文書、古記録等の文献資料、絵図、考古資料等の概要を学び、近世以降の古文書等の原本史料の読解方法、調査・整理方法について学習する。なお必要に応じて、学外の博物館・資料館に行き、原本史料を閲覧・調査し、歴史資料を扱うための実践的な学習を行う。	
		民俗資料論	本講義は、日本文化を学ぶ上で基本となる有形・無形の民俗資料について概説し、その読解、調査、整理を行うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、地域文化を理解するために有益な風習・伝説・信仰・芸能・民具等の民俗資料について解説し、学内外での実習を通して、稲城市およびその周辺地域に伝承されてきた民俗資料を事例として取り扱いながら、これらの収集・調査・分類・整理・保存のための方法を実践的に学習する。	
		歴史考古学	本講義は、中世から近代までの歴史について考古学の視点から概説し、考古学を通史的に見据える視点を養うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、城郭、宗教、交通、生活、戦争等に関する中世から近代までの考古学の成果について解説し、中世から近代までの歴史研究における考古学の可能性について学習する。さらに、歴史研究だけでなく、民俗学をはじめとする諸分野との関わりについても理解を深め、多角的に考えるための力を養う。	
		歴史地理学	本講義は、産業と人びとのくらしについて、歴史的特徴だけでなく、地域的特徴も視野に入れ見据える視点を養うための基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、衣食住の世界だけでなく、地域の産業とくらしについて、それを支える人々を含めて、通史的、立体的な歴史像、地域像について学習し、新たな歴史観、地域観の可能性について学習する。この学びを通じて、地域から文化や歴史を多角的に調査、研究するための基礎知識を修得する。	
		文化交流史Ⅰ	本講義は、日本と海外の交流の歴史について、その歴史的特質を考察することを目的とする。具体的には、縄文時代から平安時代までの日本と諸外国との交流の事例を取り上げ、海外文化を取捨選択しながら主体的に受容した社会的背景や意義についての歴史的変遷とその特徴について学習する。この学びを通じて、国際交流の中で形作られてきた日本文化の意義や、日本文化が海外からどのように理解されてきたのかなどについて考察する。	
		文化交流史Ⅱ	本講義は、日本と海外の交流の歴史について、その歴史的特質を考察することを目的とする。具体的には、平安・鎌倉時代から幕末までの日本と諸外国との交流の歴史を振り返り、海外文化を取捨選択しながら主体的に受容した社会的背景や意義についての歴史的変遷とその特徴について学習する。この学びを通じて、国際交流の中で形作られてきた日本文化の意義、日本文化が海外からどのように理解されてきたのかについて考察する。	

（注）
1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。
2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。